文　教　育　学　部

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
政治学概論 (15B0004) [グロ文学際] [グロ文主] 小林　誠	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 文教育学部 2.0単位	私たちの生活では、どの場面でも「権力」が作用している。議会や外交交渉はもちろん、幼稚園の 水飲み場でも夫婦の寝室でもそうである。権力とはいったい何なのか、どのように人々の生活を組 み立てているのか。そして権力が集中して構成している「国家」とは何なのか。政治学の基礎を学び ながら、現代社会を作動させる権力現象を動態的に学ぶ。ナショナリズム、民主主義、アイデンティ ティと差異、多元的共生、政治と暴力、大衆とエリートの関係、監視と管理などに特に注目する。
経済学概論 (15B0006) 宮内　篤	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 文教育学部 2.0単位	経済学、経済統計の基本的概念を習得することにより、経済現象や景気動向を自分の頭で系統立てて理解するために必要な「視点」を身に付けることを目指します。個々の知識を単に詰め込むのではなく、「経済についての見方・考え方」の基礎を構築することに重点を置きます。また、無味乾燥に経済学を学ぶのではなく、極力現実の経済に即して論じます。経済指標の読み方、景気や経済動向の見方、経済政策の考え方などの理解を目標とします。
社会学通論 (15B0007) 廣瀬　毅士	Ⅰ ～ Ⅳ 通年 文教育学部 4.0単位	主題は「社会学」を学ぶ。目標は、自分の日常生活を社会的まなざしで見つめ直すことによって、「あ、こういう世界もあるのだ」という驚きを味わうこと。そして、「社会学的想像力」と「知的センス」を修得して欲しい。ついでに社会学の基礎概念について一定程度の知識も習得してもらえれば幸いです。
ギリシャ語 (15B0012) [英文強化] [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 三重野　清顕	Ⅰ ～ Ⅳ 通年 文教育学部 4.0単位	古典ギリシャ語の初級文法を学びます。同時に、いろいろな例文などを通して古代ギリシャ文化の多様な側面に触れることを目指します。
ラテン語 (15B0013) [英文強化] [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 三重野　清顕	Ⅰ ～ Ⅳ 通年 文教育学部 4.0単位	ラテン語の初級文法を学びます。同時に、いろいろな例文などを通して、ラテン語の多様な文化的背景に触れることも目指します。
スペイン語 (15B0015) [英文強化] [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 磯山　久美子	Ⅱ ～ Ⅳ 通年 文教育学部 4.0単位	コミュニケーションのためのスペイン語を学びます。アルファベットから始まり、文法構造を学びながら、日常に役立つ表現を学びます。授業では、文法を学びながら実際に話す機会を多く設けたいと思っています。
哲学通論Ⅱ (15B0019) 中野　裕考	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 文教育学部 2.0単位	哲学概論IIを参照
倫理学通論Ⅰ (15B0021) 宮下　聡子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 文教育学部 2.0単位	倫理学へのアプローチとして、生きることに密接に関わる明暗こもごもの問題をテーマに、古今東西の思想家の説を紹介し、倫理の観点から考察します。 各テーマについての代表的な説を知り、倫理的に考える力をつけることを目標とします。
倫理学通論Ⅱ (15B0022) 宮下　聡子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 文教育学部 2.0単位	倫理学へのアプローチとして、生きることに密接に関わる明暗こもごもの問題をテーマに、古今東西の思想家の説を紹介し、倫理の観点から考察します。 各テーマについての代表的な説を知り、倫理的に考える力をつけることを目標とします。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
アジア諸語Ⅰ (15B0024) 松尾　有里子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 文教育学部 2.0単位	トルコ共和国の公用語であるトルコ語の基礎的文法（前半）、基本語彙の習得を目指します。また、映画やテレビ映像等の視覚教材を取り入れ、実用的会話と聞き取り練習も行います。これらを通じトルコの人びとの日常生活のようすや考え方、歴史への理解を深め、国際交流の分野で役立つ能力を身につけるのが目的です。 そのため、授業の始めに前回習った語句や文法の知識を確認する小テストを行います。小テストの受験や課題の提出等授業への積極的な参加を希望します。
アジア諸語Ⅱ (15B0025) 松尾　有里子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 文教育学部 2.0単位	トルコ語の基礎文法（後半）と基礎的語彙を学びます。実用的会話の練習のほか、簡単な読み物を辞書を使って読めることを目標とします。
イタリア語 (15B0029) [英文強化] [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 田畑　安紀子	Ⅰ ～ Ⅳ 通年 文教育学部 4.0単位	イタリア語のみで書かれたテキストで、子供が自然に言語を体得するように、イタリア語を身につけます。テキストには、豊富なイタリアの日常生活の写真と語彙や表現がちりばめられています。たとえばバールで働く女性、barista、ほうきやモップ、アイロンを手に、にこやかに行進するASUC（主夫同盟）、トリノのカフェの生クリームいっぱいのbicerin、フィレンツェのterme（温泉）、貝殻の形のパスタ、conchiglieなどの写真があり、イタリア語で乾杯は、Alla salute!おいしい！はbuonoなどといったすぐに使いたくなる表現の数々。そんなたくさんの言葉や表現とイメージが自然とつながるよう、豊富なAV教材とロールプレイ、ゲームなどを使って楽しく学びます。テキスト以外にも、オペラやネットニュースも使い、音声、文法、表現の基礎を、総合的に楽しく身に着けさせます。テキストはA1（欧州語学力評価基準）のコミュニケーション能力の習得も目標としています。
社会学通論Ⅰ (15B0040) 廣瀬　毅士	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 文教育学部 2.0単位	
社会学通論Ⅱ (15B0041) 廣瀬　毅士	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 文教育学部 2.0単位	
現代スペイン語 (15B0043) [英文強化] [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 磯山　久美子	Ⅰ ～ Ⅳ 通年 文教育学部 4.0単位	コミュニケーションのためのスペイン語を学びます。アルファベットから始まり、文法構造を学びながら、日常に役立つ表現を学びます。授業では、文法を学びながら実際に話す機会を多く設けたいと思っています。
現代イタリア語 (15B0045) [英文強化] [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 田畑　安紀子	Ⅰ ～ Ⅳ 通年 文教育学部 4.0単位	イタリア語のみで書かれたテキストで、子供が自然に言語を体得するように、イタリア語を身につけます。テキストには、豊富なイタリアの日常生活の写真と語彙や表現がちりばめられています。たとえばバールで働く女性、barista、ほうきやモップ、アイロンを手に、にこやかに行進するASUC（主夫同盟）、トリノのカフェの生クリームいっぱいのbicerin、フィレンツェのterme（温泉）、貝殻の形のパスタ、conchiglieなどの写真があり、イタリア語で乾杯は、Alla salute!おいしい！はbuonoなどといったすぐに使いたくなる表現の数々。そんなたくさんの言葉や表現とイメージが自然とつながるよう、豊富なAV教材とロールプレイ、ゲームなどを使って楽しく学びます。テキスト以外にも、オペラやネットニュースも使い、音声、文法、表現の基礎を、総合的に楽しく身に着けさせます。テキストはA1（欧州語学力評価基準）のコミュニケーション能力の習得も目標としています。
現代アジア諸語Ⅰ (15B0047) 松尾　有里子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 文教育学部 2.0単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
現代アジア諸語Ⅱ (15B0049) 松尾　有里子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 文教育学部 2.0単位	

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
哲学基礎論 (15B0101) [グロ文主] [地理主] [哲学主] [哲学副] [歴史主] 三浦　謙\015\012中野　裕考	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 人文科学科 2.0単位	古代から現代に至る西洋哲学史の中で提唱されている重要な主張・考え方を取り上げ、それらがどのようなことを問題にしているのかを思想史的または現代的観点から解説する。
倫理学基礎論 (15B0102) [グロ文主] [地理主] [哲学主] [哲学副] [歴史主] 宮下　聡子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 人文科学科 2.0単位	一口に倫理学といっても扱う内容は多岐にわたり、時代的にも地域的にも広がりがあります。この授業は、倫理学とはどのような学問なのかを具体的に示すことを目標とします。
比較文化史 (15B0104) [グロ文主] [地理主] [哲学主] [歴史主] [歴史副] 小風　秀雅	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 人文科学科 2.0単位	「貨幣と消費」をテーマに、日本史（神田・小風）、アジア史（岸本）、西洋史（新井）の各教員がオムニバス式の講義を行う。基本的にはそれぞれの教員による講義で進めていくが、全体として以下のような課題を意識しつつ、進める。 人類の経済活動は絶えず拡大と縮小を繰り返しながら、全体として成長を遂げてきた。その原動力となっていたのが、自分の経済圏になく他の経済圏にある物産を入手したいという欲求である。そうした「貴重品」を入手されるために使用されたのが金銀貨幣であり、金銀の産出と経済の発展は密接に関係していた。やがて、贅沢品は必需品へと転化し、経済社会はさらに発展する。こうした「発展の歴史」の基底に、消費へのあくなき探求があることは、今日も変わらない。 また貨幣として流通する金銀は、やがて経済システムを支える基幹的制度としての通貨制度を生み出し、やがて世界通貨制度としての金本位制を生み出し、世界を一つの経済圏へと統合していった。19世紀は通貨によって世界が統合された世紀であり、グローバル世界が形成された時代であった。 お金（貨幣）と消費の文化が、それぞれの時代・地域でどのように展開していたのか、考えてみたい。最終回には担当教員全員によるシンポジウムを予定している。
比較社会史 (15B0105) [グロ文主] [地理主] [哲学主] [歴史主] [歴史副] 安田　次郎	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 人文科学科 2.0単位	「文字・書物・出版」をテーマに、日本史・アジア史・西洋史の教員がオムニバス式の講義を行う。人類は文字を発明して以来、これを通して次代に「歴史」を伝えてきた。文字文化の展開は、やがてさまざまな書物を生み出し、さらには出版というかたちにつながってゆく。「歴史」の基底に文字があることは、多様な媒体が情報伝達手段となった今日も変わらない。この「歴史」と不可分のテーマが、それぞれの時代・地域でどのように展開していたのか、考えてみたい。最終回には担当教員全員によるシンポジウムを予定している。
自然と人間 (15B0106) [グロ文主] [地理主] [地理副] [哲学主] [歴史主] 長谷川　直子	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 人文科学科 2.0単位	地球上のあらゆる自然現象は、自然の摂理のもと起こっています。人間はより快適に生活するため、さまざまな活動を行います。それが行過ぎると自然の摂理を改変したり、人間にとっても不都合を招く事態になることも起こりえます。それがいわゆる環境問題です。 この講義では、環境問題の理解にあたり、（担当教員が）重要だと考えるいくつかのアプローチ方法を取り上げ、それらについて講義、演習を行います。そして、環境問題の本質は何か？、それらの問題を解決するのにはどうしたらよいのかを考えてもらいます。 本人なりの環境観を構築してもらうのが目的です。 キーワード：自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、地域間の結びつき、環境問題・環境保全、身近な地域の調査
人間と空間 (15B0107) [グロ文主] [社会主] [地理主] [地理副] [哲学主] [歴史主] 宮澤　仁	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 人文科学科 2.0単位	人文地理学は、人間とその社会が、いかに空間や場所と関わり、それらを作り出し、またそれらによって影響を受けてきたかに関心を寄せ、こだわり続ける学問です。この授業では、ローカルな空間からグローバルな空間まで、私たちの生きる現代の世界がいかに構築されているのかを、具体的な現実をふまえて、理解することを目指します。
美術史基礎論 (15B0499) [グロ文主] [地理主] [哲学主] [哲学副] [歴史主] 鶴岡　明美	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	新１年度生を対象とした入門的な基礎講義。近年特に多様化しつつある美術史学の方法論について、時代や地域・宗教など様々な異なる視点からアプローチしたい。多くの作例の画像資料を紹介しながら授業を進めるので、美術史学研究の多様な可能性について関心を広げてほしい。
社会学通論Ⅰ (15B5001) [地理強化] [哲学強化] [歴史強化] 廣瀬　毅士	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 人文科学科 2.0単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
社会学通論II (15B5003) [地理強化] [哲学強化] [歴史強化] 廣瀬　毅士	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 人文科学科 2.0単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
卒業論文 (15B0090) [哲学主] 哲学全教員	Ⅳ 通不定期 哲学・倫理学・美術史コース 8.0単位	各自研究テーマを設定し、指導教員の指導のもと卒業論文を作成する。
哲学ＡⅢ (15B0114) [哲学主] [哲学副] 中野　裕考	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	過去の書物の単なる要約ではなく、自分独自の視点から加えた分析を論文という形にまとめる練習です。自分自身で思考しつつ、しかし自分の理解を超えたテクストそれ自体のポテンシャルを最大限に引き出すことで、自分が成長し思考の新たなステージにステップアップする。何度も失敗しながら訓練していくことで体得できる技術を身につけられるよう、教員はバックアップに徹します。
哲学ＢⅢ (15B0117) [哲学主] [哲学副] 三浦　謙	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	20世紀の重要な哲学者であるD.ディヴィッドソンの文献を日本語と英語で読みます。
理論分析論演習Ⅰ (15B0125) [哲学主] 三浦　謙	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	哲学の英語の入門書を読みます。テキストは、出席者の希望に合わせ、相談して決めます。
理論分析論演習Ⅱ (15B0126) [哲学主] 三浦　謙	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	理論分析論演習Iと同様の、英語のテキストの講読です。
問題分析論演習Ⅰ (15B0128) [哲学主] 植村　恒一郎	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	哲学の英語の入門書を購読します。内容は、出席者の関心に合わせて、相談して決めます。
問題分析論演習Ⅱ (15B0129) [哲学主] 植村　恒一郎	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	問題分析論Iと同様の英文テキストの購読です。
哲学演習ＡⅢ (15B0133) [哲学強化] [哲学主] 中野　裕考	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	義務論倫理学の第一の古典、カント『人倫の形而上学の基礎付け』を精読します（2年計画）。 本書を読むことも目的ですが、より広くドイツ語などの外国語で哲学テクストを精読することができるようになるためのイントロダクションを提供することも目的としています。
哲学演習ＢⅢ (15B0136) [哲学強化] [哲学主] 三浦　謙	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	英語で書かれた哲学の本を読み、議論のしかたや訳しかたに慣れること。
哲学演習ＣⅠ (15B0137) [哲学主] 三重野　清顕	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	私たちは人間であることを当たり前としていますが、いざ人間の特有な性質について考えようとすると、理解が難しいという場合が多いです。この授業では、心、意識、行為などの分野から、出席者の関心に合わせて、現在どのような問題が哲学で論じられているかを見ていきます。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
哲学演習ＣⅡ (15B0138) [哲学主] 木元　麻里	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	本授業では、20世紀を代表する思想家エマニュエル・レヴィナスの主著『全体性と無限』の講読／演習を行う。 今年度は、レヴィナスの他者論において核心概念となる「顔」の概念に焦点をあて、「他者」と「自己」の関係構造を理解することを目標とする。
哲学演習ＣⅢ (15B0139) [哲学主] 横山　幹子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	本授業では、「自律的」であることが特徴とされてきた「近代主体」の概念を、フランス現代思想の議論の中で問い直し、「自律的主体」の何が問題であるのかを理解する。 はじめに、メルロ＝ポンティ、ドゥルーズ、レヴィナス、リオタール、ボードリヤール、フーコー、デリダといった哲学者たちの思想の枠組みを概観した上で、後半は、レヴィナスの主著である『全体性と無限』を取り上げ、購読する。 授業を通じて、学生ひとりひとりが自分の探求したい哲学的問題、関心領域を発見することを目標とする。
哲学特別研究ＡⅠ (15B0143) [哲学強化] 中野　裕考	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	分析・言語哲学の代表者の一人であるデイヴィドソンの著作の購読。英語と日本語翻訳の双方で参加可能。
哲学特別研究ＡⅢ (15B0145) [哲学強化] 中野　裕考	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	哲学特別研究AIIと同じ内容です。
哲学特別研究ＢⅠ (15B0146) [哲学強化] 三浦　謙	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	哲学研究BIIIと同じ内容です。
哲学特別研究ＢⅢ (15B0148) [哲学強化] 三浦　謙	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	なぜ20世紀は言語哲学が発展し、その後存在論へ向かったのかを考えます。
倫理学概論Ⅰ (15B0152) [哲学主] [哲学副] 宮下　聡子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	倫理学へのアプローチとして、生きることに密接に関わる明暗こもごもの問題をテーマに、古今東西の思想家の説を紹介し、倫理の観点から考察します。 各テーマについての代表的な説を知り、倫理的に考える力をつけることを目標とします。
倫理学概論Ⅱ (15B0153) [哲学主] [哲学副] 宮下　聡子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	倫理学へのアプローチとして、生きることに密接に関わる明暗こもごもの問題をテーマに、古今東西の思想家の説を紹介し、倫理の観点から考察します。 各テーマについての代表的な説を知り、倫理的に考える力をつけることを目標とします。
日本倫理思想史Ⅰ (15B0155) [哲学主] [哲学副] 木澤　景\015\012板東　洋介	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	倫理とは何か、倫理学・倫理思想史は何を議論するのか、といった基本的なテーマについて概説する。ここで問題にしたいことは、現代のわれわれが、生きて考えていることそれ自体である。
倫理学演習Ａ (15B0160) [哲学強化] [哲学主] 宮下　聡子	Ⅱ ～ Ⅳ 通年 哲学・倫理学・美術史コース 4.0単位	倫理学の研究対象である「倫理」について、また数ある倫理学のトピックのうち「幸福」、「苦しみ」、「性格」について、主要なテクスト（欧文のものはその邦訳）を講読しながら考える演習です。 発表担当者に所定の箇所を要約し、問題提起をしてもらい、それを受けて全員で討論します。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
倫理学特殊講義ＢⅠ (15B0168) [哲学強化] [哲学主] 大久保　紀子\015\012吉村　均	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	倫理学・倫理思想史に関する基礎的な研究をする具体的なテーマについては出席者と相談してきめたい。
倫理学特殊講義ＢⅡ (15B0169) [哲学強化] [哲学主] 鈴木　朋子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	倫理学・倫理思想史に関する基礎的な研究をする。具体的なテーマについては出席者と相談してきめたい。
倫理学資料講読 (15B0176) [哲学強化] [哲学主] 宮下　聡子	Ⅱ ～ Ⅳ 通年 哲学・倫理学・美術史コース 4.0単位	上掲テクストの著者小坂氏は、「私が来たのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」というイエスの言葉や「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」という親鸞の悪人正機説に典型的に示されている、応報主義に立つ倫理の立場からすれば不条理としか思えない宗教の立場、つまり罪人や悪人がむしろ顧みられるという宗教の立場を問題にして、倫理と宗教の関係について考察しています。 この授業の主題は、テクストの講読を通じて、倫理と宗教の関係について考えることです。具体的な目標としては、①小坂氏の趣意を正確に読みとること。②小坂氏が引用ないし言及している文献に直接当たってみること。たとえば、『ヨブ記』、『歎異抄』、カント『実践理性批判』、ニーチェ『道徳の系譜』、キルケゴール『おそれとおののき』、ロールズ『正義論』等。③倫理と宗教の関係について、小坂氏の見解を踏まえつつ、考察すること。
日本倫理思想史資料講読 (15B0177) [哲学強化] [哲学主] 宮下　聡子	Ⅱ ～ Ⅳ 通年 哲学・倫理学・美術史コース 4.0単位	日本倫理思想史上の主要な文献を講読します。
日本倫理思想史研究 (15B0180) [哲学強化] [哲学主] 頼住　光子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	授業では、仏教の原典を読みながら、その基本知識を身に付け、教理と歴史を学びます。特に、日本における古代から近世までの代表的な仏教者たちのテキストを読解し、その思想の解明を行います。これらを通して日本の仏教思想の特徴を把握し、「人間とはなにか」「信じるとはどういうことか」「いかに生きるべきか」といった根源的な課題を考える精神的な営みを検討します。
西洋倫理思想史研究 (15B0181) [哲学強化] [哲学主] [哲学副] 宮下　聡子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	西洋倫理思想史上の主要な思想について研究します。
生命と倫理学 (15B0183) [哲学強化] [哲学主] [哲学副] 宮下　聡子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	生命に関する倫理学の諸問題を扱います。
日本の社会と文化 (15B0184) [哲学強化] [哲学主] [哲学副] 徳重　公美	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	本講義においては、日本の思想や文化の根幹を形作っている仏教について、その思想を中心として検討します。日本の仏教思想家の代表的著作や関連資料を原典で紹介しながら、そこに含まれている世界観、人間観、社会観等を解明することを目指します。また、仏教の基本的な世界観や人間観についても説明します。
形象分析学演習Ⅲ (15B0191) [哲学強化] [哲学主] 土谷　真紀	Ⅱ ～ Ⅳ 通年 哲学・倫理学・美術史コース 4.0単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
形象分析学調査演習 (15B0192) [哲学強化] 土谷　真紀	II 通不定期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	美術史学演習I(10B0212)を参照。
形象分析学特殊講義III (15B0196) [哲学強化] [哲学主] [哲学副] 土谷　真紀	II ～ IV 通年 哲学・倫理学・美術史コース 4.0単位	
西洋美術史ＡＩ (15B0200) [哲学主] [哲学副] 奈良澤　由美	II ～ IV 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	イタリア、初期ルネサンス美術 “ルネサンス”という言葉は現代日本に生きる私たちも普通に用いているが、もとは14－16世紀にヨーロッパで起こった文芸の革新を指すものであった。その先鞭をつけたのがイタリア、なかでもフィレンツェである。本講義では主に15世紀フィレンツェの美術を論じる。美術史の区分でいうと初期ルネサンスと呼ばれる時代である。基本的には、毎回１～２人の芸術家（もしくは作品）を選んで詳しく解説したい。もちろんフィレンツェ以外の町の芸術家についても触れるし、時には関係のない時代・テーマについて論ずることがあるかもしれない。 講義を通じて、この時代のイタリア美術の概略を示す予定。評価は、授業をもとにしてどれだけ自分なりに知識を広げたのかを重視する。
西洋美術史ＢＩ (15B0203) [哲学主] [哲学副] 金原　由紀子	II ～ IV 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	ルネサンスとバロック時代の北方絵画を中心に考察する。毎回、一人の作家に焦点を合わせ、美術史学的なアプローチ方法を学ぶ。様式論や図像学といった伝統的な方法論だけではなく、アクチュアルな議論も検討する。本講義は、概説ではなく、美術史学的な視点を養う専門的な内容のものではあるが、巨匠の作品を中心に進めていくので、美術史専攻でなくても受講可能。美術史専攻の学生は、自分の研究分野以外で取りこぼしがちな主題や議論を学んでほしい。
東洋美術史ＡＩ (15B0206) [哲学主] [哲学副] 玉蟲　敏子	II ～ IV 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	近世美術家列伝 江戸時代は日本の美術が成熟し、魅力あふれる多様な表現を生み出すことができた時代である。具体的な作品（の画像）に数多く触れることでその特質を理解するとともに、美術作品を見る眼を養うことを目的とする。 成績はレポート50%、授業への出席50%で評価する。
東洋美術史ＢＩ (15B0209) [哲学主] [哲学副] 木田　拓也	II ～ IV 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	《絵巻とマンガ》絵巻物というと、800年も前のもので、国宝とされてガラスケースに収まっているもの、私たちには縁のないものと思ってしまいがちですが、当時の女性も男性も、子供も大人も夢中になってしまったもの。今のマンガと似ていませんか？一回の講義で一つずつ絵巻物を取り上げ、表現や時代、社会背景などについて（あまり構えずにしかし本気で）マンガの視点で絵巻を比較し、考察したいと思います。
美術史学演習III (15B0214) [哲学強化] [哲学主] 天野　知香	II ～ IV 通年 哲学・倫理学・美術史コース 4.0単位	研究論文を原書（英文）で講読し、専門的な文献を読む訓練を重ねると同時に、美術史研究の基本的で具体的な方法や理論、分析の視点を学ぶ。
美術史学特殊講義III (15B0217) [哲学強化] [哲学主] [哲学副] 天野　知香	II ～ IV 通年 哲学・倫理学・美術史コース 4.0単位	欧米を中心に１９世紀～２０世紀の視覚表象をめぐる諸問題を取り上げ、多様な視点から考察する。いわゆるモダン・アートの成立とモダニズムの言説をめぐり、社会と「芸術」の位相や機能、表象をめぐる制度や受容のあり方、あるいは時代や社会の視覚性や、美術の語り、装飾、「他者」など、さまざまな問題をジェンダーやポストコロニアリズムなどの視点を含め、複数の視点から、多数の具体的な事例を通じて考察する。美術史研究の最新の視点を取り入れ、方法論や今日の研究動向をあわせて検討する。
美術史学研究指導Ｉ (15B0219) [哲学強化] 天野　知香\015\012土谷　真紀	II ～ IV 通年 哲学・倫理学・美術史コース 4.0単位	卒業論文作成に向けた研究指導のゼミ。各自現在取り組んでいるテーマに関する研究内容について毎回担当者を決めてプレゼンテーションしてもらい、参加者を交えて討議する。発表時にはパワーポイントで作品を提示しながら発表し、各自でレジュメを制作し配布すること。発表することによって、自身の研究の進捗状況を確認し、問題点や成果を明らかにして、授業出席者とともに検討し、研究方法や視点、内容を深めることを目的とする。また仲間の発表を聞き、検討すすることで自身の研究の方法や視点を磨く。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
哲学概論II (15B0494) [哲学主] [哲学副] 中野　裕考	I ～ IV 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	哲学を学ぶことと哲学史を学ぶことは密接にかかわっています。過去の哲学が現在の私たちのものの見方のバックグラウンドにあるからです。このことは特に近代哲学についていえて、私たちはそれと自覚的に対決しながら今後の考え方を練っていく必要があります。そこで今学期は、哲学と哲学史の間の関係を、主に近代～現代の哲学を参考にしながら考えてみたいと思います。
美術史学概論 (15B2600) [哲学主] 味岡　京子	I ～ IV 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	主題：「美術史学」とは何を研究する学問なのか、そこにおいて何が対象となり得るのか、どのような研究方法があるのか、現在いかなる問題意識が示されているのかを学ぶ。「美術史学」とは、「美術」の歴史を研究する学問として知られているが、実はその方法は多様である。そもそも「美術」とは普遍的な価値を持つものではなく、「美術史学」の対象とその研究方法も、時代や地域やそれを語る者の立場によって変化する。とはいえ「巨匠」とされる芸術家たちによって、様式的な革新がなされ、「傑作」が生み出されてきたとして、それらを「正統」な美術の歴史としてなぞろうとする、いわゆる近代主義的な「美術史」が20世紀の大半を支配してきた。このことは、「美術史」という学問が西洋近代において形成されたことと無縁ではないが、近年ではこうした意味での「美術史」という学問自体を疑問視し相対化しようとする立場から多様な研究方法が提示されている。授業では新旧含めて多様な方法論をその問題点もあわせて踏まえたうえで、「ジェンダー」「ポスト・コロニアル」「モダニズム」「他者」などをキーワードとしながら、様々な作品・事例の解釈を試みる。 目標：西洋の近現代の美術に焦点を絞って講義するが、最終的には、私たちを取り巻くさまざまな視覚表象に対して敏感になり、それらを論理的かつ批判的に眺め、考える姿勢を身につけることを目標とする。
哲学AIV (15B5100) [哲学主] [哲学副] 中野　裕考	I ～ IV 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	解釈論文の書き方を実践的に訓練します。 過去の書物の単なる要約ではなく、自分独自の視点から加えた分析を論文という形にまとめる練習です。自分自身で思考しつつ、しかし自分の理解を超えたテクストそれ自体のポテンシャルを最大限に引き出すことで、自分が成長し思考の新たなステージにステップアップする。何度も失敗しながら訓練していくことで体得できる技術を身につけられるよう、教員はバックアップに徹します。
哲学BIV (15B5101) [哲学主] [哲学副] 三浦　謙	I ～ IV 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	哲学BIIIと同じ内容です。
哲学演習AIV (15B5103) [哲学強化] [哲学主] 中野　裕考	II ～ IV 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	義務論倫理学の第一の古典、カント『人倫の形而上学の基礎付け』を精読します（2年計画）。 本書を読むことも目的ですが、より広くドイツ語などの外国語で哲学テクストを精読することができるようになるためのイントロダクションを提供することも目的としています。
哲学演習BIV (15B5104) [哲学強化] [哲学主] 三浦　謙	II ～ IV 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	英語で書かれた哲学の本を読み、議論のしかたや訳しかたに慣れること。
倫理学研究指導I (15B5106) [哲学強化] 宮下　聡子	II ～ IV 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	卒業論文執筆に向けた研究指導。
哲学研究指導I (15B5109) [哲学強化] 三浦　謙\015\012中野　裕考	IV 前期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	論文を書くための指導と、出来上がった論文の発表をする（聞く）ことで、よい卒業論文を書けることが目的です。
哲学研究指導II (15B5110) [哲学強化] 三浦　謙\015\012中野　裕考	IV 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	哲学研究指導Iと同じ内容です。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
英書講読 (15B5111) [哲学主] 村井　忠康	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 哲学・倫理学・美術史コース 2.0単位	

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本史研究法(1) (15B5400) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 神田　由築	II 1学期 比較歴史学コース 1.0単位	17世紀から19世紀の日本に関する文献をおもな素材として、研究論文や史料の解読方法、考察の進め方など、専門的な研究に必要な基本的なことを学んでゆく。
日本史研究法(2) (15B5402) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 神田　由築	II 2学期 比較歴史学コース 1.0単位	17世紀から19世紀の日本に関する文献をおもな素材として、研究論文や史料の解読方法、考察の進め方など、専門的な研究に必要な基本的なことを学んでゆく。
アジア史研究法(1) (15B5404) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 三浦　徹	II 1学期 比較歴史学コース 1.0単位	
アジア史研究法(2) (15B5406) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 三浦　徹	II 2学期 比較歴史学コース 1.0単位	
西洋史研究法(1) (15B5408) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 安成　英樹	II 1学期 比較歴史学コース 1.0単位	本授業は、歴史学、とりわけ西洋史学の研究を進めていくうえで、もっとも基本的かつ必要な技術・方法を習得してもらうことを目的とする。西洋史学の分野で卒業論文を書く予定（希望）の学生は、できるだけ受講してほしい。授業で取り上げるテーマは、前半はこれまで蓄積されてきた歴史学の研究方法やその意義、史料論、最新の歴史研究方法、史学史などについて紹介し(講義形式)、後半は辞典類の引き方や事項の調べ方、研究文献の有無やその所在場所の探し方、専門雑誌の利用方法、パソコンやインターネットの利用方法など、実用的・具体的な授業(演習形式)を行いたいと考えている。また、卒業論文の書き方についても適宜触れていきたい。
西洋史研究法(2) (15B5410) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 安成　英樹	II 2学期 比較歴史学コース 1.0単位	本授業は、歴史学、とりわけ西洋史学の研究を進めていくうえで、もっとも基本的かつ必要な技術・方法を習得してもらうことを目的とする。西洋史学の分野で卒業論文を書く予定（希望）の学生は、できるだけ受講してほしい。授業で取り上げるテーマは、前半はこれまで蓄積されてきた歴史学の研究方法やその意義、史料論、最新の歴史研究方法、史学史などについて紹介し(講義形式)、後半は辞典類の引き方や事項の調べ方、研究文献の有無やその所在場所の探し方、専門雑誌の利用方法、パソコンやインターネットの利用方法など、実用的・具体的な授業(演習形式)を行いたいと考えている。また、卒業論文の書き方についても適宜触れていきたい。
日本文化史概論 (15B0249) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 古瀬　奈津子\015\012安田　次郎	I ～ IV 前期 比較歴史学コース 2.0単位	日本史のうち、古代と中世について概観する。大学生として必要最低限、知っておいて欲しいことはカバーする予定。今年度は、「都市」をゆるやかな共通テーマとする。
アジア史概説 (15B5300) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 岸本　美緒	I ～ IV 後期 比較歴史学コース 2.0単位	中国を中心として、古代から現代に至る東アジアの歴史を概観する。適宜、史料やトピック、近年の研究動向なども組み合わせて、東アジアの歴史を多角的に理解できるようにしたい。成績は、平常点（出席、コメントペーパー）30%、期末試験70%でつける。
西洋史概説 (15B0306) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 新井　由紀夫\015\012安成　英樹	I ～ IV 前期 比較歴史学コース 2.0単位	この授業では、古代から近代にかけての西洋の歴史を、ロンドンとパリというふたつの都市社会を題材として読み解いていこうとするものである。新井がロンドンを中心にして、また安成がパリを中心にして、それぞれの都市社会の特徴について、基本的には時代を追って順に論じてゆく。したがって受講者は、ロンドンとパリというふたつの都市を通じて、西洋社会の通史を見てゆくことになろう。中世から近代にかけてヨーロッパにおける都市とはどういう存在であったのか、そこに住まう人々はいかなる生活を送っていたのか、またそれは現代の都市生活とはどのように異なるのか、またそれがどのように「近代化」するのか、といったさまざまな問題を考えてみたい。映像や図像資料を用いて、歴史的イメージを具体的につかめる授業にしたい。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本史入門講読 (15B2514) [歴史強化] [歴史主] 安田　次郎	I 前期 比較歴史学コース 2.0単位	平易な英文で書かれた日系米人女性（帰米二世）の自伝を読む。 主人公は青春期に戦争に巻き込まれ、太平洋の両側で偏見と差別と戦いながら不屈の闘志をもって自分の道を切り開く。日米双方の視点から描かれた戦前の移民 社会、戦中の日本社会、そして戦後のアメリカの社会について学び考える。
外国史入門講読Ⅰ (15B0495) [歴史強化] [歴史主] 三浦　徹	I 前期 比較歴史学コース 2.0単位	諸外国の歴史教科書（主に高校用）を、アジア史の部分を中心に、英語或いは日本語訳で読み、日本の世界史教科書と比較する。歴史教科書の構成や内容がどのように違っているかを検討し、各国における歴史教育の方針の違いがなぜ存在するのか、日本の歴史教育の特徴について考える。
外国史入門講読Ⅱ (15B0496) [歴史強化] [歴史主] 安成　英樹	I 後期 比較歴史学コース 2.0単位	本授業は、西洋史の研究論文（日本語）を参加者全員で輪読することで、今西洋史の学問世界でどのようなテーマ、研究が盛んなのか、西洋史の専門研究とは実際どのようなものか、あるいは西洋史のなにがおもしろいのか、といった基本的なことを実感してもらうことが目的としている。授業では西洋史関連の文献を講読していくが、その際あつかう文献は、基本的に受講者自身が関心を持っている分野から論文を選択してもらう。また、分野や時代にあまりこだわらず、読んで（知的に）おもしろい文献を対象にしたい。
日本史講読 (15B0250) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 小風　秀雅	II 後期 比較歴史学コース 2.0単位	日本史、なかでも近代史を研究していくために必要な文献や史料の読み方、調べ方について、基礎的な能力を身につけることを目的とする。毎回課題となる史料について問題を出すので、予習は必須。レポーター制を考えている。
アジア史講読 (15B5302) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 岸本　美緒	II 後期 比較歴史学コース 2.0単位	古代史から現代史まで、中国史の研究には多種多様な史料が用いられている。この授業では、中国史研究の上でよく使われる史料のうち代表的なものを十数種取り上げ、直接にその内容に触れてその性格を理解することをめざす。配布する史料のうち、各自の興味のあるものを選び、読んできて発表し、質疑応答を行う。漢文史料が中心であるが、関連の文献も多くまた教員もサポートするので、高校で習った漢文の知識で十分である。成績は、発表（及びそのレジュメを改訂したレポート）７０%、平常点（授業での質疑や質問票）３０%でつける。
西洋史講読 (15B0252) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 新井　由紀夫	II 後期 比較歴史学コース 2.0単位	英語で書かれたさまざまな形態の史料にアタックしてもらうことで、西洋史のおもしろさについて考えてみる。後半は、西洋史に関する英語論文を講読し、西洋史学のテーマや手法を実践的に体験することを目標とする。
古文書学 (15B0320) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 矢越　葉子	II ～ IV 前期 比較歴史学コース 2.0単位	日本の古代・中世の文書について、基本的な文書を選んで、様式や読み方について学び、そこから古代・中世社会の仕組みを読み解く。 テキストは、佐藤進一『［新版］古文書学入門』（法政大学出版局）を使用するが、他の文書も紹介する。
日本史論文講読 (15B5303) [歴史強化] [歴史主] 安田　次郎	II 後期 比較歴史学コース 2.0単位	日本の古代から近代に至るまでの研究論文１２本を読む。ただ読んで内容をまとめるだけでなく、論文の批判的な読み方や、レジュメの書き方、プレゼンテーションの仕方を学ぶことを目的とするので、全員が必ず発表し、毎回発言することを課す。
外国史論文講読 (15B5304) [歴史強化] [歴史主] 新井　由紀夫	II 後期 比較歴史学コース 2.0単位	この授業は、将来外国史(アジア史・西洋史)の卒業論文を書こうとする学生を対象として、専門論文とはどのようなものであるかを経験的に理解する、すなわち歴史学のテーマや問題設定、史料の用い方、論旨の組み立て方などを、実際に書かれた専門論文を精読することを通して実地に体感するための授業である。各分野の専門性の高い論文を読みこなすだけの読解力を養成すると同時に、授業での積極的な討議を通じて論点を整理し、歴史学の最新のテーマや広く深い知識を涵養することを企図している。また討論を通じて、自分の考えをまとめ、それを他者に的確に表現し伝達するといったプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力があわせて磨かれることをも期待している。初回授業時に計画を決定するので、初回授業に必ず出席すること。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
歩いて学ぶ比較歴史Ⅱ (15B0248) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 小風　秀雅	Ⅱ ～ Ⅳ 後不定期 比較歴史学コース 2.0単位	各地の遺物（展示物を含む）や遺跡、歴史的景観などを見学して、歴史認識を深めることを目的とするフィールドワーク形式の授業。
歴史現地調査Ⅰ (15B0243) [歴史強化] [歴史副] 古瀬　奈津子	Ⅲ ～ Ⅳ 前集中 比較歴史学コース 2.0単位	日本古代史に関係する史跡、遺跡、博物館などを訪れ、発掘調査の現場等における現地調査の方法や史料調査の方法等を学ぶ。
歴史現地調査Ⅱ (15B0244) [歴史強化] [歴史副] 小風　秀雅	Ⅲ ～ Ⅳ 前集中 比較歴史学コース 2.0単位	日本近代史に関する史跡や遺産などのフィールドワークを行い、歴史学におけるモノ資料の見方、扱い方を現地での作業を通じて学ぶ。現在、歴史学は文字史料や非文字史料だけでなく、現地の地理情報、史跡や遺産などから読み取れる種々の歴史情報を読み説くことも重要視されている。これまで、博物館や史跡保護などの文化財保護部門で行われてきた研究や実践を学ぶことも研究の重要な一部となってきつつある。そうした幅広い方法に関する知識と活用について、学んでいきたい。また、こうした分野で活躍している学芸員や専門職員に直接に話を聞くkとによって、文化財保護の実態についての理解を深め、関心を持ってほしい。
日本古代史料演習Ⅰ (15B0266) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 古瀬　奈津子	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 比較歴史学コース 2.0単位	『続日本紀』五（岩波書店）を延暦10年正月から読み進める。奈良時代から平安時代への転換期における政治や社会の変化について考察する。古代史の史料の読み方や調べ方などの基本を習得する。
日本古代史料演習Ⅱ (15B0267) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 古瀬　奈津子	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	前期に引き続き、『続日本紀』を読み進める。古代史料演習Ⅰ・Ⅱは連続して履修することが望ましい。
日本中世史料演習Ⅰ (15B0269) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 安田　次郎	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 比較歴史学コース 2.0単位	「黒衣の宰相」といわれた、醍醐寺三宝院満済の日記『満済准后日記』を読む。満済は将軍足利義持、ついで義教の信任があつかった政治顧問で、その日記は正確で多彩、室町時代を知るために必読の文献である。中世社会の特質を自ら史料を読むことを通してつかみ、さらに他の文献を読むための「基礎体力」を養って欲しい。
日本中世史料演習Ⅱ (15B0270) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 安田　次郎	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	前期の日本中世史料演習Ⅰを引き継いで、『満済准后日記』を読む。あらかじめ各自が読む分量を決めておき、その担当範囲の正確な解釈と、任意のテーマに関するレポートを要求する。
日本近世史料演習Ⅰ (15B0272) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 神田　由築	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 比較歴史学コース 2.0単位	日本近世史を研究するのに必要な基礎的な史料読解力や、分析手法、議論の展開の方法等を身に付けることを目的とする。
日本近世史料演習Ⅱ (15B0273) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 神田　由築	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	日本近世史を研究するのに必要な基礎的な史料読解力や、分析手法、議論の展開の方法等を身に付けることを目的とする。
日本近代史料演習Ⅰ (15B0275) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 小風　秀雅	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 比較歴史学コース 2.0単位	明治期の政治家の史料（大久保利通文書、伊藤博文関係文書など）から、自分の関心のある史料を取り上げ、その史料に関して、種々の周辺情報を調査し、先行研究を参照して、史料に含まれる歴史情報を可能な限り引き出すことを学ぶ。選択する史料は自分の関心に応じて自由に選んでもらうので、多様な関心の学生の参加を期待する。半期で２・３回程度の報告を行い、次第に課題を具体化して、自分の研究関心を明らかにしていくことの手助けとしたい。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本近代史料演習Ⅱ (15B0276) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 小風　秀雅	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	前期に引き続き、明治期の政治家の史料を取り上げる。種々の周辺情報を調査し、先行研究を参照して、史料に含まれる歴史情報を可能な限り引き出すことにより、実証研究とはどのように行うのか、という方法を体験してもらう。選択する史料は自分の関心に応じて自由に選んでもらうので、多様な関心の学生の参加を期待する。
西アジア史料演習Ⅰ (15B5312) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 三浦　徹	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 比較歴史学コース 2.0単位	
西アジア史料演習Ⅱ (15B5313) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 三浦　徹	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	
比較アジア史料演習Ⅰ (15B5316) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 岸本　美緒	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 比較歴史学コース 2.0単位	中国史の漢文史料を自力で読解する能力を養う。清末の改革派の評論のなかから、比較的読みやすい文章を選び、担当者を決めて輪読する。漢文に慣れるとともに、語彙や人名の調べ方を学び、さらに関連の論文を参照して発表を行い、史料のなかから問題をつかみだす能力を身につける。テキストは最初の時間に配布する。漢籍図書館の見学、卒論計画の発表なども適宜行う。（備考）Ⅰ・Ⅱは連続して履修すること。
比較アジア史料演習Ⅱ (15B5317) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 岸本　美緒	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	参加者の関心にあわせて、Ⅰに引き続き漢文史料を読むか、或いは中国史に関する現代中国語或いは英語の史料・文献を読むか、どちらかにする。担当者を決めて輪読する形式はⅠと同じ。テキストは未定。また、それと並行して、3年生の参加者には、各自の関心をもつテーマについて関連の論文を集め、研究史を整理して発表するという形式の報告もしてもらう予定なので、夏休みのうちから少し準備しておいていただきたい。 （備考）Ⅰ・Ⅱは連続して履修すること。
西洋社会史演習Ⅰ (15B0290) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 安成　英樹	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 比較歴史学コース 2.0単位	本授業は、アンシァン・レジーム期フランスの国制および社会構造について、基本的な文献を講読することによりその特質を明らかにすることを目的とする。具体的には、アンシァン・レジーム期フランス特有の政治・社会のありようや文化の多様性について広く理解を図り、あわせて近世ヨーロッパ世界全体のもつ特徴を検討する。また、外国語の文献を毎週毎週定期的に読む(報告者でないときでも、当然あらかじめ読んでおく)という習慣をつけることで、「外国語を読む」ということを苦にしなくなることをめざしたい。出席、授業への参加を重視する。
西洋社会史演習Ⅱ (15B0291) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 安成　英樹	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	本授業は、同演習Ⅰに引き続いて、アンシァン・レジーム期フランスの国制、当時の社会の成り立ちや仕組み、人びとの日常生活などについて、基本的な文献を講読することによりその特質を明らかにすることを目的とする。具体的には、アンシァン・レジーム期フランス特有の政治・社会のありようや文化の多様性について広く理解を図り、あわせて近世ヨーロッパ世界全体のもつ特質を検討する。また、外国語の文献を毎週毎週定期的に読む(報告者でないときでも、当然あらかじめ読んでおく)という習慣をつけることで、「外国語を読む」ということを苦にしなくなることをめざしたい。
西洋社会史料演習Ⅰ (15B0299) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 新井　由紀夫	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 比較歴史学コース 2.0単位	西洋中世史に関する論文を批判的に講読することによって、文献史学を実践的に学ぶことを目標とする。参加者との相談し、西洋中世史に関する最近の欧米の論文を各自選んで報告し、討議する方式でやる予定。レポートも別に提出してもらうが、基本的には一人で20頁程度の、最新の歴史学の英語論文を1本報告することが求められる。また参加者は、毎回、他の参加者の指定英語論文を事前に読んで演習に参加することが望ましい。それがこなせれば、1年で約15本、300頁近くの専門論文を読みこなす能力が身につくはずである。
西洋社会史料演習Ⅱ (15B0300) [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 新井　由紀夫	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	西洋中世史に関する論文を批判的に講読することによって、文献史学を実践的に学ぶことを目標とする。参加者との相談し、西洋中世史に関する最近の欧米の論文を各自選んで報告し、討議する方式でやる予定。レポートも別に提出してもらうが、基本的には一人で20頁程度の、最新の歴史学の英語論文を1本報告することが求められる。また参加者は、毎回、他の参加者の指定英語論文を事前に読んで演習に参加することが望ましい。それがこなせれば、1年で約15本、300頁近くの専門論文を読みこなす能力が身につくはずである。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
考古学通論Ⅰ (15B0322) [歴史強化] [歴史副] 杉山　浩平	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 比較歴史学コース 2.0単位	考古学の定義、研究資料、研究法、について、主として縄紋時代を題材に講義する。
考古学通論Ⅱ (15B0323) [歴史強化] [歴史副] 杉山　浩平	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	縄紋時代の人びとの生活、環境などについて理解を図る。
史跡調査 (15B0325) [歴史強化] [歴史副] 小風　秀雅	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	歴史学において、現地調査を行うことは、史料解読を補完する作業として、非常に重要な作業である。しかしただ見て回るだけでは、不十分であり、現地調査のやり方を身につける必要がある。史蹟の場合は、政策的にそれを保護する多様な枠組みがあり、それを理解する必要がある。また実際に史蹟の保護がどのようにおこなわれているのか、を実地で理解しなければならない。 文化財行政に関与してきた経験を基礎に、文化財保護の政策と実態について考える。 主に扱うのは、日本の近代史を中心とした史蹟であるが、世界遺産などは枠組みが世界的なものであり、西洋史、東洋史の学生もぜひ参加してほしい。
日本古代中世文化史 (15B0318) [歴史強化] [歴史副] 東海林　亜矢子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	中世後期の歴史とくに文化史について、奈良・興福寺の僧である尋尊の一生に即してみていく。尋尊は１５世紀前半に摂関一条兼良の子として生まれ、幼くして興福寺に入った。５０年以上にわたるその日記『大乗院寺社雑事記』は、当時の様子を知るための一級史料である。彼の人生に寄り添いながら、またときにはそこから離れて、戦国前夜の日本を探る。
日本近世近代文化史 (15B0319) [歴史強化] [歴史副] 小風　秀雅	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 比較歴史学コース 2.0単位	日本の近代化を代表する事例である明治憲法の制定、発布、展開の過程を扱う。明治憲法は、教育現場で、取り扱い方が固定化しているため、その限定的側面ばかりが強調され、同時代的な世界のなかにおける評価が行われていない。 明治憲法の特徴はどこにあり、その枠組みがどのように日本の立憲政治を動かしたのか、をまとめたい。現在、憲法改正が政治的問題になっているが、憲法改正がどのような影響を日本の政治に与えるのか、ということも考えたい。
日本古代中世社会経済史 (15B0330) [歴史強化] [歴史副] 池田　美千子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	１０世紀から１２世紀までの平安時代史について論じる。摂関政治を中心に、天皇制、政治システム、宮廷文化、平安京の都市性、受領と地方政治、遣唐使廃止後の国際関係、武士の世のはじまりなど、摂関政治についていろいろな側面から考察する。
日本近世近代社会経済史 (15B0331) [歴史強化] [歴史副] 神田　由築	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 比較歴史学コース 2.0単位	１８世紀から１９世紀にかけての出版文化について、さまざまな角度から講義する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
西アジア政治史 (15B5319) [歴史強化] [歴史副] 鈴木　恵美	II ～ IV 後期 比較歴史学コース 2.0単位	＊テーマ：近現代の中東における政治と社会変動 ＊基本的な目標： 本講座では、中東・イスラーム地域の近現代史について必要な基礎知識を身につけ、現在に続く政治情勢を理解するうえでの判断力・思考能力を養うことを目的とする。 普段われわれが接することの多い欧米文化圏と比べて、中東地域やイスラーム圏は異なる歴史や思想、文化を有している。それらを知ることにより、従来慣れして親しんできた欧米中心の政治や社会への理解の枠組みを相対化し、中東のみならず広く世界情勢を理解する上で鍵となる、国家、民主主義、法律、宗教などの概念について、より柔軟に自分自身で考えることができる力を身につけてほしい。 ＊学習の到達目標 ・中東地域の広がりと、他の地域また国際政治とのかかわりについて理解できる。 ・21世紀以降の世界で、中東やイスラームについて形成されてきたイメージが、どんな主体によるどのような意図や背景を反映したものなのか、考える力をつける。 ・中東地域を中心としたイスラーム圏の生活文化について理解を深める。 ・イスラエル／パレスチナ紛争について、基本的な歴史や紛争の構図を理解し、現状につながる背景の知識を深める。 ・中東やイスラームをひとつの参照点として、今後の自分にとって異なる文化や宗教の人々とどのように接していくべきか考える出発点とする。
東アジア社会経済史 (15B5320) [歴史強化] [歴史副] 武内　房司	II ～ IV 前期 比較歴史学コース 2.0単位	このコースは「帝政後期（1600-1911）の中国における移住と民族ー華南・台湾と南洋華僑」と題して、いくつかのトピック（移住、社会統合、少数民族、秘密結社など）をもとに中国社会の特質を考えることを目的とする。具体的には１、この時期の中国における人口爆発を支えた移住、２、辺境の開発によって発生した漢族と少数民族との関係、３、移民が定着過程で見せた社会統合のあり方と反乱といった問題を、中国西南地方及び台湾を中心に、東南アジアの華僑社会を視野に入れながら考察する。それは単にある時代、場所の中国を理解するにとどまらず、現代中国社会が根底に抱える問題点を摘出する作業となるだろう。また日本社会との比較の中で、「アジアとは何か」を考え直す機会になると確信している。
比較アジア社会史論II (15B5325) [歴史強化] [歴史副] 岸本　美緒	II ～ IV 前期 比較歴史学コース 2.0単位	テーマは「明清時代の法と社会」。明末から清代の中国については、きわめて流動性の高い「自由」な社会というイメージの一方で、専制国家のもと血縁・地縁団体の厳しい規制の存在した「不自由」な社会というイメージもある。なぜこのような異なるイメージが出てくるのだろうか。本講義では、明清時代を中心とする中国の社会や政治の特質について、先行研究を紹介し、具体的な事例を挙げながら概説する。同時代の日本やヨーロッパとの比較の方法についても考えてみたい。
西洋近現代史 (15B5331) [歴史強化] [歴史副] 勝田　俊輔	II ～ IV 後期 比較歴史学コース 2.0単位	「男らしさと近現代」 　ドイツ・ヨーロッパ近現代史を「男らしさ」という観点から捉え直す。「長い16世紀」を通じて基盤が形成され、「啓蒙の世紀」である18世紀に社会を構築する重要な論理として成立した「男らしさ」観念が、ナショナリズムや帝国主義、世界大戦の時代を経てどのように変化し、どのような役割を果たしたのかを理解する。あわせて、そのコインの裏面である「女らしさ」観念の変容についても議論する。
フランス史 (15B0360) [歴史強化] [歴史副] 安成　英樹	II ～ IV 前期 比較歴史学コース 2.0単位	この授業では、フランスのアンシァン・レジーム期の民衆やエリートたちの日常生活について、社会史の最新研究の成果を織り交ぜながら幅広い視点から検討したい。今年度は昨年に引き続き、ある農民とその友人の貴族（いずれも現在ティーンエイジャー）の生涯を通して、具体的な人びとの生活世界に触れてみたい。具体的なテーマとしては、今年度は昨年度に引き続いて「旅」を中心テーマにすえ、さまざまな角度から近世社会を論じていきたい。
ドイツ史 (15B0361) [歴史強化] [歴史副] 小野寺　拓也	II ～ IV 後期 比較歴史学コース 2.0単位	「ふつうの人々」とナチ体制・ホロコースト 　「戦争と殺戮の世紀」である20世紀には、あわせて２億人近い人々が戦時暴力の犠牲となった。しかし、これほど大規模な戦時暴力は、一握りの独裁者や政治家、軍人たちだけではなし得ないことであり、多くの「ふつうの人々」の協力が不可欠であった。 　この授業ではナチ体制やホロコーストを例に、なぜそのような暴力が可能になったのかを、それに加担した様々なドイツ人の視点から考察する。また、ユダヤ人がホロコーストをどのように経験したのかもあわせて考える。 　史料としては、手紙や日記など「ふつうの人々」が残した、いわゆる「エゴ・ドキュメント」を多用する。また、必要に応じて心理学の議論も紹介する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
イギリス史 (15B0362) [歴史強化] [歴史副] 新井　由紀夫	II ～ IV 前期 比較歴史学コース 2.0単位	最近イギリスで放映された、イギリスのある村（小さなコミュニティー）からみた歴史と社会の変化をおったドキュメンタリー番組を使って、イギリスの歴史について、生活者の視点から考える。番組は英語で、たまに英語字幕がついていることがある。従って歴史的な背景や英語について解説を加えつつ見てゆきたい。授業では、ほぼ毎回コメントシートを書いてもらい、翌週に質問や疑問に答えてゆくことで、理解度を確かめつつ進めてゆきたい。
歴史学文献講読II (15B5334) [歴史強化] [歴史副] 安成　英樹	II ～ IV 前期 比較歴史学コース 2.0単位	この授業は、比較歴史学コースの西洋史専攻、とくに将来フランス史に関する卒論を書こうという学生を主たる対象として、平易なフランス語文献を丹念に読むことでフランス語の読解力をつけると同時にフランス史（とくに近世）のさまざまな知識を身につけてもらうことを目的とする。比較歴史学の学生で第二外国語で習ったフランス語をもう少し勉強したい人やフランス史に関心のある人でも履修してもらってかまわない。なお授業参加（出席）とテクストの予習を重視する。
歴史人類学 (15B5339) [歴史強化] 新井　由紀夫\015\012安成　英樹	IV 後不定期 比較歴史学コース 2.0単位	最近の歴史学、学際的分析手法による歴史研究を駆使しつつ、西洋史の教員による共同ゼミ形式で授業を進め、卒論作成に向けての実践力を身につける。また、広く西洋史にかんする情報の収集、学説などについても討議することで、論文作成のための総合的かつ有用なスキルアップを図る。比較歴史学コース４年生以外は受講不可（聴講は可）。
卒業論文 (15B0091) [歴史主] 歴史全教員\015\012岸本　美緒	IV 通不定期 比較歴史学コース 8.0単位	四年間の研究の総括として卒業論文を作成する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
卒業論文 (15B0092) [地理主] 地理全教員\015\012水野　勲\015\012宮澤　仁\015\012長谷川　直子	Ⅳ 通不定期 地理学コース 8.0単位	各自が設定した研究テーマについて、指導教員の指導のもとに卒業論文を作成する。
社会地理学 (15B0384) [生社強化] [地理強化] [地理主] [地理副] 水野　勲	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 地理学コース 2.0単位	
地図学 (15B0391) [地理強化] [地理主] [地理副] 小堀　昇	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 地理学コース 2.0単位	地図の歴史から科学的な側面まで基本的な内容から実際の利用方法、さらに地図の利活用法について学ぶ。 講義はプリントを配布する。また、毎時、講義に関連した実習を行い、理解を深める。
経済地理学 (15B0393) [生社強化] [地理強化] [地理主] [地理副] 水野　勲	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 地理学コース 2.0単位	経済は、私たちの日常生活と深く結びついています。しかし、経済は「市場」と呼ばれる抽象空間だけで作用しているのではなく、現実の地理空間の中で営まれています。市場（しじょう）を考える上で、市場（いちば）の具体的な姿は重要です。世界の中で、そして国内の中で、さらに都市の中で、なぜ所得や産業や雇用に地理的な差異が見られるのでしょうか。そして、いわゆる経済活動（貨幣と商品の交換）の中で、自然や労働はどのように関わるのでしょうか。本講義では、経済地理学の基本的な考え方を、できるだけ具体例を通じて明らかにします。
都市地理学 (15B0394) [社会主] [生社強化] [地理強化] [地理主] [地理副] 宮澤　仁	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 地理学コース 2.0単位	グローバル化や高度情報化、人口の少子高齢化など、経済社会が大きく変わるなかで変貌する現代の都市空間と都市住民の生活について考えるための地理学的な視点・概念・方法を学びます。
自然地理学 (15B0401) [地理強化] [地理主] [地理副] 長谷川　直子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 地理学コース 2.0単位	自然地理学で取り扱う、地球上のさまざまな場で起こる自然プロセスについて理解する。 具体的には、地形、気候、植生、水文の基本を、講義と実地観察を組み合わせて学ぶ。 室内講義だけでなく、現場で見て体験することを重視しているため、現地観察には積極的に参加してください。
測量学 (15B0405) [人環強化] [人環副] [地理強化] [地理主] [地理副] 中山　大地	Ⅱ ～ Ⅳ 前集中 地理学コース 2.0単位	実習を通じ、測量の基礎を修得することを目的とする。この実習を履修することにより、トラバース測量、平板測量を用いた100分の一地形図が作成できるようになる。実習は5人程度のグループに分けて行なうため、遅刻・無断欠席は厳禁である。実習地は学内の空き地を利用する。そこに設置した6本の杭を基準点とし、トータルステーションを用いて基準点の測量を行う。その後、平板測量（平板及びアリダードを使用）を用いて広い範囲の標高を求める
環境地理学基礎演習 (15B0420) [地理強化] [地理主] [地理副] 長谷川　直子	Ⅱ ～ Ⅲ 後期 地理学コース 4.0単位	環境問題に関するリサーチと環境改善策の提案を行う。 改善したいと考える問題を取り上げ，それを解決するにはどうしたら良いかを考え、提案を関係団体に提示するところまで行う。 ここから、文献調査、インタビュー、訪問、提案（プレゼン）、リーダーシップなどを学ぶ。 毎回、グループでディスカッションしながら授業を進めていきますが、ファシリテーターを受講生全員が経験するように組みます。 ここから、グループワークの方法や対外的な交渉術、グループのとりまとめ等、女性リーダーとなるうえでの経験も積んでもらえたらと思っています。 また、将来の就職にも役立つようなディスカッションもウォーミングアップで取り入れたいと思っています。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
人文地理学分析基礎演習 (15B0421) [地理強化] [地理主] [地理副] 宮澤　仁\015\012水野　勲	II ～ III 前期 地理学コース 4.0単位	地域社会でのフィールドワークを想定し、調査レポートを作成するための基礎的な知識や技術を講義、実習する。地域情報に関する知識、統計資料の扱い方、統計分析の基礎、フィールドワークの技法などを扱う。
地域分析学演習 I (15B0449) [地理強化] [地理主] [地理副] 水野　勲	II ～ IV 前期 地理学コース 2.0単位	カナダの地理学者ニコラス・ブロムリーは、法（学）と地理学との関係を考察する「法地理学(Legal Geography)」を唱えています。歩道空間の規制と通行の権利をテーマとした彼のテキストの講読を通じて、法と空間・地理学との関係を考察していきます。
地域分析学演習 II (15B0450) [地理主] 水野　勲	IV 前不定期 地理学コース 2.0単位	卒業論文に向けて、各自のテーマに関連する文献の購読、討論、現地調査の報告を行う。
環境地理学演習 I (15B0451) [地理強化] [地理主] [地理副] 長谷川　直子	II ～ IV 1 学期 地理学コース 2.0単位	この授業は１学期２コマ連続であるという利点を生かし、野外のフィールドワークを取り入れた授業を行います。具体的には，巡検と旅行を融合させたものはどのようなものか、またそのサンプルを作りたいと思います。 フィールドは原宿～表参道で考えています。 一般旅行者の行う旅行には地理的コンテンツが殆どありませんが，地理的コンテンツをうまくとり入れた一般旅行の形はあり得るのか、また一般の人はそれをどう感じるのか、といったことを明らかにしたいと思っています。
環境地理学演習 II (15B0452) [地理主] 長谷川　直子	IV 前不定期 地理学コース 2.0単位	卒業論文に向けて、各自のテーマに関連する文献と進捗状況の報告・討論、 現地調査の報告などを行います。
社会地理学演習 II (15B0456) [地理主] 水野　勲	II ～ IV 前不定期 地理学コース 2.0単位	卒業論文に向けて、各自のテーマに関連する文献の購読、討論、現地調査の報告を行う。
地理学フィールドワーク演習 (15B0466) [地理主] 宮澤　仁	III 前期 地理学コース 2.0単位	地理学フィールドワークＡに備えた学習・準備のための演習。地理学コース必修。本年は青森県青森市での実施を予定している。調査地に選んだ地域に特徴的な現象に関する関連文献、統計などの探索、文献の内容について報告、討論を行う。 1.調査のテーマ/領域　地方都市・農村の産業と生活 2.調査の内容/概要　地方都市・農村に特有の産業のあり方、生活スタイルについて、フィールドワークの方法の習得を通して明らかにする。 3.調査の範囲/対象　饑ｹ78　YE　ｨ,ﾉ&霎h+(,h,ﾉ　)　h㌘h　敫㌘h　ニ観。地方都市・農村の人間と環境の関係、コミュニティのあり方全体を対象とする。 4.主な調査項目　地方都市・農村の自然環境、人口、生業、社会関係、文化について集落別の比較考察を行う。集落ごとの世帯・家族構成、生業・職業の実態、事業所の活動や経営状況、景観や自然との共存のあり方など。より詳細には、事前の地理学フィールドワーク演習で統計資料、空中写真、地形図、文献を調査して、概要をつかんだ上で、その地域に即した調査項目を明確にしてから現地調査にのぞむ。 5.データ収集(現地調査)の方法　市役所などの公的機関の行政担当者や企業関係者からその地域についてのレクチャーを受ける。現地で自分たちの足で歩き回り、観察・観測を行う。現地における種々の活動・催しに参加する機会があれば、そこで体験実習を行う。現地に居住するインフォーマントからの聞き取りを行う。 6.調査の実施時期・調査地・調査員の数　xﾈ　%以　h,ﾃY?ｨｭH　)　)　位y森市で実施。教員1名、TA1名、院生3名、学部3年生6名の予定。 7.調査における学生のかかわり/役割　いくつかのグループに分かれて、院生リーダーとともに現地で聞き取りを行う。聞き取りや観察の結果については、現地の宿泊先の大広間などで報告会を毎晩開いて発表する。調査後は、帰京後にレポートを完成させ、これを冊子にまとめて、現地の関係者にお礼状とともに発送する。このプロセス全体について、教員・TA・院生の指導や補助を受けつつ、学部学生が主体的に担っていく。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
地理情報システム演習Ⅰ (15B0497) [地理強化] [地理主] 宮澤　仁	Ⅱ ～ Ⅲ 後期 地理学コース 2.0単位	地理情報システム（GIS）を用いた地理情報解析について学ぶ。また、代表的なGISについて基本的な使用方法を習得する。
都市と自然 (15B2501) [地理強化] [地理主] [地理副] 水野　勲	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 地理学コース 2.0単位	都市と自然は、しばしば対立的に捉えられています。それは、自然が何か人間社会の外部にあるものと考えられてきたからです。都市の中に自然はないのか？　また自然に思われるものの中に、かつての人間の営為はないのか？　この授業では、都市と自然の相互関係を、環境、空間、場所、景観、地名といった地理学の基本的な観点から、具体例を通じて学んでもらいます。また、休日を利用して、東京都内の野外調査を、別途行ってもらいます。 ＜読替＞ 04以前生 13B0389で履修 , 05～07生 13B0390で履修
地誌学 (15B2502) [地理強化] [地理主] [地理副] 水野　勲	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 地理学コース 2.0単位	特定の地域がどのような場所なのかを総体的に記述することが地誌であるとすれば、地域の個性とはどのようなものか、またその個性を記述する方法はどのようなものか、ということが問題になります。古今東西の地誌書の他に、百科事典、旅行ガイドブック、町歩きガイド、紀行文、小説、写真集などで記述された地域の描写を幅広く検討し、地誌のスタイルはどのようなものがありうるかを考えます。 <読替>　07年度以前生は　13B0406 日本地誌　で履修
地理学英書講読 (15B2509) [地理強化] [地理主] [地理副] 齋藤　元子	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 地理学コース 2.0単位	主に人文地理学に関する論文を講読する。学術論文の精読を通して、英語文献をいかに理解し、要約するかを学ぶ。
都市・福祉地理学演習Ⅰ (15B2510) [地理強化] [地理主] [地理副] 宮澤　仁	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 地理学コース 2.0単位	現代都市の生活問題・福祉的課題を地理学の観点・方法に基づいて考える。
都市・福祉地理学演習Ⅱ (15B2511) [地理主] 宮澤　仁	Ⅳ 前不定期 地理学コース 2.0単位	都市地理学・福祉地理学のテーマで卒業論文を作成する学生のための演習であり、現代都市の生活問題・福祉的課題を地理学の観点・方法から考えることが目的である。この授業を通じて、履修学生各自が卒業研究のテーマを確定し、既存文献の研究、研究対象・地域・手法の確定、研究計画の立案を行い、実施する。また、それらの進捗状況を授業で報告し、担当教員と履修者全員で討論する。
地理学研究法演習 (15B2512) [地理主] 地理全教員\015\012水野　勲\015\012宮澤　仁\015\012長谷川　直子	Ⅲ 通不定期 地理学コース 2.0単位	次年度、卒業論文に取り組むにあたり必要となる、研究テーマ、対象地域、研究方法、所属ゼミ等を決定する。４年生の卒論中間・最終発表会への参加も必須である。
地理学卒業演習 (15B2513) [地理主] 地理全教員\015\012水野　勲\015\012宮澤　仁\015\012長谷川　直子	Ⅳ 後不定期 地理学コース 2.0単位	夏休みまでにフィールドで調査した内容をまとめ、補足調査もしながら、卒業論文を作成するまでの議論を行う。
地理環境学演習Ⅰ (15B5500) [地理強化] 非常勤講師	Ⅱ ～ Ⅳ 後集中 地理学コース 2.0単位	グローバルな貨幣の流動、利子率、株価、為替レートなど、経済ニュースで大きく論じられているテーマについて、経済地理学がどのように空間性や場所の考えと結び付けてきたかを、いくつかの論文（日本文、英文）を輪読しながら考察する。 <読替>2010年度以前生は 14B2503 地理学特殊講義Ⅰ で履修
文化地理学演習 (15B5504) [地理強化] [地理主] [地理副] 齋藤　元子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 地理学コース 2.0単位	北アイルランドの文化地理をテーマとする。北アイルランドは、アイルランド共和国との併合を望むカトリックと英国への帰属の維持を望むプロテスタントとの紛争の地というイメージが強いが、1998年の和平合意以降、当地の景観や空間編成にどのような変化が起こったかを考察する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
自然地理学演習Ⅰ （15B5505） [地理強化] [地理主] [地理副] 長谷川　直子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 地理学コース 2.0単位	自然地理学に関するスキルを習得します。 具体的には，いくつかのデータの入手のし方、扱い方，整理のし方，図化のし方、レジュメやレポートの書き方を学びます。
地理学フィールドワークA （15B5506） [地理主] 宮澤　仁	Ⅲ 通不定期 地理学コース 2.0単位	地理学フィールドワーク演習の準備・調査をもとに行う、４泊５日の調査実習。各自で関心のあるテーマを軸に、フィールドワークの基本（観察、体験実習、聞き取り）を修得する。夏季に、青森県青森市で調査する予定である。その調査に基づいて、後期不定期に報告書作成の演習を行う。 1.調査のテーマ/領域　地方都市・農村の産業と生活 2.調査の内容/概要　地方都市・農村に特有の産業のあり方、生活スタイルについて、フィールドワークの方法の習得を通して明らかにする。 3.調査の範囲/対象 地方都市・農村の地区ごとの世帯、生業、事業所、景観。地方都市・農村の人間と環境の関係、コミュニティのあり方全体を対象とする。 4.主な調査項目　地方都市・農村の自然環境、人口、生業、社会関係、文化について集落別の比較考察を行う。集落ごとの世帯・家族構成、生業・職業の実態、事業所の活動や経営状況、景観や自然との共存のあり方など。より詳細には、事前の地理学フィールドワーク演習で統計資料、空中写真、地形図、文献を調査して、概要をつかんだ上で、その地域に即した調査項目を明確にしてから現地調査にのぞむ。 5.データ収集(現地調査)の方法　市役所などの公的機関の行政担当者や企業関係者からその地域についてのレクチャーを受ける。現地で自分たちの足で歩き回り、観察・観測を行う。現地における種々の活動・催しに参加する機会があれば、そこで体験実習を行う。現地に居住するインフォーマントからの聞き取りを行う。 6.調査の実施時期・調査地・調査員の数 ８月～９月中の5日間。青森県青森市で実施。教員1名、TA1名、院生3名、学部3年生6名の予定。 7.調査における学生のかかわり/役割　いくつかのグループに分かれて、院生リーダーとともに現地で聞き取りを行う。聞き取りや観察の結果については、現地の宿泊先の大広間などで報告会を毎晩開いて発表する。調査後は、帰京後にレポートを完成させ、これを冊子にまとめて、現地の関係者にお礼状とともに発送する。このプロセス全体について、教員・TA・院生の指導や補助を受けつつ、学部学生が主体的に担っていく。
地理学フィールドワークB （15B5507） [地理主] [地理副] 地理全教員\015\012水野　勲\015\012宮澤　仁\015\012長谷川　直子\015\012目代　邦康\015\012佐々木　リディア\015\012今野　絵奈\015\012米家　志乃布	Ⅰ ～ Ⅲ 通不定期 地理学コース 2.0単位	地理学の基本のひとつはフィールドワークであり、その地域の現場に立って思考することである。本科目では、東京およびその近郊を対象地域に、地理学に関わるテーマについて主に日帰りで複数回のフィールドワークを実施する。 講義に出席しての事前学習・準備（フィールドワークの企画、文献・地図・史資料の収集整理、調査項目の検討、空間データの利用と作業）、合計７日分のフィールドワークへの参加、事後のまとめとしてレポート・報告書の作成（調査に基づき作成した図表や地図、現地で撮影した写真なども掲載）と提出により２単位を認定する。 ※グローバル文化学環が実施する日帰りの地域調査（地域研究実習Ⅰとして開催されているもの）へ参加した場合も、日数にカウントできる（一日参加して両方の授業で認めることはできない）。 <読替> 05～09生 14B0463 で履修

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
英語圏言語文化概論 (15B0502) 清水　徹郎	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 言語文化学科 2.0単位	
中国古典文学史（先秦～唐） (15B0503) 伊藤　美重子	Ⅳ 前期 言語文化学科 2.0単位	先秦から唐代までの中国文学史においてトピックとなる作品や事柄について学ぶ。
中国古典文学史（宋～清） (15B0504) [グロ文主] [英文主] [中文主] [日文主] [仏文主] 和田　英信	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 言語文化学科 2.0単位	中国近世の文学の特質につき、以下のようにさまざまな角度から論じる。 ・建安期における士大夫の文学の成立から盛唐まで ・中唐期以降の変革 ・唐詩と宋詩 ・北宋文学の特質―士大夫と文学 ・詩話―北宋士大夫の情報交換のメディア ・詩話の成立とその変容 ・南宋文学の特質 ・金元以降の展開 ・日本における中国文学の受容 ・日本の詩話
アジア比較言語文化論 (15B0505) 佐藤　普美子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 言語文化学科 2.0単位	この講義では、二〇世紀中国の五四運動を起点とする新文学のあゆみについて、個性ある作家たちの様々な文学活動とその作品を通して、どのような思想と情念が表現されているかを学び、その希求するものについて考えてみます。またそのような文学作品を生む社会的背景などの外在的要因だけではなく、文学自身の中に潜み、その変貌を促す内在的動力因についても考えてみたいと思います。
ヨーロッパ言語文化論 (15B0506) [グロ文主] [英文主] [中文主] [日文主] [仏文主] 専任教員（未定）	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 言語文化学科 2.0単位	ヨーロッパ文学における「水の精」のテーマについて講義をします。ギリシャ神話のセイレーン、フーケの『ウンディーネ』、アンデルセンの『人魚姫』など「水の精」の文学的系譜をたどりながら、そのイメージの形成と変容を歴史的、社会的、文化的な観点から検討します。また「水の精」をモチーフにしたオペラやバレエなどを紹介して、文学と他の芸術ジャンルの関係性を考えたいと思います。
言語学概論 (15B0507) 野口　徹	Ⅰ ～ Ⅱ 通年 言語文化学科 4.0単位	我々が日常用いている言語は、大変身近な存在であるだけに、あまり意識することがない。本講義では、主に理論言語学の視点から、言語の持つ特徴を捉えるための基礎知識を養う。言語に対する客観的な視点を養うことにより、より専門的な学習への準備を行うことになる。言語について考える楽しさを味わってほしい。
英語圏言語文化入門(1) (15B0870) [グロ文主] [英文主] [中文主] [日文主] [仏文主] 清水　徹郎	Ⅰ ～ Ⅱ 1学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	
英語圏言語文化入門(2) (15B0872) [グロ文主] [英文主] [中文主] [日文主] [仏文主] 清水　徹郎	Ⅰ ～ Ⅱ 2学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	
言語学入門Ⅰ(1) (15B0874) [グロ文主] [英文主] [中文主] [日文主] [仏文主] 野口　徹	Ⅰ ～ Ⅲ 1学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	我々が日常用いている言語は、大変身近な存在であるだけに、あまり意識することがない。本講義では、主に理論言語学の視点から、特に語と文に見られる仕組みに注目しながら、言語の持つ特徴を捉えるための基礎知識を養う。言語に対する客観的な視点を養うことにより、より専門的な学習への準備を行うことになる。言語について考える楽しさを味わってほしい。なお、後期に開講される言語学入門IIを連続して履修することが望ましい。言語学入門IIのみの履修は認められないので注意すること。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
言語学入門Ⅰ(2) (15B0876) [グロ文主] [英文主] [中文主] [日文主] [仏文主] 野口　徹	Ⅰ ～ Ⅲ ２学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	我々が日常用いている言語は、大変身近な存在であるだけに、あまり意識することがない。本講義では、主に理論言語学の視点から、特に語と文に見られる仕組みに注目しながら、言語の持つ特徴を捉えるための基礎知識を養う。言語に対する客観的な視点を養うことにより、より専門的な学習への準備を行うことになる。言語について考える楽しさを味わってほしい。なお、後期に開講される言語学入門IIを連続して履修することが望ましい。言語学入門IIのみの履修は認められないので注意すること。
言語学入門Ⅰ (15B6000) [グロ文主] [英文主] [中文主] [日文主] [仏文主] 野口　徹	Ⅰ ～ Ⅲ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	我々が日常用いている言語は、大変身近な存在であるだけに、あまり意識することがない。本講義では、主に理論言語学の視点から、特に語と文に見られる仕組みに注目しながら、言語の持つ特徴を捉えるための基礎知識を養う。言語に対する客観的な視点を養うことにより、より専門的な学習への準備を行うことになる。言語について考える楽しさを味わってほしい。なお、後期に開講される言語学入門IIを連続して履修することが望ましい。言語学入門IIのみの履修は認められないので注意すること。
言語学入門Ⅱ (15B6001) [グロ文主] [英文主] [中文主] [日文主] [仏文主] 野口　徹	Ⅰ ～ Ⅲ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	我々が日常用いている言語は、大変身近な存在であるだけに、あまり意識することがない。本講義では、主に理論言語学の視点から、特に音声と言語習得の問題を中心に、言語の持つ特徴を捉えるための基礎知識を養う。言語に対する客観的な視点を養うことにより、より専門的な学習への準備を行うことになる。言語について考える楽しさを味わってほしい。
英語圏言語文化入門 (15B6502) [グロ文主] [英文主] [中文主] [日文主] [仏文主] 清水　徹郎	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	英語圏の言語と文化を研究するための入門講義。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
卒業論文 (15B0093) [日文主] 日文全教員	Ⅳ 通不定期 日本語・日本文学コース 8.0単位	
日本古典文学史論（上代） (15B0508) [日文強化] [日文主] [日文副] 荻原　千鶴	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	日本上代文学の発生と展開を概観する。『古事記』『日本書紀』『風土記』『日本霊異記』「祝詞」などの、日本上代文学作品についての知識を会得する。またそれらの原文に触れることによって、その作品世界の特質について理解する。映像資料を用いながら関心と理解を深める。
日本古典文学史論（中古） (15B0509) [日文強化] [日文主] [日文副] 松岡　智之	Ⅰ ～ Ⅲ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	「中古文学」は平安時代の文学をさします。この授業では、受講生のみなさんが、中古文学に関する基礎知識を習得し、文学の展開を頭に描き、それらを説明できるようになることが目標です。
日本古典文学史論（中世） (15B0510) [日文強化] [日文主] [日文副] 渡邉　裕美子	Ⅱ ～ Ⅲ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	王朝文学のどのような遺産を引き受けつつ、後代にどのような影響を与えたのかに注意しながら、さまざまな中世のテクストを「読む」こと、そこから思索することを目指します。「文学史」というと、単純に時代順に並べられた作品名と作者の解説を聴き、それを暗記することを想像するかもしれませんが、内実に触れたことのない作品名を暗記しても意味がありません。この講義では、なるべく多くの中世の文学作品を読解し、ジャンルを超えた同時代作品との関係を考え、また前代と後代との影響関係を探り、中世という時代の特質を理解することを目指します。具体的に到達目標を記すと、以下のようになります。 1）中世に誕生した文学作品を読解して特質を理解し、説明できる。 2）広い視野に立って文学の歴史的な展開を捉えることができる。
日本古典文学史論（近世） (15B0511) [日文強化] [日文主] [日文副] 福田　安典	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	近世文学の特色を理解し、史的展開を踏まえながら学ぶ。特に物語・小説・演劇・思想の展開を把握する。基礎知識を身につけるとともに、各ジャンルの特徴や主要作者、読者層についての理解を深める。
日本近代文学史論（近代） (15B0512) [日文強化] [日文主] [日文副] 谷口　幸代	Ⅲ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	明治期から大正期の小説を中心に文学史上の主要な作家や作品を取り上げ、日本の近代文学の流れを概説する。表現の特徴など文学的な特質や傾向を同時代の社会状況や文化状況と関連付けながら解説する。海外の文学からの影響関係や美術など他の芸術分野との交流についても視野に入れながら講義する。
日本近代文学史論（現代） (15B0513) [日文強化] [日文主] [日文副] 大塚　常樹	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	昭和初期以降平成に至る日本現代文学の歴史について、作家の経歴や代表作品の特徴、主要雑誌を分析しながら通時的に考察する。
日本語音声表現論 (15B0524) [日文強化] [日文主] [日文副] 竹村　明日香	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	ことばは文字だけでなく「音」によっても伝えられる。ではその「音」は、口や喉を使って無限に作り出せるものなのだろうか。また、日常会話でも頻繁に使われる〈アクセント〉〈イントネーション〉〈子音〉〈母音〉といった「音」に関する用語は、具体的にはどのように違うものなのだろうか。 本講義では、このような「音」に関する素朴な疑問を出発点として、現代日本語の用例を多数取り上げながら考察を進めていく。 音声学・音韻論の専門知識をただ身につけるだけでなく、それらが日本語でどのような例に相当するのかを常に考えることで、言語を分析する力を養ってゆく。
日本文学概説 (15B0529) [グロ文主] [英文主] [中文主] [日文主] [日文副] [仏文主] 松岡　智之	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	日本文学にはどのような作品があり、どのような特色があるのか。時代とジャンルとを目安に、その全体像を大まかに把握し、説明できるようになることが目標です。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本古典文学論特殊研究（上代） (15B0540) [日文強化] [日文主] [日文副] 荻原　千鶴	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	「日本古典文学史論（上代）」の続きとして、『万葉集』を文学史の流れの中で考える。『万葉集』の各期の歌を、時代の流れに沿って講読・鑑賞し、その問題点を考察することにより、上代文学作品理解への導入とする。映像資料を用いつつ、理解を深める。
日本古典文学論特殊研究（中古） (15B0541) [日文強化] [日文主] [日文副] 今井　久代	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	『源氏物語』と宮廷の文化 『源氏物語』をとりあげ、光源氏の物語世界が宮廷の文化をどのようにとりこみながら構築されていくのかを 考えます。『源氏物語』について学ぶことを通して、読み継がれてきた古典文学の魅力を考えることをめざします。
日本古典文学論特殊研究（中世） (15B0542) [日文強化] [日文主] [日文副] 浅田　徹	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	中世文学の諸ジャンルから、特色ある作品を取り上げて講義することで、中世文学の多様さを理解してもらう。
日本古典文学論特殊研究（近世） (15B0543) [日文強化] [日文主] [日文副] 福田　安典	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	近世中期の文芸や思潮について、平賀源内や上田秋成を中心に講義する。目標は、上方と江戸との文化錯綜と交流の実態を把握すること、演劇、俳諧、小説、出版の諸ジャンルにおける基本知識と研究方法を身に着けることが大きなものである。あわせて、これらの作品を通じて得られた作品論を展開したい。
日本近代文学論特殊研究（近代） (15B0563) [日文強化] [日文主] [日文副] 谷口　幸代	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	この講義では、作家の原稿料をテーマとする。この場合の原稿料は、狭義の原稿料はもちろんのこと、印税、上演料、賞金、版権、著作権まで広く含めている。作家の経済的基盤はどのように確立したか、作品の経済的価値はどのように評価されたのか、といった諸問題を考える。日本近代文学史を作家の経済活動という観点からとらえ直すことを目標とする。
日本近代文学論特殊研究（現代） (15B0564) [日文強化] [日文主] [日文副] 大塚　常樹	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	宮沢賢治の世界認識を深く分析する。宗教と科学の基本的な知識を学びつつ、健治テクストの類まれなる戦略性を抽出する。花や木、鳥や風、動物、天空、色彩、鉱物、過去と未来、多義性多様性、弱者、価値転換、解釈コード、力の構造、オノマトペ、修辞法など、多岐にわたる方面から、隠された賢治のメッセージに迫る。
書道Ⅰ (15B0573) [日文強化] 山本　まり子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	書は長年にわたって築き上げられてきた文化そのものである。そこには実用性も然ることながら、豊かに繰り広げられた芸術性を見ることができる。通時的に見ると、一字一字の字形には（一点一画の形にも）普遍的な要素が存する。本授業では、実技を通して、それら種々相のうち規範的とされるもののいくつかについて体系的に学び、かつ、歴史的・文化的事項について理解を深めたい。「授業計画」の通り、前期は漢字を主とする。
書道Ⅱ (15B0574) [日文強化] 森　暁子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	書道の諸分野の中で、特に仮名文字に習熟し、各種字体を理解する。活字化されていない資料についても自力で読み解く力を得ることで、学問の幅を広げられるようにする。
日本語学研究指導 (15B0575) [日文主] 竹村　明日香	Ⅳ 前不定期 日本語・日本文学コース 2.0単位	日本語学の研究と論文作成。
日本文学研究指導 (15B0576) [日文主] 荻原　千鶴\015\012松岡　智之\015\012谷口　幸代\015\012大塚　常樹	Ⅳ 前不定期 日本語・日本文学コース 2.0単位	大きな論文をまとめるための基礎的知識等を身につけ、必要な作業を実習する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
書道Ⅰ (15B0701) [日文強化] 山本　まり子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	書は長年にわたって築き上げられてきた文化そのものである。そこには実用性も然ることながら、豊かに繰り広げられた芸術性を見ることができる。本授業では、実技を通して、規範的とされるもののいくつかについて体系的に学び、かつ、歴史的・文化的事項について理解を深めたい。「授業計画」の通り、後期は仮名を主とする。
日本古典文学論基礎演習Ⅰ (15B0725) [日文主] 荻原　千鶴	Ⅱ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	日本文学を研究するための、基礎的方法を身につける。研究にあたって必要な、基本的辞書・索引・叢書・参考書類の操作に習熟し、日本文学研究のあり方について学ぶ。以下について身に付けることを目指す。 1）基礎的リファレンスについての知識 2）基礎的リファレンスの操作法 3）古辞書についての知識 4）古写本・版本・底本・校訂・校合などの概念の理解 5）問題点の見出し方についての理解 6）問題点解決法の模索の仕方についての理解 7）基礎的レジュメ作成方法の理解 8）効果的な発表の能力 9）基礎的レポートの書き方
日本古典文学論基礎演習Ⅱ (15B0726) [日文強化] 浅田　徹	Ⅱ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	日本古典文学を研究するための、基礎的方法を身につける。変体仮名の読解を基盤として、諸伝本を校合すること、先行作品からの引用部分について出典を明らかにすること、歴史上の人物について経歴等を考証すること、先行論文などの探し方等、種々の課題を毎回こなしていく形を取る。 非常に労働量の多い科目なので、心して履修されたい。
日本近代文学論特殊講義Ⅰ (15B0745) [日文強化] [日文主] [日文副] 大塚　常樹	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	文学理論に基づく具体的なテクスト分析を行う。文学テクストは作者、テクスト、語り、媒体、読者を前提に、さまざまな約束事で成り立つコミュニケーションである。コミュニケーションである以上、其処には前提や約束事、目的や反応、各種戦略がある。本授業では、修辞論、ナラティヴ(語り)、言語戦略論、対読者戦略論などを、ジャンルと形式、メディア特性、題名、名前、設定、語り手、情報操作、時間と再現、想定読者、話法、文化コード、コンテクスト、暗号、布石、叙法など、多岐にわたって、具体的な作品や話題を対象に分析する。作品として、梶井基次郎「檸檬」大江健三郎の「頭のいい雨の木」川端康成「雪国」芥川龍之介「歯車」を予定している。
日本近代文学論特殊講義Ⅱ (15B0746) [日文強化] [日文主] [日文副] 松下　浩幸	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	夏目漱石と日本の近代―恋愛、家族、他者― 夏目漱石の作品に描かれた近代日本の問題点とは、西洋化を突き進む明治時代の日本人が直面したアイデンティティー（存在証明）における揺らぎの問題だと言える。この授業ではジェンダー表象（男らしさ／女らしさ）の視点を中心に、作品世界を形作っている文化的あるいは歴史的背景を掘り起こしながら、漱石が描く近代日本の姿を多面的に考察したい。〈女性〉と〈男性〉という二つの性が織りなす世界の仕組みとその表象（イメージ）の関係を、恋愛・家族・他者という３つのキーワードを通して分析する。また、原作と映画との比較研究も行う予定である。
日本古典文学論演習（上代）Ⅰ (15B0849) [日文強化] [日文主] 荻原　千鶴	Ⅲ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	『万葉集』を扱い、上代文学研究の方法を修得する。 以下について身に付けることを目指す。 1）『万葉集』研究リファレンスについての知識 2）『万葉集』研究リファレンスの操作法 3）『万葉集』訓読・研究史についての知識・理解 4）『万葉集』諸本についての知識・理解 5）『万葉集』成立論についての知識・理解 6）『万葉集』の表記史についての知識・理解 7）問題点についての調査研究能力 8）研究史整理方法 9）効果的な発表能力 10）明快なレジュメの作成方法 11）他者の発表への質問の仕方 12）レポートを構成し作成する能力
日本古典文学論演習（上代）Ⅱ (15B0850) [日文強化] [日文主] 荻原　千鶴	Ⅲ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	『古事記』『日本書紀』「風土記」を扱い、上代文学研究の方法を修得する。 以下について身に付けることを目指す。 1）『古事記』『日本書紀』「風土記」研究リファレンスについての知識 2）『古事記』『日本書紀』「風土記」研究リファレンスの操作法 3）『古事記』『日本書紀』「風土記」研究史についての知識・理解 4）『古事記』『日本書紀』「風土記」諸本についての知識・理解 5）『古事記』『日本書紀』「風土記」訓読についての知識・理解 6）『古事記』『日本書紀』「風土記」成立論についての知識・理解 7）問題点についての調査研究能力 8）研究史整理方法 9）効果的な発表能力 10）明快なレジュメの作成方法 11）他者の発表への質問の仕方 12）レポートを構成し作成する能力

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本古典文学論演習（中古）Ⅰ （15B0851） [日文強化] [日文主] 松岡　智之	Ⅲ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	受講者の分担発表と質疑応答とによる演習形式で、平安時代の物語文学『源氏物語』を読み解きます。桐壺巻（きりつぼのまき）を取り上げる予定です。受講者のみなさんが、辞書・事典類、索引、諸註釈書や関連する各種資料を用いつつ、『源氏物語』の文章中の語句を理解し、説明できるようになること、妥当で読みやすい現代語訳を作れるようになることが、第一の目標です。そして、この演習を通して、平安時代の古典文学を研究する基礎力の涵養をめざします。
日本古典文学論演習（中古）Ⅱ （15B0852） [日文強化] [日文主] 松岡　智之	Ⅲ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	受講者の分担発表と質疑応答とによる演習形式で、平安時代の物語文学『源氏物語』を読み解きます。「日本古典文学論演習（中古）Ⅰ」に引き続き、桐壺巻（きりつぼのまき）を取り上げる予定です。辞書・事典類、索引、諸註釈書や関連する各種資料を用いつつ、『源氏物語』の文章中の語句を理解し説明する力、妥当で読みやすい現代語訳を作れる力に磨きをかけましょう。この演習を通して、受講者のみなさんが、平安時代の古典文学を研究する基礎力を獲得することが目標です。
日本古典文学論演習（中世）Ⅰ （15B0853） [日文強化] [日文主] 田渕　句美子	Ⅲ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	室町時代を代表する歌人の一人、三条西実隆の和歌を読む。室町時代的な和歌表現の質について実地に分析し、理解できるようにする。
日本古典文学論演習（中世）Ⅱ （15B0854） [日文強化] [日文主] 浅田　徹	Ⅲ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	【『千載和歌集』雑部を読む】 　第七代勅撰集である『千載集』の巻十六～十八は雑部で、平安時代中期から末期に掛けての、貴族生活の様々な場面に密着した和歌が収録されている。その中から興味深い内容の歌を抄出して輪読する。 　演習を通して、生活の中に生きている和歌のあり方について、具体的に学ぶことを目標とする。輪読の過程で、同じ歌を収録する他の文献（私家集・私撰集・歴史物語等）との比較も行う。
日本古典文学論演習（近世）Ⅰ （15B0855） [日文強化] [日文主] 佐藤　至子	Ⅲ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	近世前期の奇談・怪異小説類を対象として、諸種の参考文献を精査して、作品に注解を加え、本文の理解を深めると同時に、テーマ及び方法を考察する。対象作品は元禄１７年刊『たますだれ』。
日本古典文学論演習（近世）Ⅱ （15B0856） [日文強化] [日文主] 佐藤　至子	Ⅲ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	：近世前期の仮名草子『薄雪物語』対象として諸種の参考文献を精査して、作品に注解を加え、本文の理解を深めると同時に、テーマ及び方法を考察する。恋文によって成り立っている小説で、薄雪と園部衛門との往復書簡に記載されている説話の流布等をも考える。
日本近代文学論演習（近代）Ⅰ （15B0857） [日文強化] [日文主] 谷口　幸代	Ⅲ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	日本近代文学を研究するための基礎情報の収集、作品構造の基本的な分析方法の学習を軸に、近代小説とその研究上の諸問題を具体的な作品の研究報告と討議によって学習する。本年度は大正期の文学、特に新思潮派（第四次）を取り上げる。
日本近代文学論演習（近代）Ⅱ （15B0858） [日文強化] [日文主] 谷口　幸代	Ⅲ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	日本近代文学について、作品分析の方法に関する理解を実践的に深める。学生の報告と討議を主とし、考察を文章にまとめる方法も学ぶ。分析対象は泉鏡花の小説を予定している。
日本近代文学論演習（現代）Ⅰ （15B0859） [日文強化] [日文主] 大塚　常樹	Ⅲ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	日本の20世紀文学について、文学理論に基づいた分析を行う。 文学の理論の習得も兼ねる。
日本近代文学論演習（現代）Ⅱ （15B0860） [日文強化] [日文主] 大塚　常樹	Ⅲ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	前期のⅠに引き続いて、卒論に向けて、細部の問題点の掘り下げや、広い視野に立った論点の追究を行う。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本文学論講読Ⅳ (15B6100) [日文強化] [日文主] [日文副] 谷口　幸代	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	室町物語（御伽草子）は14世紀から17世紀にかけて成立した短編の物語であり、美しい絵巻も多く残っている。本講では、その中から白鼠が主人公のめでたい物語を取り上げる。詞書のみならず、挿絵を読み解く面白さも味わいつつ、当時の学芸や女性の教養について考えたい。
日本語学通論 (15B6101) [グロ文主] [英文主] [中文主] [日文主] [日文副] [仏文主] 竹村　明日香	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	日本語についての基礎的な知識を学ぶことを目標とする。 特に、音声・音韻、語彙、文法、文字・表記、方言に関する日本語学の諸分野について学ぶ。 現代共通日本語（いわゆる東京方言）だけでなく、古代～近代にかけての日本語の史的変遷、現代諸方言などについても学習し、日本語を多角的に考察する力を身につける。
日本語学演習Ⅰ (15B6102) [日文強化] [日文主] 竹村　明日香	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	大蔵流虎明本狂言集を、日本語学的観点から考察する。 本書は中世末期の口語をよく伝える資料として、語彙・文法・音韻の面からこれまで多くの研究が行われてきた。授業ではそれらの先行研究を参照しながらも、各々が新たに調査をし、従来になかった解釈を提示することを目指す。 古辞書などの文献を用いつつ、日本語の史的変遷について調査・議論することが最終的な目標である。
日本語学演習Ⅱ (15B6103) [日文強化] [日文主] 竹村　明日香	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	前期に引き続き、大蔵流虎明本狂言集を日本語学的観点から考察する。 後期では、前期の調査結果を『虎清本狂言集』や『虎寛本狂言集』と対照させ、中世～近世にかけての狂言本のことばの変遷について考察する。 また、『天草版平家物語』などの口語キリシタン資料とも対照させ、狂言本の資料的性質についても追究することを目指す。
日本語学基礎演習 (15B6104) [日文強化] 竹村　明日香	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	文献資料を用いた日本語研究（主に歴史的研究）の方法と考え方について学ぶ。 基本的な日本語資料を知り、用例採集の方法、データの整理と分析方法、発表レジュメの作り方、効果的なプレゼンテーションの仕方などを身につける。
日本語語彙論 (15B6105) [日文強化] [日文主] [日文副] 中里　理子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	古代から現代までの様々な語彙を取り上げ、語構成の仕組み、語形成の際の音韻的特徴、語彙分類、意味との関係、位相との関わりといった観点から考察を加える。 現代標準日本語（東京方言）だけでなく、古代日本語や方言の語彙についても積極的に取り上げ、私たちが日常使うことばが、どのような歴史的・地理的変化を経て形成されてきたのかを理解する。 また古辞書・節用集についても触れ、語誌をたどる際のツールとして使いこなせるようになることを目指す。
日本語文法総論 (15B6106) [日文強化] [日文主] [日文副] 中里　理子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	日本語の文法現象を「形態論」と「統語論」の双方から検討していく。 形態論では、動詞の活用や音便、品詞分類といった〈形態素〉〈語〉レベルの文法事象を扱い、統語論では、述語の階層構造や疑問表現、待遇表現といったより大きな〈節〉〈文〉レベルの事象について取り上げる。また国文法の学史についても触れ、我々が今まで学んできた国文法がいかに成立・享受されてきたのかを知る。 目標：①学校文法（橋本文法）以外の方法で、日本語文法を分析する手法を身につける。 ②記述文法の立場から分析した日本語文法の知識を身につける。
日本語史特殊研究 (15B6107) [日文強化] [日文主] [日文副] 竹村　明日香	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	キリシタン資料のローマ字本および国字本を、主に語学的観点から考察する。 ローマ字本研究の嚆矢『文禄元年天草版吉利支丹教義の研究』（橋本進吉著、1928年）が刊行されてから既に80年以上が経ち、キリシタン資料研究は完成の域に達した観があるが、それでも子細にみると未だ多くの問題点が残されている。また近年の研究では、個々の文献に特化した研究が主流となっており、ローマ字本・国字本の特徴を大きなスケールで描き出そうとするものは少ない。 よって授業では、ローマ字本・国字本を順次読解していき、それぞれの資料がどのような特色・問題点を持っているかを再検討する。主に、音韻・表記・語彙の観点から考察を加える。
日本語学特殊講義Ⅰ (15B6108) [日文強化] [日文主] [日文副] 山崎　誠	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	主題：統計的手法を用いて日本語を分析する計量日本語学を学ぶ。 目標：コンピュータを使って日本語のデータを分析するための基礎知識、技術を習得し、コーパス等を利用した日本語の分析が出来るようにする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本文学論講読Ⅱ (15B6111) [日文強化] [日文主] [日文副] 松岡　智之	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	短編物語集『堤中納言物語』から「虫めづる姫君」「逢坂越えぬ権中納言」「はなだの女御」を読み解きます。授業者が、表現の特徴や歴史・思想・文化等の背景に注意しながら、一文一文解釈し解説します。これを受けとめながら、受講者のみなさんが、現代の注釈・現代語訳付きテキストを用いて、『堤中納言物語』の文章を理解し、自分なりの感想や疑問点を持ち、それらについて考え、解決する力を獲得することが、この授業の第一の目標です。さらに、一段階抽象化して物語とは何か文学とは何かについて考え、まとめる力の涵養をめざします。
日本古典文学論特殊講義Ⅰ (15B6113) [日文強化] [日文主] [日文副] 荻原　千鶴	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 日本語・日本文学コース 2.0単位	日本上代文学における散文作品について考察する。『風土記』を中心に据えた視座から『日本書紀』『古事記』を眺め渡し、これらの作品研究におけるさまざまな問題を浮き彫りにする。以下について身につけることを目指す。 １）上代文学散文作品の研究史に関する知識・理解 ２）上代文学散文作品、ことに風土記の成立についての知識・理解 ３）上代文学作品への中国文学の影響に関する知識・理解 ４）さまざまな研究手法の可能性についての理解
日本古典文学論特殊講義Ⅱ (15B6114) [日文強化] [日文主] [日文副] 鉄野　昌弘	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	奈良時代前半、それまでとは全く異なるタイプの歌を作る人たちが現れました。大伴旅人・山上憶良といった身分ある官人たちが、自分の立場に即しながら、自分の感情を表現するようになったのであす。九州大宰府において、彼らは互いに刺激しあいながら、また中国文学を踏まえながら、自分たちの志や悲しみを述べてゆきます。『万葉集』巻五の前半部は、彼らの文学的な試みを活写しています。この授業では、漢詩文を交えながらつづられてゆくその歌集を、歌集として読んでゆきます。
日本語学特殊研究 (15B6116) [日文強化] [日文主] [日文副] 安部　清哉	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	本授業の主題：（現代）日本語の語彙はどのようになっているか、図表や実例、調査結果などをもとに具体的に観察し、分析する。 本授業の目標：（現代）日本語の語彙の構造、体系を把握するための考え方や方法を身につける。語彙論のための基礎的な統計的分析手法を身につける。
日本古典文学論基礎演習Ⅰ (15B6117) [日文主] 松岡　智之	Ⅱ 前期 日本語・日本文学コース 2.0単位	日本文学を専門的に学ぶために必要な、基本的な文献の取り扱い、調査の方法、古典作品の本文についての知識などを、実習によって身につける。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
卒業論文 (15B0094) [中文主] 中文全教員	Ⅳ 通不定期 中国語圏言語文化コース 8.0単位	卒業論文の指導を行う。
中国現代文学史 (15B0577) [グロ文主] [英文主] [中文主] [日文主] [仏文主] 佐藤　普美子	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	この講義では、二〇世紀中国の五四運動を起点とする新文学のあゆみについて、個性ある作家たちの様々な文学活動とその作品を通して、どのような思想と情念が表現されているかを学び、その希求するものについて考えてみます。またそのような文学作品を生む社会的背景などの外在的要因だけではなく、文学自身の中に潜み、その変貌を促す内在的動力因についても考えてみたいと思います。
中国文学古典講読 (15B0578) [中文強化] [中文主] [中文副] 和田　英信	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	・『唐詩三百首』所収七言絶句を読む。 ・古典詩の講読を通じて、詩の読解力を養成し、あわせて中国古典詩を読む際の基本的知識を学ぶ。
中国語学概論 (15B0579) [中文主] [中文副] 伊藤　さとみ	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	授業のテーマ：中国語の基本的な文法用語、文の構造を学びます。／基本的な目標：中国語文法で使われる用語とその日本語訳を学びます。中国語の構造について知識理解を深めることを目標とします。／到達目標：中国語の文の構造について、文法用語を用いて説明できるようになることを到達目標とします。／成績評価の基準：中国語文法の基礎的知識を習得しているかを成績評価の基準とします。
中国語コミュニケーション・スキル (15B0580) [中文主] [中文副] 曹　泰和	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	中国語運用能力を高めることを目指す授業です。
中国語ヒアリング演習 (15B0581) [中文強化] 安本　真弓	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	ﾘｽﾆﾝｸﾞを強化し会話力を高める。
中国語作文基礎演習 (15B0582) [中文主] [中文副] 曹　泰和	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	中国語で作文をする力の向上を目標とする。
中国事情 (15B0583) [中文強化] 宮尾　正樹	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	現在の中国の事情を理解する。併せて、情報収集、討論、発表等のスキルを向上させることも目標とする。
中国古典文献講読入門 (15B0584) [中文強化] [中文主] [中文副] 伊藤　美重子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	中国古典文献『千字文』を講読しながら、読解に必要な基礎知識の習得を目指す。
中国古典文献講読基礎 (15B0585) [中文強化] [中文主] [中文副] 伊藤　美重子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	中国古典文献の理解のための基礎知識を学ぶ

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
中国語講読 (15B0586) [中文主] [中文副] 伊藤　さとみ	II ～ IV 後期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	『紅楼夢』の原文講読を通じて中国語の読解力を養う。またビデオ教材を用いて作品世界への理解を深める。
中国現代作家論 (15B0592) [中文強化] [中文主] [中文副] 宮尾　正樹	II ～ IV 前期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	作品講読を通じて、中国現代文学のあり方を考える
中国現代作品論 (15B0594) [中文強化] 宮尾　正樹	III ～ IV 後期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	中国現代文学の代表的作品の講読を通じて、中国における文学のあり方について考える。
中国語学文献講読 (15B0596) [中文強化] 伊藤　美重子	III ～ IV 前期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	漢字や漢字字書に関する基礎知識および文献調査の方法を学ぶ
日中対照言語学 (15B0597) [中文強化] [中文主] [中文副] 伊藤　さとみ	II ～ IV 後期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	この授業では、現代中国語の文法を、生成文法の立場から分析する方法を紹介する。今年度は、Huang, Li and Li の "The Syntax of Chinese" の8章～9章から名詞句と照応の問題について取り上げる。
中国語文法論 (15B0599) [中文強化] 伊藤　さとみ	III ～ IV 前期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	この授業では、現代中国語を意味論の観点から分析する方法を学ぶ。具体的なテーマとしては、単語をラムダ式に翻訳する方法、計算の仕方および名詞の外延・内包の問題、動詞の時制・アスペクトの分析、モダリティの定義などを取り上げる。
中国古典詩講義演習 (15B0604) [中文強化] 和田　英信	III ～ IV 前期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	・『唐詩三百首』所収七言絶句を読む。 ・古典詩の講読を通じて、詩の読解力を養成し、あわせて中国古典詩を読む際の基本的知識を学ぶ。
中国語作文応用演習 (15B0615) [中文主] [中文副] 曹　泰和	II ～ IV 後期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	中国語で作文をする力の向上を目標とする。
中国語会話演習 (15B0618) [中文強化] 曹　泰和	II ～ IV 前期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	中国語の上級レベルの会話を習得することを目標とする。
中国語ヒアリング基礎 (15B0619) [中文主] [中文副] 安本　真弓	I ～ II 後期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	中国語の「話す」「読む」の基礎学習が進んだところで、「聴く」力を磨きます。 「聴く」力をつけることで、「話す」「読む」「書く」力の上達につながります。 簡単な会話のやり取りを聞くところから始め、少し長い会話や短文の内容を理解 できるまで目指しましょう。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
中国現代語学特別演習 (15B0752) [中文主] 伊藤　さとみ	Ⅳ 後期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	この授業は、現代中国語の文法について卒業論文を作成する人のための授業です。中国語圏言語文化コース、中国語学で卒論を書く人は履修してください。授業の目標は、現代中国語の文法について理解を深め、論文を作成する技術を習得することにあります。
中国古典文学特別演習 (15B0753) [中文主] 和田　英信	Ⅳ 通年 中国語圏言語文化コース 2.0単位	卒業論文を作成するための技術を身につけます。
中国古典文学史（先秦～唐） (15B6301) [中文主] [中文副] 伊藤　美重子	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	先秦から唐に至るまでの中国文学の流れを概述しながら、各時代の代表的な作品をいくつか取り上げて鑑賞し、中国古典文学に関する理解を深める。
中国古典文献特別演習 (15B6302) [中文主] 伊藤　美重子	Ⅳ 通年 中国語圏言語文化コース 2.0単位	古典文学・文化をテーマに卒業論文を計画している学生に必要な知識を学ぶ。
中国現代文化特別演習 (15B6303) [中文主] 宮尾　正樹	Ⅳ 通年 中国語圏言語文化コース 2.0単位	近現代文学で卒論を書くために
中国言語文化論演習 (15B6304) [中文強化] 伊藤　さとみ	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 中国語圏言語文化コース 2.0単位	さまざまな視点から中国言語文化に関する研究方法を学ぶ

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
卒業論文 (15B0095) [英文主] [仏文主] 英文全教員\015\012野口　徹	Ⅳ 通不定期 英語圏言語文化コース 8.0単位	
英語学概論 (15B0621) [英文主] [英文副] 中西　公子	Ⅱ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	言語の規則性・普遍性を意味の面から考察し、意味論の基礎知識を身に付けることを目標とする。「語の意味から文の意味がどのように導き出されるのか」という問題に焦点を置き、主に英語の例を用いて、語の意味・文の意味・その両者の関係について学ぶ。
英語音声学演習 (15B0623) [英文強化] [英文主] [英文副] ALLEN David	Ⅱ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	This is a practical pronunciation class in which students will work on improving both production and comprehension of the sounds of English. The goal of the class is for students to understand the principles of English pronunciation, and thus improve both their spoken output and listening comprehension.
英文法 (15B0624) 中西　公子	Ⅰ 通年 英語圏言語文化コース 4.0単位	英文法の考察を通して言語の規則性・普遍性について学び、言語を体系的に捉える訓練を行う。あわせて英語特有の性質についても理解を深め、英語力の向上を目指す。
英文法演習 (15B0625) [英文強化] [英文主] [英文副] 野口　徹	Ⅱ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	英文法の知識を最近の生成文法理論の観点から捉える訓練を行う。主に統語論の問題に焦点を当てて、英語の基本的な文構造に関する理解を深める。数多くの言語資料に接することにより、様々な構文の背後にある規則性を発見する手順を身につけることが主な目標となる。３年次に開講される「特別演習（言語研究方法論）I」における学習の準備段階の授業と位置づけられる。
英作文演習（初級） (15B0627) [英文主] [英文副] ALLEN David	Ⅱ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	In this class students will develop their reading, writing, and study skills through reading about various topics, though the final goal for each topic is the production of a piece of writing, such as formal e-mails and discursive essays. Vocabulary development will also be emphasized.
英作文演習（中級） (15B0628) [英文強化] [英文主] [英文副] ダイアン・ナガトモ	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	This class helps bridge the gap between general English and academic English.
英作文演習（中級） (15B0629) [英文強化] [英文主] [英文副] KIERNAN　PATRICK　JAMES	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 他学科・他コース 2.0単位	This course will give students a good foundation in writing in English. The aim of the course will be to learn to write good, or as the textbook title suggests "great" essays in English. This will include introducing and practicing sentence and paragraph organization and style. Students will also be introduced to ideas of genre and register in writing which will necessitate doing other kinds of writing tasks besides writing essays. Most writing will be done on the computer in order to become familiar with formatting conventions in English, though some brainstorming activities will be done using a pencil and paper or even orally. The course will also introduce the concept of plagiarism, a kind of copying that is considered cheating, and learn how to avoid it.
英会話演習（初級） (15B0630) [英文主] [英文副] ダイアン・ナガトモ	Ⅱ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	The purpose of this class is to help students develop the skills to converse about many of today's social issues, wuch as employment, gender, and global warming. Students learn to express their own opinions through pair and group discussion, presentations, role plays, and reading and listening exercises.

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
英会話演習（中級） (15B0631) [英文強化] [英文主] [英文副] ALLEN David	II 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	The purpose of the class is for students to continue developing speaking fluency, listening ability, and vocabulary expansion, through topic-based activities involving reading preparation, group presentations, and class discussions.
英会話演習（上級） (15B0632) [英文強化] ダイアン・ナガトモ	II ～ IV 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	This course is intended to improve students' speaking and listening skills. The focus will be on using English as a means of communication. Students will be encouraged to speak about their own ideas and experiences rather than to simply learn vocabulary and grammar. For the first half of the class students will learn how to express themselves in English on topics related to everyday life. For the second half of the class the professor and students will jointly design a number of projects, such as discussions, debates, presentations, watching videos, etc., with class materials being chosen jointly by the professor and students.
英米文学演習（入門） (15B0635) 高桑　晴子	II 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	James Joyceの短編集Dublinersを精読する。語りの構造、語り手の問題など小説の仕組みを理解すること、20世紀初頭のアイルランド、ダブリンという歴史的社会的背景について考えること、一編ずつの解釈とともに短編集全体としてのまとまりについても考えることをを目標とする。
英米文学演習（初級） (15B0636) [英文主] [英文副] 高桑　晴子	II 前期 言語文化学科　a 2.0単位	James Joyceの短編集Dublinersを精読する。語りの構造、語り手の問題など小説の仕組みを理解すること、20世紀初頭のアイルランド、ダブリンという歴史的社会的背景について考えること、一編ずつの解釈とともに短編集全体としてのまとまりについても考えることをを目標とする。
英米文学演習(中級） (15B0637) [英文強化] 松崎　毅	II 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	Andrew Marvellの抒情詩をテクストに、詩をそのリズム、イメージ、論理、含意等のさまざまなレベルで味わい理解することのできる読解力を養う。英詩において伝統的なテーマやモチーフについて理解を深めるだけでなく、それらを異なるジャンルのなかで奪用することから生じるオリジナリティーや政治性について考察する。
英会話演習（初級） (15B0638) [英文主] [英文副] 専任教員（未定）	II 前期 他学科・他コース 2.0単位	This course focuses on building conversational skills through discussions of issues in the world today. Discussion topics include: individual and society, eating and drinking, art, music, hopes and fears, and work and leisure. At the end of the course you should be able to express yourself with confidence in a group discussion. Students are also expected to reflect critically on the issues and learn the vocabulary associated with each topic.
英会話演習（中級） (15B0639) [英文強化] [英文主] [英文副] 専任教員（未定）	II 後期 他学科・他コース 2.0単位	This course builds on the discussion skills developed in English Conversation 1 and uses similar materials. However, the aim of this course is to develop presentation skills. Students will be encouraged to research the topics for themselves and give group and individual presentations during class. At the end of the course, students should be confident in researching and preparing a short presentation in English and giving such presentations in front of a small group.
特別演習（英米文学研究方法論）I (15B0640) [英文主] 清水　徹郎	III 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	
特別演習（英米文学研究方法論）II (15B0641) [英文主] 松崎　毅	III ～ IV 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	特別演習（英米文学研究方法論）Ｉに引き続き、卒業論文の作成を視野に文学理論と批評理論を学ぶ。本授業では、マルクス主義批評、新歴史主義批評、ポストコロニアル批評、物語論を主に扱う。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
特別演習（作品分析）Ⅰ (15B0642) 松崎　毅\015\012戸谷　陽子\015\012清水　徹郎\015\012高桑　晴子	Ⅳ 前不定期 英語圏言語文化コース 2.0単位	文学・文化表象を対象に卒業論文を執筆するための特別演習。対象作家・作品の選択、テーマの設定、分析方法の検討、論文作成の作法、資料の収集等、執筆に至るまでの実践的な文学・文化研究方法を各担当教員が指導する。
特別演習（作品分析）Ⅱ (15B0643) 松崎　毅\015\012戸谷　陽子\015\012清水　徹郎	Ⅳ 後不定期 英語圏言語文化コース 2.0単位	各自が選んだ文学テクストについて、どのような先行研究をふまえどのような批評的アプローチをもって分析するか、また、作品に関する独自の所見をどのように論考として構成していくかについて指導を行う。
特別演習（言語研究方法論）Ⅰ (15B0644) [英文主] 野口　徹	Ⅲ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	「英文法演習」に引き続き、英文法の知識を比較的最近の生成文法理論の観点から捉える訓練を行う。主に統語論の諸問題に焦点を当てて、英語の統語規則について理解を深める。数多くの言語資料に接することにより、様々な構文の背後にある規則性を発見する手順を身につけることが主な目標となる。３年次後期に開講される「特別演習（言語研究方法論）II」、「英語学特殊講義II」、「英語学特殊講義IV」における学習の準備段階の授業と位置づけられる。
特別演習（言語研究方法論）Ⅱ (15B0645) [英文主] 中西　公子	Ⅱ ～ Ⅲ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	意味論の基礎知識に基づき、数多くの言語資料を用いて、言語の意味における普遍的特徴を探る訓練を行う。 この演習を通して興味を持てる研究課題を探し、独自の着眼点を見つけることを目標とする。
特別演習（言語資料分析）Ⅰ (15B0646) 中西　公子	Ⅳ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	英語学の基礎知識に基づき、様々な言語資料を用いて言語の普遍的特徴を探る。論文を客観的かつ建設的に批判し、読解した内容を基に適切な分析を論理的に導き出す思考力を高める。以上を通じ、英語学における発想と議論の仕方を学ぶ。
特別演習（言語資料分析）Ⅱ (15B0647) 野口　徹\015\012ダイアン・ナガトモ\015\012中西　公子\015\012山腰　京子	Ⅳ 後不定期 英語圏言語文化コース 2.0単位	各自の興味に基づいて収集された言語資料に関し、その資料に見られる言語学的な特徴をどのように整理し、分析するかについて、多様なアプローチで考察できるようにする。
英文学史Ⅰ (15B0649) [英文強化] [英文主] [英文副] 松崎　毅	Ⅱ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	古英語の時代からロマン主義までの英文学史を概説する。各回のテーマのついて教科書の該当部分を予習してきてもらい、重要な概念や用語を解説する。また、必要に応じて各時代の原文テキスト抜粋を読む。英語と英文学を各時代の言語的・文化的背景と照らし合わせながら、歴史的に概観することで、英語およびその文化を深く知るようになることが目標である。
英文学史Ⅱ (15B0650) [英文強化] [英文主] [英文副] 高桑　晴子	Ⅱ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	近代小説の誕生から現代英語圏文化までの流れを、小説、詩、演劇の各ジャンルの代表的作品に英語原文で触れながら概観する。各時代の代表的文学作品の特徴とその社会的・文化的背景とを比較しながら歴史的に概観することで、英語およびその文化を深く知るようになることが目標である。本格的な英語の文学作品を原文で読めるようになるための入門講座的意味もあるので、実際に課題図書を読み、理解することも求める。
英米事情 (15B0663) [グロ文学際] [グロ文主] [英文主] [英文副] ダイアン・ナガトモ	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	The aim of this class is familiarize students with the cultural similarities and differences between the U.S.A., the U.K. and other English speaking countries. Students will be required to do presentations in English on the materials they have researched.

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
第二言語教授法研究 (15B0665) [英文主] [英文副] ALLEN David	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	In this class we will study the principles and practices of English teaching methodology. Students study such issues as classroom management, syllabus design, and language teaching pedagogy. We will learn about various aspects of teaching through the readings, followed by tasks, problems, or exercises designed to reinforce the learning points. For example, we will learn about teaching the four language skills (speaking, listening, reading, and writing), vocabulary and grammar teaching, course design, etc. After learning or reading about the topic under consideration, students will be asked to form groups and discuss the issues and answer questions. We will then go over these activities as a class
英語圏テキスト講読 (15B0666) [英文主] 高桑　晴子	Ⅱ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	英語圏の言語文化を専門的に研究するための発展的英語力の習得を目指す。最近の英語の授業では敬遠されがちな文学作品を吟味して読むことで、より丁寧な英文解釈、読解の力を身につける。「講読」とあるが、適宜朗読や作文の要素も含めて総合的な演習を行う。
英会話演習（初級） (15B0691) [英文主] [英文副] 専任教員（未定）	Ⅱ 前期 他学科・他コース 2.0単位	
英会話演習（中級） (15B0692) [英文強化] [英文主] [英文副] 専任教員（未定）	Ⅱ 後期 他学科・他コース 2.0単位	
英会話演習（初級） (15B0693) [英文主] [英文副] ROMANKO　RICK　SAM	Ⅱ 前期 他学科・他コース 2.0単位	
英会話演習（中級） (15B0694) [英文強化] [英文主] [英文副] ROMANKO　RICK　SAM	Ⅱ 後期 他学科・他コース 2.0単位	
英会話演習（初級） (15B0695) [英文主] [英文副] JONATHAN　ISRAEL　BERMAN	Ⅱ 前期 他学科・他コース 2.0単位	
英会話演習（中級） (15B0696) [英文強化] [英文主] [英文副] JONATHAN　ISRAEL　BERMAN	Ⅱ 後期 他学科・他コース 2.0単位	
英作文演習（初級） (15B0704) [英文主] [英文副] KIERNAN　PATRICK　JAMES	Ⅱ 前期 他学科・他コース 2.0単位	This course will give students a good foundation in writing in English. The aim of the course will be to learn to write good, or as the textbook title suggests "great" essays in English. This will include introducing and practicing sentence and paragraph organization and style. Students will also be introduced to ideas of genre and register in writing which will necessitate doing other kinds of writing tasks besides writing essays. Most writing will be done on the computer in order to become familiar with formatting conventions in English, though some brainstorming activities will be done using a pencil and paper or even orally. The course will also introduce the concept of plagiarism, a kind of copying that is considered cheating, and learn how to avoid it.

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
英文法 (15B0706) 中西　公子	I 通年 英語圏言語文化コース 4.0単位	英文法の考察を通して言語の規則性・普遍性について学び、言語を体系的に捉える訓練を行う。あわせて英語特有の性質についても理解を深め、英語力の向上を目指す。
英語学入門 (15B0713) [英文主] [英文副] 山腰　京子	II 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	言語の仕組みに関する基礎知識を土台に、子供の言語習得を中心に据えた考察を行う。これまでの言語習得研究を概観し、子供はどのように母語を習得できているのかについて具体例を検討しながら考察する。
英語圏テキスト講読Ｉ (15B0755) 高桑　晴子	II 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	英語圏の言語文化を専門的に研究するための発展的英語力の習得を目指す。最近の英語の授業では敬遠されがちな文学作品を吟味して読むことで、より丁寧な英文解釈、読解の力を身につける。「講読」とあるが、適宜朗読や作文の要素も含めて総合的な演習を行う。
英米文学演習(中級) (15B0757) [英文強化] 松崎　毅	II 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	
英米文学演習(上級) (15B0758) [英文強化] 清水　徹郎	III 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	
米文学史Ｉ (15B0759) [英文強化] [英文主] [英文副] 戸谷　陽子	III 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	植民地時代から現代に至るアメリカ合衆国の文学を今日的視点から概観する。文学史において主要とされてきた作家・作品を紹介するが、社会・思想・政治・文化的な諸条件および歴史の中での価値観の変遷をも視野に入れ、人種・階級・ジェンダー等の問題についても考察しつつ講義を行う。
米文学史II (15B0760) [英文強化] [英文主] [英文副] 戸谷　陽子	III 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	植民地時代から現代に至るアメリカ合衆国の文学を今日的視点から概観する。文学史において主要とされてきた作家・作品を紹介するが、社会・思想・政治・文化的な諸条件および歴史の中での価値観の変遷をも視野に入れ、人種、階級、ジェンダー等の問題についても考察しつつ講義を行う。
英文学特殊講義III (15B0763) [英文強化] [英文主] [英文副] 松崎　毅	II ～ IV 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	アメリカのユダヤ系作家の短編小説を読み、背景となるユダヤ文化および1960年代以降のアメリカ社会についても学びながら、作品の特質について理解する。
英文学特殊講義Ｖ (15B0765) [英文強化] [英文主] [英文副] 戸谷　陽子	II ～ IV 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	James Fenimore Cooperの代表作The Last of the Mohicans(1826)の精読を通して、建国期アメリカの文学に対する理解を深めると共に、その文化・歴史的背景について考察を深めることを目的とします。
英文学特殊講義VII (15B0767) [英文強化] [英文主] [英文副] 清水　徹郎	II ～ IV 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	神話とイギリス初期近代のテキスト研究。この講義の主たる目的は、エリザベス一世政権末期の英国社会において、異教的イメージが担った政治的・宗教的・文化的役割について明らかにしていくことである。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
対照表現学演習Ⅰ (15B0769) [英文主] ダイアン・ナガトモ	Ⅲ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	英語の論文の書き方を学ぶための初めの段階として、英語で論理的に意見を述べるエッセイが書けるようになることを目指す。
対照表現学演習Ⅱ (15B0770) [英文主] 山腰　京子	Ⅲ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	英文で書かれた学術論文の構成と論文の中で用いられる表現について学習し、卒業論文作成の準備を行う。
英語学特殊講義Ⅰ (15B0771) [英文強化] [英文主] [英文副] 中西　公子	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	「英語学概論」に引き続き、言語の規則性・普遍性を意味の面から考察し、意味論の応用知識と語用論の基礎知識を身に付けることを目標とする。「語の意味から文の意味がどのように導き出されるのか」という問題に焦点を置き、主に英語の例を用いて、語の意味・文の意味・その両者の関係について学ぶ。
英語学特殊講義Ⅱ (15B0772) [英文強化] [英文主] [英文副] 野口　徹	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	特別演習（言語研究方法論）Iで学んだ言語分析の手法を基に、統語論および形態論の諸問題をより具体的かつ批判的に理解することを目標とする。統語論と形態論の文献をいくつか取り上げ、具体的な分析方法を比較検討する。授業は、担当者による講義と受講者による発表により討論形式で進める。積極的な討論への参加が求められる。
英語学特殊講義Ⅳ (15B0774) [英文強化] [英文主] [英文副] 山腰　京子	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	本講義では、子供による母国語の習得について、生成文法理論に基づいて行われてきた主要な先行研究を概観し検討する。子供はどのような言語知識を持っているのか、なぜ子供の母国語習得は短期間で可能なのか、といったことを中心に検討していきたい。学期末には子供の発話が収められているデータベースを活用し、各自興味を持った文法現象について調査しレポートを作成するという試みを行う予定である。
英語学特殊講義Ⅶ (15B0777) [英文強化] [英文主] [英文副] TANCREDI CHRISTOPHER DAMIAN	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	生成文法理論の基本的な考え方，特に、その研究目標と方法論についての理解を深めることをめざし，　英語の語構造と文構造について、音韻・形態・統語・意味の各側面にみられる特性を考察することにより、統語構造と意味解釈のかかわりについて考察する。
英作文演習（上級） (15B0783) [英文強化] ダイアン・ナガトモ	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	This course is intended to give students an overview of the field of academic writing, as both an academic discipline and a practical subject. The teacher will (1) introduce students to some basic concepts in the field of academic writing,selecting ideas and (2) help students to develop practical skills. The class will especially focus on paragraph writing. We discuss comparisons and contrasts between Japan and the West in class. The topics include culture and identity, stereotypes, values, and culture shock. The class will be conducted informally and include group discussions, debates for preparing topics related to the theme of
英文法Ⅰ(1) (15B0878) [英文主] [英文副] 中西　公子	Ⅰ 1学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	英文法の考察を通して言語の規則性・普遍性について学び、言語を体系的に捉える訓練を行う。あわせて英語特有の性質についても理解を深め、英語力の向上を目指す。
英文法Ⅰ(2) (15B0880) [英文主] [英文副] 中西　公子	Ⅰ 2学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	英文法の考察を通して言語の規則性・普遍性について学び、言語を体系的に捉える訓練を行う。あわせて英語特有の性質についても理解を深め、英語力の向上を目指す。
英語学入門(1) (15B0882) [英文主] [英文副] 山腰　京子	Ⅱ 1学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	言語の仕組みに関する基礎知識を土台に、子供の言語習得を中心に据えた考察を行う。これまでの言語習得研究を概観し、子供がどのように母語を習得できているのかについて具体例を検討しながら考察する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
英語学入門(2) (15B0884) [英文主] [英文副] 山腰　京子	II 2学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	言語の仕組みに関する基礎知識を土台に、子供の言語習得を中心に据えた考察を行う。これまでの言語習得研究を概観し、子供はどのように母語を習得できているのかについて具体例を検討しながら考察する。
特別演習（言語研究方法論）I(1) (15B0886) [英文主] 野口　徹	III 1学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	「英文法演習」に引き続き、英文法の知識を比較的最近の生成文法理論の観点から捉える訓練を行う。主に統語論の諸問題に焦点を当てて、英語の統語規則について理解を深める。数多くの言語資料に接することにより、様々な構文の背後にある規則性を発見する手順を身につけることが主な目標となる。3年次後期に開講される「特別演習（言語研究方法論）II」、「英語学特殊講義II」、「英語学特殊講義VI」における学習の準備段階の授業と位置づけられる。
特別演習（言語研究方法論）I(2) (15B0888) [英文主] 野口　徹	III 2学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	「英文法演習」に引き続き、英文法の知識を比較的最近の生成文法理論の観点から捉える訓練を行う。主に統語論の諸問題に焦点を当てて、英語の統語規則について理解を深める。数多くの言語資料に接することにより、様々な構文の背後にある規則性を発見する手順を身につけることが主な目標となる。3年次後期に開講される「特別演習（言語研究方法論）II」、「英語学特殊講義II」、「英語学特殊講義IV」における学習の準備段階の授業と位置づけられる。
英文学史I(1) (15B0890) [英文強化] [英文主] [英文副] 松崎　毅	II 1学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	古英語の時代から王政復古期までの英文学史を概説する。各回のテーマのついて教科書の該当部分を予習してきてもらい、重要な概念や用語を解説する。また、必要に応じて各時代の原文テキスト抜粋を読む。英語と英文学を各時代の言語的・文化的背景と照らし合わせながら、歴史的に概観することで、英語およびその文化を深く知るようになることが目標である。
英文学史I(2) (15B0892) [英文強化] [英文主] [英文副] 松崎　毅	II 2学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	王政復古期からロマン主義までの英文学史を概説する。各回のテーマのついて教科書の該当部分を予習してきてもらい、重要な概念や用語を解説する。また、必要に応じて各時代の原文テキスト抜粋を読む。英語と英文学を各時代の言語的・文化的背景と照らし合わせながら、歴史的に概観することで、英語およびその文化を深く知るようになることが目標である。
英米文学演習（上級）(1) (15B0894) [英文強化] 清水　徹郎	III 1学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	
英米文学演習（上級）(2) (15B0896) [英文強化] 清水　徹郎	III 2学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	
特別演習（英米文学研究方法論）I(1) (15B0898) [英文主] 清水　徹郎	III 1学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	
特別演習（英米文学研究方法論）I(1) (15B0900) [英文主] 清水　徹郎	III 2学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	
米文学史I(1) (15B0902) [英文強化] [英文主] [英文副] 戸谷　陽子	III 1学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	植民地時代から現代に至るアメリカ合衆国の文学を今日的視点から概観する。文学史において主要とされてきた作家・作品を紹介するが、社会・思想・政治・文化的な諸条件および歴史の中での価値観の変遷をも視野に入れ、人種・階級・ジェンダー等の問題についても考察しつつ講義を行う。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
米文学史Ⅰ(2) (15B0904) [英文強化] [英文主] [英文副] 戸谷　陽子	Ⅲ 2学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	植民地時代から現代に至るアメリカ合衆国の文学を今日的視点から概観する。文学史において主要とされてきた作家・作品を紹介するが、社会・思想・政治・文化的な諸条件および歴史の中での価値観の変遷をも視野に入れ、人種・階級・ジェンダー等の問題についても考察しつつ講義を行う。
対照表現学演習Ⅰ(1) (15B0906) [英文主] ダイアン・ナガトモ	Ⅲ 1学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	Students will hone their English academic writing skills through analyzing various types of texts and writing essays.
対照表現学演習Ⅰ(2) (15B0908) [英文主] ダイアン・ナガトモ	Ⅲ 2学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	Students will hone their English academic writing skills through analyzing various types of texts and writing essays.
英米事情(1) (15B0910) [英文主] [英文副] ダイアン・ナガトモ	Ⅱ ～ Ⅳ 1学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	
英米事情(2) (15B0912) [英文主] [英文副] ダイアン・ナガトモ	Ⅱ ～ Ⅳ 2学期 英語圏言語文化コース 1.0単位	
英文法Ⅰ (15B6500) [英文主] [英文副] 中西　公子	Ⅰ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	英文法の考察を通して言語の規則性・普遍性について学び、言語を体系的に捉える訓練を行う。あわせて英語特有の性質についても理解を深め、英語力の向上を目指す。
英文法Ⅱ (15B6501) [英文主] [英文副] 中西　公子	Ⅰ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	「英文法Ⅰ」に引き続き、英文法の考察を通して言語を体系的に捉える訓練を行う。
特別演習（作品分析） (15B6504) [英文主] 松崎　毅\015\012戸谷　陽子\015\012清水　徹郎\015\012高桑　晴子	Ⅳ 前不定期 英語圏言語文化コース 2.0単位	文学・文化表象を対象に卒業論文を執筆するための特別演習。対象作家・作品の選択、テーマの設定、分析方法の検討、論文作成の作法、資料の収集等、執筆に至るまでの実践的な文学・文化研究方法を各担当教員が指導する。
特別演習（言語資料分析） (15B6505) [英文主] 中西　公子	Ⅳ 前期 英語圏言語文化コース 2.0単位	英語学の基礎知識に基づき、様々な言語資料を用いて言語の普遍的特徴を探る。論文を客観的かつ建設的に批判し、読解した内容を基に適切な分析を論理的に導き出す思考力を高める。以上を通じ、英語学における発想と議論の仕方を学ぶ。
英語圏言語文化研究Ⅰ (15B6507) [英文強化] [英文主] [英文副] 高桑　晴子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	文学作品のアダプテーションについて考察する。出版から200年たった現在でも人気を誇るJane Austen, Pride and Prejudiceを題材とし、その映像化やChick Litと呼ばれる現代小説の一ポピュラー・ジャンルへの影響などを通して、一つの文学作品の受容と変容を検討する。日本における受容にも触れる予定。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
英語圏言語文化研究Ⅱ (15B6508) [英文強化] [英文主] [英文副] 清水　徹郎	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 英語圏言語文化コース 2.0単位	

文教育学部 仏語圏言語文化コース

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
卒業論文 (15B0096) 仏文全教員\015\012中村　俊直	Ⅳ 通不定期 仏語圏言語文化コース 8.0単位	フランス語圏の文化や社会について各自テーマを設定し論文をまとめる。大学入学以来４年間の勉学の総決算となるものである。
基礎仏作文演習 (15B0672) [仏文主] [仏文副] ｱﾚｸｻﾝﾄﾞﾙ ﾏﾝｼﾞｬﾝ	Ⅱ 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	この授業では、一通りフランス語の基礎学習を終えた学生を対象とし、基礎を応用した文章作成力の醸成を目標としています。 授業は主に演習を中心とした下記二つのパートで進行します。 第一部では、聴解や文法の復習を行います。 テーマを設定し、それについての作文演習を行います。講師が、学生が作成した文章の添削を行いながら、文法や語彙などの解説行います。 第二部では、手紙や小作文の書き方を習得します。
中級仏作文演習 (15B0673) [仏文主] [仏文副] ｱﾚｸｻﾝﾄﾞﾙ ﾏﾝｼﾞｬﾝ	Ⅱ 後期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	この授業では、一通りフランス語の基礎学習を終えた学生を対象とし、基礎を応用した文章作成力の醸成を目標としています。 授業は主に演習を中心とした下記二つのパートで進行します。 第一部では、聴解や文法の復習を行います。 テーマを設定し、それについての作文演習を行います。講師が、学生が作成した文章の添削を行いながら、文法や語彙などの解説行います。 第二部では、手紙や小作文の書き方を習得します。
基礎仏語学演習 (15B0677) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] ｱﾚｸｻﾝﾄﾞﾙ ﾏﾝｼﾞｬﾝ	Ⅱ 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	この授業は下記二つのパートで進行する。 第一部では、中級レベルの会話（語彙を含めて）と文法の復習と改善について練習し、 第二部では、聴解と練習問題を行なう。
中級仏語学演習 (15B0678) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] ｱﾚｸｻﾝﾄﾞﾙ ﾏﾝｼﾞｬﾝ	Ⅱ 後期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	この授業は下記二つのパートで進行する。 第一部では、中級レベルの会話（語彙を含めて）と文法の復習と改善について練習し、 第二部では、聴解と練習問題を行なう。
仏語言語文化研究指導 (15B0683) [仏文主] 中村　俊直	Ⅳ 後期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	卒業論文の作成に必要な一般的諸条件の指導を行うとともに、各学生の論文テーマに沿って、個別の議論、指導を行う。10月の末か11月の初めに、学生各人による論文中間発表会を合同で行う。
仏語圏言語文化論Ⅰ (15B0780) [英文強化] [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 小松　祐子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	モロッコ人作家ベンジェルーンが、１０歳の娘に語りかけるように書いた『娘に語るラシスム』（Le racisme explique a ma fille)を購読しながら、フランス語圏、フランスの植民地政策、言語政策、移民、人種差別、格差などの社会問題を考える。
仏語圏言語文化論Ⅱ (15B0781) [英文強化] [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 専任教員（未定）	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	近・現代のパリを中心とする都市文化を考察する授業です。2013年度は、おもに20世紀の欧米の万博と日本の博覧会を通じて、建築・芸術・映像文化・消費文化等の動向、所産を考察し、現代との関連を検討します。おのずから、近代日本、ジャポニスムにも関係してきます。 テーマに関連するミシュラン・パリガイドの説明文を読解し、パリ地図やガイドの実践的な運用法を身につけることも目的としています。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
西欧社会文化論II (15B0842) [仏文主] [仏文副] 味岡　京子	I ～ IV 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	ヨーロッパ社会の現在―いくつかの課題とキーワード ヨーロッパは、１９世紀以降、近代社会のお手本と見られ、政治・経済・社会・文化といったさまざまな分野において熱心に研究されてきた。とりわけ、フランスは、ごく最近までそのモデルケースとみなされてきた。しかし、現在では、ヨーロッパの価値観をそのまま先進的なものと考えることは難しくなっている。さまざまな差別や社会的分断の契機がそこに潜んでいることも明らかにされてきた。 今、日本において、ヨーロッパについて学ぶことは、いかなる意味を持っているのだろうか。まずは、このような問いからはじめたい。たとえヨーロッパの社会ではなく、歴史や芸術について学ぶにせよ、現代日本という足場から逃れることはできない。この授業では、主にフランスの例を通じて、ヨーロッパについて学び、研究するための基礎となる知識を身につけつつ、ヨーロッパ研究の重要性がどこにあるのかについて受講生と共に考えていきたい。 具体的には、現代ヨーロッパの政治や経済について考える基礎について示した後、フランスを主な事例として、移民、宗教、ジェンダー、教育などの切り口から、ヨーロッパの社会がどのような問題を抱えているのか、またどのように解決しようとしているのかに話を進めていく。さらに、それらに対してEU統合が与えた影響などについても示していく。 授業を通して、受講者は、ヨーロッパについて学び、研究を進めるためのキーワードを知り、自らの関心を絞って学習を進めることが可能になる。そのため、授業で取り上げる課題やキーワードの考え方を用いて、学期中に日本の新聞で取り上げられたヨーロッパの記事を分析し、自らの見解を示すレポートを提出することを学期末の課題とする。準備のために、毎週授業内容についてディスカッションを行うほか、いくつかテーマについては小レポートにまとめてもらう。評価は、期末のレポートの完成度を重視する。
応用仏語学演習 I (15B0861) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] COHEN JACQUELINE ARIANE MINA	III ～ IV 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	Dans ce cours, vous apprendrez a mieux communiquer en francais et a mieux connaitre la France.
応用仏語学演習 II (15B0862) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] COHEN JACQUELINE ARIANE MINA	III ～ IV 後期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	Dans ce cours, vous apprendrez a mieux communiquer en francais et a mieux connaitre la France.
西欧社会文化論IV (15B5701) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 本間　邦雄	I ～ III 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	この講義では、身体論の視点からフランスの服飾文化と社会を読み解くことを主題とします。特に中心となる時代は17世紀から18世紀のいわゆるアンシャン・レジーム期ですが、身体にじかに触れている服飾を通して、当時の身体感覚の形成過程や特性を明らかにしながら、そこに映し出されている当時の社会状況を読み解いていきます。なぜ、私たちは白いシャツを清潔だと思うのか、あるいは、敗北を認めたときに使う「脱帽」という言葉はどのような経緯で誕生したのか、ファッションにはエチケットが不可欠だが、そのルーツはどのようなものだったのか、なぜウェディングドレスにはヴェールがついているのか、など、知っているようで知らない服飾文化の根源をたどりながら、当時の社会が何を身体に求めていたのかを解き明かしていきます。そして、アンシャン・レジーム期という過去の時代に形成されてきた身体感覚や服飾の文化が、後の時代にどのように継承され、現代につながってきているのかを考えていきます。フランス17，18世紀に誕生した清潔感やふるまいやエチケットの特質を探ることによって、現代に生きる私たちの、ふだん気にも留めず当たり前に思っている身体感覚や、服飾文化の意味を問い直し、今後を展望していくのが本講義の目標です。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
フランス社会文化論Ⅲ (15B6700) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 山田　文比古	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	国際社会において独特の存在感を示すフランス外交の秘密を探る。 今日のフランス外交の礎を築いたドゴールによれば、「フランスはもはや大国でない以上、大国としての政策を持たなければ、無に等しい存在に堕してしまう」。 かくしてフランスは、自主独立外交を旗印に掲げ、対米自主性を旨とする付かず離れずの同盟政策、ドイツとの和解によるヨーロッパの再構築、アフリカの勢力圏確保、中東への積極的関与などを通じ、外交大国としての地位を維持してきた。 その独創的な論理と外交力を検証・分析することで、文化・芸術の国というイメージとはまったく異なる、フランスの知られざる側面を知る。
フランス社会文化論Ⅳ (15B6701) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 鈴木　規子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	国際社会において独特の存在感を示すフランス外交の秘密を探る。イラク戦争での対米非協力の一方で、リビアやマリへの軍事介入に踏み切ったフランスの独自の論理と外交力を検証・分析することで、文化・芸術の国というイメージとはまったく異なる、フランスの知られざる側面を知る。また、そうしたフランスを通じて見える世界は、通常我々が親しんでいるアメリカの論理とアングロサクソンのメディアを通じて見える世界とは、少々趣を異にする。ヨーロッパや中東・イスラム、アフリカなど、フランスを通じて見ると違って見える世界を考察する。
上級仏会話演習Ⅰ (15B6704) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] ｱﾚｸｻﾝﾄﾞﾙ ﾏﾝｼﾞｬﾝ	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	仏語会話力の向上を目指す。自分の意見や考えを文章にまとめる練習をする。 A chaque cours, les etudiantes racontent ce qu'elles ont fait, vu ou lu recemment ou ce qu'elles jugent digne d'interet. Puis un tour de table a lieu sur un theme en rapport avec un texte etudie en cours et des exercices differents sont realises.
上級仏会話演習Ⅱ (15B6705) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] ｱﾚｸｻﾝﾄﾞﾙ ﾏﾝｼﾞｬﾝ	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	仏語会話力の向上を目指す。自分の意見や考えを文章にまとめる練習をする。 A chaque cours, les etudiantes racontent ce qu'elles ont fait, vu ou lu recemment ou ce qu'elles jugent digne d'interet. Puis un tour de table a lieu sur un theme en rapport avec un texte etudie en cours et des exercices differents sont realises.
上級仏語学演習Ⅰ (15B6706) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] ｱﾚｸｻﾝﾄﾞﾙ ﾏﾝｼﾞｬﾝ	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	Ce cours de niveau eleve est donne a 90% en francais. Il vise a apprendre les exercices de redaction a la francaise, les techniques et la langue academiques. Il fait appel a la comprehension orale et ecrite, et l'expression ecrite.
上級仏語学演習Ⅱ (15B6707) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] ｱﾚｸｻﾝﾄﾞﾙ ﾏﾝｼﾞｬﾝ	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	Ce cours de niveau eleve est donne a 90% en francais. Il vise a apprendre les exercices de redaction a la francaise, les techniques et la langue academiques. Il fait appel a la comprehension orale et ecrite, et l'expression ecrite.
近代仏文学演習Ⅰ (15B6708) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 専任教員（未定）	Ⅲ 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	ロマン主義文学の先駆とされるアベ・プレヴォ―の小説『マノン・レスコー』（1731年）を講読します。ファム・ファタル（宿命の女）の源流となった女主人公マノンの人物像を探りながら、この作品の魅力に迫りたいと思います。 教科書・参考文献は授業中に指示します。
近代仏文学演習Ⅱ (15B6709) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 専任教員（未定）	Ⅲ 後期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	20世紀のフランスを代表する批評家ロラン・バルトの文化論『エッフェル塔』（1964年）を講読します。バルトの知的刺激に満ちた文章を読み解きながら、フランス現代思想の一端に触れてみたいと思います。 教科書・参考文献は授業中に指示します。
現代仏文学演習Ⅰ (15B6712) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 中村　俊直	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	文学、舞踊、美術の三者の影響関係を、特にフランスの１９、２０世紀を中心に考察する。 表現媒体の観点からすれば、それは言葉と身体とイメージ（図像・映像）の三者の関係の問題である。 その目的のためにフランス近現代の文学者の書いた美術評論や舞踊論を読む。
現代仏文学演習Ⅱ (15B6713) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 中村　俊直	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	自己を語るエクリチュール（自伝、日記、自伝小説など）と旅のエクリチュール（旅行記、旅日記など）の諸問題を考察する。 これらの問題の一般的な考察を行うと共に、特にフランス２０世紀のノーベル賞作家アンドレ・ジッドの作品を取り上げてこの二つのエクリチュールの具体例を分析する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
現代仏文学特殊講義Ⅰ (15B6714) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 中村　俊直	Ⅲ 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	ヨーロッパの児童文学について、比較文学、比較文化的な視点から考察する。イソップ、ペロー、グリム、アンデルセンなど。
現代仏文学特殊講義Ⅱ (15B6715) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 中村　俊直	Ⅲ 後期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	フランス２０世紀の作家のサン＝テグジュペリの研究を行う。 この作家がどのように自分の生きた時代（特に第２次世界大戦）と関わり、そこからどのような影響を受けたのかという問題を重点的に考察する。 作品としては、特に『夜間飛行』と『人間の大地』を中心に分析する。
仏文学特別研究 (15B6716) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 岩切　正一郎	Ⅱ ～ Ⅲ 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	フランス演劇テクストを抜粋で読み、戯曲テクストの分析と解釈について学びます。演劇作品を演劇史のなかに位置づけること、演劇用語を学ぶこと、テクストについて客観的に論述できるようになること、なによりも、フランス語で演劇作品を読み、聞く力を養うこと、を目標とします。
西欧社会文化論Ⅲ (15B6717) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 内村　理奈	Ⅱ ～ Ⅲ 前期 仏語圏言語文化コース 2.0単位	フランス語を現代経済やビジネス界と結びつけることで、フランス語での実践を磨きつつ、現代社会を考察する。
独文学演習Ⅰ (15B6900) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 菅野　健	Ⅲ 前期 言語文化学科 2.0単位	独検合格、ドイツ語圏留学なども視野に入れながら、ドイツ文学の作品を一字一句おろそかにしないで読んでいく楽しみを学ぶ。世界で最も有名な文学作品の一つと言っても決して過言ではない『ハイジ』は、本来作者ヨハンナ・シュピーリ（1827-1901）が、ゲーテ（1749-1832）の『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代と遍歴時代』を目標にして書いた作品で、原題は『ハイジの修業時代と遍歴時代』というのである。つまりこれは、一人の人間の成長過程を克明に描き続けていく、ドイツ文学特有の「教養小説」の系譜に連なる作品に他ならない。
独文学演習Ⅱ (15B6901) [仏文強化] [仏文主] [仏文副] 菅野　健	Ⅲ 後期 言語文化学科 2.0単位	独検合格、ドイツ語圏留学なども視野に入れながら、ドイツ文学の作品を一字一句おろそかにしないで読んでいく楽しみを学ぶ。世界で最も有名な文学作品の一つと言っても決して過言ではない『ハイジ』は、本来作者ヨハンナ・シュピーリ（1827-1901）が、ゲーテ（1749-1832）の『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代と遍歴時代』を目標にして書いた作品で、原題は『ハイジの修業時代と遍歴時代』というのである。つまりこれは、一人の人間の成長過程を克明に描き続けていく、ドイツ文学特有の「教養小説」の系譜に連なる作品に他ならない。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
人間科学論 (15B1001) [グロ文主] [教育主] [社会主] [社会副] [心理主] 耳塚　寛明	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 人間社会科学科 2.0単位	本講義では、様々な社会調査データの事例や、調査を行う前提にある社会科学的な考え方の紹介を中心に、社会調査と言われる営みの全体像について解説する（具体的には、「社会調査の目的と意義」、「社会調査史」、「調査倫理」、「実際の調査例」、「量的調査」、「質的調査」などの基本的事項）。受講者が、社会調査士として実際に調査を行っていく際の作法や手順を身につけること、ならびに社会に溢れる調査データを読みこなせるリテラシーを身に付けることを目的とする。 講義の前半では、社会調査の意義や歴史について学んだ後、調査の前段階としての既存情報・調査の利用の仕方などについて学ぶ。後半では、問いの立て方などの社会科学的な考え方を学んだ上で、問いを実証していく／洗練させていくための様々な調査方法について解説する。 ※社会調査士の認定科目の一つです。
人間科学方法論 (15B1002) [グロ文主] [教育主] [社会主] [社会副] [心理主] [心理副B（人社以外学生用] 木村　文香	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 人間社会科学科 2.0単位	人間科学では、実験や調査によるデータを扱うことが必須となる。本講義では、データの処理、データからの推定、検定など、人間科学において用いられる統計の基礎的知識と統計的考え方について学ぶ。具体的には、データから、平均、分散、相関係数、回帰直線などを求めることができるようになること、また、カイ自乗検定、t検定、分散分析を用いて帰無仮説の検定を行えるようになることを目標とする。
人間と社会 (15B1003) [グロ文主] [教育主] [社会主] [社会副] [心理主] 杉野　勇\015\012平岡　公一\015\012坂本　佳鶴恵	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 人間社会科学科 2.0単位	主題は、社会学の基本的知識と、それを基盤とした・現代的な諸問題・諸現象へのアプローチである。 　社会学を学習する為の準備段階として、社会学における古典的・典型的なものの見方や考え方を幅広く知る事を目標とする。（予定される具体的なテーマは、コミュニティと社会関係資本、都市的生活様式、社会階層とメディア、家族、社会福祉と社会保障など。）
人間と発達 (15B1004) [グロ文主] [教育主] [教育副] [社会主] [社会副] [心理主] 教育科学コース全教員\015\012米田　俊彦	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 人間社会科学科 2.0単位	教育科学プログラム（コース）の入門的な授業。教育科学の学問領域全体についての基本的な理解をもってもらうことを目標とする。
人間と情報 (15B1005) [グロ文主] [教育主] [社会主] [社会副] [心理主] [心理副B（人社以外学生用] 心理学コース全教員\015\012石口　彰\015\012内藤　俊史\015\012菅原　ますみ\015\012坂元　章\015\012大森　美香\015\012上原　泉	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 人間社会科学科 2.0単位	人間と情報というテーマの下で、発達心理学、認知心理学、社会心理学、教育心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学の基本的な内容を学ぶ。科学としての心理学の基礎知識と自ら問題を発見する能力を身につけることを目標とする。
法学総論Ⅰ (15B5009) [教育強化] [社会主] [心理強化] 小谷　眞男	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 人間社会科学科 2.0単位	「父親による児童虐待を見て見ぬ振りをした母親は、罪に問われることはないのか？」 この科目は、刑法や民法などのさまざまなトピックスを練習問題として〈法教育〉の演習を積み重ね、そのプロセスを通して法学のエッセンスをも会得してもらおうという、一石二鳥の体験的法学入門である。1テーマ2回を1セットとして、法学の各分野を順次取り上げていく。一週めは、高校教師役を演ずる学生がその他の学生を生徒役に見立てて、50分授業をおこなうという設定で〈法教育〉演習の模擬授業をおこない、生徒役の学生はグループ・ディスカッションまたはディベートなどの方式で、教師役の学生によって示された課題について議論を積み重ねる、というようなスタイルで進める。担当教員は、担当者の準備作業を適宜サポートする。終了後、出席者全員から担当学生による模擬授業の進め方に対するコメントを提出してもらい、教員経由で教師役の学生にフィードバックし、今後の教職課程履修の参考にしてもらう。二週めは、前の週の振り返りをしつつ、他の事例等をも交えて法学の基礎事項に関する補足的・体系的レクチャーを担当教員がおこなう。教職課程履修者を念頭において以上のようなスタイルを取るが、法学に関心があればもちろん教職履修の有無にかかわらず誰でも気軽に参加できる。 なお、この科目の履修者は、必ず後期の「法学総論II」も続けて履修すること（順番は逆にできない）。2科目を合わせて実質的には4単位の通年科目として運営する。またこの科目は隔年開講であるため、2016年度は開講されない。次回の開講は2017年度の予定。 今年度は4月9日開講予定。 ところで冒頭の設問、あなたならどう答えますか？また、その「論拠」は何でしょうか？

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
法学総論II (15B5011) [教育強化] [社会主] [心理強化] マルセロ　デ　アウカンタラ	I ～ IV 後期 人間社会科学科 2.0単位	
社会学総論 I (15B5017) [教育強化] [社会強化] [社会主] [心理強化] 中西　祐子	I ～ IV 前期 人間社会科学科 2.0単位	
社会学総論II (15B5019) [教育強化] [社会強化] [社会主] [心理強化] 中西　祐子	I ～ IV 後期 人間社会科学科 2.0単位	
哲学総論 (15B5025) [教育強化] [社会主] [心理強化] 鈴木　宏	I ～ IV 後期 人間社会科学科 2.0単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
卒業論文 (15B0097) [社会主] 平岡　公一\015\012杉野　勇\015\012坂本　佳鶴恵	Ⅳ 通不定期 社会学コース 8.0単位	自ら研究テーマを設定して、資料や文献を収集・検討しながらリサーチ・クエステョンを育て、研究設計に応じてアンケート調査やインタヴュー調査を実施し、最終的に、学習の総まとめとして論文を完成させる。
社会政策論Ⅰ (15B1007) [社会強化] [社会主] [社会副] [生社強化] [地理強化] 平岡　公一	Ⅰ ～ Ⅳ １学期 社会学コース 2.0単位	社会保障を中心に社会政策（社会保障、社会福祉、住宅政策、雇用政策等）の概論的な講義を行う。社会政策の歴史的展開、社会保障制度の概要、社会保障の主要な政策課題と争点の基礎的理解が目標である。国際比較の視点を重視する。１回目の授業に必ず出席すること。
社会政策論Ⅱ (15B1008) [社会強化] [社会主] [社会副] [生社強化] [地理強化] 平岡　公一	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 社会学コース 2.0単位	社会福祉（介護サービスを含む）の基礎理論と、今日の社会福祉政策の課題に関わる主要な論点を取り上げる。社会福祉に関する基礎的な理解が目標である。国際比較の視点を重視する。１回目の授業に必ず出席すること。
社会政策論演習Ⅰ (15B1009) [社会強化] [社会主] [社会副] 平岡　公一	Ⅱ ～ Ⅳ ２学期 社会学コース 2.0単位	現代の貧困問題についての理解を深めるとともに、貧困問題の解決にとっての公的扶助制度（日本の制度の名称は「生活保護制度」）の果たす役割と、その問題点を課題について検討する。
社会政策論演習Ⅱ (15B1010) [社会強化] [社会主] [社会副] 平岡　公一	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 社会学コース 2.0単位	専門論文を読むことを通して、社会政策論Ⅰ・社会政策論Ⅱで学んだ事柄についての理解を深める。
社会調査法 (15B1015) [社会主] [社会副] 岩間　夏樹	Ⅱ ～ Ⅳ 通年 社会学コース 4.0単位	構造化された質問紙を用いた大規模標本調査（いわゆる量的調査）を念頭に置き、調査目的の設定・明確化／調査の企画・設計／調査票の作成／調査の実施／調査結果の集計・分析／レポートの作成までの調査全体の一連の過程を実習する。各時間とも、個人・グループでの作業及び全体での討論や打合せへの積極的な参加が必須である。それらの作業を通して、調査結果の分析・報告のみならず、調査方法の特性や実施上の困難についても考察し、社会調査に関わる倫理問題に対する意識向上も目指す。 なお、関心のある学生に対しては、近年日本にも導入され始めてきた質的データ分析ソフト(MAXQDA2007またはSPSS TEXT ANALYSIS for Surveys)についての紹介も行う。
ジェンダー論 (15B1016) [教育主] [社会強化] [社会主] [社会副] 椎野　信雄	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 社会学コース 2.0単位	授業のテーマは、ジェンダーの社会学入門。学習の基本目標は、＜ジェンダーの視点＞というものの見方を理解すること。到達目標は、＜ジェンダーの視点＞を理解して、人間や社会の諸現象を自分の人生と関連させて考察できるようになること。最終レポートは、自分の生活に関わる人間社会現象を、＜ジェンダーの視点＞から社会学するレポートになっているかどうかが、成績評価の判断基準です。課題提出は時間厳守のこと（提出遅延は減点します）。毎回の授業の最後にコメントペーパーを書いてもらいます。成績評価の基準は、＜ジェンダーの視点＞の理解度（性別男女観のアンラーン度）です。
現代社会論 (15B1017) [教育主] [社会強化] [社会主] [社会副] [生社強化] 杉野　勇	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 社会学コース 2.0単位	この講義では、社会調査を中心に据えながら社会科学の理論と研究方法を幅広く学習する。１．社会調査の意義と目的、２．社会調査の歴史と倫理、３．社会調査の種類と方法、４．量的調査の実例、５．質的調査の実例などを学ぶ。社会調査を正しく行い、調査データを利用できるようになることを目指す。また、社会調査を通じて、現代社会の様々な現象について考えていく。成績評価は小課題、レポートにて判断する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
現代生活論 (15B1019) [社会強化] [社会主] [社会副] [生社強化] 上谷　香陽	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 社会学コース 2.0単位	本学グローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」（2007~2011年度）では、社会的格差と人間発達に焦点を当て、社会学、教育学、心理学を組み合わせた学際的な観点から、様々な研究を行ってきました。本講座はその成果を本学教育に還元することを目的としています。 講座Bでは、ジェンダーをめぐる格差が当該社会文化でどのように形成されたのかを、歴史的かつ国際的な比較を加えながら検討することを目的とします。具体的には、日本、中国、東南アジア、ドイツについて、教育、家族、経済、政策、権力など多様な視点を切り口に、ジェンダーの格差構造を6人の研究者が講義します。最終回では、それぞれの社会におけるジェンダーをめぐる格差の形成と構造の特色を、シンポジウム形式で比較・検討します。ジェンダーをめぐる格差に対する積極的な関心をもち、それが自分の生活とどのように関わっているのかを考えられるようになることが、この講義の到達目標です。
社会問題論 (15B1025) [社会強化] [社会主] [社会副] [生社強化] 三部　倫子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 社会学コース 2.0単位	自殺、ひきこもり、性差別、少子化、同性愛差別など、現代社会には多くの「社会問題」が存在する。しかし、誰がそれを社会問題と判定しているのだろうか？それはいつから社会問題として取りあげられるようになるのだろうか？何が社会問題かの判断には常に価値が含まれており、それを解くのは容易ではない。授業では、社会問題をめぐる社会学的アプローチを学び、社会問題を考えるための知識と技法を身につけることを目標とする。
現代社会論演習Ⅰ (15B1028) [社会強化] [社会主] [社会副] 杉野　勇	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 社会学コース 2.0単位	今期は、社会学内部での基本的文献を読んで“社会学的な”考え方を学んだ後，経済学や社会心理学など隣接社会科学における興味深い研究について学習し，社会科学(Social Science)の１つとしての社会学(Sociology)の位置や意義について考える事を主題とする。社会科学の中で学際的(interdisciplinary)な思考を養いつつ、社会科学において経験的である事、evidence-basedである事の意味を理解し、更には論理的・分析的であるとは如何なる事かについての各自なりの考えを持つ事を目標とする。
現代社会論演習Ⅱ (15B1029) [社会強化] [社会主] [社会副] 杉野　勇	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 社会学コース 2.0単位	今期は、社会学内部での基本的文献を読んで“社会学的な”考え方を学んだ後，経済学や社会心理学など隣接社会科学における興味深い研究について学習し，社会科学(Social Science)の１つとしての社会学(Sociology)の位置や意義について考える事を主題とする。社会科学の中で学際的(interdisciplinary)な思考を養いつつ、社会科学において経験的である事、evidence-basedである事の意味を理解し、更には論理的・分析的であるとは如何なる事かについての各自なりの考えを持つ事を目標とする。
現代生活論演習Ⅰ (15B1032) [社会強化] [社会主] [社会副] 坂本　佳鶴恵	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 社会学コース 2.0単位	このゼミでは、『社会学的フィールドワーク』世界思想社を、おもなテキストとし、社会生活の基本的な分析手法のひとつである質的調査の視点と方法、課題について学ぶとともに、４年生を中心に各自のテーマにもとづく個人発表をおこない、社会学的な論文の作成のしかたについて学ぶ。 テキストは本の章構成とは異なる順番で読むので、初回の授業で確認すること。 また、坂本を卒業論文の指導教官としたい学生は必ず履修すること。
現代生活論演習Ⅱ (15B1033) [社会強化] [社会主] [社会副] 坂本　佳鶴恵	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 社会学コース 2.0単位	各自のテーマによる発表を基本とする。社会学的テーマの設定のしかた、考察、分析方法、文献調査・購読、論文の書き方、議論のしかたを身につけることを目的とする。坂本を卒論の指導教員とする人は履修すること。
社会学研究指導Ⅰ (15B1036) [社会主] 杉野　勇\015\012平岡　公一\015\012坂本　佳鶴恵	Ⅲ 通不定期 社会学コース 2.0単位	自らの問題関心を深めつつ、卒業論文執筆の前段階として必要な作業を具体的に認識し、主体的に学習と研究を進めていく姿勢を涵養する。 担当教員の指導のもとで、各自の問題関心に関連した基礎的学習を行い、文献検索・情報探索の方法に習熟し、論文の執筆の仕方を身に付けるなど、卒業論文執筆に向けての準備を計画的に行えるようになる事が目標である。
社会学研究指導Ⅱ (15B1037) [社会主] 杉野　勇\015\012平岡　公一\015\012坂本　佳鶴恵	Ⅳ 通不定期 社会学コース 2.0単位	卒業論文執筆に向けて必要な問題を整理して認識し、資料の探索や調査の実施など、自らその問題の解決に主体的に取り組み、適宜そのプロセスと知見を他者に対しても説明可能な(accountable)なものとして報告できるようになる事を目標とする。
社会調査の設計と実施 (15B1214) [社会強化] [社会主] [社会副] 廣瀬　毅士	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 社会学コース 2.0単位	この講義では、社会調査を企画、実施、分析し、報告書としてまとめるための一連の知識を身につけることを目指す。具体的には、質的調査としてインタビュー調査を、量的調査として質問紙調査を取り上げ、質的・量的調査の実際を学ぶ。同時に社会調査を通じて、社会科学の方法や社会学的なものの見方も学んでいく。成績評価は小課題、レポート、試験にて判断する。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
社会問題論(1) (15B5700) [社会強化] [社会主] [社会副] [生社強化] 三部　倫子	Ⅱ ～ Ⅳ 1学期 社会学コース 1.0単位	
社会問題論(2) (15B5702) [社会強化] [社会主] [社会副] [生社強化] 三部　倫子	Ⅱ ～ Ⅳ 2学期 社会学コース 1.0単位	

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
卒業論文 (15B0098) [教育主] 教育全教員	Ⅳ 通不定期 教育科学コース 8.0単位	
教育思想概論 (15B1039) [教育強化] [教育主] [教育副] 池田　全之	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 教育科学コース 2.0単位	この講義の主題は、さまざまな教育思想を検討することによって、教育現象を多角的に検討するための基礎を理解することにある。この講義を聴講ことによって、学生に身につけてもらいたい力は以下の三つである。１）これまで提唱されてきた代表的な教育思想のあらましを説明できる。２）「よい教育は何を目ざすのか」について自分なりに考えを発表できる。３）教育について自分の見解を論理的に説明することができる。
教育史概論 (15B1040) [教育強化] [教育主] [教育副] 米田　俊彦	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 教育科学コース 2.0単位	教育の制度・政策や社会的文化的諸実態の史的展開を概説する。江戸時代末期から現代までの日本を主たる対象としつつ、必要に応じて欧米等の教育史にも言及する。古沢・米田編『教育史』（学文社）を教科書として使用するほか、必要な資料等は随時プリントとして配布する。
教育社会学概論 (15B1041) [教育強化] [教育主] [教育副] [社会主] 耳塚　寛明	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 教育科学コース 2.0単位	教育社会学の基礎理論、取り組む課題を紹介し、1.社会的資源の配分と教育、2.学校教育の機能、選抜の構造、教室秩序の社会的構成、3.人口の変動、移動と教育、4.教育社会学の方法論といったテーマを中心に概説する。
文化人類学概論 (15B1042) [教育強化] [教育主] [教育副] [社会主] 棚橋　訓	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 教育科学コース 2.0単位	フィールドワーク（臨地調査）から得られる「人類」点と「文化の多様性」の視点に基づいて人間現象を捉える研究分野としての文化人類学について、基礎講義より数歩踏み込んで「専門性」を意識した概論の講義を行う。「文化」概念をめぐる議論をピヴォットに、文化人類学は、民族・国家・政治・経済・法・教育・学習・開発・宗教・性・身体・心理等々をめぐる現代的課題をどのように分析し、何を提言し、いかなる寄与を目論むのか。具体例に即して概論していく。幾分専門的な概念や理論を知識として身につけてもらうとともに、それらを「使って考える方法」の手がかりを得ることを目標とする。
教育方法学概論 (15B1044) [教育強化] [教育主] [教育副] 冨士原　紀絵	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 教育科学コース 2.0単位	国内外の教育方法に関する諸理論や実践記録の検討を通して、過去から現在に至るまでの「学校」や「授業」を規定している諸要因を学ぶ。これまで自分自身が経験することによって形成されてきた「学校教育」・「教師像」・「授業」を相対化し、柔軟に捉え直すことを目指す。
教育開発概論 (15B1046) [教育強化] [教育主] [教育副] 浜野　隆	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 教育科学コース 2.0単位	教育開発とは、主に発展途上国において社会的・経済的発展のために教育を量的に拡大させたり、質的に改善させたりすることです。この授業では、教育開発の理論、国際機関の役割、発展途上国の教育の現状と課題、国際協力、教育開発の今日的課題（教育行財政、分権化、ジェンダーと女子教育、保育・幼児教育と乳幼児発達支援、識字、職業教育と高等教育など）、国際理解・平和のための教育、ESD（持続可能な開発のための教育）、日本の教育開発経験等について学んでいきます。
生涯学習概論 (15B1048) [教育強化] [教育主] [教育副] 亀田　温子	Ⅱ ～ Ⅳ 後集中 教育科学コース 2.0単位	生涯学習とは、児童・青年を主な対象としてきた学校中心的な教育の発想・思想・理論、教育実践、教育システムをとらえかえすべく登場した比較的新しい概念である。したがってそこには近代化の中で構築されてきた学校や教育制度を批判的に検証する視点とともに、現代社会の状況や課題に応える実践やシステムを提案し創出していく志向性が存在している。本授業では、人間の一生（生涯）にわたる成長という長期的な時間軸と、多元化・多様化する学習の場の相互連関という社会的な横の広がりを交差させながら、具体的な実践も俯瞰しつつ、生涯学習・社会教育にかかわる理念・法律・制度と実践を支える条件について、基本的な考え方とそれらをめぐる議論を紹介し検討する。また、成人教育の思想・理論について、海外の研究蓄積からM・ノールズ（Self-Directed Learningを中心に）、J・メジロー、P・フレイレ、E・ジェルピ、および最近の諸議論（D・ショーン、レイヴ＆ヴェンガー、P・ジャーヴィス）を取りあげて論じる。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
教育人間学特殊講義 (15B1050) [教育強化] [教育主] [教育副] 坂野　慎二	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 教育科学コース 2.0単位	人間と社会の在り方、学校と社会の在り方を、近現代の各国の状況を素材としながら考察する。具体的には、主に第2次世界大戦以降の欧米諸国及び日本の教育政策・教育理念を分析の対象とする。中等教育の拡大、高等教育の大衆化、生涯学習といった、近現代で課題となった教育政策の背後にある思想・理論から、その根底にある教育のあり方を抽出し、関連する思想や理論との比較検討を行う。
教育社会学特殊講義 (15B1054) [教育強化] [教育主] [教育副] [社会強化] [社会主] 大多和　直樹	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 教育科学コース 2.0単位	教育社会学における調査法を学ぶ。卒論などで、自分で調査を設計し分析できることを目指し、その基礎をつくる。調査設計および実施方法に力点を置き、文献のほか、ミニ演習を交えて学ぶ。本科目は、社会調査士取得のためのカリキュラムの中のＢ「調査設計と実施方法に関する科目」である。 一通り、社会調査の過程を全て体験する。とくに仮説作りの苦悩や、なかなか思うようにはいかない分析(論理的推論の末の解決)などを経験できれば、いいと思う。 授業は、とくに以下の点の修得に力点をおいて進める。 ア）サンプリング イ）調査票の構成と質問文の作り方 ウ）調査の方法（実査の方法、調査票の配布と回収法等） エ）調査データの整理（コーディング・データクリーニング等）
教育方法学特殊講義 (15B1060) [教育強化] [教育主] [教育副] 桐谷　正信	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 教育科学コース 2.0単位	教育方法に関する基礎理論と具体的な実践との結節を学ぶ。教育方法に関する具体論，教室環境と教育方法の関係など，授業を構成し，実践し，その実践を振り返ることのできる理論的な視点を得る。
教育開発特殊講義 (15B1063) [教育強化] [教育主] [教育副] 伊波　浩美	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 教育科学コース 2.0単位	本講義では、グローバル時代の途上国における教育と社会の発展のあり方について、各国の社会的・文化的背景を踏まえて理解することを目的とする。前半の授業では、途上国の教育にみられる不平等の構造とこうした不平等の解消を目指す教育政策や教育プログラムについて概説する。また、グローバル化にともなう幸福感・満足感、能力観の変容、移動や雇用の問題を教育との関係から分析する。本講義では、急速な経済成長を遂げるインドやバングラデシュ、国民総幸福度を成長指標に掲げるブータンなどの南アジア諸国をおもに取り上げるが、比較対象として先進諸国の事例も扱う。後半の授業では、日本の教育経験や途上国への教育支援のあり方を分析し、最後に、授業で学習したことを踏まえて、グローバル時代の市民性と教育のあり方について検討する。＜読替＞NGO/NPO論（13B2049）と同一内容。
社会教育学特殊講義 (15B1069) [教育強化] [教育主] [教育副] 鷹野　光行	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 教育科学コース 2.0単位	社会教育と文化の関わりについて考えていく。
博物館資料特殊講義 (15B1070) 鷹野　光行	Ⅲ ～ Ⅳ 未定 教育科学コース 2.0単位	博物館資料の収集，整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し，また博物館の調査研究活動について理解することを通じて，博物館資料に関する基礎的能力を養う。博物館における調査研究活動、博物館資料の概念、博物館資料の収集・整理・活用についての理解を図る。
博物館活動特殊講義 (15B1071) 鷹野　光行	Ⅳ 前期 教育科学コース 2.0単位	博物館の行財政、組織や職員など基本的な運営状況を把握し、ミュージアム・マネージメントの視点に立った博物館経営の理論と実践を学び、また博物館における情報の意義と活用について理解して、生涯学習社会に即応した博物館の教育活動について考察する。
教育人間学演習 (15B1076) [教育強化] [教育主] [教育副] 池田　全之	Ⅲ ～ Ⅳ 通年 教育科学コース 4.0単位	主題：近年書かれた人間形成論に関わるテキストをひも解き、テキストの中で展開されている思想の人間形成論的な着想を理解する。 目標：１）テキストで書かれている内容を、自身の経験と照らし合わせながら、自分の言葉で要約できる。 ２）テキストで問題にされている事柄について、その内容を批判的に検証しながら、自分の見解を表明できる。
教育史料分析演習 (15B1079) [教育強化] [教育主] [教育副] 米田　俊彦	Ⅳ 通年 教育科学コース 4.0単位	教育委員会制度の戦後史と現状をテーマとし、文献や資料の読み合わせを行う。教育委員会制度そのものと、教育委員会が設置、運営する学校や社会教育機関なども視野に入れる。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
学校社会学演習 (15B1081) [教育強化] [教育主] [教育副] [社会主] 耳塚　寛明	Ⅲ ～ Ⅳ 通年 教育科学コース 4.0単位	この授業では「学校文化の社会学」をテーマに、学校をめぐる教育社会学の諸理論と先行研究を学習する。前期は藤田英典・志水宏吉編『変動社会のなかの教育・知識・権力』を、後期は広田照幸監修『リーディングス日本の教育と社会』の中から、第2巻（受験社会・受験競争）、第13巻（教育の不平等）、第16巻（ジェンダーと教育）を中心に講読する予定である。１年の授業を通じて、学校をめぐる社会学的理論と研究方法を取得することが最終目標である。
民族誌学演習 (15B1083) [教育強化] [教育主] [教育副] [社会主] 棚橋　訓	Ⅲ ～ Ⅳ 通年 教育科学コース 4.0単位	本演習では、文化人類学の理論と方法を一層深く学び、その学んだ理論と方法を使って履修者各自が実際に「発信」するための作法の習得を目指す。具体的には、文化人類学の専門基本文献の講読を通じて、先ずは（１）文化人類学の理論と方法論に親しみ、次いで（２）資料を収集し分析する手法と（３）発表と議論の技能の習得を試みる。そして、（４）自らリサーチして書く能力の開発・実践・洗練を目指す。文化人類学は、フィールドワーク（臨地調査）での対話・観察・体験に根ざし、人々の日常的な相互行為の現場や、日常と非日常がせめぎ合う現場における人間現象の多様性を捉えることからその作業が始まる。こうした文化人類学の方法の特性をより良く理解するために、本年度前期は「わざ・身体・学習の人類学」を、後期は「公共人類学」を扱いたい。
教育方法学演習 (15B1086) [教育強化] [教育主] [教育副] 冨士原　紀絵	Ⅲ ～ Ⅳ 通年 教育科学コース 4.0単位	初等・中等教育段階の学校の「授業」を規定する様々な要素（教師、学級、学校経営、教材と教具など）を多角的に検討し、よりよい授業とは何か、それを支える条件とは何かを追求する。
教育開発演習 (15B1089) [教育強化] [教育主] [教育副] 浜野　隆	Ⅲ ～ Ⅳ 通年 教育科学コース 4.0単位	先進国と発展途上国、グローバリゼーション、教育開発の理論、国際機関の役割、途上国の教育の現状と課題、教育開発のための国際協力を学ぶ。特に、「すべての子どもが学校へ行けるように」「すべての人々が教育を受けられるように」することを目指すEFA（Education For All)運動の動向、発展途上国における教育の現状、国際協力の課題などについて考える。また、英語文献の翻訳を通じて、教育開発の実践に通用する英語力の習得を目指す。
社会教育学演習 (15B1095) [教育強化] [教育主] [教育副] 児美川　孝一郎	Ⅲ ～ Ⅳ 通年 教育科学コース 4.0単位	生涯学習・社会教育の実践（青少年事業・公民館事業・保健師の活動・教員の授業研究など）の実践記録を読みあい、実践の背後にあるおとなの学びの理論、実践の省察論を検討する。後半（夏季集中）には施設・事業を訪問し、質的調査に関わりゼミ論にまとめる。
社会教育計画Ⅱ (15B1099) [教育強化] 西原　亜矢子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 教育科学コース 2.0単位	社会教育計画とは、第1に、地方自治体が立案・作成する行政上の計画（事業計画，施設計画，人事・財政計画）ととらえられる。計画策定は、社会教育（生涯学習推進）政策、地域の現状・課題の把握、地域住民の学習ニーズを統合しながら、長期～単年度の計画を策定・実施し、評価するまでを含む。第２に、住民の学習ニーズに基づきながら、学習事業（プログラム）を立案・実施することである。近年では、市民活動団体（NPO）などが学習活動を企画・運営し、行政はそれを援助する場合も多い。本授業では、第２に焦点をあて、社会教育事業を担当した職員による実践記録と当該事業の資料、関連文献を読み併せながら、住民の主体的な学習活動を支える条件整備と職員の役割について検討する。授業内では、グループでの学習・発表を通じて、他者と学習を支え合うことを体験しながら、社会教育（実践）の理解につなげていく。
社会教育特講Ⅱ (15B1101) [教育強化] 坪田　秀子\015\012池田　和嘉子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 女性とライフキャリア 2.0単位	「女性とライフキャリア～働くこと・生涯学習」について講義と意見交換・発表を行う。 グローバル化が進む中、ダイバーシティや女性活用推進もグローバルな視点抜きでは語れない。働く女性をめぐる日本の現状や課題を明らかにしながら、企業や組織で「個」を活かすキャリア形成、そのために必要なコミュニケーション力を実践を通じて学ぶ。また、働き方が多様化している今、ワークライフバランスや生涯学習などについて、日本と外国の事例を比較検討し、将来展望を考える。 テーマに沿ったロールモデルのゲスト・レクチャーも予定。
教育実地研究 (15B1106) [教育主] 冨士原　紀絵	Ⅰ 通年 教育科学コース 2.0単位	教育に関する諸施設の参加観察を行い、多様な教育の実態を理解し、教育に対する知見を実践的に深めることを目的とする。
教育科学研究指導Ⅰ (15B1108) [教育主] 池田　全之\015\012教育全教員	Ⅲ 通不定期 教育科学コース 1.0単位	4年次の卒業論文執筆に向けて、テーマや内容を絞っていくための合同指導と合同ゼミを行う。教育科学プログラムで卒業論文執筆を計画する3年生は必ず履修すること。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
教育科学研究指導Ⅱ (15B1109) [教育主] 浜野　隆\015\012教育全教員	Ⅳ 通不定期 教育科学コース 1.0単位	4年次生を対象に、卒業論文作成に向けて基本的技法の習得を目指す。具体的には、テーマ設定、資料収集とその読み、そしてそれを論理的に論文化していく手続きを指導する。教育科学コース必修科目である。
社会教育課題研究Ⅰ (15B1185) 秦野　玲子	Ⅲ 通不定期 教育科学コース 2.0単位	
学校インターンシップ (15B1251) [教育強化] [教育副] 米田　俊彦\015\012冨士原紀絵	Ⅱ ～ Ⅳ 通不定期 教育科学コース 2.0単位	附属学校でのインターンシップを行う。授業、特別活動、部活動などの教員の日常業務を観察、体験し、学校における教育活動についての実際的、具体的理解を深める。同時に、児童、生徒への理解も深める。
博物館概論 (15B1334) [教育強化] 土谷　真紀	Ⅰ ～ Ⅲ 後期 教育科学コース 2.0単位	博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。博物館の定義、博物館学の目的・方法・構成、博物館の歴史と現状について講義により理解を図る。
教育制度演習 (15B5601) [教育強化] [教育主] [教育副] 米田　俊彦	Ⅲ 通年 教育科学コース 4.0単位	教育委員会制度の戦後史と現状をテーマとし、文献や資料の読み合わせを行う。教育委員会制度そのものと、教育委員会が設置、運営する学校や社会教育機関なども視野に入れる。
教育思想概論(1) (15B5603) [教育強化] [教育主] [教育副] 池田　全之	Ⅰ 1学期 教育科学コース 1.0単位	この講義の主題は、さまざまな教育思想を検討することによって、教育現象を多角的に検討するための基礎を理解することにある。この講義を聴講ことによって、学生に身につけてもらいたい力は以下の三つである。1）これまで提唱されてきた代表的な教育思想のあらましを説明できる。2）「よい教育は何を目ざすのか」について自分なりに考えを発表できる。3）教育について自分の見解を論理的に説明することができる。
教育思想概論(2) (15B5605) [教育強化] [教育主] [教育副] 池田　全之	Ⅰ 2学期 教育科学コース 1.0単位	この講義の主題は、さまざまな教育思想を検討することによって、教育現象を多角的に検討するための基礎を理解することにある。この講義を聴講ことによって、学生に身につけてもらいたい力は以下の三つである。1）これまで提唱されてきた代表的な教育思想のあらましを説明できる。2）「よい教育は何を目ざすのか」について自分なりに考えを発表できる。3）教育について自分の見解を論理的に説明することができる。
教育史概論(1) (15B5607) [教育強化] [教育主] [教育副] 米田　俊彦	Ⅰ ～ Ⅳ 1学期 教育科学コース 1.0単位	教育の制度・政策や社会的文化的諸実態の史的展開を概説する。江戸時代末期から現代までの日本を主たる対象としつつ、必要に応じて欧米等の教育史にも言及する。古沢・米田編『教育史』（学文社）を教科書として使用するほか、必要な資料等は随時プリントとして配布する。
教育史概論(2) (15B5609) [教育強化] [教育主] [教育副] 米田　俊彦	Ⅰ ～ Ⅳ 2学期 教育科学コース 1.0単位	教育の制度・政策や社会的文化的諸実態の史的展開を概説する。江戸時代末期から現代までの日本を主たる対象としつつ、必要に応じて欧米等の教育史にも言及する。古沢・米田編『教育史』（学文社）を教科書として使用するほか、必要な資料等は随時プリントとして配布する。
文化人類学概論(1) (15B5615) [教育強化] [教育主] [教育副] 棚橋　訓	Ⅰ ～ Ⅳ 3学期 教育科学コース 1.0単位	フィールドワーク（臨地調査）から得られる「人類」点と「文化の多様性」の視点に基づいて人間現象を捉える研究分野としての文化人類学について、基礎講義より数歩踏み込んで「専門性」を意識した概論の講義を行う。「文化」概念をめぐる議論をピヴォットに、文化人類学は、民族・国家・政治・経済・法・教育・学習・開発・宗教・性・身体・心理等々をめぐる現代的課題をどのように分析し、何を提言し、いかなる寄与を目論むのか。具体例に即して概論していく。幾分専門的な概念や理論を知識として身につけてもらうとともに、それらを「使って考える方法」の手がかりを得ることを目標とする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
文化人類学概論(2) (15B5617) [教育強化] [教育主] [教育副] 棚橋　訓	Ⅰ ～ Ⅳ ４学期 教育科学コース 1.0単位	フィールドワーク（臨地調査）から得られる「人類」点と「文化の多様性」の視点に基づいて人間現象を捉える研究分野としての文化人類学について、基礎講義より数歩踏み込んで「専門性」を意識した概論の講義を行う。「文化」概念をめぐる議論をピヴォットに、文化人類学は、民族・国家・政治・経済・法・教育・学習・開発・宗教・性・身体・心理等々をめぐる現代的課題をどのように分析し、何を提言し、いかなる寄与を目論むのか。具体例に即して概論していく。幾分専門的な概念や理論を知識として身につけてもらうとともに、それらを「使って考える方法」の手がかりを得ることを目標とする。
教育方法学概論(1) (15B5623) [教育強化] [教育主] [教育副] 冨士原　紀絵	Ⅱ ３学期 教育科学コース 1.0単位	国内外の教育方法に関する諸理論や実践記録の検討を通して、過去から現在に至るまでの「学校」や「授業」を規定している諸要因を学ぶ。これまで自分自身が経験することによって形成されてきた「学校教育」・「教師像」・「授業」を相対化し、柔軟に捉え直すことを目指す。
教育方法学概論(2) (15B5625) [教育強化] [教育主] [教育副] 冨士原　紀絵	Ⅱ ４学期 教育科学コース 1.0単位	国内外の教育方法に関する諸理論や実践記録の検討を通して、過去から現在に至るまでの「学校」や「授業」を規定している諸要因を学ぶ。これまで自分自身が経験することによって形成されてきた「学校教育」・「教師像」・「授業」を相対化し、柔軟に捉え直すことを目指す。
教育開発概論(1) (15B5629) [教育強化] [教育主] [教育副] 浜野　隆	Ⅰ ３学期 教育科学コース 1.0単位	教育開発とは、主に発展途上国において社会的・経済的発展のために教育を量的に拡大させたり、質的に改善させたりすることです。この授業では、教育開発の理論、国際機関の役割、発展途上国の教育の現状と課題、国際教育協力、等について学んでいきます。 近年、成長著しいアジアの教育から、様々な問題を抱えたままグローバル化に巻き込まれたアフリカ等も対象にします。また、現在発展途上にある国々を見ることは、日本の教育の発展過程の特質を振り返り、評価することにもなります。教育開発を学ぶことは、日本の教育発展を振り返る契機ともなるでしょう。
教育開発概論(2) (15B5631) [教育強化] [教育主] [教育副] 浜野　隆	Ⅰ ４学期 教育科学コース 1.0単位	教育開発とは、主に発展途上国において社会的・経済的発展のために教育を量的に拡大させたり、質的に改善させたりすることです。この授業では、女子教育や幼児教育、教育の質や職業教育など、近年の教育開発の主要トピックを取り上げ、その背景と動向、課題等について検討していきます。 近年、成長著しいアジアの教育から、様々な問題を抱えたままグローバル化に巻き込まれたアフリカ等も対象にします。また、現在発展途上にある国々を見ることは、日本の教育の発展過程の特質を振り返り、評価することにもなります。教育開発を学ぶことは、日本の教育発展を振り返る契機ともなるでしょう。
生涯学習概論(1) (15B5633) [教育強化] [教育主] [教育副] 亀田　温子	Ⅰ 後集中 教育科学コース 1.0単位	生涯学習とは、児童・青年を主な対象としてきた学校中心的な教育の発想・思想・理論、教育実践、教育システムをとらえかえすべく登場した比較的新しい概念である。したがってそこには近代化の中で構築されてきた学校や教育制度を批判的に検証する視点とともに、現代社会の状況や課題に応える実践やシステムを提案し創出していく志向性が存在している。本授業では、人間の一生（生涯）にわたる成長という長期的な時間軸と、多元化・多様化する学習の場の相互連関という社会的な横の広がりを交差させながら、具体的な実践も俯瞰しつつ、生涯学習・社会教育にかかわる理念・法律・制度と実践を支える条件について、基本的な考え方とそれらをめぐる議論を紹介し検討する。また、成人教育の思想・理論について、海外の研究蓄積からM・ノールズ（Self-Directed Learningを中心に）、J・メジロー、P・フレイレ、E・ジェルピ、および最近の諸議論（D・ショーン、レイヴ＆ヴェンガー、P・ジャーヴィス）を取りあげて論じる。
生涯学習概論(2) (15B5635) [教育強化] [教育主] [教育副] 亀田　温子	Ⅰ 後集中 教育科学コース 1.0単位	生涯学習とは、児童・青年を主な対象としてきた学校中心的な教育の発想・思想・理論、教育実践、教育システムをとらえかえすべく登場した比較的新しい概念である。したがってそこには近代化の中で構築されてきた学校や教育制度を批判的に検証する視点とともに、現代社会の状況や課題に応える実践やシステムを提案し創出していく志向性が存在している。本授業では、人間の一生（生涯）にわたる成長という長期的な時間軸と、多元化・多様化する学習の場の相互連関という社会的な横の広がりを交差させながら、具体的な実践も俯瞰しつつ、生涯学習・社会教育にかかわる理念・法律・制度と実践を支える条件について、基本的な考え方とそれらをめぐる議論を紹介し検討する。また、成人教育の思想・理論について、海外の研究蓄積からM・ノールズ（Self-Directed Learningを中心に）、J・メジロー、P・フレイレ、E・ジェルピ、および最近の諸議論（D・ショーン、レイヴ＆ヴェンガー、P・ジャーヴィス）を取りあげて論じる。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
教育方法学概論（初等） (15B5637) 冨士原　紀絵	I 後期 教育科学コース 2.0単位	
教育方法学概論（中等） (15B5639) 冨士原　紀絵	I ～ IV 未定 教育科学コース 2.0単位	

文教育学部 心理学コース

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
卒業論文 (15B0099) [心理主] 心理全教員\015\012内藤　俊史\015\012石口　彰\015\012菅原　ますみ\015\012坂元　章\015\012上原　泉\015\012大森　美香	Ⅳ 通不定期 心理学コース 8.0単位	卒業論文研究の立案、文献研究、調査・実験の実施、データ解析、論文執筆を行う。
教育心理学概論 (15B1116) [教育主] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 髙木　友子	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 心理学コース 2.0単位	主に乳幼児における教育、発達、学習についての心理学的知見を学ぶ。
社会心理学概論 (15B1117) [教育主] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 鈴木　佳苗	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 心理学コース 2.0単位	社会心理学では、社会的な状況で人がどのように考え、どのように感じ、どのように行動するのかを実証的に研究している。この授業では、「人の印象はどのように形成されるのか（個人内過程）」「人を説得するにはどのようにすればいいのか（対人・相互作用過程）」「人は集団の中で他者からどのような影響を受けているのか（集団）」、メディア利用の影響など、幅広い研究分野の理論や研究知見について概説する。
発達心理学概論 (15B1118) [教育主] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 上原　泉	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 心理学コース 2.0単位	発達心理学の基礎的な理論（ピアジェ、ヴィゴツキー、コールバーグ、エリクソン等）の概要を把握したうえで、幼少期の子どもの知覚、身体、運動、記憶、コミュニケーション、言語、社会性等の心身の発達、及び学習の過程（障がいのある子どもの内容も含む）に関する専門的な内容への理解を深めることを目的とする。子育て論、関連する養育や教育の問題についても随時触れて考察を行う。心理学コースの専門科目でもあるため、発達心理学の研究法を身につけることも目指す。
臨床心理学概論 (15B1119) [教育主] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 大森　美香	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 心理学コース 2.0単位	臨床心理学は、心理的な問題の解決や援助の方法の確立をめざした学問領域である。近年では、“こころ”の問題のみならず身体的疾患に関連する問題の解決のためにも応用されている。本授業では、 現代社会で問題としてしばしばとりあげられる、うつ、摂食障害、ストレスなど心理的な問題にふれながら、臨床心理学の全体構造、心理的な問題の形成メカニズム、心理的援助の方法について理解を深めることを目的としている
認知心理学概論 (15B1120) [教育主] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 石口　彰	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 心理学コース 2.0単位	人間の認知情報処理過程(パターン認知、注意、学習・記憶、推論・問題解決など）に関して、神経生理学、計算理論、行動科学的側面から平易に解説する．また、簡単なデモンストレーションを通して、人間の認知的特性を体験的に学ぶ。
心理学基礎演習（応用） (15B1124) [心理主] 田中　麻未	Ⅱ 後期 心理学コース 2.0単位	心理学の諸領域の基礎や研究についての専門書（英文）を講読する。英文講読の仕方，専門用語の理解，レジュメの作成法，プレゼンテーションやゼミでの討論の仕方を習得することを目標とする。
心理学基礎実験演習Ⅱ (15B1126) [心理主] 心理学コース全教員\015\012上原　泉\015\012大森　美香\015\012内藤　俊史\015\012石口　彰\015\012菅原　ますみ\015\012坂元　章	Ⅱ 後期 心理学コース 2.0単位	心理学基礎実験演習Ⅰとともに、教育心理学、社会心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学、認知心理学における心理測定・実験・調査の基本技術の習得を目的とする。5個程度の種目それぞれについて、心理検査・実験・調査の実習を行う。各種目において、受講者それぞれが実験者や被験者の立場をとりながらデータを収集し、実験レポートをまとめる。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
教育心理学演習（応用） (15B1148) [心理強化] [心理主] 内藤　俊史	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 心理学コース 2.0単位	研究計画を作成し、教育心理学における研究の計画、実施、データ分析の手順について学ぶ。
教育心理学演習（基礎） (15B1149) [心理強化] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 内藤　俊史	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 心理学コース 2.0単位	思いやり行動やその発達研究の現状と課題を理解する
社会心理学演習（応用） (15B1151) [心理強化] [心理主] 坂元　章	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 心理学コース 2.0単位	社会心理学の分野における学術論文を講読するとともに、実験や調査の実施やデータ分析を行う。
社会心理学演習（基礎） (15B1152) [心理強化] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 坂元　章	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 心理学コース 2.0単位	社会心理学の分野における基礎的な文献を講読し、社会心理学の研究知見、研究方法、論文の書き方、発表の仕方などについて学習を深める。扱う文献のリストは、授業時に配布する。
発達心理学演習（応用） (15B1154) [心理強化] [心理主] 上原　泉	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 心理学コース 2.0単位	発達心理学に関する演習を総合的に行い、発達心理学の卒業論文を書くための基礎技量を習得することを目的とする。最初に文献購読を行ったうえで、実験・調査実習と調査・実験結果の発表を通して、実験・調査を立案、実行、分析するための技能を身につける。コーディングやデータ分析演習（観察データなど含む）も行う。
発達心理学演習（基礎） (15B1155) [心理強化] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 大神　優子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 心理学コース 2.0単位	発達心理学の主要な知見について、どのような方法でその知見が得られたのか具体的な「実験」を学びながら考える。実験論文の読み方・レジュメの作り方・発表の仕方をあわせて学ぶ。最終的には、先行研究について批判的な読み方ができること、各自が関心のある発達心理学のテーマについて最新の研究動向を理解すること、また、自分の意見を他者にわかりやすく・説得的にプレゼンできるようになることを目指す。
臨床心理学演習（基礎） (15B1158) [心理強化] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 松浦　素子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 心理学コース 2.0単位	発達精神病理学、臨床心理学に関する文献を講読し、不適応的な心理や行動の出現や出発について理解や考察を深めることを目的とする。同時に、上記の領域における実証研究を読み解き、データ解析への理解を深め、批評的に考え、プレゼンテーションやライティングを通して自らの考えを発信する力を養う。
認知心理学演習（応用） (15B1160) [心理強化] [心理主] 石口　彰	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 心理学コース 2.0単位	プログラミングソフトを利用して、論理的な思考力を鍛えるとともに、基本的な認知心理学実験の手法を習得する。
認知心理学演習（基礎） (15B1161) [心理強化] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 石口　彰	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 心理学コース 2.0単位	認知心理学の日本語テキスト用い、認知心理学の主要なテーマ「視覚」「記憶」「言語」「思考」等それぞれについて、その内容及び関連情報をコンピュータプレゼン形式で発表する。また、授業では毎回、個々の領域に関する予習課題、復習課題がホームワークとして課されるが、このホームワークの遂行と発表を通して、論理的に説明する力を養うことを目的とする。
臨床心理学研究法Ⅰ（基礎） (15B1174) [心理強化] [心理主] 大森　美香	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 心理学コース 2.0単位	臨床心理学および健康心理学の研究方法の習得・研究遂行を通して、人間行動への科学的アプローチを身につけることを目的とする。具体的には、研究テーマの選択、文献購読、研究計画の立案、データ収集および分析を行い、論文（卒業論文）を執筆する。実証方法のみにとどまらず、効果的なプレゼンテーションや論理的なライティングの習得も目標とする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
臨床心理学研究法Ⅰ（応用） (15B1175) [心理強化] [心理主] 大森　美香	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 心理学コース 2.0単位	臨床心理学および健康心理学の研究方法の習得・研究遂行を通して、人間行動への科学的アプローチを身につけることを目的とする。具体的には、研究テーマの選択、文献購読、研究計画の立案、データ収集および分析を行い、論文（卒業論文）を執筆する。実証方法のみにとどまらず、効果的なプレゼンテーションや論理的なライティングの習得も目標とする。
臨床心理学研究法Ⅱ（基礎） (15B1176) [心理強化] [心理主] 菅原　ますみ	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 心理学コース 2.0単位	臨床心理学、パーソナリティ心理学、発達精神病理学の研究法について学び、各自の研究テーマに関する文献研究および研究計画の作成を行う。
臨床心理学研究法Ⅱ（応用） (15B1177) [心理強化] [心理主] 菅原　ますみ	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 心理学コース 2.0単位	臨床心理学、パーソナリティ心理学、発達精神病理学等に関する各自の研究を実施し、卒業論文を完成させる。
心理統計法 (15B1331) [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 内藤　まゆみ	Ⅱ 前期 心理学コース 2.0単位	心理学の研究を行う上で必須となる，統計的なデータ解析手法に関する基礎的事項について学習する。各種の統計的な記述指標や分析手法における概念，意義，性質，および実際のデータに適用する際の注意点などについて的確に理解することを目的とする。
心理学応用実験演習 (15B7500) [心理主] 心理学コース全教員\015\012大森　美香\015\012内藤　俊史\015\012石口　彰\015\012菅原　ますみ\015\012坂元　章\015\012上原　泉	Ⅲ 前期 心理学コース 2.0単位	心理学の主要領域（教育心理学、発達心理学、社会心理学、認知心理学、臨床心理学）に関する研究法の実験演習である。著名な実験や調査の英語論文の講読を通して、１）実証研究を批評的に読む、２）実験や調査の方法を学ぶ、３）研究結果を読み解く、４）個々の実証研究に対する考察を深める力を養う。
臨床心理学演習Ⅰ（応用） (15B7501) [心理強化] [心理主] 吉武　尚美	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 心理学コース 2.0単位	本コースは，臨床心理学的研究に求められる多変量解析の理解と実践を目的とする。基本的な統計用語は知っているが，それを応用する場面や解釈について十分理解していない統計中級者を対象としている。できる限り統計ソフト（ＳＰＳＳ）を用いてデータ処理や解析を行いながら，仮説や変数の性質に適した検定の選択，様々な分析手法の実施と結果の解釈，および学術論文の形式に沿った結果の記述方法について学んでいく。
臨床心理学演習Ⅱ（応用） (15B7502) [心理強化] [心理主] 菅原　ますみ\015\012大森　美香	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 心理学コース 2.0単位	発達精神病理学および臨床心理学領域において研究を立案・実施のための基礎を学ぶ。
発達心理学の展開 (15B7503) [心理強化] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 岸本　健	Ⅱ ～ Ⅲ 後期 心理学コース 2.0単位	他者と関わり集団生活を営む形に進化してきた人間。近年，社会的な存在である人間は，他者とのコミュニケーションにかかわる認知的に高度なプロセスも，自動的に行っていることが明らかにされている。しかしここで疑問なのは，そのような認知パターンが人間に普遍的に見られるのか，あるいは生まれ育つ文化によって異なるのか，ということである。本授業では，人間の発達と進化と文化の両観点から捉えることにより，ヒトとはどのような存在なのかという問いに迫る。
認知心理学の展開 (15B7504) [心理強化] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 池田　まさみ	Ⅱ ～ Ⅲ 前期 心理学コース 2.0単位	人間の高次認知機能のひとつである「思考」を中心に、そのメカニズムに関する理論やモデルを平易に解説する。授業では簡易実験や演習を行うことで、実際に「考える」体験を通して理解を深めることに努める。
社会心理学の展開 (15B7506) [心理強化] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 坂元　章	Ⅱ ～ Ⅲ 後期 心理学コース 2.0単位	この授業では、講義と演習を通じて、社会心理学やメディア心理学について学習する。プレゼンテーションのトレーニングも行われる。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
教育心理学特殊講義 （15B7510） [心理強化] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 内藤　俊史\015\012長谷川　真里	II ～ IV 後期 心理学コース 2.0単位	道徳性の発達と道徳教育について、これまでに提案されてきた理論等を解説する。前半は、20世紀以降の道徳判断の歴史を概観し、後半は現代のいくつかのトピックスについて解説する。
臨床心理学特殊講義 （15B7512） [心理強化] [心理主] [心理副A（人社学生用）] [心理副B（人社以外学生用] 松本　聡子	II ～ IV 後期 心理学コース 2.0単位	【授業のテーマ】　家族関係と精神病理の発達 【授業の到達目標】 以下の3点の修得を目標とする： ①ライフスパンでの人間発達と家族関係との関連性についての基礎的理解 ②代表的な精神病理の概要と形成メカニズムに関する基礎的事項 ③ 家族関係に関するダイナミックな視点 【授業の概要と方法】 生涯にわたる人間の心理的発達を踏まえ、個人の精神病理の発現と家族関係とのかかわりについて論じる。受講生に対しては、発達心理学概論および臨床心理概論を履修していることを期待するが、初学者がいる場合には適宜基本的事項を補足しながら進めていく予定である。テーマごとに受講者間での討論をおこなう。
発達心理学研究法（基礎） （15B7513） [心理強化] [心理主] 上原　泉	IV 前期 心理学コース 2.0単位	発達心理学の卒業論文執筆に必要な、知識、研究手法（実験、調査、観察、質問紙法）、基礎技術の獲得を目指す。
認知心理学研究法（基礎） （15B7514） [心理強化] [心理主] 石口　彰	IV 前期 心理学コース 2.0単位	認知心理学に関連する最新の研究を紹介し、方法論を含めて、討論する。また、実験用のコンピュータソフトの使い方を習得する。
教育心理学研究法（基礎） （15B7515） [心理強化] [心理主] 内藤　俊史	IV 前期 心理学コース 2.0単位	教育心理学の具体的な研究方法を習得することを目的とする。卒業論文を提出する学生を中心にして、研究テーマの決め方、文献検索、調査実験計画のたて方について、討論形式で授業を進め、それらについて習得するこちを目標とする。
社会心理学研究法（基礎） （15B7516） [心理強化] [心理主] 坂元　章	IV 前期 心理学コース 2.0単位	社会心理学研究法（応用）とともに、社会心理学の研究論文を読み、実際に研究を計画、実施し、その成果を論文にまとめることを通して、社会心理学の研究法を習得する。履修には、社会心理学やデータ分析についての基本的な知識が必要である。
発達心理学研究法（応用） （15B7517） [心理強化] [心理主] 上原　泉	IV 後期 心理学コース 2.0単位	卒業論文の執筆に必要な技術を獲得し、卒業論文の完成を目指す。研究手法、分析技術、論文執筆、発表要領を身につける。
認知心理学研究法（応用） （15B7518） [心理強化] [心理主] 石口　彰	IV 後不定期 心理学コース 2.0単位	認知心理学に関連する最新の研究を紹介し、方法論を含めて、討論する。また、研究法（基礎）を履修済みの場合、それを踏まえて、発展的成果を上げる。効果的なプレゼンテーションの方法も学ぶ。
教育心理学研究法（応用） （15B7519） [心理強化] [心理主] 内藤　俊史	IV 後期 心理学コース 2.0単位	教育心理学の具体的な研究方法を習得することを目的とする。卒業論文を提出する学生を中心にして、研究テーマの決め方、文献検索、調査実験計画のたて方について、討論形式で授業を進め、それらについて習得することを目標とする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
社会心理学研究法（応用） (15B7520) [心理強化] [心理主] 坂元　章	Ⅳ 後期 心理学コース 2.0単位	社会心理学研究法（基礎）とともに、社会心理学の研究論文を読み、実際に研究を計画、実施し、その成果を論文にまとめることを通して、社会心理学の研究法を習得する。履修には、社会心理学やデータ分析についての基本的な知識が必要である。
心理学基礎実験演習Ⅰ(1) (15B7522) [心理主] 心理学コース全教員\015\012上原　泉\015\012内藤　俊史\015\012石口　彰\015\012菅原　ますみ\015\012坂元　章\015\012大森　美香	Ⅱ 1学期 心理学コース 1.0単位	教育心理学、社会心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学、認知心理学における心理測定・実験・調査の基本技術の習得を目的とする。3,4個程度の種目それぞれについて、心理検査・実験・調査の実習を行う。各種目において、受講者それぞれが実験者や被験者の立場をとりながらデータを収集し、実験レポートをまとめる。
心理学基礎実験演習Ⅰ(2) (15B7524) [心理主] 心理学コース全教員\015\012上原　泉\015\012内藤　俊史\015\012石口　彰\015\012菅原　ますみ\015\012坂元　章\015\012大森　美香	Ⅱ 2学期 心理学コース 1.0単位	教育心理学、社会心理学、発達心理学、パーソナリティ心理学、臨床心理学、認知心理学における心理測定・実験・調査の基本技術の習得を目的とする。3,4個程度の種目それぞれについて、心理検査・実験・調査の実習を行う。各種目において、受講者それぞれが実験者や被験者の立場をとりながらデータを収集し、実験レポートをまとめる。
心理学基礎演習（理論）(1) (15B7526) [心理主] 菅原　ますみ\015\012大森　美香	Ⅱ 1学期 心理学コース 1.0単位	心理学に関する幅広い知識と人間にかかわる事象について論理的・分析的に考える力を習得することを目的とする。具体的には、心理学の諸領域（認知、発達、教育、社会、臨床）の基礎的文献の購読を行う。受講生のプレゼンテーションと討論を中心に授業を進める。
心理学基礎演習（理論）(2) (15B7528) [心理主] 菅原　ますみ\015\012大森　美香	Ⅱ 2学期 心理学コース 1.0単位	心理学に関する幅広い知識と人間にかかわる事象について論理的・分析的に考える力を習得することを目的とする。具体的には、心理学の諸領域（認知、発達、教育、社会、臨床）の基礎的文献の購読を行う。受講生のプレゼンテーションと討論を中心に授業を進める。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
卒業論文 (15B0100) 舞踊全教員	Ⅳ 通不定期 舞踊教育学コース 8.0単位	これまで学習してきたことを元に、自らの興味・関心の深い分野において研究を行い、その成果を論文としてまとめる。
舞踊芸術学 (15B1506) [舞踊副] 酒向　治子	Ⅱ 前集中 舞踊教育学コース 2.0単位	舞踊を歴史的に概観し、その身体文化である舞踊を理論的に学び、上演芸術としての舞踊と対応させながら社会に開かれた身体について考察できるようにする。また、上演芸術としての舞踊作品をいくつか取り上げ、その作家の舞踊思想と作品の特徴を考察する。
民族舞踊学 (15B1507) [舞踊副] 中村　美奈子	Ⅱ 後期 舞踊教育学コース 2.0単位	日本と東南アジア地域の舞踊を取り上げ、その文化、社会的な背景についての認識を、文献購読等により高める。併せて、映像資料などを通して、舞踊の鑑賞、舞踊動作分析の方法についても学ぶ。
スポーツ人間学 (15B1510) [舞踊副] 新名　謙二	Ⅱ 前期 舞踊教育学コース 2.0単位	人間とスポーツとのかかわりあいについて、社会学・経済学の視点から分析します。社会学の視点からはスポーツの功罪について、経済学の視点からは公共部門によるスポーツへの支援の必要性について分析します。また、スポーツ政策に関連してスポーツマネジメントについても取り扱います。
体育原理 (15B1511) [舞踊副] 坂本　拓弥	Ⅱ 後集中 舞踊教育学コース 2.0単位	体育学の専門用語の理解を通して、体育・スポーツの教育的意義、運動文化財としてのスポーツや舞踊の機能・役割について論議できるよう自身の観点を形成できることが目的である。
動作学 (15B1512) [舞踊副] 水村　真由美	Ⅱ 前期 舞踊教育学コース 2.0単位	我々の身体の動きには、無意識に行うものと意識的に行うものの大きく２種類に分けることができる。動作学では、こうした人間の動きを身体の中の機能（生理学）および表出された動作の力学的メカニズム（バイオメカニクス）から定量的に記述するための身体運動のしくみを概説し、人間のが行う動きを多角的に解析するための基礎的な知識を身につけることを目的とする
モダンダンス・テクニック（初級） (15B1513) 専任教員（未定）	Ⅰ 前期 舞踊教育学コース 1.0単位	正しい身体の使い方を理解し、モダンダンスの基礎的技能を習得する。
モダンダンス・テクニック（中級）Ⅱ (15B1516) 能美　健志	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 舞踊教育学コース 1.0単位	身体構造の理解とダンスクラッシックの基礎と応用を学び、動きの初動、連動、ダイナミズム、体重移動を 修得すると共に、複雑な動きに対応できる柔軟性と強い身体を作る。
舞踊創作法実習（舞踊構成法） (15B1518) 非常勤講師	Ⅱ 後期 舞踊教育学コース 1.0単位	舞踊の時間的、空間的構成法について学習し、群舞構成からなる作品創作を行う。
舞踊創作法実習（即興創作） (15B1519) 専任教員（未定）	Ⅰ 後期 舞踊教育学コース 1.0単位	舞踊創作の基本的段階に視点をおき、動きと音楽、リズム、動きとイメージを課題とした即興表現や作品創作を通じて、舞踊創作の方法を探る。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
舞踊創作法実習（舞踊上演･制作） (15B1520) 猪崎　弥生	Ⅲ 後期 舞踊教育学コース 2.0単位	舞踊上演に関する諸演出（音楽・美術・照明）と舞台制作について実習し、舞台での作品上演を行う。授業の前半は、1，2年で学習した即興、構成と課題などの復習を行い、その後実際の作品創作に取りかかる。創作のプロセスにおいて、リーダーシップを発揮しているか、意見を出しあっているかなどの授業態度の評価を行う。最終的には、クラス内発表において、ディスカッションを行い、舞台上演に向けた課題を導き出す。
舞踊教育法実習（中等教育） (15B1522) [舞踊副] 宮本　乙女	Ⅲ 前期 舞踊教育学コース 1.0単位	学校教育におけるダンス授業の指導法に焦点を当て、生徒の心身の発達に合わせたダンス授業の指導内容と方法について、実践を通じて理解する。具体的には、学習指導要領に基づいたダンス授業の基本的な単元計画のあり方や指導方法、評価方法について学習する。また、ダンス指導に必要な指導言語、伴奏楽器の使い方、音楽の選択、板書の工夫などについても学習する。
舞踊上演法実習(中級) (15B1527) 専任教員（未定）	Ⅰ ～ Ⅲ 前期 舞踊教育学コース 1.0単位	モダンダンスの基礎的・基本的技術を生かしながら、応用的表現技術を習得する。最終的には作品創作と舞台上演を行う。
舞踊・運動科学研究法入門 (15B1532) [舞踊副] 舞踊全教員	Ⅱ 後期 舞踊教育学コース 2.0単位	卒業研究に向けての研究法の手引きである。舞踊教育学コースの全教員が担当し、舞踊及び運動科学の領域における研究法について、それぞれの専門の立場から解説する。
舞踊芸術学実験演習 (15B1533) [舞踊副] 猪崎　弥生	Ⅲ 前期 舞踊教育学コース 2.0単位	舞踊学における研究方法への理解を深め、舞踊作品分析、舞踊評論における作品の評価、作家の言説分析を課題研究として行う。それぞれの方法を用いた課題研究では、考察の深まりを評価する。最終課題として、これまで行ってきた研究方法を用いて著名な舞踊作品を取り上げ、その分析と考察を行い、レポートにまとめる。
民族舞踊学実験演習 (15B1534) [舞踊副] 中村　美奈子	Ⅲ 前期 舞踊教育学コース 2.0単位	民俗芸能や舞踊研究のための野外調査法と、映像資料の作成、分析方法を、演習・実習を通して学ぶ
スポーツ人間学実験演習 (15B1537) [舞踊副] 新名　謙二	Ⅲ 前期 舞踊教育学コース 2.0単位	本演習では，下記教科書に沿って、スポーツ人間学の基礎的な概念について理解を深めることを目的とします。教科書の指定された章について担当者１名と代表質問者１名ずつを決め，発表者の説明に基づいて質疑応答を行います。質疑には代表質問者を中心に全員が参加します。担当者はテキストを単に要約するだけでなく、他の資料も参照して担当部分について十分に理解しておくことが要求されます。 最終レポートでは、学習したことをもとに、具体的な研究計画を作成し提出することになります。
動作学実験演習 (15B1538) [舞踊副] 水村　真由美	Ⅲ 前期 舞踊教育学コース 2.0単位	本演習では、人間の身体の動きを解析するための力学的・生理学的手法を、その手法の原理から手法を活用するための技術に至るまでを、全般にわたって学ぶ。授業は、動作解析や運動中の各種生理応答を調査・解析する実験実習と、動作学に関連する研究論文（英文）抄読の2つを中心に進める。
陸上競技 (15B1540) 沼澤　秀雄	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 舞踊教育学コース 1.0単位	人間の動きは走る・投げる・跳ぶなど陸上競技の動作が基本になっている。子供たちに身体の基本的な動きやスポーツの基礎となる良い動きを習得させるために、陸上競技の動きづくりについて学ぶ。そして自ら身体を動かすことで経験的、体験的に陸上競技に触れ、体を動かすことの楽しさを感じとる。また、陸上競技の様々な種目について、指導法のポイントをつかみ、教育現場に生かせるようにすることを目標とする。
バレエ実習 (15B1549) 安達　悦子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 舞踊教育学コース 1.0単位	クラシック・バレエのクラスレッスンを通して、 芸術性、身体能力、個性、音楽性、テクニック、コントロール コーディネーションなどを向上させることが目標である。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
舞踊音楽構成法 (15B1551) 石渕　聡	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 舞踊教育学コース 1.0単位	舞踊を創作する視点から、音楽及び音響的な側面を考える。一方では「舞踊の中で音楽はどのようにあるのか」という理論的概念的な思考訓練を行う。他方、実習的な内容としてはMDやパソコンを使用した音楽編集の技術も習得する。最終的には各人が、自分の舞踊音楽の作品を作るところまで達成したい。
解剖学 (15B1553) [舞踊副] 水村　真由美	Ⅱ 前期 舞踊教育学コース 2.0単位	人間の身体は、骨格、筋肉、さまざまな臓器および組織によって構成されている。それらの機能を学びながら、運動中にそれらの諸機能がどう関わりあうかを、具体的な例を絡めて学ぶ。運動に関わる学問を行うための解剖学的基礎知識を習得することを目的とする。
生理学（運動生理学を含む） (15B1554) [舞踊副] 水村　真由美	Ⅱ 後期 舞踊教育学コース 2.0単位	我々が行う運動の多くは、運動を行おうとする意志と、それによって発現する筋収縮によって成立する。運動の中には、意志とは無関係に行われるものもある。人間が運動を行う際の生理学的メカニズムに関して、主に神経系および呼吸循環器系機能から学ぶ。
病理学 (15B1558) 渡辺　博	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 舞踊教育学コース 2.0単位	この講義では小児の疾患を中心に取り上げる。代表的な疾病に関し、そのメカニズムを理解するとともに、それを通じて身体の生理的機能に関しても理解を深めることを第一の目標とする。方法論としては古典的な病理学に止まらず、分子生物学、生理学、薬理学など広範な視点から疾患を捉えるようにする。
学校安全と救急看護 (15B1559) 増島　篤	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 舞踊教育学コース 2.0単位	スポーツの現場で起こる怪我（スポーツ外傷・障害）について解説する。 スポーツ外傷・障害の予防、現場での応急処置について解説する。 以上から、スポーツ指導者として最低限必要とすべき「現場でのスポーツ医学」の修得を目標とする。
舞踊学特殊講義 (15B1560) [舞踊副] 中村　美奈子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 舞踊教育学コース 2.0単位	舞踊記譜法（身体運動記譜法）のひとつである、ルドルフ・ラバンの考案した「Labanotation」の初級理論を実際に身体を動かしながら習得する。身体運動の記述・分析ツールとしてのLabanotationの記号体系の習得に重点をおく。ラバンの他の身体運動理論（Laban Movement Analysis, Effort-Shapeなど）や思想については授業では扱わない。
舞踊・運動科学研究法演習 (15B1565) 舞踊全教員	Ⅲ 後不定期 舞踊教育学コース 2.0単位	卒業論文作成に向けての演習の授業である。受講者は卒業論文の指導を希望する教員から研究法の指導を受けるとともに、関連文献の講読や予備調査・実験等の実施を通じて卒業論文作成に必要な能力を獲得していくことを目標とする。
舞踊学概論 (15B1568) [舞踊副] 中村　美奈子	Ⅰ 後期 舞踊教育学コース 2.0単位	人間の存在を表現する舞踊は、その根源を人間の身体的・精神的・情緒的な構造にもっている。本講義では、各時代の舞踊と人間の関わりを中心に、様々な民族の舞踊を取り上げることによって、人間にとっての舞踊の意義を多面的にとらえることを目標とする。
臨床舞踊論 (15B1569) [舞踊副] 専任教員（未定）	Ⅱ 後期 舞踊教育学コース 2.0単位	人間の原初的な表現行為である身体表現を基盤に，より高次の精神・身体活動である舞踊の構造・機能を社会的・文化的文脈から論じる。具体的には、「身体」「感情」「表現」「創造性」「場」「コミュニケーション」などをキーワードに舞踊と人間の関わりを論じ、更に、それぞれの臨床場面（学校・病院・地域・スタジオなど）に関わる具体的な事例について、その舞踊活動の内容と方法、及び、その有効性と問題点をとりあげ、それぞれの臨床場面における舞踊活動の意義を考察する。このように、本講義では舞踊と人間の関わりを理論的に論じ、且つ、その実践の概説を通して、舞踊を人間の存在の観点から見つめることを目指している。
臨床舞踊論実験演習 (15B1570) [舞踊副] 専任教員（未定）	Ⅲ 前期 舞踊教育学コース 2.0単位	臨床の現場（学校・病院・地域・スタジオなど）での舞踊の活動の観察、映像による観察、ならびに創造的芸術体験としての舞踊の活動に関する内外の文献の講読を通して，それぞれの臨床場面における舞踊活動の意義を具体的に捉え、考察する。その過程で臨床の現場での舞踊活動を巡る諸課題について、実践的、科学的、哲学的に研究する様々な手法を学び，その上で，各自が課題を設定し，その課題の解決にふさわしい研究方法によって，レポートを作成し発表する。そして，その課題の設定，研究方法の妥当性，研究結果について議論し，そこからまた，臨床の現場での舞踊活動研究の課題を発見する。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
スポーツ人間学(1) (15B1578) [舞踊副] 新名　謙二	II 1学期 舞踊教育学コース 1.0単位	人間とスポーツとのかかわりあいについて、社会学・経済学の視点から分析します。社会学の視点からはスポーツの功罪について、経済学の視点からは公共部門によるスポーツへの支援の必要性について分析します。また、スポーツ政策に関連してスポーツマネジメントについても取り扱います。
スポーツ人間学(2) (15B1580) [舞踊副] 新名　謙二	II 2学期 舞踊教育学コース 1.0単位	人間とスポーツとのかかわりあいについて、社会学・経済学の視点から分析します。社会学の視点からはスポーツの功罪について、経済学の視点からは公共部門によるスポーツへの支援の必要性について分析します。また、スポーツ政策に関連してスポーツマネジメントについても取り扱います。
動作学(1) (15B1586) [舞踊副] 水村　真由美	II 1学期 舞踊教育学コース 1.0単位	
動作学(2) (15B1588) [舞踊副] 水村　真由美	II 2学期 舞踊教育学コース 1.0単位	
表現行動論II (15B8101) [グロ文学際] [グロ文主] [舞踊副] 新名　謙二	I 後期 舞踊教育学コース 2.0単位	『見るスポーツ』に焦点を当て、表現行動としてのスポーツの特徴を説明します。前半では主に過去の『見るスポーツ』的な活動を紹介し、スポーツの支え手が何を目的とし、どのような演出によって感動や興奮を引き起こしてきたかという観点から説明を行います。後半では現代の『見るスポーツ』に注目し、商業化やグローバル化の観点から説明を行います。
民族舞踊実習（基礎） (15B8103) [舞踊副] 中村　美奈子	I 後期 舞踊教育学コース 1.0単位	
体つくり運動・武道 (15B8124) 宮本　乙女	I ～ IV 前集中 舞踊教育学コース 1.0単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
ソルフェージュ (15B1600) 井上　登喜子	Ⅰ 前期 音楽表現コース 2.0単位	音楽家を志す学生、または将来音楽に専門的に関わっていきたい学生のための音楽基礎形成。狭義の「ソルフェージュ」（視唱と聴音を中心とする基礎訓練）ではなく、音楽の実践に必要な総合的能力の育成を目的とする。 洋の東西を問わず、さまざまな地域、時代、様式、ジャンルの音楽（音楽作品）を素材にしながら授業を進める。音程やリズム、音楽の構造や形式、音楽の表情を耳で捉えること、様々な音楽の様式についての感覚を養うことを通して、音楽基礎能力を総合的に向上させる。
ピアノⅢ (15B1615) 小坂　圭太	Ⅲ 通不定期 音楽表現コース 4.0単位	ピアノⅠ演習、Ⅱを既に履修した者を主対象とする。古典から現代に至るピアノ作品を数多く研究する。個人レッスン。
ピアノⅣ (15B1616) 小坂　圭太	Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 4.0単位	ピアノⅠ演習、Ⅱ、Ⅲを既に履修した者を主対象とする。音楽史上の各様式のピアノ作品を研究、発展させる。高度に専門性の高いピアノ演奏技術を習得しようとする者を対象とする。卒業演奏をおこなうこと。個人レッスン。（ピアノ演奏学卒業予定者必修）
声楽Ⅲ (15B1618) 栗林　朋子	Ⅲ 通年 音楽表現コース 4.0単位	声楽Ⅰ、声楽Ⅱで学んだことを基礎に、より表現豊かな演奏の研究。個人レッスン。
声楽Ⅳ (15B1619) 栗林　朋子	Ⅳ 通年 音楽表現コース 4.0単位	古典、ロマン派声楽作品（宗教曲を含む）の研究。及び、ホールにおける演奏法研究。声楽Ⅰ、声楽Ⅱ、声楽Ⅲで学んだことをより発展・充実させ、演奏の向上と完成をめざす。卒業演奏をおこなうこと。個人レッスン。（声楽演奏学卒業予定者必修）
音楽形式論 (15B1689) [音楽副] 井上　登喜子	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 音楽表現コース 2.0単位	バロック期からロマン派までのヨーロッパ音楽における主要な曲種と形式について、その形態の歴史的変化を各時代の音楽様式との関わりの中で考察する。それを通じて、音楽形式の理解、ならびに音楽の諸時代様式を把握することを目的とする。
指揮法 (15B1690) 永原　恵三	Ⅱ ～ Ⅳ 前不定期 音楽表現コース 2.0単位	合唱や合奏など、音楽指導の際に必要な指揮の基本をマスターする。 指揮者の役割とは何かを考え、演奏する側からの指揮の見方も理解する。
民族音楽学 (15B1714) [音楽副] 永原　恵三	Ⅱ ～ Ⅳ 3学期 音楽表現コース 2.0単位	世界の諸民族の音楽について、単なる知識のカタログになるのではなく、それぞれの音楽に関する様々な考え方、捉え方を理解し、文化的な基盤も合わせて考察する。教科書としては、徳丸吉彦『民族音楽学』を用いるが、他にも日本語と英語の文献を使用する。
卒業演奏研究 (15B1759) 小坂　圭太\015\012栗林　朋子	Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 2.0単位	公開の演奏における演奏上の効果、tone color、sound effectsなど、大ホールにおける実践の重要性と発見について考える。広い空間を使用する演習授業であり、舞台での経験が新しい発見を生む。（演奏学専攻卒業生予定者は必須）
卒業研究 (15B1760) 音楽全教員	Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 8.0単位	各指導教員の下、卒業研究を行う。（今年度卒業予定者は必修）

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
比較音楽文化論演習 (15B1768) 永原　恵三	Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 4.0単位	卒業論文作成のための演習
作曲原論Ⅰ (15B1778) 山本　裕之	Ⅰ 前期 音楽表現コース 2.0単位	近代西洋音楽の理論の中でも中心的な概念であった和声の初歩を、音楽の様式と絡めながら理解する。また和声の組み立てを実践していくとともに、楽曲の簡単な和声分析を行う。
作曲原論Ⅱ (15B1779) 山本　裕之	Ⅰ 後期 音楽表現コース 2.0単位	音楽史における和声の実践例をみながら、機能和声理論を理解する。また和声の組み立てを実践していくとともに、楽曲の和声分析を行う。
西洋音楽史Ⅰ (15B1780) [音楽副] 井上　登喜子	Ⅰ 4学期 音楽表現コース 2.0単位	ヨーロッパ音楽の歴史を、古代ギリシャ・ローマならびに中世の単旋律聖歌からルネサンスのポリフォニーに至るまでの時期を中心にたどる。それにより、従来の19世紀的音楽史観を相対化するとともに、現代の様々な音楽を考える上での基本的な概念を捉えることをめざす。
西洋音楽史Ⅱ (15B1781) [音楽副] 井上　登喜子	Ⅱ 1学期 音楽表現コース 2.0単位	14世紀から16世紀までのポリフォニー音楽の発展と、17世紀のバロック音楽成立までの音楽構造の変化を中心にたどる。また、音楽と言葉の関係の移り変わりについても考察する。
日本音楽史概論 (15B1782) [音楽副] 福田　千絵	Ⅰ 後期 音楽表現コース 2.0単位	日本の主要な伝統音楽を成立順にとりあげ、その歴史と音楽の特徴を学ぶ。それと並行して、楽器、音高理論、楽譜についても考察する。講義を通じて、現行の伝統音楽の概観を把握することを目標とする。
音楽学研究法 (15B1783) [音楽副] 田崎　直美	Ⅱ 前期 音楽表現コース 2.0単位	音楽を理解する際どのような捉え方が可能なのか。この講義ではまず、19世紀ドイツで成立したとされる「音楽学」の変遷をたどりながら、「音楽」と様々な学問領域・方法論との関連性について概観する。その上で、講義では「ニューミュージコロジー」と称される批判的視点を紹介し、受講者それぞれがこれから目指す研究の方向性とその可能性について考えていく。この講義はまた、音楽学諸分野に関する外国語(英語)文献講読を通じて専門用語を日本語/英語で同時習得すること、さらに、学年末に各自が興味・関心に沿ってレポートを書き具体的作業を通した調査・研究の基本姿勢を学びとることも目的とする。
音楽学基礎演習Ⅰ (15B1784) [音楽副] 勝村　仁子	Ⅱ 前期 音楽表現コース 2.0単位	世界の多様な音楽様式を「音楽行動」という視点から理解する力を養うことを目標とする。ある音楽様式を成立させる要因として、社会や文化に規定された「音楽行動」が存在することを、音楽の演奏の伝承（学習）のありようを検討しながら確認してゆく予定。成績は、授業内に行う試験や、口頭発表の内容を評価する。
音楽学基礎演習Ⅱ (15B1785) [音楽副] 永原　恵三	Ⅱ 後期 音楽表現コース 2.0単位	世界の多様な音楽様式を「音楽行動」という視点から理解する力を養うことを目標とする。ある音楽様式を成立させる要因として、社会や文化に規定された「音楽行動」が存在することを、音楽の演奏の伝承（学習）のありようを検討しながら確認してゆく。成績は、授業内に行う試験や、口頭発表の内容を評価する。
ピアノ研究演習ＡⅠ (15B1786) 御邊　典一	Ⅱ ～ Ⅳ 後不定期 音楽表現コース 2.0単位	古典から現代に至る各様式のピアノ作品を学ぶ。より一層の技術的・音楽的向上を目指そうとするものである。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
ピアノ研究演習ＡⅡ （15B1787） 御邊　典一	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 音楽表現コース 2.0単位	ピアノ専攻以外で卒業希望の学生（音楽学主専攻で卒業演奏を行う予定の者を含む）を対象とするピアノ実技。
ピアノ研究演習ＢⅠ （15B1788） 白石　光隆	Ⅱ ～ Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 2.0単位	古典から現代に至る各様式のピアノ作品を学ぶ。より一層の技術的・音楽的向上を目指そうとするものである。 今年度のテーマ「ブラームス―重なり合う響きが伝える真意―」
ピアノ研究演習ＣⅠ （15B1790） 中川　賢一	Ⅱ ～ Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 2.0単位	古典から現代に至る各様式のピアノ作品を学ぶ。より一層の技術的・音楽的向上を目指そうとするものである。
ピアノレパートリー研究ＢⅠ （15B1794） 小坂　圭太	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 音楽表現コース 2.0単位	音楽人口の増加に伴い19世紀初頭に成立したピアノの「練習曲」は、ピアノの楽器としての性能向上、名人の輩出と楽曲の難易度の上昇などを背景に瞬く間にピアノ音楽の重要な一ジャンルとなりました。 この授業では、殆どの学習者が難易度順に辿って来たであろう「練習曲」を歴史的編年体で辿り直すと共に、それらが示唆して来たピアニズムの変遷について考察・実践します
ピアノレパートリー研究ＢⅡ （15B1795） 小坂　圭太	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 音楽表現コース 2.0単位	音楽人口の増加に伴い19世紀初頭に成立したピアノの「練習曲」は、ピアノの楽器としての性能向上、名人の輩出と楽曲の難易度の上昇などを背景に瞬く間にピアノ音楽の重要な一ジャンルとなりました。 この授業では、殆どの学習者が難易度順に辿って来たであろう「練習曲」を歴史的編年体で辿り直すと共に、それらが示唆して来たピアニズムの変遷について考察・実践します。
ピアノレパートリー研究ＣⅠ （15B1796） 小坂　圭太	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 音楽表現コース 2.0単位	音楽人口の増加に伴い19世紀初頭に成立したピアノの「練習曲」は、ピアノの楽器としての性能向上、名人の輩出と楽曲の難易度の上昇などを背景に瞬く間にピアノ音楽の重要な一ジャンルとなりました。 この授業では、殆どの学習者が難易度順に辿って来たであろう「練習曲」を歴史的編年体で辿り直すと共に、それらが示唆して来たピアニズムの変遷について考察・実践します
ピアノレパートリー研究ＣⅡ （15B1797） 小坂　圭太	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 音楽表現コース 2.0単位	音楽人口の増加に伴い19世紀初頭に成立したピアノの「練習曲」は、ピアノの楽器としての性能向上、名人の輩出と楽曲の難易度の上昇などを背景に瞬く間にピアノ音楽の重要な一ジャンルとなりました。 この授業では、殆どの学習者が難易度順に辿って来たであろう「練習曲」を歴史的編年体で辿り直すと共に、それらが示唆して来たピアニズムの変遷について考察・実践します。
ピアノ演奏法研究ＣⅠ （15B1808） 野平　多美	Ⅱ ～ Ⅳ 通年 音楽表現コース 2.0単位	自分が意図する表現内容を正しく聴衆に伝達するにはどうすればよいのか？時間の推移や形式、さらには時代様式に対する感覚を正しく演奏に反映するとはどういう事なのか？といった演奏行為に於いて常に直面する根源的な問題に対し、実践的なアプローチを行う。 受講生の纏まった楽曲演奏に対する、教員による様々なコンテクストに立脚した批評を中心に、受講者同士による合評も交え、正しい演奏様式と批評言語の習得を目指す。ピアノ専攻３年次以上の学生を主対象とする。
ピアノ合奏研究 （15B1810） 小坂　圭太	Ⅱ ～ Ⅳ 前集中 音楽表現コース 2.0単位	通常は一人で向かい合う事の多い、ピアノという楽器に複数の人間が同時に向かい合ったらどうなるのか？この素朴な疑問から出発、古今の二台のピアノの名作を、連弾（一台四手）を手始めに、学ぶ。音楽表現コース以外の学生で履修を希望するものは事前に担当教員に連絡を取ること(任意の楽曲を演奏してもらう場合があります）。
室内楽研究 （15B1811） 小坂　圭太	Ⅱ ～ Ⅳ 通年 音楽表現コース 2.0単位	ピアノという、他の楽器に比べ一人で完結してしまう場合が多い楽器を弾く者にとって、他の楽器とのアンサンブルを経験する事は非常に重要である。この講義では、本学では日常の学生生活において一般の音大に比べその様な機会が少ない事に鑑み、毎年一つずつ楽器を選び、第一線で活躍中のプロ奏者を招聘している。 今年度の招聘予定アーチストについては初回の授業でお知らせします。尚、昨年度同様、集中講義ではありませんので注意してください。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
歌曲研究ＡⅠ （15B1814） 松田　昌恵\015\012森川　栄子	Ⅲ ～ Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 2.0単位	声楽基礎で学んだことをより発展・充実させ、演奏の向上と完成をめざす。個人レッスン。
歌曲研究ＢⅠ （15B1818） 次郎丸　智希	Ⅲ ～ Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 2.0単位	前半はゲーテ、後半はシューベルトの生涯をたどりながら、 ドイツ歌曲の主要作品を、音楽と詩の両面から分析・考察。 ドイツ詩の構造や文学的背景を学び、詩の内容を読み取る力を養う。 ドイツ語を正しく発音するだけでなく、詩の内容を汲み取った朗読が出来るようにする。 これらをふまえ、ドイツ歌曲のより表現豊かな演奏を目指す。
オペラ研究ＡⅢ （15B1832） 服部　容子	Ⅱ ～ Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 2.0単位	オペラのスコアを、音楽的・演劇的・文学的・心理的に読み込み、演奏することにより、各時代や言語、作曲家によるスタイルを学ぶ。 具体的な身体表現を伴う歌唱・そしてピアノを媒体とするオーケストラの演奏法を身につける。 コレペティトゥアによる、徹底的な実践を柱とするカリキュラム。 歌手、ピアニスト、指揮者、演出家、舞台監督、制作というそれぞれの立場の義務と権利を探求する。
オペラ研究ＡⅣ （15B1833） 浜田　理恵	Ⅱ ～ Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 2.0単位	本稿では歌うという行為を通して私たちの楽器としての体を認識再確認することを主に、また外国語のディクションを正しい発音ができるかということ以上に、非日本語の歌を歌った時に日本語を母国語としている私たちの身体感覚にずれが生じるか演奏しながら覚えていただきたいと思う。 また音楽は器楽であっても基本的に子音母音の感覚を持って始めて音楽が成り立つと考えるので声楽専攻以外の学生の参加も歓迎する。
オペラ研究ＢⅢ （15B1836） 野々下　由香里	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 音楽表現コース 2.0単位	バロック時代の声楽曲を中心に、今日の記譜法とはかなり異なった原理で書かれた当時の楽譜を使用しながら、歌唱表現に必要なアーティキュレーションとフレージングを正しく認識し、時代様式に即した表現技術を習得することをめざす。 発音・共鳴・支えのバランスを考慮しながら、ヴィブラートのコントロールの仕方、音律やピッチを考えた音程のとり方、装飾や即興を反映させた演奏を指導する。 最終発表会において、聴衆を前にしてその成果を発表する。
オペラ研究ＢⅣ （15B1837） 永原　恵三	Ⅱ ～ Ⅳ 後不定期 音楽表現コース 2.0単位	オペラにおける合唱の研究。ホールにおける演奏表現について基礎を学ぶ。
演奏身体論ＡⅠ （15B1838） 白石　光隆\015\012中川　賢一\015\012中川　俊郎	Ⅱ ～ Ⅳ 前不定期 音楽表現コース 2.0単位	
演奏身体論ＡⅡ （15B1839） 白石　光隆\015\012中川　賢一\015\012中川　俊郎	Ⅱ ～ Ⅳ 後不定期 音楽表現コース 2.0単位	
演奏身体論ＢⅠ （15B1840） 飯塚　励生	Ⅱ ～ Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 2.0単位	実際の舞台におけるオペラ研究。ホールにおける演奏表現について基礎を学ぶ。
発声法研究Ａ （15B1844） 永原　恵三	Ⅱ ～ Ⅳ 後不定期 音楽表現コース 2.0単位	オペラにおける合唱の研究。ホールにおける演奏表現について基礎を学ぶ。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
声楽指導法研究Ⅰ (15B1847) 水越　美和	Ⅲ ～ Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 2.0単位	声楽と器楽との決定的な違いとして、声楽においては通常言語を伴うこと、そして演奏者自身が“楽器”となることなどが挙げられるが、その一方で、演奏する際の身体の使い勝手や息づかいなど、器楽との共通点も多くみられる。授業では、こうしたことをふまえた上で、声楽を演奏する際に必要なことがらは何か、実践を通して考えていきたい。具体的には、発声の基礎訓練を行うとともに、独・仏を中心とした外国歌曲を採り上げ、その解釈と演奏法を学んでいく。受講生どうしで演奏を発表し合い、互いに評価し合うことで、より効果的な学習法・指導法を見出していきたい。 ＜読替＞13年度生まで対象。14年度生以降は「副科声楽A」で登録すること。
音楽学概論 (15B1849) [音楽副] 永原　恵三	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 音楽表現コース 2.0単位	音楽研究の基本となる音楽学の基礎を学ぶ講義。音楽研究に必要な、音楽文化に関する概念や用語を、日本と西洋の事例を交えて説明し、音楽学の諸領域を概観する。楽譜と外国語の資料も用いる。
西洋音楽史特殊講義Ⅰ (15B1851) [音楽副] 次郎丸　智希	Ⅱ ～ Ⅳ 後不定期 音楽表現コース 2.0単位	後期ロマン派から20世紀に至る西洋音楽の歴史を、具体的に作品を分析しながらたどる。 同時に文化的・歴史的背景を合わせて学ぶ。 後期はシェーンベルク、ベルク、ヴェーベルン、メシアンを中心に講義・演習を進める。
音楽学研究演習 (15B1858) [音楽副] 井上　登喜子	Ⅲ ～ Ⅳ 通年 音楽表現コース 4.0単位	音楽学の近年の研究成果を踏まえ、さまざまな鍵概念やアプローチ方法への理解を深めるとともに、史料読解力、分析手法、議論の展開方法等を身につけることを目的とする。毎回、報告者を決めて発表してもらい、それに基づき討論する。卒業論文のテーマを設定するための基礎とする。
音楽学特殊講義Ⅰ (15B1859) [音楽副] 次郎丸　智希	Ⅱ ～ Ⅳ 前不定期 音楽表現コース 2.0単位	後期ロマン派から20世紀に至る西洋音楽の歴史を、具体的に作品を分析しながらたどる。 同時に文化的・歴史的背景を合わせて学ぶ。 　前期はヴァーグナー、ドビュッシー、ストラヴィンスキー、バルトークを中心に講義・演習を進める。
合唱演習Ⅰ (15B1861) 永原　恵三	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 音楽表現コース 2.0単位	日本および西洋のさまざまな様式や技法による合唱作品を演奏実習する。合唱行為のもつ身体的側面や社会行動面なども考察し、総合的に合唱の演奏法を研究および考察する。とくに、合唱行為における個々人の役割と全体との関係を通じ、音楽全体のなかでの合唱の意味を理解し、参加者各自が自主的に音楽をつくりあげることを目標とする。
合唱演習Ⅱ (15B1862) 永原　恵三	Ⅰ ～ Ⅱ 後不定期 音楽表現コース 2.0単位	オペラにおける合唱の研究。ホールにおける演奏表現について基礎を学ぶ。
合奏演習 (15B1863) 山本　美樹子	Ⅰ ～ Ⅳ 通年 音楽表現コース 2.0単位	弦楽器に触れながらその基本的技術及び演奏心得を学び、理解を深めます。 また、各自の専攻楽器とヴァイオリンとのアンサンブルなどもとりあげる予定です。リハーサル形式で担当者が演奏し、演奏者と聴衆双方の立場からディスカッションすることで、広い視野を持ち、音楽に主体的に取り組む姿勢を養ってほしいと考えています。
卒業論文演習 (15B1864) 永原　恵三\015\012井上　登喜子	Ⅳ 通年 音楽表現コース 4.0単位	卒業論文作成のための演習
ピアノ指導法研究(1) (15B1900) 小坂　圭太	Ⅱ ～ Ⅳ ２学期 音楽表現コース 1.0単位	所謂ピアノの「練習曲集」や「教則本」を題材に、実際に音を出すと同時に、初心者にそれらを教材として与える場合の指導の要領などについて考察する。 ＜読替＞13年度生まで対象。14年度生以降は、「副科ピアノA」で登録すること。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
ピアノ基礎 (15B1901) 小坂　圭太	Ⅰ 通年 音楽表現コース 4.0単位	基礎奏法の研究を主体としたピアノ音楽の研究。
ピアノ指導法研究(2) (15B1902) 小坂　圭太	Ⅱ ～ Ⅳ 3学期 音楽表現コース 1.0単位	所謂ピアノの「練習曲集」や「教則本」を題材に、実際に音を出すと同時に、初心者にそれらを教材として与える場合の指導の要領などについて考察する。 ＜読替＞13年度生まで対象。14年度生以降は「副科ピアノA」をとること。
声楽基礎 (15B1903) 中野　亮子	Ⅰ 通年 音楽表現コース 4.0単位	声楽基礎、呼吸法、歌唱法の講義及び演習。コンコーネ50番、古典イタリア歌曲、日本歌曲を実習する。滑らかで自然な呼吸による美しい響きの発声法体得を目標とする。
ピアノ発展A (15B1905) 小坂　圭太	Ⅱ ～ Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 4.0単位	ピアノ基礎を既に履修した者を対象とし、一層の音楽的・技術的向上をめざそうとするものである。個人レッスン。
副科ピアノA (15B1911) 小坂　圭太	Ⅱ ～ Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 2.0単位	所謂ピアノの「練習曲集」や「教則本」を題材に、実際に音を出すと同時に、初心者にそれらを教材として与える場合の指導の要領などについて考察する。 ＜読替＞14年度生以降対象。13年度生までは、「ピアノ指導法研究（１）」と「ピアノ指導法研究（２）」を登録すること。
声楽発展A (15B1917) 栗林　朋子	Ⅱ ～ Ⅳ 通年 音楽表現コース 4.0単位	声楽基礎で学んだことを基本に、より高度なテクニックと表現力を養う。
副科声楽A (15B1923) 水越　美和	Ⅱ ～ Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 2.0単位	声楽と器楽との決定的な違いとして、声楽においては通常言語を伴うこと、そして演奏者自身が“楽器”となることなどが挙げられるが、その一方で、演奏する際の身体の使い勝手や息づかいなど、器楽との共通点も多くみられる。授業では、こうしたことをふまえた上で、声楽を演奏する際に必要なことがらは何か、実践を通して考えていきたい。具体的には、発声の基礎訓練を行うとともに、独・仏を中心とした外国歌曲を採り上げ、その解釈と演奏法を学んでいく。受講生どうしで演奏を発表し合い、互いに評価し合うことで、より効果的な学習法・指導法を見出していきたい。 ＜読替＞14年度生以降対象。13年度生までは「声楽指導法研究Ⅰ」で登録すること。
ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞ・ﾐｭｰｼﾞｯｸ・ﾒｲｷﾝｸﾞ (15B1929) 白石　光隆\015\012中川　賢一\015\012中川　俊郎	Ⅱ ～ Ⅳ 通不定期 音楽表現コース 4.0単位	
音楽学概論 (15B5782) [音楽副] 永原　恵三	Ⅰ ～ Ⅳ 後不定期 音楽表現コース 2.0単位	
日本音楽演奏法 (15B8300) 八田　清隆	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 音楽表現コース 2.0単位	日本音楽の特性を箏の実技を通じて学び、音楽教育における日本音楽教育の能力向上をはかる。 ＜読替＞11年度生以降対象

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
グローバル・メディア論 (15B2004) [グロ文学際] [グロ文主] 非常勤講師	Ⅰ ～ Ⅳ 未定 グローバル文化学環 2.0単位	テーマ：グローバルメディアに関し、発展の歴史的概略を述べ、グローバリゼーションの文脈でどのような現代的展開をとげているのかを講義する。なおさまざまな領域（社会学・経済学・国際関係論・法学・情報理論など）での取り上げられ方についても言及する予定である。
グローバル化と経済 (15B2005) [グロ文学際] [グロ文主] [地理強化] 足立　眞理子	Ⅰ ～ Ⅳ １学期 グローバル文化学環 2.0単位	グローバリゼーションは一方で「恩恵」を、他方で様々な「問題」をも国境を越えて私たちの生活に波及させる。この授業では、グローバル化がどのように進展してきたのか、その推進主体やメカニズムを学び、1980年代以降急速に進んだ経済のグローバル化における新しい側面について具体的事例を用いながら理解する。新しい側面とは「情報」の観点が前面に出てきたことであり、情報のグローバルな取引は「国境」の消失あるいは無意味化を推し進める。ケーススタディとして、知的財産権をめぐる問題（HIV薬の特許、コンテンツビジネスと著作権など
グローバル・ヒストリー (15B2008) [グロ文学際] [グロ文主] [歴史強化] [歴史主] [歴史副] 三浦　徹	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	米国の大学の世界史教科書を用い、古代から現代までのエポックを扱った論文１２本をえらび、現代世界の成り立ちをグローバルな視点から考え、歴史をみる座標軸を見出す。
文化理論研究 (15B2010) [グロ文学際] [グロ文主] [地理強化] 向後　恵里子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	「文化」と聞くと、みなさんはなにを思い浮かべるでしょうか。たとえば美術館に展示された芸術品は文化財で、人気のネット動画はサブカルチャー、お米を食べないと落ち着かないのは食文化、LINEでの気軽なやり取りは若者文化で、富士山は自然遺産ではなくて世界文化遺産になりました。ことほどさように、「文化」という言葉は、人々の活動の所産や日々のいとなみそれ自体について、実に幅広く用いられます。私たちは日々呼吸をするように身近な「文化」の中に生き、気づかないままに自らその一員として再生産を行っています。また一方でいま・ここではない遠い場所、遠い時間の「文化」に心惹かれることもあるでしょう。 本講義では、こうした幅広い「文化」を考察する第一歩として、とくに表象文化・視覚文化・イメージ研究の基礎的な理論を扱います。毎回一つのテーマについて、その考え方の骨子を確認するとともに、具体的な事例のビジュアル・イメージを考察しながら学んでゆく予定です。 本講義の第一の目標は、文化を表象という視点から読み解く、表象分析への入門です。最終的な到達目標は、身近な文化を新しく見つめ直し、遠い文化と対話するための想像力の涵養にあります。主体的かつ批判的に文化を「読む」態度を育み、自身の関心を深めていってください。
クレオール文化論Ⅰ (15B2011) 尾崎　文太	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	コロンブスによる新大陸の「発見」以降、「世界」は新たな動的システムにより一体化し、かつ複雑化している。本授業では、近代以降に起きた世界的規模の人間の移動を、植民地主義、他者との接触、文化の変容などの問題と絡めながら概観してゆきたい。また講義では、そのような問題をより具体的に理解してもらうために、複数の映画作品や文学作品も紹介する予定である。
イスラム社会文化論Ⅰ (15B2013) [グロ文学際] [グロ文主] 三浦　徹	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	中東・イスラム世界のしくみについて、地理環境・宗教・家族・教育・政治・経済・法・文化・社会秩序などのテーマを取り上げ、さまざまな資料をてがかりに、他の地域との比較の観点から質疑し、その特徴を考える。
イスラム社会文化論Ⅱ (15B2014) [グロ文学際] [グロ文主] 三浦　徹	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	イスラム世界に関する論文（日本語、英語）をよみ、参考文献を調べ、報告し、討論する。2011年にはチュニジアとエジプトでの大きな政治変動（革命）が始まり、シリアでは動乱がつづいている。イスラム世界の政治・社会・文化の多様な動態から、私たちはなにを学ぶことができるだろうか。
オセアニア社会文化論Ⅰ (15B2015) [グロ文学際] [グロ文主] [地理強化] 熊谷　圭知	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	「オセアニア」という地域の特質が，伝統や固有の文化ばかりではなく，いかに外部の影響と人びとの主体的な対応による社会変容の過程によって作られているのかを，内在的に理解することが，この授業の目的です。授業は1学期に二コマ続きで行い，講義と討論から構成します。たくさんの文献を読み，優れた考察に触れることを通じて，グローバル化の中のローカルな地域のあり方について，自分の頭で考える動機とセンスを身につけてください。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
オセアニア社会文化論Ⅱ (15B2016) [グロ文学際] [グロ文主] [地理強化] 熊谷　圭知	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	オセアニア社会文化論Ⅰの後編をなす授業。独立して受講もできるが、オセアニア文化論Ⅰの履修を終えていることが望ましい。
南アジア社会文化論 (15B2021) [グロ文学際] [グロ文主] 森本　泉	Ⅰ ～ Ⅲ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	本講義の研究対象は東南アジアの経済社会である。とりわけ、経済主体（例えば、農民、労働者、都市住民、消費者、企業、政府など）に焦点を当てて論じる。一般に、経済事象を分析する方法として経済学があるが、この講義では、性急な一般化・抽象化に馴染まない地域的個性を重視し、そのための方法として、通常の経済学ではなく地域研究的なアプローチを試みる。地域研究という方法の詳しい説明は講義に譲るとして、ここではさしあたり、地域という具体的な文脈のなかで対象を理解することだと言っておこう。あるいは、地域という文脈のなかでディシプリン（ここでは経済学）を相対化することと言ってもよい。 　本講義の目標は、東南アジアという地域を事例として、異文化の経済社会を理解するための方法を身につけることである。
多文化間交流論 (15B2024) [グロ文学際] [グロ文主] 加賀美　常美代	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	異文化間コミュニケーション理論と関連する話題を取り上げ、日本人学生と留学生が同じクラスでグローバル社会における多様な問題について討論を行う参加型授業である。①相手を知る、②相手とかかわる、③共に行動する 、上記の3つを実践しながら、お互いのコミュニケーション形式や多様な価値観を理解すると共に、相互理解を深めることを目標とする。(日本事情ⅣＡと同一内容)
言語と文化 (15B2025) [グロ文学際] [グロ文主] 森山　新	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	「言語行動」をテーマに、TV会議システムを用いて海外の教室とつなぎ、討論することを通して、日本語や外国語での言語スキル（コミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーション）を身につけるとともに、他文化・自文化への理解を深め、多文化共生の姿勢を育成する。
文化と人間関係Ⅰ (15B2026) [グロ文学際] [グロ文主] 加賀美　常美代	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	本講義では、日本及び海外での文化接触における異文化接触や対人交流に関して、起こりうる事象や問題点を異文化間コミュニケーション論や心理学の諸理論をもとに検討する。多文化社会における人間行動と価値観、人間関係のあり方をマイノリティの視点から探る。(多文化間人間関係論演習と同一内容)
文化と人間関係Ⅱ (15B2027) [グロ文学際] [グロ文主] 加賀美　常美代	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	卒業論文指導を行う。文化がいかに人間行動や人間関係に影響を及ぼすかを取り上げる。たとえば、異文化接触の問題、解決のための援助活動とソーシャルサポート、多文化教育のあり方など、この領域で卒業論文を書くグロ文４年生、３年生のために指導と演習を行う。４年生は卒業論文の進捗状況を割り当て、毎回発表を行う。作成に向けて指導する。３年生は、研究計画を中心に指導を行う。
グローバル化と日本語教育Ⅰ (15B2028) 森山　新	Ⅲ ～ Ⅳ ３学期 グローバル文化学環 2.0単位	Course title: Are demographics destiny? - Population, immigration and culture in Australia and Japan Course aims: 1. To familiarise students with demographic problems of modern countries and how they influence immigration, Globalisation and multicultural issues 2. To investigate how Heterogeneous vs. Homogeneous countries deal with these issues 3. To have developed a critical approach to current debates and issues related to Globalisation 4. To be able to develop transferable skills including analytical investigation, written presentation, oral communication and teamwork
グローバル化と日本語教育Ⅱ (15B2029) 森山　新	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	グローバル文化学環の指導学生を対象に行われる卒業研究指導の授業である。グローバル時代における言語教育の役割など、グローバル文化学の関連テーマについて研究を進める。研究のすすめ方、データの取り方、論文の書き方、発表のしかたなどについても学ぶ。
身体文化論Ⅱ (15B2033) 新名　謙二	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	『見るスポーツ』に焦点を当て、表現行動としてのスポーツの特徴を説明します。前半では主に過去の『見るスポーツ』的な活動を紹介し、スポーツの支え手が何を目的とし、どのような演出によって感動や興奮を引き起こしてきたかという観点から説明を行います。後半では現代の『見るスポーツ』に注目し、商業化やグローバル化の観点から説明を行います。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
言語と社会Ⅱ (15B2036) [グロ文学際] [グロ文主] 宮尾　正樹	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	中国事情と同じ
多文化共生論 (15B2038) [グロ文学際] [グロ文主] 加賀美　常美代	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	多文化社会の中で異文化間交流で生じる障壁を分析し、マイノリティの人々、文化背景の異なる人々が相互理解し共に生きていくために、どうしたらよいか考える。地域社会、教育実践現場、医療、法曹関係、国際交流団体などで活動する人々をゲストスピーカーとして招聘し、「誰一人切り捨てられない社会」、多様性を尊重していくことは何か、その現状と課題について留学生と討議しながら考えていく。(日本事情IVBと同一内容)
国際交流論Ⅰ (15B2039) [グロ文学際] [グロ文主] 小松　翠	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	３月９日～１３日に行われる第４回国際学生フォーラムに参加し、海外から来日した学生たちと交流を行い、東日本大震災や国際協力についてディスカッションする。
国際協力学 (15B2043) [グロ文学際] [グロ文主] [地理強化] 荒木　美奈子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	本講義では、国際協力の基本的な概念や仕組み、その背後にある開発理論・政策の変遷を、国際機関・国家・NGO等の多様なアクターが担っている役割に注目しながら概説します。受講生が国際協力の概念や仕組みを理解しつつ、グローバル化時代における市民による国際協力について考え、行動に移していくことを目的としています。講義が中心ですが、「開発」の現場や様々な地域の人びとの暮らしについて具体的なイメージを持てるように、映像資料やゲスト講師による講義などを適宜交えながら授業を進めていきます。
国際教育協力論 (15B2048) [グロ文学際] [グロ文主] 浜野　隆	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	国際教育協力とは、発展途上国において社会的・経済的発展のために教育を量的に拡大させたり、質的に改善させたりすること、及びそのための協力活動のことをいう。この授業では、（1）国際教育協力の理論、（2）発展途上国における教育課題、（3）国際教育協力における援助機関の役割について学ぶ。 授業では、参考文献の購読を通して国際教育協力の枠組みの理解を深めつつ、援助機関実務者や青年海外協力隊員による講義や映画などの映像などを通じて、発展途上国の教育や協力の実際に対する理解を深めることを目指す。
ＮＧＯ／ＮＰＯ論 (15B2049) [グロ文学際] [グロ文主] 伊波　浩美	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	本講義では、主に「ノンフォーマル教育」と呼ばれる教育活動・運動に着目し、教育を学校教育だけに絞らず社会における学習および個人の変容まで拡張し、教育の目的と役割を捉え直す。まず、教育の指すもの、近代学校教育、多様な教育のかたちを整理する。続いて、ノンフォーマル教育とは何かを概説した後、学校教育制度の課題、生涯学習、教育開発、多文化社会、持続可能な未来のための教育におけるノンフォーマル教育の果たす役割を確認する。受講生の人数にもよるが、各自の問題関心をもとに発表も含む。＜読替＞教育開発特殊講義（14B1064）と同一内容。
地域開発論 (15B2052) [グロ文学際] [グロ文主] [地理強化] 佐藤　仁	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	開発と環境の関係を歴史の中に位置づけ、それぞれの時代に横たわる様々なジレンマやパズルをその時代を生きた人々が、どのように見出し、解こうとしたのかをたどり、今日への政策的示唆を導出します。１）富の生産と分配に力点をおく開発の時代、２）近代化と富の生産に内在するリスクへの対応が自覚されるリスク管理の時代、３）リスクへの国家介入が全面化し、新たな社会関係を形成するようになる環境統治の時代、に分けて考えます。 具体的には、それぞれの時代の特徴を読み解くのに役立つ基礎文献を読み、議論します。なお、ここで言う「時代」とは「○○年から○○年まで」といった時間的な順序を示すものではなく、その時々の潮流を指します。また考察対象は、アジアやアフリカの貧しい国々だけではなく、かつての発展途上国であった日本を含みます。 「開発はどうあるべきか」と問うのではなく、「開発はどうあったか」を自分なりに総括することを当座の目標とします。この総括に向けた作業で、１）本の読み方、２）聴衆の関心を喚起できる発表の仕方を合わせて訓練します。授業を通じて「開発とは何か」を考えることで、自分なりの核となるパズルを心の中に宿してもらうことを最終的な目標にします。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
国際金融論 (15B2053) [グロ文学際] [グロ文主] 宮内　篤	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	この講義では、国際金融や国際経済の基本事項を学習しながら、世界的な規模で生起する金融・経済現象を体系的に理解するために必要な思考のフレームワークを構築することを目指します。 国際金融論がどれほどダイナミックに発展を遂げているのか、そのエキサイティングな楽しさを知ることも目標です。また、国際金融論がこれほど理論的に進展してきたのは、変化する世界を理解したり、現実の問題を分析したりする必要があったからだ、ということも知ってほしいと思います。
国際協力特論 (15B2054) [グロ文学際] [グロ文主] 北林　春美	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	開発途上地域の住民の健康は、居住する国・地域の自然条件や経済水準に影響され、疾病構造においても死亡率においても先進工業国とは異なる特徴を有している。一方、政治や経済のグローバル化によって、途上国は先進諸国がたどった健康改善の歴史的道筋をたどるのではなく、国境を越えた新しい課題への対応にも迫られている。 本講義では、１）途上国の健康の現状と課題を概観し、２）国際社会で合意された健康の課題への取り組みの事例を紹介するとともに、３）自然災害や武力紛争下での緊急の健康課題と人道支援、および４）開発援助の様々なプレーヤーの協力の特色について理解し、世界の健康の格差を縮小し、万人が基本的人権としての健康（および疾病、暴力からの自由）を享受するための国際協力の在り方について考える。 社会・経済要因と健康との関係、国際化がもたらす健康や保健システムへの正・負の影響についても講義、討論、授業中のアンケート等を通じて検討する。 具体的な援助の仕組みや活動内容を理解するために、保健分野の国際協力に携わるゲストスピーカーによる講演を2回程度実施する予定。
多文化交流実習Ⅰ (15B2056) [グロ文学際] [グロ文主] 森山　新	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	夏に韓国・同徳女子大学で開催される日韓大学生国際交流セミナーに参加することを前提とした、TV会議を用いた事前学習授業である。日韓が抱える問題を選び、そのテーマについて日韓の学生が合同で事前学習を行ったり、韓国の言語と文化について学習したりする。
多文化交流実習Ⅱ (15B2057) [グロ文学際] [グロ文主] 森山　新	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 グローバル文化学環 2.0単位	夏休みに韓国・同徳女子大学（協定校）で開催される第10回日韓大学生国際交流セミナーに参加し、討論、野外実習、合宿などの交流の中で日韓両国の抱える問題について考え、理解を深める。また韓国の学生と協力しながら学生主体の国際交流セミナーを企画・運営する。 日韓セミナー期間中に行うこと：文化体験、グループ別野外実習及び発表会、文化探訪、合宿（ソウル３泊、雪嶽山３泊）など
地域研究実習Ⅰ (15B2060) [グロ文学際] [グロ文主] 熊谷　圭知	Ⅱ ～ Ⅳ 後不定期 グローバル文化学環 2.0単位	グローバル文化学環の教員が、グローバル化する日本社会の多様な現場に引率し、日帰りで見学･調査を行います。観察や聞き取りなどのフィールドワークの入門編という意味を持ちます。 年間に5～6回以上開催されるプログラムのうち、合計で4回以上の参加実績および事後レポート提出により、評価を行います。
地域研究実習Ⅱ (15B2061) [グロ文学際] [グロ文主] 小林　誠\015\012熊谷　圭知\015\012三浦　徹\015\012小田　隆史	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 グローバル文化学環 2.0単位	東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市の復興支援に参加することで、実体験を通じた 多様な学びを行うことが目的である。同時に地域のあり方の内在的な理解を深める。基本的には、事 前と事後のワークショップを行いながら、現地に滞在して仮設住宅住民の生活支援を行う。主な観点 は以下。 （１）震災前と震災後の地域のあり方の理解 （２）震災後の地域の新たな公共性の構築への参加 （３）地域住民組織を中心に、ボランティア・ＮＧＯ、市役所、漁協、地域企業、学校などとの多様 で濃密なネットワークの構築支援 （４）聞き取りや景観観察などの現地調査 （５）世界の中における地域のあり方の理解
地域研究実習Ⅲ (15B2062) 小林　誠\015\012熊谷　圭知\015\012三浦　徹	Ⅳ 通不定期 グローバル文化学環 2.0単位	東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市の復興支援に参加することで、実体験を通じた 多様な学びを行うことが目的である。同時に地域のあり方の内在的な理解を深める。基本的には、事 前と事後のワークショップを行いながら、現地に滞在して仮設住宅住民の生活支援を行う。主な観点 は以下。 （１）震災前と震災後の地域のあり方の理解 （２）震災後の地域の新たな公共性の構築への参加 （３）地域住民組織を中心に、ボランティア・ＮＧＯ、市役所、漁協、地域企業、学校などとの多様 で濃密なネットワークの構築支援 （４）聞き取りや景観観察などの現地調査 （５）世界の中における地域のあり方の理解

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
フィールドワーク方法論 (15B2068) [グロ文学際] [グロ文主] [社会主] [地理強化] 熊谷　圭知	II ～ IV 前期 グローバル文化学環 2.0単位	フィールドワークとは調査対象の存在する場所に身をおいて、一次資料を集める調査方法です。その方法と理念について学び、実践してもらいます。主な授業内容は、以下のとおりです。 １）質的調査を旨とするフィールドワークの方法について、その基本的な概念、各学問分野との関係、および具体的な手法について紹介する。２）聴き取り（インタヴュー）調査、フィールドノーツの作成についての手法と課題を、実際に受講生各自が試みながら、習得する、３）海外でのフィールドワークの実例の紹介を通じ、その可能性と課題（質的データの吟味、調査倫理の問題、調査対象者との間の関係等）について、議論する。フィールドワークは頭の中だけで理屈をこねていても身に付きません。実際にやってみてその方法・視点について反省や試行錯誤を繰り返すことが必要です。授業の終盤ではグループワークで実践したフィールドワークの成果を報告してもらい、皆で課題を共有したいと思います。
卒業研究 (15B2069) [グロ文主] グロ文全教員	IV 後不定期 グローバル文化学環 8.0単位	グローバル文化学環4年生にとって卒業の要件（必修）となります。指導教員（複数も可）の演習への参加、合同ゼミでの発表等が義務付けられます。卒業研究の要領、各教員の具体的な指導の方法等については、4月のオリエンテーション時にアナウンスします。
国際協力方法論 I (15B2078) [グロ文学際] [グロ文主] 荒木　美奈子	II ～ IV 後期 グローバル文化学環 2.0単位	国際協力学のアドバンス科目であり、受講者の関心に沿ったテーマを取り上げ、プレゼンや文献・映像資料等に基づく討論を行います。広義の国際協力や「開発」を巡る諸課題について専門的に学ぶとともに、プレゼンや論文執筆の技法を磨いていきます。
国際協力方法論 II (15B2079) [グロ文学際] [グロ文主] 荒木　美奈子	III ～ IV 前期 グローバル文化学環 2.0単位	国際協力方法論Iのアドバンス科目であり、国際協力や「開発」を巡る諸課題や争点についてさらに深く学び、考察力を養っていきます。グローバル文化学環３年生を対象に、卒業研究に向けての指導も併せて行います。
国際開発論 I (15B2087) [グロ文学際] [グロ文主] 吉田　敦	I ～ IV 前期 グローバル文化学環 2.0単位	本講義では、グローバル経済の進展にともない国際経済が直面しているさまざまな現象を理解するための基礎的な考え方をわかりやすく解説する。また、近代資本主義経済の歴史的な形成過程を概観しながら、世界的な貧困問題や経済格差、地域間不均衡等の構造的な開発問題の理解を深めていきたい。国際開発の実践的な課題として、発展途上諸国における資源開発や農地開発、一次産品貿易（フェアトレード）等の現代グローバル経済が直面している問題を取り上げるとともに、我々の生きる先進諸国経済とどのような関係があるのかについても具体的に解説する。講義資料（プリント）の配布の他、パワーポイント、映像を交えながら講義をおこなう。
平和構築論 I (15B2089) [グロ文学際] [グロ文主] 小林　誠	II ～ IV 後期 グローバル文化学環 2.0単位	現代では、国境を越えて生起するさまざまな社会現象が増え、グローバリゼーションの実感を人々が持つようになっている。だが、世界が平和に向かっているとは簡単には言いきれない。この講義では、国際関係を応用的観点からとらえることで、現代世界の変容の中での平和のあり方について学ぶ。まず平和構築の伝統的な方法を概括したあと、現代的な課題の学習へ進む。そこでは、勢力均衡、集団的安全保障、地域紛争、国際機関、地球市民社会、国際統合などを取り上げる。最終的には「世紀の難問」と呼ばれる人道的介入の問題を学ぶ。
平和構築論 II (15B2090) [グロ文学際] [グロ文主] 小林　誠	III ～ IV 前期 グローバル文化学環 2.0単位	本格的な専門としての国際関係研究、平和研究を行う。現代世界はどのような構造を持ち、どのように変化しているのか。国家、国際機関、NGO、多国籍企業などを含んだ多様なアクターの織りなす現代世界を、国際紛争や国際協力の実例を通して学ぶ。基本文献の精読から始め、順次、応用的な知識を身につけ、独自の研究力量を高めよう。なお、卒業研究の導入としての指導を兼ねている。
グローバル文化学方法論 (15B2095) [グロ文学際] [グロ文主] 小林　誠\015\012加賀美　常美代\015\012荒木　美奈子	II ～ IV 前期 グローバル文化学環 2.0単位	グローバル文化学環に進学した２年生が、今後自らの研究課題を構想し、追究するために必要な方法の基礎を身につけることをめざす。具体的には、①文献探索・情報収集・整理の方法、②文献の読み方、③レポートの書き方、④フィールドワークの方法、⑤プレゼンテーションの方法、⑥聴き取り調査の方法、など。グローバル文化学環の２年生には、事実上、必修の授業です。
多文化交流実習 V (15B2096) [グロ文学際] [グロ文主] 森山　新	I ～ IV 後集中 グローバル文化学環 2.0単位	海外協定校で日本語を学ぶ学生、および本学学部生を対象とした3週間のプログラムです。グループで一つのテーマを決めて、フィールドワーク、レポート作成、プレゼンテーションを行います。 海外からの参加学生と共に数日間にわたるプロジェクトワークを行うことで、「やさしい日本語」を使った異文化接触を深く体験すると同時に、母語・母文化の再発見を目指します。 ＊グループは海外からの参加学生との混成グループとなります。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
グローバル文化学実習Ⅰ (15B2097) [グロ文学際] [グロ文主] 荒木　美奈子	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 グローバル文化学環 2.0単位	
グローバル文化学特論 (15B2101) [グロ文主] グロ文全教員	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	3年生向けの卒業研究の準備科目です。4年生の卒業研究の中間発表をきき、各自の研究テーマを設定し､研究発表を1月に行います。
イスラム社会文化論Ⅰ(1) (15B2103) [グロ文学際] [グロ文主] 三浦　徹	Ⅱ ～ Ⅳ 1学期 グローバル文化学環 1.0単位	
イスラム社会文化論Ⅰ(2) (15B2105) [グロ文学際] [グロ文主] 三浦　徹	Ⅱ ～ Ⅳ 2学期 グローバル文化学環 1.0単位	
多文化間交流論(1) (15B2111) [グロ文学際] [グロ文主] 加賀美　常美代	Ⅱ ～ Ⅳ 1学期 グローバル文化学環 1.0単位	異文化間コミュニケーション理論と関連する話題を取り上げ、日本人学生と留学生が同じクラスでグローバル社会における多様な問題について討論を行う参加型授業である。①相手を知る、②相手とかかわる、③共に行動する 、上記の3つを実践しながら、お互いのコミュニケーション形式や多様な価値観を理解すると共に、相互理解を深めることを目標とする。(日本事情ⅣAと同一内容)
多文化間交流論(2) (15B2113) [グロ文学際] [グロ文主] 加賀美　常美代	Ⅱ ～ Ⅳ 2学期 グローバル文化学環 1.0単位	異文化間コミュニケーション理論と関連する話題を取り上げ、日本人学生と留学生が同じクラスでグローバル社会における多様な問題について討論を行う参加型授業である。①相手を知る、②相手とかかわる、③共に行動する 、上記の3つを実践しながら、お互いのコミュニケーション形式や多様な価値観を理解すると共に、相互理解を深めることを目標とする。(日本事情ⅣAと同一内容)
国際協力方法論Ⅱ(1) (15B2115) [グロ文学際] [グロ文主] 荒木　美奈子	Ⅲ ～ Ⅳ 1学期 グローバル文化学環 1.0単位	
国際協力方法論Ⅱ(2) (15B2117) [グロ文学際] [グロ文主] 荒木　美奈子	Ⅲ ～ Ⅳ 2学期 グローバル文化学環 1.0単位	
平和構築論Ⅱ(1) (15B2119) [グロ文学際] [グロ文主] 小林　誠	Ⅲ ～ Ⅳ 1学期 グローバル文化学環 1.0単位	
平和構築論Ⅱ(2) (15B2121) [グロ文学際] [グロ文主] 小林　誠	Ⅲ ～ Ⅳ 2学期 グローバル文化学環 1.0単位	

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
グローバル文化学総論 (15B8500) [グロ文学際] [グロ文主] 三浦　徹\015\012熊谷　圭知	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	グローバル化する現代社会の中で、私たちの生活はかつてないほど大きく変質しています。商品や資本や情報が国境を越えて流通し、異なる他者との接触が増え、多様な文化を越えた協働が求められています。「グローバル文化学」を学ぶことは、グローバル化社会を生きるための基本的な構えと態度をつくりだす機会になるでしょう。授業では、学問分野の異なる３人の教員のリレー講義と討論を通じて、「グローバル文化学」の基本的な視座と方法を皆さんに理解してもらいたいと思います。
文化変動論Ⅰ (15B8501) [グロ文学際] [グロ文主] 尾崎　文太	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 グローバル文化学環 2.0単位	コロンブスによる新大陸の「発見」以降、「世界」は新たな動的システムにより一体化し、かつ複雑化している。本授業では、近代以降に起きた世界的規模の人間の移動を、植民地主義、他者との接触、文化の変容などの問題と絡めながら概観してゆきたい。また講義では、そのような問題をより具体的に理解してもらうために、複数の映画作品や文学作品も紹介する予定である。
グローバル化と言語教育Ⅰ (15B8505) [グロ文学際] [グロ文主] 森山　新	Ⅱ ～ Ⅳ ３学期 グローバル文化学環 2.0単位	Course title: Are demographics destiny? - Population, immigration and culture in Australia and Japan Course aims: 1. To familiarise students with demographic problems of modern countries and how they influence immigration, Globalisation and multicultural issues 2. To investigate how Heterogeneous vs. Homogeneous countries deal with these issues 3. To have developed a critical approach to current debates and issues related to Globalisation 4. To be able to develop transferable skills including analytical investigation, written presentation, oral communication and teamwork
グローバル化と言語教育Ⅱ (15B8506) [グロ文学際] [グロ文主] 森山　新	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 グローバル文化学環 2.0単位	グローバル文化学環の指導学生を対象に行われる卒業研究指導の授業である。グローバル時代における言語教育の役割など、グローバル文化学の関連テーマについて研究を進める。研究のすすめ方、データの取り方、論文の書き方、発表のしかたなどについても学ぶ。
グローバル文化学実習 (15B8508) [グロ文学際] [グロ文主] 荒木　美奈子\015\012北林　春美	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 グローバル文化学環 2.0単位	この実習科目は、専攻・学年を問わず開発途上国の社会・経済・政治にかかわる問題や国際協力に関心を有する学生（学部・大学院博士前期課程）が、途上国における研究・実践の実績を有する教員の指導の下で事前学習と現地調査（約1週間）を実施し、都市と農村の貧困、ジェンダー、教育、健康等に関する主題について講義・文献だけでは得ることのできない知識や経験を得ることを目的として実施する。 具体的には、本実習への参加を通じて、 １）訪問国の一般的な政治・社会・経済の現状を理解する。 ２）各人が選択した特定の課題（教育、保健、ジェンダー、生計向上など）について、観察と文献調査によって得られた情報を批判的に分析し、報告書としてまとめる。 ３）現地調査の結果・考察をグループで簡潔にまとめて発表する。 現地調査は、現地の大学、国連機関、政府援助機関やNGOの他、保健施設、学校、住民組織等への訪問、見学、講義と聞き取り調査や住民や若者との意見交換等からなる。また、調査計画・報告のとりまとめにおいては、参加学生が協力して調査計画や結果プレゼンテーションを取りまとめ、学部・学年横断的に共同作業を行う。 現地調査での体験や学びは、各自の関心に応じたさらなる学習・研究や国際協力の実践活動（インターンシップ、ボランティア）、さらには国際協力に関わるキャリア形成のきっかけとなることが期待される。
卒業研究演習 (15B8509) [グロ文学際] [グロ文主] グロ文全教員	Ⅳ 通不定期 グローバル文化学環 2.0単位	

理　　学　　部

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
線形代数学Ⅰ (15C1001) [数学主] 塚田　和美	Ⅰ 1学期 数学科 2.0単位	この講義では,行列と行列式の理論について,特に連立一次方程式の解法との関係にスポットをあてながら解説します.連立一次方程式を考えれば自然に「行列」が登場するし,その解法理論では「行列の階数」が本質的な役割を果たします.また「行列式」を用いて解を表示する公式（クラメールの公式）があります.この講義では,行列と行列式の理論についてその基礎を理解し,数理諸科学に適用する土台となる力を養うことを目標にします.
線形代数学Ⅱ (15C1002) [数学主] 中居　功	Ⅰ 3学期 数学科 2.0単位	多変数間の写像で最も簡単なものは変数の一次式で表される線形写像です．そして,その線形写像の定義される空間が線形空間（ベクトル空間）です.この講義では,線形空間に関わる基礎的な諸概念や線形写像の振る舞いを調べる方法を解説します.線形写像を行列で表し,「線形代数学I」で学んだ「行列と行列式」の理論を用いて線形写像の様子を調べようというのが,基本的なアイデアです.線形変換及び行列の固有値問題,行列の対角化が内容の中心になります. この講義における学習の基本的な目標は、基本的な概念を理解すること。
線形代数学Ⅲ (15C1003) [数学主] [数学副] 堀江　充子	Ⅱ 1学期 数学科 2.0単位	線形代数学Ⅰ,Ⅱ に引き続いて線形代数の基本事項について学ぶ。特に、計量空間、一般の線形空間、ジョルダン標準形等を扱う。
線形代数学演習Ⅰ (15C1004) [数学主] 塚田　和美	Ⅰ 2学期 数学科 2.0単位	「線形代数学 I」の講義で学ぶ基礎理論の理解を深め,基本的な計算方法を修得するために演習を行う.
線形代数学演習Ⅱ (15C1005) [数学主] 中居　功	Ⅰ 4学期 数学科 2.0単位	線形代数学Ⅱの講義で学ぶ基礎理論の理解を深め,基本的な計算方法を修得するために演習を行う.
微分積分学Ⅰ (15C1006) [数学主] 山下　真	Ⅰ 1学期 数学科 2.0単位	一変数関数についての微分積分学について，様々な概念に慣れること，および極限や連続性に関する定量的な観点を養うことを主な目標として解説する。
微分積分学Ⅱ (15C1007) [数学主] 古谷　希世子	Ⅰ 3学期 数学科 2.0単位	微分積分学の理論的・定性的な基礎について学ぶ。一変数の微分積分学における様々な概念について論理的なつながりも含め理解することが目標である。関連する数学的対象の定義とそれらに関する定理の主張について正しく理解し，諸概念を厳密な形で表現できるようになること，およびそれらを用いた微積分の計算ができるようになることを目標とする。評価の際には，計算が正しくできるかどうかはもちろんだが，抽象的・論理的な概念について正しく理解し，自分の言葉で表現できるかということも重視する。
微分積分学Ⅲ (15C1008) [数学主] [数学副] 中居　功	Ⅱ 1学期 数学科 2.0単位	多変数の微分積分
微分積分学演習Ⅰ (15C1009) [数学主] 山下　真	Ⅰ 2学期 数学科 2.0単位	「微分積分学I」で取り扱った抽象的な概念について，受講者が実際に手を動かすことで，数学的な主張やそれらの間の論理的な関係についてよりよく理解することを目指す。また，微積分における基本的な計算技術の習得も目標とする。抽象的な事柄について，正しく理解するだけではなく，レポートや発表という形式の中で明瞭に説明できるかどうかも重視する。
微分積分学演習Ⅱ (15C1010) [数学主] 古谷　希世子	Ⅰ 4学期 数学科 2.0単位	「微分積分学II」の内容を補う形で，問題演習を通じて微分積分学の理論的側面への理解を深める。 「微分積分学II」で取り扱った抽象的な概念について，受講者が実際に手を動かすことで，数学的な主張やそれらの間の論理的な関係についてよりよく理解することを目指す。また，微積分における基本的な計算技術の習得も目標とする。抽象的な事柄について，正しく理解するだけではなく，レポートや発表という形式の中で明瞭に説明できるかどうかも重視する。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
微分積分学演習Ⅲ (15C1011) [数学主] [数学副] 戸田　正人	Ⅱ ２学期 数学科 2.0単位	微分積分学Ⅲの演習
ベクトル解析 (15C1013) [数学主] 塚田　和美	Ⅱ 後期 数学科 2.0単位	ベクトル場,微分形式の微分積分学が主題である.ベクトル場,微分形式は物理学における様々な“場”（電場,磁場,重力場など）を記述するものであり,また幾何学の諸量を表現するものである.したがって,ベクトル場,微分形式の微分積分学は,物理学における“場”や幾何学の諸量を論ずる際の有力な方法となる. この講義での学習の到達目標は次の通り. ・ベクトル場,微分形式とはどういうものかを理解する. ・ベクトル場,微分形式の基本的な演算及びその公式を理解し,実際に計算が行えるようになる（関数の勾配,ベクトル場の発散,微分形式の外積,外微分,微分形式の引き戻し,ベクトル場,微分形式の積分など）. ・ 曲線や領域の境界として現れる曲面の捉え方を理解する. ・ストークスの定理の内容を理解し,様々な場面で応用できるようになる.
位相空間論 (15C1014) [数学主] [数学副] 大場　清	Ⅱ ３学期 数学科 2.0単位	一般化された距離の概念を持つ空間（距離空間）に対して，写像の連続性や点列の収束性を考察し，コンパクト性や完備性などを扱う．さらに，距離空間での連続性や収束性の本質が，開集合全体の集合（位相）にあることを理解し，距離ではなく位相の与えられた空間（位相空間）というものを対象に，写像の連続性や点列の収束性，コンパクト性，連結性，分離性，可算性などを論ずる．一般化，抽象化することによって，理論の適用範囲がユークリッド空間から距離空間，距離空間から位相空間へと広がっていること，また，より本質に近づいていることを実感してほしい．そして，現代数学の様々な場面で活用できるようにすることが目標である.
位相空間論演習 (15C1015) [数学主] [数学副] 大場　清	Ⅱ ４学期 数学科 2.0単位	「位相空間論」の講義で学ぶ基礎理論の理解を深めるため演習を行う.
代数学Ⅰ (15C1016) [数学主] [数学副] 萩田　真理子	Ⅱ ３学期 数学科 2.0単位	一種類の演算をもつ集合である群の概念の習得、群がほかのものに作用している場合の考察など
代数学Ⅱ (15C1017) [数学主] [数学副] 横川　光司	Ⅲ １学期 数学科 2.0単位	環，体についての基本的な事柄について講義する．この講義を履修する者は，同時に代数学演習も履修もしくは聴講すること.
代数学演習 (15C1018) [数学主] 横川　光司	Ⅲ ２学期 数学科 2.0単位	代数学Ⅰ と代数学Ⅱ に対する演習科目．主に具体的問題を多く解き，レポート提出または発表する.
関数論 (15C1019) [情報科学強化] [数学主] [数学副] 吉田　裕亮	Ⅲ 前期 数学科 2.0単位	複素平面上に定義された複素数値関数，特に正則関数の基本的性質を学ぶ．Cauchyの積分定理とそれに関連する諸定理を中心に，留数定理およびそれを利用した積分の計算までを扱う予定である.
関数論演習 (15C1020) [数学主] [数学副] 吉田　裕亮	Ⅲ 前期 数学科 2.0単位	関数論の講義で習うことをよりよく理解し、応用できることを目標にに講義の進度に合わせた演習問題を各自が解き皆で検討する.

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
数学講究 (15C1021) 数学全教員\015\012中居　功	Ⅳ 通不定期 数学科 4.0単位	各研究室に分かれて、それぞれ特定の題目について、専門的な文献の講読を行い、知識を深めるとともに数学における研究の方法を習得する。
多様体論 (15C1022) [応用数理学際] [数学主] [数学副] 戸田　正人	Ⅲ ～ Ⅳ １学期 数学科 2.0単位	この講義では可微分多様体という幾何学の概念とその上で定義される諸対象（関数，写像，接ベクトル，ベクトル場等）に関する基礎的事項を解説する. 学習の到達目標は次の通り. (1) 「多様体」という幾何学的対象の捉え方を理解する. (2) 多様体のいくつかの例（球面，トーラス，射影空間等）に親しむ. (3) 多様体上の関数，写像，接ベクトル，ベクトル場の基本的な性質を理解し，基礎的な計算を実行できるようになる.
積分論 (15C1023) [数学主] [数学副] 山下　真	Ⅲ １学期 数学科 2.0単位	現代数学を代表する分野の一つである Lebesgue 積分論について，基礎から初めて様々な概念に親しみ習得することを目標とする。また，実際に Lebesgues 積分論の諸概念を使いこなして様々な問題を処理する能力を得ることも目標とする。
代数学Ⅲ (15C1024) [数学主] 横川　光司	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 数学科 2.0単位	代数学Ⅰ、代数学Ⅱで学んだ群・環・体の知識を定着させ、さらに、環上の加群，群の線形表現について学ぶ。
微分方程式論 (15C1025) [応用数理学際] [情報科学強化] [数学強化] [数学主] [数学副] 真島　秀行	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 数学科 2.0単位	常微分方程式の解法と基礎的な理論について講義する。
関数解析 (15C1026) [応用数理学際] [数学強化] [数学副] 古谷　希世子	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 数学科 2.0単位	関数解析は無限次元空間における作用素解析である。ヒルベルトの積分方程式の研究に始まり、２０世紀始めその重要性が認識されノイマンによる量子力学の基礎付けに応用されて急速に発展した。この講義では関数解析の基礎的なことを学ぶ。
微分幾何学 (15C1027) [応用数理学際] [数学強化] [数学副] [生命情報学] 戸田　正人	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 数学科 2.0単位	身近な図形である曲線や空間内の曲面に関する微分幾何.線形代数学や微分積分学を用いて,曲線や曲面の微分幾何学的性質（長さ,面積,曲がり具合など）を調べる基礎理論と関係するトピックの紹介.曲線や曲面に対する微分幾何学の立場からの議論に興味をもってもらえるようにすることを目標とする.
ガロア理論 (15C1029) [応用数理学際] [数学強化] [数学副] 堀江　充子	Ⅳ 後期 数学科 2.0単位	体のガロア理論について講義する。最終目的として、アーベルの定理の証明を与える。
関数論続論 (15C1047) [応用数理学際] [数学強化] 橋本　義武	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 数学科 2.0単位	前期の関数論の講義で習った正則関数の基本的な性質を復習してから、複素平面上での幾何学的な視点を重視して複素関数の性質を調べる。リーマンの写像定理や解析接続について解説する予定である。時間に余裕があればリーマン面の紹介なども行う。
確率論 (15C1050) [応用数理学際] [数学強化] 鈴木　裕行	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 数学科 2.0単位	測度論に基づいた，厳密な数学としての現代確率論への入門を扱う. 独立同分布確率変数列に対する「大数の法則」「中心極限定理」などの各種極限定理を定式化し, 微積分や測度論，フーリエ解析等を援用して数学的な取り扱いを展開する.

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
数理統計学 (15C1052) [応用数理学際] [情報科学強化] [数学強化] [生命情報学] 金藤　浩司	II ～ IV 後期 数学科 2.0単位	確率分布、推定、検定等の数理統計学の基本的事項の理解を主たる目標とする。基本的事項の理解をベースにして回帰分析等、実際の現象の解析に用いられる手法についても解説する。
数理経済学 (15C1053) [応用数理学際] [数学強化] 藤田　岳彦	III ～ IV 後期 数学科 2.0単位	WEBｼﾗﾊﾞｽ参照
数理構造特別講義II (15C1060) [数学強化] 池田　和正	III ～ IV 後期 数学科 2.0単位	
数学演習V (15C1093) [数学強化] 古谷　希世子	III ～ IV 後期 数学科 2.0単位	関数解析の理解
数学演習XI (15C1099) [数学強化] 戸田　正人	I ～ IV 2学期 数学科 2.0単位	
数学演習XII (15C1100) [数学強化] 古谷　希世子	I ～ IV 2学期 数学科 2.0単位	集合に対する長さや面積の一般化として，測度という概念があります. この概念に基づいて積分の概念が一般化でき，従来のRiemann積分の理論の 大部分を含む形で，簡潔かつ見通しのよい理論展開が可能になります. この講義では，これらの測度と積分の理論の基礎を紹介します。.
数学演習XIII (15C1101) [数学強化] 堀江　充子	II 2学期 数学科 2.0単位	線形代数学IIIの演習
数学演習XIV (15C1102) [数学強化] 萩田　真理子	I ～ IV 4学期 数学科 2.0単位	
数理解析序論 (15C1110) [数学強化] [数学主] 真島　秀行	II 後期 数学科 2.0単位	定数係数の線形常微分方程式系の解法とフーリエ級数展開に冠する講義を通して、微分積分学と線形代数学の理解を深め、それらを総合的に利用する方法を学び、数学を活用する態度を身につけることを目標とする。
数学輪講III (15C1113) [数学強化] 横川　光司\015\012大場　清	III 前期 数学科 2.0単位	ゼミ形式で、数学書を講読する。テキストは受講希望者と相談の上決める。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
数理逍遥Ⅰ (15C1114) [数学強化] [数学副] 堀江　充子	Ⅰ ～ Ⅲ 後期 数学科 2.0単位	初等整数論を題材として、親しみやすい話題について解説。
数学英語 (15C1124) [数学強化] 池田　和正	Ⅱ 1学期 数学科 2.0単位	授業のテーマ： 中学～大学2年程度の水準の数学に，英語で触れてみる． 基本目標： 英文で書かれた平易な数学の内容を読み取ることができるようになる． 到達目標： (1) 数学の教科書や論文に出てくる基本単語の意味がわかる． (2) 上述の水準の基本単語を正しく書ける． (3) 数学の教科書や論文に出てくる基本英文の意味が理解できる． (4) 上述の基本英文の意味を日本語で正確に文章化できる． (5) 上述の基本英文の意味を日本語で他者に的確に伝達できる． (6) 自分がよくわからないことが何なのか把握できる． (7) 上述の内容を他者がわかるように質問できる． (8) 質問の内容を正しく把握し，わかりやすく解説できる． 評価について： 試験と平常点の和を最高の人が約100になるよう規格化する． 上記(4)～(8)も平常点の重要な評価基準になります．
数学講究 (15C1137) [数学主] 数学全教員\015\012中居　功	Ⅳ 通不定期 数学科 8.0単位	
線形代数学１ (15C1174) [数学主] 塚田　和美	Ⅰ 1学期 数学科 2.0単位	この講義では,行列の理論について,特に連立一次方程式の解法との関係にスポットをあてながら解説します.連立一次方程式を考えれば自然に「行列」が登場するし,その解法理論では「行列の階数」が本質的な役割を果たします.この講義では,行列の理論についてその基礎を理解し,数理諸科学に適用する土台となる力を養うことを目標にします.
線形代数学２ (15C1176) [数学主] 塚田　和美	Ⅰ 2学期 数学科 2.0単位	この講義では、行列式の理論について解説します。行列式は正方行列に対し数を対応させる式で、行列の積の行列式はそれぞれの行列式の積に等しいというシンプルで優美な公式が成立します。また、「行列式」は連立一次方程式の解の表示（クラメールの公式）に用いられるなど、数学や数理諸科学に重要な応用を持ちます。この講義では、行列式の理論についてその基礎を理解し、数理諸科学に適用する土台となる力を養うことを目標にします。
線形代数学３ (15C1178) [数学主] 中居　功	Ⅰ 3学期 数学科 2.0単位	多変数間の写像で最も簡単なものは変数の一次式で表される線形写像です．そして,その線形写像の定義される空間が線形空間（ベクトル空間）です.この講義では,線形空間に関わる基礎的な諸概念や線形写像の振る舞いを調べる方法を解説します.線形写像を行列で表し,「線形代数学I」で学んだ「行列と行列式」の理論を用いて線形写像の様子を調べようというのが,基本的なアイデアです.線形変換及び行列の固有値問題,行列の対角化が内容の中心になります. この講義における学習の基本的な目標は、基本的な概念を理解すること。
線形代数学４ (15C1180) [数学主] 中居　功	Ⅰ 4学期 数学科 2.0単位	線形空間の基礎準備のうえに行列の対角化にまつわる諸結果を学ぶ。
線形代数学５ (15C1182) [数学主] [数学副] 堀江　充子	Ⅱ 1学期 数学科 2.0単位	
線形代数学６ (15C1184) [数学主] [数学副] 堀江　充子	Ⅱ 2学期 数学科 2.0単位	線形代数学5の演習

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
微分積分学１ (15C1186) [数学主] 山下　真	Ⅰ １学期 数学科 2.0単位	一変数関数についての微分積分学について，様々な概念に慣れること，および極限や連続性に関する定量的な観点を養うことを主な目標として解説する。
微分積分学２ (15C1188) [数学主] 山下　真	Ⅰ ２学期 数学科 2.0単位	一変数関数についての微分積分学について，様々な概念に慣れること，および極限や連続性に関する定量的な観点を養うことを主な目標として解説する。
微分積分学３ (15C1190) [数学主] 古谷　希世子	Ⅰ ３学期 数学科 2.0単位	
微分積分学４ (15C1192) [数学主] 古谷　希世子	Ⅰ ４学期 数学科 2.0単位	微分積分学の理論的・定性的な基礎について学ぶ。一変数の微分積分学における様々な概念について論理的なつながりも含め理解することが目標である。関連する数学的対象の定義とそれらに関する定理の主張について正しく理解し，諸概念を厳密な形で表現できるようになること，およびそれらを用いた微積分の計算ができるようになることを目標とする。評価の際には，計算が正しくできるかどうかはもちろんだが，抽象的・論理的な概念について正しく理解し，自分の言葉で表現できるかということも重視する。
微分積分学５ (15C1194) [数学主] [数学副] 中居　功	Ⅱ １学期 数学科 2.0単位	１変数関数微分積分を基礎としながらその自然な拡張として２変数関数の微分についての諸結果を理解する。
微分積分学６ (15C1196) [数学主] [数学副] 戸田　正人	Ⅱ ２学期 数学科 2.0単位	
位相空間論１ (15C1198) [数学主] [数学副] 大場　清	Ⅱ ３学期 数学科 2.0単位	位相空間論１では，一般化された距離の概念を持つ空間（距離空間）に対して，写像の連続性や点列の収束性を考察し，コンパクト性や完備性などを扱う．さらに，距離空間での連続性や収束性の本質が，開集合全体の集合（開集合族，あるいは位相）にあることを理解し，位相空間論２で扱う位相空間についての準備を行う．一般化，抽象化することによって，理論の適用範囲がユークリッド空間から距離空間へと広がっていることを実感してほしい．
位相空間論２ (15C1200) [数学主] [数学副] 大場　清	Ⅱ ４学期 数学科 2.0単位	位相空間論２で扱う対象は位相空間である．位相空間論１では，距離空間に対しての写像の連続性や点列の収束性などの本質が，開集合全体の集合（開集合族，あるいは位相）にあることを確認した．そこで，位相空間論２では，距離ではなく位相の与えられた空間（位相空間）というものを対象に，写像の連続性や点列の収束性，コンパクト性，連結性，分離性，可算性などを論ずる．一般化，抽象化することによって，理論の適用範囲が距離空間から位相空間へと広がっていること，また，より本質に近づいていることを実感してほしい．そして，現代数学の様々な場面で活用できるようにすることが目標である．
群論１ (15C1202) [数学主] [数学副] 萩田　真理子	Ⅱ ３学期 数学科 2.0単位	
群論２ (15C1204) [数学主] 萩田　真理子	Ⅱ ４学期 数学科 2.0単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
環論 (15C1206) [数学主] [数学副] 横川　光司	III 1学期 数学科 2.0単位	可換環論の基礎について，特に，整数環，１変数多項式環のイデアル論を中心に学ぶ.
体論 (15C1208) [数学強化] 横川　光司	III 2学期 数学科 2.0単位	可換体論，特に有限次代数体についての基礎理論を学ぶ.
加群と表現 (15C1210) [数学強化] 横川　光司	III ～ IV 後期 数学科 2.0単位	環上の加群の理論，特に単項イデアル整域上の有限生成加群の理論を学ぶ．さらに群の線形表現についての基礎理論を学び，有限群論への応用についてもふれる.
関数論１ (15C1212) [情報科学強化] [数学主] [数学副] 吉田　裕亮	III 1学期 数学科 2.0単位	
関数論２ (15C1214) [数学強化] [数学副] 吉田　裕亮	III 2学期 数学科 2.0単位	
集合論１ (15C1216) [数学主] [数学副] 横川　光司	I 1学期 数学科 1.0単位	集合，写像についての基礎的な概念について学ぶ.
集合論２ (15C1218) [数学主] [数学副] 横川　光司	I 3学期 数学科 1.0単位	濃度，順序数など現代集合論の基礎について学ぶ.
多様体論１ (15C1222) [応用数理学際] [数学主] [数学副] 戸田　正人	III ～ IV 1学期 数学科 2.0単位	
多様体論２ (15C1224) [数学強化] 戸田　正人	III ～ IV 2学期 数学科 2.0単位	
積分論１ (15C1226) [数学主] [数学副] 山下　真	III 1学期 数学科 2.0単位	現代数学を代表する分野の一つである Lebesgue 積分論について，基礎から初めて様々な概念に親しみ習得することを目標とする。また，実際に Lebesgues 積分論の諸概念を使いこなして様々な問題を処理する能力を得ることも目標とする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
積分論２ (15C1228) [数学強化] 山下　真	Ⅲ ２学期 数学科 2.0単位	現代数学を代表する分野の一つである Lebesgue 積分論について，基礎から初めて様々な概念に親しみ習得することを目標とする。また，実際に Lebesgues 積分論の諸概念を使いこなして様々な問題を処理する能力を得ることも目標とする。
数学輪講 (15C1250) [数学主] 塚田　和美\015\012古谷　希世子	Ⅲ 前期 数学科 2.0単位	代数，幾何，解析の各分野で基礎的な内容のテキストを輪講形式で学ぶ.

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
古典力学 (15C2001) [応用数理学際] [物理学主] [物理学副] 北島　佐知子	Ⅰ 前期 物理学科 2.0単位	数学を用いてニュートン力学を定量的に表現することにより、力学的な現象の理解を目指す。
解析力学 (15C2002) [応用数理学際] [物理学主] [物理学副] 菅本　晶夫	Ⅰ 後期 物理学科 2.0単位	古典力学の続きとして、力学系を統一的に記述する一般的方法である、オイラー・ラグランジュ、ハミルトンおよびハミルトン・ヤコビの方法を解説し、運動方程式の背後にある最小作用の原理を述べる。また解析力学の諸概念が量子力学の概念にどのようにつながっているかを説明する。
力学系理論 (15C2003) [物理学主] [物理学副] 森川　雅博	Ⅱ １学期 物理学科 2.0単位	講義初日に、聞きたい内容・関連する疑問・背景・応用・評価の方法などを合議するのでできるだけたくさん準備してきてください。それに基づいて最適な講義を組み立てます。
電磁気学Ⅰ (15C2004) [応用数理学際] [物理学主] [物理学副] 出口　哲生	Ⅰ 前期 物理学科 2.0単位	ベクトル場としての静電場の理解を基本的目標とする。すなわち静電ポテンシャルと電場の関係を応用して静電場の問題を解くことである。偏微分やベクトル解析など物理数学の基本を学び、電磁気学の法則を微分や積分を用いて数学的に表現する方法を理解する。例えば、ガウスの法則を表す偏微分方程式を導く。これはマクスウェル方程式の一つとして位置付けられる。
電磁気学Ⅱ (15C2005) [応用数理学際] [物理学主] [物理学副] 北島　佐知子	Ⅰ 後期 物理学科 2.0単位	電磁場の基礎方程式がマクスウェル方程式にまとめられること、そしてマクスウェル方程式から電磁場の波動すなわち電磁波が導かれることを理解することが目標である。まず最初に、アンペールの法則など静磁場の物理法則を議論する。そしてファラデーの電磁誘導の法則を出発点として、時間的に変動する電磁場を議論する。回路の複素インピーダンス等も議論する。そしてアンペールの法則を変位電流の項を加えて拡張し、真空中のマクスウェル方程式から波動方程式を導く。時間的余裕があれば物質中の電磁場を分極ベクトル等を導入して理解できることを示す。
物理数学Ⅰ (15C2006) [物理・化学学際] [物理学主] [物理学副] 奥村　剛	Ⅰ 前期 物理学科 2.0単位	大学１，２年で物理学科で習得する力学、電磁気学、量子力学、熱・統計力学に関連した数学を中心に学ぶ。道具として使えることを目標に、計算力養成、直感的理解に重点を置く。
物理数学Ⅱ (15C2007) [物理学主] [物理学副] 奥村　剛	Ⅰ 後期 物理学科 2.0単位	大学１，２年で物理学科で習得する力学、電磁気学、量子力学、熱・統計力学に関連した数学を中心に学びます。道具として使えることを目標に計算力養成、直感的理解に重点を置きます。
数理物理学 (15C2008) [応用数理学際] [生命情報学] [物理学主] 奥村　剛	Ⅱ １学期 物理学科 2.0単位	物理数学Ⅰ,Ⅱで扱いきれなかった話題や、大学3，4年で学ぶ物理で必要となる数学を取り上げて同様の精神で解説する。
量子力学Ⅰ (15C2009) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学主] [物理学副] 番　雅司	Ⅱ １学期 物理学科 2.0単位	物理学の重要な基礎である量子力学の基本的な考え方を理解する。量子力学における物理量や状態の考え方は従来の古典力学とは全く異なっている。そこで、量子力学における物理量と状態の概念を理解した後、物理量の測定や不確定性関係を紹介し、更に、量子力学における運動方程式であるシュレーディンガー方程式とハイゼンベルグ方程式を説明する。具体例として、自由粒子、調和振動子、ポテンシャル井戸中の粒子の量子力学的性質を議論し、量子力学の理解を目指す。
量子力学Ⅱ (15C2010) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学主] [物理学副] 小林　功佳	Ⅱ 後期 物理学科 2.0単位	量子力学Iに続いて、量子力学の基本的事項について講義する。 主な内容は角運動量、水素原子、近似法である。 これらの内容は、３年次以降の量子力学などの授業の基本となる事柄である。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
量子力学Ⅲ (15C2011) [物理学主] 出口　哲生	Ⅲ 前期 物理学科 2.0単位	量子力学の様々な基本的応用を議論する。量子力学ⅠおよびⅡの続編ではあるが、量子力学３から聴講しても理解できるように、基礎を復習しながら講義する。最初に量子力学の基礎を１次元の量子系で復習した後に、同種粒子系と量子統計性、パウリ原理、角運動量の合成などを議論する。電磁場中の粒子の量子力学、さらには電磁場の量子化、光の吸収と放出などを議論する。時間的余裕があれば、散乱問題や第二量子化等も説明する。
固体電子論 (15C2014) [物理・化学学際] [物理学強化] 小林　功佳	Ⅲ 後期 物理学科 2.0単位	結晶などの固体の性質の多くは、固体中の電子のふるまいで決まる。講義では、量子力学・統計力学の講義で学んだ知識を固体中の電子に応用して、金属と絶縁体の違いなど、物質の様々な性質が理解できることを示す。
凝縮系物理学 (15C2016) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学強化] 古川　はづき	Ⅳ 前期 物理学科 2.0単位	凝縮系の観点から原子構造、金属、磁性、超伝導現象を取り上げ詳解する。
原子核物理学 (15C2017) [物理学強化] 大下　範幸	Ⅳ 前期 物理学科 2.0単位	原子核は、核子と総称される陽子と中性子の集合体である。その物理的性質は、核子間に働く相互作用、および、多体系としての統計的振る舞いによって規定される。この授業では、原子核に関する種々の現象とそれらを記述する理論を学習する。主要な性質と理論の理解をめざし、実験と理論を説明検討しながら講義は進められる。原子核に関する基本的事項が量子力学等の基礎物理学を基にして理解できることが到達すべき目標である。
素粒子物理学 (15C2018) [応用数理学際] [物理学強化] 曺　基哲	Ⅲ 後期 物理学科 2.0単位	素粒子とそれが従う基本相互作用（電磁気力、重力、弱い力、強い力）について紹介する。 素粒子の発見の歴史、量子力学の相対論的拡張に伴う基本相互作用についての理解、現代素粒子物理学における標準模型の確立にいたるまでの道のりについて解説する。
基礎物理学実験 (15C2019) [物理学主] 小野　督幸\015\012梅原　利宏	Ⅱ 後期 物理学科 2.0単位	テスターの組み立て、オッシロスコープの操作をはじめとして、物理の初等的な実験装置を自分の手で取り扱うことで、基本的な物理量の測定を行う。この過程で、力学、電磁気学、電気回路、熱力学、物性論等に係わる基礎的な物理量を測定する実験を体験させる。得られた測定結果の解析と考察を通じて、実験内容の理解と物理的な思考力を養う訓練を行う。最後に、実験結果と考察のプレゼンテーションを行う。
物理学実験 (15C2020) [物理学主] 浜谷　望\015\012外舘　良衛\015\012梅原　利宏\015\012河野　能知	Ⅲ 通年 物理学科 4.0単位	物理学における実験の基礎技術ならびにやや高度の技術を身につけ、得られたデータの基本的処理法を習得する。物理的思考法を学ぶ。
特別研究 (15C2021) [物理学主] 物理全教員	Ⅳ 通不定期 物理学科 12.0単位	学生が各研究室に所属し、物理学の各専門分野における研究を行う。
力学演習 (15C2023) [物理学主] [物理学副] 森川　雅博	Ⅰ 前期 物理学科 2.0単位	講義初日に、聞きたい内容・関連する疑問・背景・応用・評価の方法などを合議するのでできるだけたくさん準備してきてください。それに基づいて最適な講義を組み立てます。
電磁気学演習 (15C2024) [物理学主] [物理学副] 北島　佐知子	Ⅰ 後期 物理学科 2.0単位	与えられた電磁気学の基本的な問題を履修者が自ら手を動かして解き、また、その内容の発表および質疑応答を行い、電磁気学のさらなる理解を深める。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
物理数学演習 (15C2025) [物理学主] [物理学副] 北島　佐知子	II 1学期 物理学科 2.0単位	物理学を学び、理解を深めるために必要な数学的手段を身につけ、自在に使いこなせるようになることを目標とした問題演習を行う。
量子力学演習 (15C2026) [物理学主] [物理学副] 番　雅司	II 後期 物理学科 2.0単位	演習問題を解くことによって量子力学の基本的な考え方を身につけ、応用力を養うことを目指す。
統計力学演習 (15C2027) [物理学主] 番　雅司	III 前期 物理学科 2.0単位	演習問題を解くことにより統計力学の考え方を身に付け、応用力を養うことを目指す。
物性物理学序論 (15C2028) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学強化] 古川　はづき	II ～ IV 後期 物理学科 2.0単位	物性の基本的な事項（ミクロ構造、電子軌道 、結晶構造（実空間編）、結晶構造（逆格子編）、格子振動、格子比熱 、電気抵抗、熱伝導 、磁性 、超伝導）について、できるだけ多くの絵を使い解説する。物性物理の実験／理論の研究の手法や流れが体得されるように導く。
相対論 (15C2029) [応用数理学際] [物理学強化] 曺　基哲	II 前期 物理学科 2.0単位	特殊相対性理論に基づいた運動学、力学、電磁気学と、一般相対性理論の入門的講義を行う。
流体物理学 (15C2032) [応用数理学際] [物理学強化] 出口　哲生	III 前期 物理学科 2.0単位	この講義では、 １．流体の数学的記述法 ２．流体の運動方程式 ３．運動方程式の解について知られている幾つかの結果 を扱います。 流体は連続的に広がった無限の自由度を持つ物理系です。このような物理系を場といいますが、 １では、場の数学的記述法を学びます。 ２では、幾つかの仮定のもとで、流体を記述する最も一般的な方程式として、 Navier-Stokes方程式が得られることを理解します。 ３では、粘性のない流体（完全流体）の運動について良く知られている結果を理解し、 それを応用出来るようになることが主な目標
計算物理学講義・演習 (15C2033) [物理・化学学際] [物理学強化] 小林　功佳	III 前期 物理学科 4.0単位	物理学の問題を題材として、プログラミングの講義・実習を行う。 例題や課題をこなすことにより、簡単なプログラムを自ら作成することが出来るようになることが目的である。 また、プログラムを作成する過程で、物理の講義で習う数式の意味を具体的に考え、 物理学の理解をより深めることも目的である。 プログラミング言語はFORTRAN。
物理実験学 (15C2034) [物理・化学学際] [物理学強化] 浜谷　望	II ～ IV 後期 物理学科 2.0単位	自然科学の研究における実験的研究は、未知の現象を発見する手段であると同時に、理論的考察に対してその検証を行うという自然の本質の追及に不可欠なアプローチです。2年生の後期から始まる基礎物理実験では、初めて見る実験器具や装置、聞いたことの無い薬品などを扱う実験テーマがあるにちがいありません。どうやって測定するのか、測定した数値をどのように扱ったらよいかなどについての疑問にも行き当たるでしょう。 この授業では、実験データの数値的な取り扱い方法を実践的に学習し、いかに実験を的確に行い解析するかを学び、実験的研究を面白いと感じられるようになることを目標とします。たとえば、一見簡単そうな「長さを測る」といった測定にも細心の注意が必要なことが、測定結果の定量的な解析から実感できるようになります。測定の正確さ・精度とは何か、測定誤差の意味、求めた数値の誤差の推定、最終的に求める物理量に複数の誤差がどのように反映されるか、最小二乗法などについて学びます。また、学科内の実験研究室、工作室を見学し、先端の実験装置にふれることができます。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
基礎エレクトロニクス (15C2035) [物理・化学学際] [物理学強化] 外舘　良衛	Ⅲ 前期 物理学科 2.0単位	現代のエレクトロニクス技術の加速度的な進歩に伴い、応用製品の多くは多様な技術が高度に集積化されてブラックボックス化が著しい。しかしそれらを構成している基礎概念や基本構成要素の機能と動作原理は科学的には普遍的なものである。それらの基礎概念についてできるだけ実際的な理解をしてもらうことが目標である。固体電子論を基礎にして発達してきた半導体素子とそれらの集合体としての電子回路や（今後さらに重要性を増す光を含む）電磁波利用技術などが、現代科学を支えている情報の伝送やエネルギーの制御などの機能をどのようにして実現しているかを学ぶ。
量子光学 (15C2037) [応用数理学際] [物理学強化] 番　雅司	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 物理学科 2.0単位	光の量子力学的な性質を講義する。まず、真空中の電磁場の量子化を行い、電磁場が調和振動子の集団と等価であることを導き、電磁場の基本的な量子状態であるFock状態、コヒーレント状態、スクィーズド状態、熱平衡状態の物理的性質を理解する。そして、量子光学システムの基本となるビームスプリッタ、干渉計、及びホモダイン測定について理解する。更に、量子化された電磁場と２準位原子系が相互作用しているシステムの物理的な性質を理解する。また、時間が許せば、量子光学の量子情報処理への応用についての紹介を行う。
物理英語 (15C2062) [物理学主] 森川　雅博	Ⅰ 前期 物理学科 2.0単位	物理学の専門的研究に用いられる英語表現を理解するためには高度な英語能力は決して必要でなく、中学高校程度の英文法の知識で対応すれば十分であり、いくつか基本的な専門用語の英語訳を覚えることの他には特別な英語の知識を必要としない。 例えば、力学や電磁気学あるいは量子力学などの講義で米国の大学で使用される教科書の大半は、英文としては非常に分かりやすく平易な文章で書かれている。専門英語としての物理英語で必要な英語力は高校卒業程度で十分であり、大学における語学学習の成果をその前提とする必要はない。 国際会議等にお
場の量子論 (15C2063) [応用数理学際] [物理学強化] 菅本　晶夫	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 物理学科 2.0単位	空間を伝搬する波に量子力学を適用すると、素励起と呼ばれる粒子描象を用いた量子力学となる。フォノンやマグノンは、格子振動やスピン波を量子化した結果現れる素励起である。この粒子描象の量子力学を用いて液体ヘリウムの超流動や超伝導に関するBCS理論を解説する。「基本的な目標」としては、最低限様々な振動現象を量子化すると、常に素励起としての粒子が現れることが理解できれば良い。更に超流動あるいは超伝導が理解できれば充分に成果が挙がったと考える。
物理学基礎研究 (15C2064) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学強化] 物理全教員	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 物理学科 2.0単位	学生が各研究室に所属し、セミナーや専門的研究などの様々な研究室の活動に参加する。 研究活動にふれることにより、４年次の卒業研究（特別研究）の準備となる。
宇宙・地球科学 (15C2068) [物理学主] [物理学副] 大塚　隆巧	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 物理学科 2.0単位	我々を取り巻く環境である，地球，星，銀河，銀河系，宇宙に対して，あらためて学び始めましょう．これらは昔から人間のロマン・信仰・科学の対象であり，現在もそれは変わっていません．ここでは，科学的・物理的な観点から，これらを学び，現代に生きる人間として適切な世界観を獲得する努力をしましょう．相対論やブラックホール以外にも，インフレーション，ダークマター，ダークエネルギーなどに関しても触れる予定です．
地学基礎実験 (15C2074) [物理学主] 古川　登	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 物理学科 2.0単位	教員免許の取得を希望する学生のための実験である． 室内作業を中心に，岩石や鉱物、化石などの試料やふるい、実体顕微鏡など器具を用いた分析，実験を通して、地学的な現象に対する基礎的な理解を深める．
熱力学 (15C2081) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学主] [物理学副] 出口　哲生	Ⅱ 後期 物理学科 2.0単位	熱のやりとりを含むマクロな世界の物理化学現象を普遍的に記述できる「熱力学」および「統計力学」の基礎を解説する。その中で、熱力学第２法則（不可逆性）、熱力学第１法則（エネルギー保存則）を学び、エントロピーの概念とその統計力学的な意味を理解する。和達三樹他著『ゼロからの熱力学と統計力学』（岩波書店）の教科書に基づき、熱力学と統計力学の基礎を論理的にかつ直感的に理解することをめざす。 ＜読替＞H19年度以前生は 熱・統計力学で登録
統計力学 (15C2082) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学主] 番　雅司	Ⅲ 前期 物理学科 2.0単位	我々の身の周りにあるマクロな物質は膨大な数のミクロな粒子(原子やイオンなど)によって構成されている。ミクロな粒子の性質は量子力学によって決定されるで、マクロな物質の性質も量子力学によって説明されるはずである。しかし、膨大な数の粒子に対する量子力学の方程式を直接解くことによって、マクロな物質の性質を説明することは現実には不可能である。ところが、マクロな物質が膨大な数のミクロな粒子で構成され、実際に観測にかかるマクロな物質の性質が構成する膨大な数の粒子の平均としての振る舞いの結果であることを積極的に利用するこ

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
ソフトマター物理 (15C2083) [物理・化学学際] [物理学強化] 奥村　剛	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 物理学科 2.0単位	高分子・液晶・ゲルなどのソフトマターを、濡れ・接着・破壊の観点を含めて講義する。スケーリング法則や印象派の精神についても強調しながら講義を展開する。
放射線基礎講義 (15C2084) [物理学強化] 古田　悦子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 物理学科 2.0単位	目標： 1.放射線の基礎を正しく理解する。演習問題の解答により、理解を深める。 2.被ばく影響など物理以外の面にも目を向け、放射線の基礎を説明できるようになる。 3.国家資格である「第一種放射線取扱主任者（X線作業主任者兼務可）」の受験・資格取得の一助とする。
古典力学(1) (15C2085) [応用数理学際] [物理学主] [物理学副] 北島　佐知子	Ⅰ 1学期 物理学科 1.0単位	数学を用いてニュートン力学を定量的に表現することにより、力学的な現象の理解を目指す。
古典力学(2) (15C2087) [応用数理学際] [物理学主] [物理学副] 北島　佐知子	Ⅰ 2学期 物理学科 1.0単位	数学を用いてニュートン力学を定量的に表現することにより、力学的な現象の理解を目指す。
解析力学(1) (15C2089) [応用数理学際] [物理学主] [物理学副] 菅本　晶夫	Ⅰ 3学期 物理学科 1.0単位	
解析力学(2) (15C2091) [応用数理学際] [物理学主] [物理学副] 菅本　晶夫	Ⅰ 4学期 物理学科 1.0単位	
電磁気学Ⅰ(1) (15C2093) [応用数理学際] [物理学主] [物理学副] 出口　哲生	Ⅰ 1学期 物理学科 1.0単位	ベクトル場としての静電場の理解を基本的目標とする。すなわち静電ポテンシャルと電場の関係を応用して静電場の問題を解くことである。
電磁気学Ⅰ(2) (15C2095) [応用数理学際] [物理学主] [物理学副] 出口　哲生	Ⅰ 2学期 物理学科 1.0単位	ベクトル場としての静電場の理解を基本的目標とする。偏微分やベクトル解析など物理数学の基本を学び、電磁気学の法則を微分や積分を用いて数学的に表現する方法を理解する。例えば、ガウスの法則を表す偏微分方程式を導く。これはマクスウェル方程式の一つとして位置付けられる。
電磁気学Ⅱ(1) (15C2097) [応用数理学際] [物理学主] [物理学副] 北島　佐知子	Ⅰ 3学期 物理学科 1.0単位	アンペールの法則など静磁場の物理法則を理解し、ファラデーの電磁誘導の法則を出発点として、時間的に変動する電磁場を理解することを目標とする。さらに、回路の複素インピーダンス等も議論する。
電磁気学Ⅱ(2) (15C2099) [応用数理学際] [物理学主] [物理学副] 北島　佐知子	Ⅰ 4学期 物理学科 1.0単位	電磁気学Ⅱ(1)に引き続き、電磁場の基礎方程式がマクスウェル方程式にまとめられること、そしてマクスウェル方程式から電磁場の波動すなわち電磁波が導かれることを理解することが目標である。アンペールの法則を変位電流の項を加えて拡張し、真空中のマクスウェル方程式から波動方程式を導く。時間的余裕があれば物質中の電磁場を分極ベクトル等を導入して理解できることを示す。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
物理数学Ⅰ(1) (15C2101) [物理・化学学際] [物理学主] [物理学副] 奥村　剛	Ⅰ 1学期 物理学科 1.0単位	大学1，2年で物理学科で習得する力学、電磁気学、量子力学、熱・統計力学に関連した数学を中心に学ぶ。道具として使えることを目標に、計算力養成、直感的理解に重点を置く。
物理数学Ⅰ(2) (15C2103) [物理・化学学際] [物理学主] [物理学副] 奥村　剛	Ⅰ 2学期 物理学科 1.0単位	大学1，2年で物理学科で習得する力学、電磁気学、量子力学、熱・統計力学に関連した数学を中心に学ぶ。道具として使えることを目標に、計算力養成、直感的理解に重点を置く。
物理数学Ⅱ(1) (15C2105) [物理学主] [物理学副] 奥村　剛	Ⅰ 3学期 物理学科 1.0単位	大学1，2年で物理学科で習得する力学、電磁気学、量子力学、熱・統計力学に関連した数学を中心に学びます。道具として使えることを目標に計算力養成、直感的理解に重点を置きます。
物理数学Ⅱ(2) (15C2107) [物理学主] [物理学副] 奥村　剛	Ⅰ 4学期 物理学科 1.0単位	大学1，2年で物理学科で習得する力学、電磁気学、量子力学、熱・統計力学に関連した数学を中心に学びます。道具として使えることを目標に計算力養成、直感的理解に重点を置きます。
熱力学(1) (15C2109) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学主] [物理学副] 出口　哲生	Ⅱ 3学期 物理学科 1.0単位	熱のやりとりを含むマクロな世界の物理化学現象を普遍的に記述できる「熱力学」および「統計力学」の基礎を解説する。その中で、熱力学第２法則（不可逆性）、熱力学第１法則（エネルギー保存則）を学び、エントロピーの概念とその統計力学的な意味を理解する。和達三樹他著『ゼロからの熱力学と統計力学』（岩波書店）の教科書に基づき、熱力学と統計力学の基礎を論理的にかつ直感的に理解することをめざす。 ＜読替＞H19年度以前生は 熱・統計力学で登録
熱力学(2) (15C2111) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学主] [物理学副] 出口　哲生	Ⅱ 4学期 物理学科 1.0単位	熱のやりとりを含むマクロな世界の物理化学現象を普遍的に記述できる「熱力学」および「統計力学」の基礎を解説する。その中で、熱力学第２法則（不可逆性）、熱力学第１法則（エネルギー保存則）を学び、エントロピーの概念とその統計力学的な意味を理解する。和達三樹他著『ゼロからの熱力学と統計力学』（岩波書店）の教科書に基づき、熱力学と統計力学の基礎を論理的にかつ直感的に理解することをめざす。 ＜読替＞H19年度以前生は 熱・統計力学で登録
統計力学(1) (15C2113) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学主] 番　雅司	Ⅲ 1学期 物理学科 1.0単位	我々の身の周りにあるマクロな物質は膨大な数のミクロな粒子(原子やイオンなど)によって構成されている。ミクロな粒子の性質は量子力学によって決定されるで、マクロな物質の性質も量子力学によって説明されるはずである。しかし、膨大な数の粒子に対する量子力学の方程式を直接解くことによって、マクロな物質の性質を説明することは現実には不可能である。ところが、マクロな物質が膨大な数のミクロな粒子で構成され、実際に観測にかかるマクロな物質の性質が構成する膨大な数の粒子の平均としての振る舞いの結果であることを積極的に利用するこ
統計力学(2) (15C2115) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学主] 番　雅司	Ⅲ 2学期 物理学科 1.0単位	我々の身の周りにあるマクロな物質は膨大な数のミクロな粒子(原子やイオンなど)によって構成されている。ミクロな粒子の性質は量子力学によって決定されるで、マクロな物質の性質も量子力学によって説明されるはずである。しかし、膨大な数の粒子に対する量子力学の方程式を直接解くことによって、マクロな物質の性質を説明することは現実には不可能である。ところが、マクロな物質が膨大な数のミクロな粒子で構成され、実際に観測にかかるマクロな物質の性質が構成する膨大な数の粒子の平均としての振る舞いの結果であることを積極的に利用するこ
量子力学Ⅱ(1) (15C2117) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学主] [物理学副] 小林　功佳	Ⅱ 3学期 物理学科 1.0単位	量子力学Iに続いて、量子力学の基本的事項について講義する。 主な内容は角運動量、水素原子、近似法である。 これらの内容は、３年次以降の量子力学などの授業の基本となる事柄である。 (1)では角運動量、水素原子について講義する。
量子力学Ⅱ(2) (15C2119) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学主] [物理学副] 小林　功佳	Ⅱ 4学期 物理学科 1.0単位	量子力学Iに続いて、量子力学の基本的事項について講義する。 主な内容は角運動量、水素原子、近似法である。 これらの内容は、３年次以降の量子力学などの授業の基本となる事柄である。 (2)では近似法について講義する。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
量子力学Ⅲ(1) (15C2121) [物理学主] 出口　哲生	Ⅲ 1学期 物理学科 1.0単位	
量子力学Ⅲ(2) (15C2123) [物理学主] 出口　哲生	Ⅲ 2学期 物理学科 1.0単位	量子力学の様々な基本的応用を議論する。量子力学ⅠおよびⅡの続編ではあるが、量子力学3から聴講しても理解できるように、基礎を復習しながら講義する。最初に量子力学の基礎を1次元の量子系で復習した後に、同種粒子系と量子統計性、パウリ原理、角運動量の合成などを議論する。電磁場中の粒子の量子力学、さらには電磁場の量子化、光の吸収と放出などを議論する。時間的余裕があれば、散乱問題や第二量子化等も説明する。
力学演習(1) (15C2125) [物理学主] [物理学副] 森川　雅博	Ⅰ 1学期 物理学科 1.0単位	
力学演習(2) (15C2127) [物理学主] [物理学副] 森川　雅博	Ⅰ 2学期 物理学科 1.0単位	
電磁気学演習(1) (15C2129) [物理学主] [物理学副] 北島　佐知子	Ⅰ 3学期 物理学科 1.0単位	演習の進め方は、与えられた問題を小テスト形式で解き、提出する。問題の解説を2～4人が発表形式で行う。履修者は、決められた回数以上の発表を必ず行うこと。 成績評価は、演習問題、レポート課題、発表内容に対して、十分に基本的事項の理解を達成していればA判定、7割から8割の達成度でB、5割から7割の達成度でC、5割未満をDとする。
電磁気学演習(2) (15C2131) [物理学主] [物理学副] 北島　佐知子	Ⅰ 4学期 物理学科 1.0単位	与えられた電磁気学の基本的な問題を履修者が自ら手を動かして解き、また、その内容の発表および質疑応答を行い、電磁気学のさらなる理解を深める。
量子力学演習(1) (15C2133) [物理学主] [物理学副] 番　雅司	Ⅱ 3学期 物理学科 1.0単位	演習問題を解くことによって量子力学の基本的な考え方を身につけ、応用力を養うことを目指す。
量子力学演習(2) (15C2135) [物理学主] [物理学副] 番　雅司	Ⅱ 4学期 物理学科 1.0単位	演習問題を解くことによって量子力学の基本的な考え方を身につけ、応用力を養うことを目指す。
統計力学演習(1) (15C2137) [物理学主] 番　雅司	Ⅲ 1学期 物理学科 1.0単位	演習問題を解くことにより統計力学の考え方を身に付け、応用力を養うことを目指す。
統計力学演習(2) (15C2139) [物理学主] 番　雅司	Ⅲ 2学期 物理学科 1.0単位	演習問題を解くことにより統計力学の考え方を身に付け、応用力を養うことを目指す。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
基礎物理学実験(1) (15C2141) [物理学主] 小野　督幸\015\012梅原　利宏	II 3学期 物理学科 1.0単位	テスターの組み立て、オッシロスコープの操作をはじめとして、物理の初等的な実験装置を自分の手で取り扱うことで、基本的な物理量の測定を行う。この過程で、力学、電磁気学、電気回路、熱力学、物性論等に係わる基礎的な物理量を測定する実験を体験させる。得られた測定結果の解析と考察を通じて、実験内容の理解と物理的な思考力を養う訓練を行う。
基礎物理学実験(2) (15C2143) [物理学主] 小野　督幸\015\012梅原　利宏	II 4学期 物理学科 1.0単位	物理の初等的な実験装置を自分の手で取り扱うことで、基本的な物理量の測定を行う。この過程で、力学、電磁気学、電気回路、熱力学、物性論等に係わる基礎的な物理量を測定する実験を体験させる。得られた測定結果の解析と考察を通じて、実験内容の理解と物理的な思考力を養う訓練を行う。最後に、実験結果と考察のプレゼンテーションを行う。
物理学実験(1) (15C2145) [物理学主] 浜谷　望\015\012外舘　良衛\015\012梅原　利宏\015\012河野　能知	III 1学期 物理学科 1.0単位	物理学における実験の基礎技術ならびにやや高度の技術を身につけ、得られたデータの基本的処理法を習得する。物理的思考法を学ぶ。
物理学実験(2) (15C2147) [物理学主] 浜谷　望\015\012外舘　良衛\015\012梅原　利宏\015\012河野　能知	III 2学期 物理学科 1.0単位	物理学における実験の基礎技術ならびにやや高度の技術を身につけ、得られたデータの基本的処理法を習得する。物理的思考法を学ぶ。
物理学実験(3) (15C2149) [物理学主] 浜谷　望\015\012外舘　良衛\015\012梅原　利宏\015\012河野　能知	III 3学期 物理学科 1.0単位	物理学における実験の基礎技術ならびにやや高度の技術を身につけ、得られたデータの基本的処理法を習得する。物理的思考法を学ぶ。
物理学実験(4) (15C2151) [物理学主] 浜谷　望\015\012外舘　良衛\015\012梅原　利宏\015\012河野　能知	III 4学期 物理学科 1.0単位	物理学における実験の基礎技術ならびにやや高度の技術を身につけ、得られたデータの基本的処理法を習得する。物理的思考法を学ぶ。
物理英語(1) (15C2153) [物理学主] 森川　雅博	I 1学期 物理学科 1.0単位	
物理英語(2) (15C2155) [物理学主] 森川　雅博	I 2学期 物理学科 1.0単位	
固体電子論(1) (15C2157) [物理・化学学際] [物理学強化] 小林　功佳	III 3学期 物理学科 1.0単位	結晶などの固体の性質の多くは、固体中の電子のふるまいで決まる。講義では、量子力学・統計力学の講義で学んだ知識を固体中の電子に応用して、金属と絶縁体の違いなど、物質の様々な性質が理解できることを示す。(1)では、授業計画の前半を講義する。
固体電子論(2) (15C2159) [物理・化学学際] [物理学強化] 小林　功佳	III 4学期 物理学科 1.0単位	結晶などの固体の性質の多くは、固体中の電子のふるまいで決まる。講義では、量子力学・統計力学の講義で学んだ知識を固体中の電子に応用して、金属と絶縁体の違いなど、物質の様々な性質が理解できることを示す。(2)では、授業計画の後半を講義する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
凝縮系物理学(1) (15C2165) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学強化] 古川　はづき	Ⅳ 1学期 物理学科 1.0単位	凝縮系の観点から原子構造、金属、磁性、超伝導現象を取り上げ詳解する。
凝縮系物理学(2) (15C2167) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学強化] 古川　はづき	Ⅳ 2学期 物理学科 1.0単位	凝縮系の観点から原子構造、金属、磁性、超伝導現象を取り上げ詳解する。
素粒子物理学(1) (15C2173) [応用数理学際] [物理学強化] 曺　基哲	Ⅲ 3学期 物理学科 1.0単位	素粒子とそれが従う基本相互作用（電磁気力、重力、弱い力、強い力）について紹介する。 素粒子の発見の歴史、量子力学の相対論的拡張に伴う基本相互作用についての理解、現代素粒子物理学における標準模型の確立にいたるまでの道のりについて解説する。
素粒子物理学(2) (15C2175) [応用数理学際] [物理学強化] 曺　基哲	Ⅲ 4学期 物理学科 1.0単位	素粒子とそれが従う基本相互作用（電磁気力、重力、弱い力、強い力）について紹介する。 素粒子の発見の歴史、量子力学の相対論的拡張に伴う基本相互作用についての理解、現代素粒子物理学における標準模型の確立にいたるまでの道のりについて解説する。
物性物理学序論(1) (15C2177) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学強化] 古川　はづき	Ⅱ ～ Ⅳ 3学期 物理学科 1.0単位	物性の基本的な事項（ミクロ構造、電子軌道 、結晶構造（実空間編）、結晶構造（逆格子編）、格子振動、格子比熱 、電気抵抗、熱伝導 、磁性 、超伝導）について、できるだけ多くの絵を使い解説する。物性物理の実験／理論の研究の手法や流れが体得されるように導く。
物性物理学序論(2) (15C2179) [応用数理学際] [物理・化学学際] [物理学強化] 古川　はづき	Ⅱ ～ Ⅳ 4学期 物理学科 1.0単位	物性の基本的な事項（ミクロ構造、電子軌道 、結晶構造（実空間編）、結晶構造（逆格子編）、格子振動、格子比熱 、電気抵抗、熱伝導 、磁性 、超伝導）について、できるだけ多くの絵を使い解説する。物性物理の実験／理論の研究の手法や流れが体得されるように導く。
相対論(1) (15C2181) [応用数理学際] [物理学強化] 曺　基哲	Ⅱ 1学期 物理学科 1.0単位	特殊相対性理論に基づいた運動学、力学、電磁気学と、一般相対性理論の入門的講義を行う。
相対論(2) (15C2183) [応用数理学際] [物理学強化] 曺　基哲	Ⅱ 2学期 物理学科 1.0単位	特殊相対性理論に基づいた運動学、力学、電磁気学と、一般相対性理論の入門的講義を行う。
物理実験学(1) (15C2197) [物理・化学学際] [物理学強化] 浜谷　望	Ⅱ ～ Ⅳ 3学期 物理学科 1.0単位	自然科学の研究における実験的研究は、未知の現象を発見する手段であると同時に、理論的考察に対してその検証を行うという自然の本質の追及に不可欠なアプローチです。2年生の後期から始まる基礎物理実験では、初めて見る実験器具や装置、聞いたことの無い薬品などを扱う実験テーマがあるにちがいありません。どうやって測定するのか、測定した数値をどのように扱ったらよいかなどについての疑問にも行き当たるでしょう。 この授業では、実験データの数値的な取り扱い方法を実践的に学習し、いかに実験を的確に行い解析するかを学び、実験的研究を面白いと感じられるようになることを目標とします。たとえば、一見簡単そうな「長さを測る」といった測定にも細心の注意が必要なことが、測定結果の定量的な解析から実感できるようになります。測定の正確さ・精度とは何か、測定誤差の意味、求めた数値の誤差の推定、最終的に求める物理量に複数の誤差がどのように反映されるか、最小二乗法などについて学びます。また、学科内の実験研究室、工作室を見学し、先端の実験装置にふれることができます。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
物理実験学(2) (15C2199) [物理・化学学際] [物理学強化] 浜谷　望	Ⅱ ～ Ⅳ ４学期 物理学科 1.0単位	自然科学の研究における実験的研究は、未知の現象を発見する手段であると同時に、理論的考察に対してその検証を行うという自然の本質の追及に不可欠なアプローチです。2年生の後期から始まる基礎物理実験では、初めて見る実験器具や装置、聞いたことの無い薬品などを扱う実験テーマがあるにちがいありません。どうやって測定するのか、測定した数値をどのように扱ったらよいかなどについての疑問にも行き当たるでしょう。 この授業では、実験データの数値的な取り扱い方法を実践的に学習し、いかに実験を的確に行い解析するかを学び、実験的研究を面白いと感じられるようになることを目標とします。たとえば、一見簡単そうな「長さを測る」といった測定にも細心の注意が必要なことが、測定結果の定量的な解析から実感できるようになります。測定の正確さ・精度とは何か、測定誤差の意味、求めた数値の誤差の推定、最終的に求める物理量に複数の誤差がどのように反映されるか、最小二乗法などについて学びます。また、学科内の実験研究室、工作室を見学し、先端の実験装置にふれることができます。
基礎エレクトロニクス(1) (15C2201) [物理・化学学際] [物理学強化] 外舘　良衛	Ⅲ １学期 物理学科 1.0単位	現代のエレクトロニクス技術の加速度的な進歩に伴い、応用製品の多くは多様な技術が高度に集積化されてブラックボックス化が著しい。しかしそれを構成している基礎概念や基本構成要素の機能と動作原理は科学的には普遍的なものである。それらの基礎概念についてできるだけ実際的な理解をしてもらうことが目標である。固体電子論を基礎にして発達してきた半導体素子とそれらの集合体としての電子回路や（今後さらに重要性を増す光を含む）電磁波利用技術などが、現代科学を支えている情報の伝送やエネルギーの制御などの機能をどのようにして実現しているかを学ぶ。
基礎エレクトロニクス(2) (15C2203) [物理・化学学際] [物理学強化] 外舘　良衛	Ⅲ ２学期 物理学科 1.0単位	現代のエレクトロニクス技術の加速度的な進歩に伴い、応用製品の多くは多様な技術が高度に集積化されてブラックボックス化が著しい。しかしそれを構成している基礎概念や基本構成要素の機能と動作原理は科学的には普遍的なものである。それらの基礎概念についてできるだけ実際的な理解をしてもらうことが目標である。固体電子論を基礎にして発達してきた半導体素子とそれらの集合体としての電子回路や（今後さらに重要性を増す光を含む）電磁波利用技術などが、現代科学を支えている情報の伝送やエネルギーの制御などの機能をどのようにして実現しているかを学ぶ。
量子光学(1) (15C2205) [応用数理学際] [物理学強化] 番　雅司	Ⅲ ～ Ⅳ ３学期 物理学科 1.0単位	光の量子力学的な性質を講義する。まず、真空中の電磁場の量子化を行い、電磁場が調和振動子の集団と等価であることを導き、電磁場の基本的な量子状態であるFock状態、コヒーレント状態、スクィーズド状態、熱平衡状態の物理的性質を理解する。そして、量子光学システムの基本となるビームスプリッタ、干渉計、及びホモダイン測定について理解する。更に、量子化された電磁場と２準位原子系が相互作用しているシステムの物理的な性質を理解する。また、時間が許せば、量子光学の量子情報処理への応用についての紹介を行う。
量子光学(2) (15C2207) [応用数理学際] [物理学強化] 番　雅司	Ⅲ ～ Ⅳ ４学期 物理学科 1.0単位	光の量子力学的な性質を講義する。まず、真空中の電磁場の量子化を行い、電磁場が調和振動子の集団と等価であることを導き、電磁場の基本的な量子状態であるFock状態、コヒーレント状態、スクィーズド状態、熱平衡状態の物理的性質を理解する。そして、量子光学システムの基本となるビームスプリッタ、干渉計、及びホモダイン測定について理解する。更に、量子化された電磁場と２準位原子系が相互作用しているシステムの物理的な性質を理解する。また、時間が許せば、量子光学の量子情報処理への応用についての紹介を行う。
場の量子論(1) (15C2213) [応用数理学際] [物理学強化] 菅本　晶夫	Ⅲ ～ Ⅳ ３学期 物理学科 1.0単位	
場の量子論(2) (15C2215) [応用数理学際] [物理学強化] 菅本　晶夫	Ⅲ ～ Ⅳ ４学期 物理学科 1.0単位	
計算物理学講義・演習(1) (15C2217) [物理・化学学際] [物理学強化] 小林　功佳	Ⅲ １学期 物理学科 2.0単位	物理学の問題を題材として、プログラミングの講義・実習を行う。 例題や課題をこなすことにより、簡単なプログラムを自ら作成することが出来るようになることが目的である。 また、プログラムを作成する過程で、物理の講義で習う数式の意味を具体的に考え、 物理学の理解をより深めることも目的である。 プログラミング言語はFORTRAN。(1)では、授業計画のうち前半の微分方程式までを扱う予定。
計算物理学講義・演習(2) (15C2219) [物理・化学学際] [物理学強化] 小林　功佳	Ⅲ ２学期 物理学科 2.0単位	物理学の問題を題材として、プログラミングの講義・実習を行う。 例題や課題をこなすことにより、簡単なプログラムを自ら作成することが出来るようになることが目的である。 また、プログラムを作成する過程で、物理の講義で習う数式の意味を具体的に考え、 物理学の理解をより深めることも目的である。 プログラミング言語はFORTRAN。(2)では、授業計画のうち、微分方程式以降の内容を扱う予定。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
放射線基礎講義(1) (15C2221) [物理学強化] 古田　悦子	Ⅱ ～ Ⅳ 1学期 物理学科 1.0単位	目標：1学期目は、1.を目標とする。 1.放射線の基礎を正しく理解する。演習問題の解答により、理解を深める。 2.被ばく影響など物理以外の面にも目を向け、放射線の基礎を説明できるようになる。 3.国家資格である「第一種放射線取扱主任者（X線作業主任者兼務可）」の受験・資格取得の一助とする。
放射線基礎講義(2) (15C2223) [物理学強化] 古田　悦子	Ⅱ ～ Ⅳ 2学期 物理学科 1.0単位	目標：下記の主に2.、3.を目標とする。 1.放射線の基礎を正しく理解する。演習問題の解答により、理解を深める。 2.被ばく影響など物理以外の面にも目を向け、放射線の基礎を説明できるようになる。 3.国家資格である「第一種放射線取扱主任者（X線作業主任者兼務可）」の受験・資格取得の一助とする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
分析化学Ⅰ （15C3003） [化学主] [化学副] [生命情報学] [物理・化学学際] 森　義仁	Ⅱ 前期 化学科 2.0単位	化学平衡論を通じて、分析化学の基礎的操作である滴定分析と定量分析の原理とその応用について理解する。
分析化学Ⅱ （15C3004） [ケミカルバイオロジー] [化学強化] [物理・化学学際] 近藤　敏啓	Ⅲ 前期 化学科 2.0単位	電気化学的分析、分光測光、溶媒抽出、クロマトグラフィーについて、その原理と応用について講義する。教科書：デイ・アンダーウッド「定量分析化学」（培風舘）
化学演習Ⅰ （15C3024） [化学主] 森　義仁\015\012森　寛敏\015\012相川　京子\015\012益田　祐一\015\012矢島　知子	Ⅳ 前期 化学科 2.0単位	各教員がそれぞれの視点で選んだ化学に関するトピックの英文を読み、化学分野の知識を深めるだけでなく、専門英語の読解力を養う。
化学演習Ⅱ （15C3025） [化学主] 森　義仁\015\012棚谷　綾\015\012鷹野　景子\015\012森　寛敏\015\012山田　眞二\015\012近藤　敏啓\015\012矢島　知子\015\012小川　温子\015\012相川　京子\015\012三宅　亮介\015\012益田　祐一	Ⅳ 後期 化学科 2.0単位	本講義では、各自が卒業研究に近い専門論文を選び、読んで理解し、またその内容を他人に理解してもらえるようにプレゼンテーションする能力を身につける。
特別研究Ⅰ （15C3026） 化学全教員\015\012森　義仁\015\012鷹野　景子\015\012森　寛敏\015\012山田　眞二\015\012棚谷　綾\015\012矢島　知子\015\012近藤　敏啓\015\012小川　温子\015\012相川　京子\015\012三宅　亮介\015\012益田　祐一	Ⅳ 前不定期 化学科 6.0単位	各指導教員から与えられた研究テーマについて、研究の背景を調査し、研究の目的を理解する。さらに、研究計画を立て研究テーマに取り組む。
特別研究Ⅱ （15C3027） 化学全教員\015\012森　義仁\015\012鷹野　景子\015\012森　寛敏\015\012山田　眞二\015\012棚谷　綾\015\012矢島　知子\015\012近藤　敏啓\015\012小川　温子\015\012相川　京子\015\012三宅　亮介\015\012益田　祐一	Ⅳ 後不定期 化学科 6.0単位	特別研究Ⅰの続きを行い、卒業レポートを作成するとともに卒業研究発表を行う。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
基礎化学Ａ (15C3028) 山田　眞二	Ⅰ 後期 化学科 2.0単位	有機化学入門。身のまわりにある様々な物質のほとんどすべてに有機化合物が関係している。従って、物質を理解するためには有機化学は必要不可欠な学問であり、将来、化学を専攻する学生はもとより、自然科学のいかなる分野に進む者にとっても有機化学の知識は必要である。多種多様な有機化合物の構造、性質、反応を体系的に理解し、有機化学の全体像を把握できるよう基礎から講義する。
基礎化学Ｂ (15C3029) 鷹野　景子	Ⅰ 前期 化学科 2.0単位	化学の基礎として、原子の成り立ち、元素の周期性、化学結合、分子の形、化学反応、物質の状態などについての基本的概念の理解を目標とする。高校までの定性的理解を定量的理解に高めることが大切である。
分子生物化学 (15C3033) 相川　京子	Ⅲ 前期 化学科 2.0単位	生体内の情報伝達や物質輸送、細胞のがん化や老化の機構などについて取り上げ解説する。分子生物学や遺伝子工学に関する最近の研究成果や技術に関してもふれる。
反応物理化学 (15C3034) [化学強化] [物理・化学学際] 非常勤講師	Ⅲ ～ Ⅳ 未定 化学科 2.0単位	本講義で学ぶ化学反応論は、物質の化学変化の速度やそのメカニズムを研究対象とする学問であり、そのアプローチの仕方には、大きく分けて2通りの方法論があります。 １つは、物質の変化をmol単位で測定するマクロな立場に立つものであり、化学変化の速さを反応物のモル濃度や温度・圧力等の関数として議論します。 もう一つのアプローチでは、化学反応を原子・分子の衝突による化学結合の組み換え過程として理解し、特定の量子状態にある反応分子の衝突過程をミクロな立場から記述します。 講義の前半では、マクロな立場から、また後半では、
高分子化学 (15C3042) [ケミカルバイオロジー] [化学強化] [生命情報学] 鍛治　誠\015\012山田　眞二	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 化学科 2.0単位	１９３０デユポン社のカロザースが世界で初めて合成高分子を合成して以来、わずか８０年の間に、さまざまな革新を経て現代社会を支える構造素材や機能材料が創出されている。日本もこの分野でノーベル賞を受けるなど研究や技術レベルは高く貢献度も大きい。このように重要性の高い高分子の基礎と応用について講義する。本講義により高分子のリテラシーを身につけてもらうことを目標にしている。
実験値解析法 (15C3043) [化学強化] [生命情報学] 森　義仁	Ⅲ 後期 化学科 2.0単位	MS-Excelの統計解析機能を利用して、基礎的な統計解析を学習する。特に、グラフを多用し、視覚的な理解を深める。課題は各種確率分析、推定、検定など。
無機化学特別講義Ⅰ (15C3053) [化学強化] 増井　大	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 化学科 2.0単位	有機金属化学は有機化学と無機化学の融合領域として始まった学問であるが、現代の化学に果たす役割は非常に大きい。近年のノーベル賞の対象となった不斉合成反応やクロスカップリング反応は、いずれも有機金属化学の大きな成果の一つである。本講義では、有機金属化合物の構造的特徴や合成法、基本的反応性、触媒反応への利用について理解を深める。さらに、工業的触媒反応や有機合成化学における有機金属化学の成果を紹介し、我々の身近な生活においてどのように役割を果たしているかについても解説する。(2013.9.27一部改訂)
化学特別ゼミⅡ (15C3082) [化学主] 森　義仁\015\012化学全教員\015\012鷹野　景子\015\012森　寛敏\015\012山田　眞二\015\012棚谷　綾\015\012矢島　知子\015\012近藤　敏啓\015\012相川　京子\015\012小川　温子\015\012益田　祐一\015\012三宅　亮介	Ⅰ 後期 化学科 2.0単位	本授業は、化学科の全教員の研究室を少人数で順番に訪問し、各教員ごとにゼミ形式で行う。本授業を通し、化学の研究現場で何が行われているのか、何が面白いのかを感じてほしい。また、さらに、化学科在籍中に化学の基礎知識を蓄積しつつ研究への関心を育てるきっかけとしてほしい。各教員の実際の研究テーマあるいは研究分野に触れる良い機会でもある。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
化学英語 (15C3086) [化学主] [化学副] HORN ERNST	II 後期 化学科 2.0単位	This course is designed to develope the students English communication skills for the preparation of scientific reports and oral presentations. English grammar will be revised and selected to suit the different parts a chemical report (e.g. Experimental,
物理化学Ⅰ (15C3101) [化学主] [化学副] [生命情報学] [物理・化学学際] 鷹野　景子	II 前期 化学科 2.0単位	量子力学の基本的な概念、手法、その化学への応用について学ぶ。まず、並進・振動・回転という基本的な運動について取り扱う。次に原子の電子構造から出発して、二原子分子、さらには多原子分子の電子構造を考察する。化学の広い分野で活用が盛んになってきた分子軌道法の基本的概念の理解を目標とする。理解度は、主として筆記試験で評価する。概念の導出の過程およびその結果得られたことを、論理的に説明できるかどうかを重視する。
物理化学Ⅱ (15C3102) [化学主] [化学副] [生命情報学] [物理・化学学際] 森　寛敏	II 前期 化学科 2.0単位	マクロな系のふるまいを扱う理論体系としての熱力学の基本的概念を分子論定解釈も加えて学ぶ。状態関数である内部エネルギー、エンタルピー、エントロピーとは何であるか。これらと第一法則、第二法則との関係を知り、諸条件におけるこれらの変化の表し方を理解する。
物理化学Ⅲ (15C3103) [化学主] [化学副] [生命情報学] [物理・化学学際] 森　寛敏	II 後期 化学科 2.0単位	物理化学IIで習得した各熱力学関数を、実際の系にいかに運用するかを学ぶ。 また，物質のミクロな性質とマクロな性質との橋渡しを与える統計熱力学・分子間相互作用について学ぶ。
物理化学Ⅳ (15C3104) [化学強化] [生命情報学] [物理・化学学際] 植草　秀裕\015\012木口　学	III 後期 化学科 2.0単位	前半で結晶構造論を、後半で化学反応論を学習する。 　前半：固体（結晶）中の原子の並び方や分子の構造から物質の性質を理解することができる。授業では結晶構造および構造解析法の理解を目的とし、結晶に関する基本的な概念と対称性の考え方、X線結晶構造解析法、特徴的な結晶構造について学習する。X線結晶構造解析法は分子構造、結晶内の分子配列（結晶構造）を三次元的に明らかにする優れた手法で、有機化学、錯体化学、無機化学など、化学の多くの分野で必須となっている。 　後半：化学反応がいかに起こり、どのようにして反応が進行するかについて理解する事を目的とする。まず、基礎的な反応について、反応速度の定量的な表現法及び実験的な速度の測定方法を紹介し、化学反応速度と反応機構との関係について学習する。 基礎的な反応速度論の知見をもとに、連鎖反応や触媒反応など工業的に利用されている複雑な反応について学び、化学反応への理解をさらに深める。
無機化学Ⅰ (15C3105) [化学主] [化学副] [物理・化学学際] 益田　祐一	I 後期 化学科 2.0単位	無機化合物は多様な元素の組み合わせによってもたらされる。まず、多様な元素の性質（特にその周期性）と、その原子の電子配置との関連を初歩的な量子論的取扱いを交えながら解説する。次いで、無機化合物を構成する種々の様式の結合およびこれを記述する方法について述べる。また、２，３の無機化学における基本的概念（酸塩基、酸化還元など）について解説する。
無機化学Ⅱ (15C3106) [化学主] [化学副] 久冨木　志郎	II 後期 化学科 2.0単位	1年次に履修した無機化学Ⅰに立脚して、イオン性固体や金属の構造と性質、および典型金属元素･非金属元素の物理化学的性質や特徴について学ぶ。本講義の内容を理解することで学生諸君は以下の目標を達成する。 1) イオン性固体や金属の結晶構造やその性質について説明できる。 2) 典型元素の物理化学的性質について説明ができる。 3) 非金属元素の物理化学的性質について説明ができる。
無機化学Ⅲ (15C3107) [ケミカルバイオロジー] [化学強化] 益田　祐一	III 後期 化学科 2.0単位	遷移金属錯体は有機化合物の触媒反応や、光触媒、生体内酵素などで中心的な役割を担っており、現代化学に欠かすことの出来ない化合物である。その様な様々な機能は中心金属と配位子の相互作用から生まれる多様な性質に起因している。本講義では遷移金属錯体の構造と電子状態、反応性について論理的に理解することを目標とする。
有機化学Ⅰ (15C3108) [ケミカルバイオロジー] [化学主] [化学副] [生命情報学] [物理・化学学際] 矢島　知子	II 前期 化学科 2.0単位	化学科の有機化学の講義は、２年次の有機化学I、IIならびに３年次の有機化学III、IVから構成され、これらを全て履修することで有機化学の全体を理解できるようになっている。有機化学I、IIでは、ブルース「有機化学」第５版（上巻）を用いて原子軌道、分子軌道、共有結合等の概念に基づき、有機化合物の構造を理解し、それらの性質、反応性、合成法について学習する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
有機化学Ⅱ （15C3109） [ケミカルバイオロジー] [化学主] [化学副] [生命情報学] 棚谷　綾	Ⅱ 後期 化学科 2.0単位	化学科の有機化学の講義は、２年次の有機化学Ⅰ・Ⅱならびに３年次の有機化学Ⅲ・Ⅳから構成され、これらを全て履修することで有機化学の全体を理解できるようになっている。有機化学Ⅰ・Ⅱでは、ブルース「有機化学」第５版（上巻）を用いて、原子軌道、分子軌道、共有結合等の概念に基づき、有機化合物の構造を理解し、それらの性質、反応性、合成法について学習する。
有機化学Ⅲ （15C3110） [ケミカルバイオロジー] [化学強化] [生命情報学] 山田　眞二	Ⅲ 前期 化学科 2.0単位	芳香族化合物の構造的特徴とそれらの性質、合成、反応について学ぶ。さらに、カルボニル基を持つ化合物、アルデヒド、ケトン、カルボン酸誘導体の特徴とそれらの性質と反応ついて理解する。
生物化学Ⅰ （15C3111） [ケミカルバイオロジー] [化学主] [化学副] 小川　温子	Ⅱ 前期 化学科 2.0単位	化学の知識で生命を理解するための生化学の基礎。生体を構成している重要な分子の構造と機能、ならびにそれらと関連する基本的な細胞機能を学ぶ。 　この授業では主に糖質と核酸を中心に講義し、糖質の構造と機能、DNAの構造と機能、複製、組換え、修復、さらにRNAを経てタンパク合成、糖鎖付加などの翻訳後修飾に至る一連の、生命の根幹をなす流れまでを理解する。
生物化学Ⅱ （15C3112） [ケミカルバイオロジー] [化学主] [化学副] 相川　京子	Ⅱ 後期 化学科 2.0単位	生物の化学組成、細胞の基本構造と組成、アミノ酸・タンパク質の構造と機能、タンパク質の分析法、細胞膜の構造と機能、膜タンパク質の構造と機能、酵素反応の基本的な事項について解説する。
生物化学Ⅲ （15C3113） 小川　温子	Ⅲ 後期 化学科 2.0単位	全生物に共通な反応系や代謝系の化学。 生体においてエネルギーを取り出すしくみと、エネルギー変換による物質合成のしくみ。解糖系、TCA回路、電子伝達系と酸化的リン酸化、光合成、脂質代謝、窒素代謝、細胞のシグナル伝達などを含み、生物が生きるための基本的な化学反応と、その生物における重要性を学ぶ。
分子分光法 （15C3114） [化学強化] [物理・化学学際] 近藤　敏啓	Ⅲ 前期 化学科 2.0単位	分光法とは、電磁波と物質の相互作用をとおして、物質（分子）の状態や構造を調べる方法である。様々な周波数をもつ電磁波と物質（分子）との相互作用が分子のどのような側面からの描像を与えるかについて概説する．また、種々の分光法の測定原理や化学（科学）への応用について解説する。
基本化学実験Ⅰ （15C3115） [化学主] 矢島　知子\015\012益田　祐一\015\012小川　温子	Ⅰ 前期 化学科 2.0単位	化学の基本的実験。化学科2年生以降の実験の入門的役割を果たす。
基本化学実験Ⅱ （15C3116） [化学主] 益田　祐一\015\012三宅　亮介\015\012近藤　敏啓\015\012森義仁	Ⅱ 前期 化学科 2.0単位	化学を専攻するための基礎となる実習授業。無機化学及び分析化学に関する基礎的な実験である。３年次で履修する化学専門実験の基礎となる。無機、分析化学に関する基礎的な実験技術を身につけるばかりでなく、実験をとおして当該分野の基礎的事項の理解を主体的に学ぶことが目標である。
基本化学実験Ⅲ （15C3117） [化学主] 鷹野　景子\015\012森　寛敏\015\012小川　温子\015\012相川　京子\015\012佐藤　真	Ⅱ 後期 化学科 2.0単位	本実験は物理化学と生物化学に関する基礎的内容を基にしており、３年生で行う専門実験の前段階の実験に位置づけられる。本実験では、基礎的な実験操作とデータの取り扱い方の習得、および実験を通して授業で学習した内容の理解を深めることを主題としている。実験報告（レポート）のまとめ方（書き方）も学習する。物理化学に関する実験項目では、気体の密度、液体の密度、反応熱などのテーマに取り組む。生物化学に関する実験項目では、主要な生体分子を精製し、得られた試料を化学的に分析し、生体分子の基本的な生物学的機能についても構造との相関を含めて理解する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
基本化学実験Ⅳ (15C3118) [化学主] 棚谷　綾\015\012相川　京子\015\012相川　京子	Ⅱ 後期 化学科 2.0単位	本実験は生物化学と有機化学に関する基礎的内容を基にしており、３年生で行う専門実験の前段階の実験に位置づけられる。本実験では、基礎的な実験操作の習得、および実験を通して授業で学習した内容の理解を深めることを主題としている。生物化学に関する実験項目では、主要な生体分子を精製し、得られ た試料を化学的に分析し、生体分子の生物学的機能について構造との相関を含めて理解する。有機化学に関する項目では、付加、脱離、SN1、SN2反応、および分離、精製、構造決定法の基礎を理解する。
専門化学実験Ⅰ (15C3119) [化学主] 森　義仁\015\012近藤　敏啓\015\012小川　温子\015\012相川　京子\015\012鷹野　景子\015\012森　寛敏\015\012佐藤　真	Ⅲ 前期 化学科 6.0単位	化学を専攻するための専門実習授業。分析化学、生物化学、および物理化学に関する専門的な実験である。分析化学、生物化学、物理化学に関する専門的な実験技術を身につけ、実験をとおして当該分野の理解を深めることが目標である。
専門化学実験Ⅱ (15C3120) [化学主] 山田　眞二\015\012矢島　知子\015\012益田　祐一\015\012三宅　亮介	Ⅲ 後期 化学科 4.0単位	本実験では、有機、無機化合物の合成を通して、化学反応および化合物の性質、物性の理解、合成の操作および分離精製方法を習得する。さらに核磁気共鳴法、赤外分光法等による生成物の構造決定方法を学習する。また、化学情報の検索と外国語文献を読む練習を行い、研究を行う上での基盤となる知識、技能、および思考力を身につけることを目標とする。
有機化学Ⅳ (15C3121) [ケミカルバイオロジー] [化学強化] [生命情報学] 山田　眞二	Ⅲ 後期 化学科 2.0単位	カルボニル化合物の代表的な反応であるカルバニオンの反応、アミン、α，β－不飽和カルボニル化合物、複素環化合物について学び、より複雑な有機化合物の合成と反応を理解する。さらに隣接基効果、ウッドワード・ホフマン側を学び反応の選択性および特異性について理解することを目標にしている。
特別研究Ⅰ (15C3143) [化学主] 化学全教員\015\012森　義仁\015\012鷹野　景子\015\012森　寛敏\015\012山田　眞二\015\012棚谷　綾\015\012矢島　知子\015\012近藤　敏啓\015\012小川　温子\015\012相川　京子\015\012三宅　亮介\015\012益田　祐一	Ⅳ 前不定期 化学科 4.0単位	
特別研究Ⅱ (15C3144) [化学主] 化学全教員\015\012森　義仁\015\012鷹野　景子\015\012森　寛敏\015\012山田　眞二\015\012棚谷　綾\015\012矢島　知子\015\012近藤　敏啓\015\012小川　温子\015\012相川　京子\015\012三宅　亮介\015\012益田　祐一	Ⅳ 後不定期 化学科 8.0単位	
生体分子機能・反応学 (15C3147) [ケミカルバイオロジー] [化学強化] [生命情報学] 小川　温子	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 化学科 2.0単位	
分子生命科学 (15C3148) [ケミカルバイオロジー] [化学強化] [生命情報学] 相川　京子	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 化学科 2.0単位	細胞間・細胞内の情報伝達機構や細胞内の物質輸送、タンパク質の生合成と分解、細胞のがん化や老化の機構などについて取り上げて解説する。生命科学に関する最近の研究や技術に関してもふれる。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
専門化学実験Ⅰ (15C3151) [化学主] 近藤　敏啓\015\012森　義仁	Ⅲ 前期 化学科 2.0単位	化学を専攻するための専門実習授業。分析化学に関する専門的な実験である。分析化学に関する専門的な実験技術を身につけ、実験をとおして当該分野の理解を深めることが目標である。
専門化学実験Ⅱ (15C3152) [化学主] 小川　温子\015\012相川　京子\015\012非常勤講師	Ⅲ 前期 化学科 2.0単位	本実験は２年生で行った基本化学実験で習得した実験技術を使って、さらに高度な分析技術や実験手法を取り入れて生物化学分野の実験を行う。タンパク質の構造解析や活性測定、糖鎖の組成分析、データベースからの生物情報の検索と抽出などを行い、最近の生命科学分野の研究に必須な手法を学ぶ。
専門化学実験Ⅲ (15C3153) [化学主] 鷹野　景子\015\012森　寛敏\015\012佐藤　真	Ⅲ 前期 化学科 2.0単位	化学を専攻するための専門実習授業で，「物理化学」に関する専門的な実験である。 物理化学に関する専門的な実験技術を身につけ、実験を通して当該分野の理解を深めることが目標である。
専門化学実験Ⅳ (15C3154) [化学主] 山田　眞二\015\012矢島　知子	Ⅲ 後期 化学科 2.0単位	本実験では、有機化合物の合成を通して、化学反応および化合物の性質、物性の理解、合成の操作および分離精製方法を習得する。さらに核磁気共鳴法、赤外分光法等による生成物の構造決定方法を学習する。また、化学情報の検索と外国語文献を読む練習を行い、研究を行う上での基盤となる知識、技能、および思考力を身につけることを目標とする。
専門化学実験Ⅴ (15C3155) [化学主] 益田　祐一\015\012三宅　亮介	Ⅲ 後期 化学科 2.0単位	
生物化学Ⅰ(1) (15C3156) [ケミカルバイオロジー] [化学主] [化学副] 小川　温子	Ⅱ １学期 化学科 1.0単位	
生物化学Ⅰ(2) (15C3158) [ケミカルバイオロジー] [化学主] [化学副] 小川　温子	Ⅱ ２学期 化学科 1.0単位	
分析化学Ⅰ(1) (15C3160) [化学主] [化学副] [生命情報学] [物理・化学学際] 森　義仁	Ⅱ １学期 化学科 1.0単位	化学平衡論を通じて、分析化学の基礎的操作である滴定分析と定量分析の原理とその応用について理解する。
分析化学Ⅰ(2) (15C3162) [化学主] [化学副] [生命情報学] [物理・化学学際] 森　義仁	Ⅱ ２学期 化学科 1.0単位	化学平衡論を通じて、分析化学の基礎的操作である滴定分析と定量分析の原理とその応用について理解する。
分子生命科学(1) (15C3164) [ケミカルバイオロジー] [化学強化] [生命情報学] 相川　京子	Ⅲ １学期 化学科 1.0単位	細胞間・細胞内の情報伝達機構や細胞内の物質輸送、タンパク質の生合成と分解、細胞のがん化や老化の機構などについて取り上げて解説する。生命科学に関する最近の研究や技術に関してもふれる。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
分子生命科学(2) (15C3166) [ケミカルバイオロジー] [化学強化] [生命情報学] 相川　京子	Ⅲ ２学期 化学科 1.0単位	細胞膜受容体を介した細胞内情報伝達のしくみ、セカンドメッセンジャーの機能、核内受容体を介した遺伝子発現に関して分子構造と機能の関連を解説する。また、細胞増殖、細胞死、細胞老化、細胞のがん化のしくみを概説し、生命の仕組みを俯瞰する。
地球環境科学 (15C3171) [物理学主] 中井　俊一	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 化学科 2.0単位	
生物学概論Ａ (15C3173) 太田　尚孝	Ⅰ ～ Ⅲ 後期 化学科 2.0単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
生化学 (15C4001) [生物学主] [生物学副] [生命情報学] 小林　哲幸	I 前期 生物学科 2.0単位	生化学は、細胞生物学や分子生物学と融合して現代の生命科学の基盤となっている分野であり、生命現象の本質を理解するためには必須の学問領域である。本講義では、生命の活動単位である細胞の成り立ちを分子レベルで理解するために、その構成分子の構造、性状、機能に関する基礎的知識を修得する。具体的には、以下の項目を到達目標とする。 1）原核生物と真核生物の類似点、相違点を説明できる 2）生命現象における水の役割を構造や性質から説明できる 3）アミノ酸の構造と性質を説明できる 4）タンパク質の主要な機能を列挙できる／タンパク質の一次から四次構造を説明できる／酵素の基本的性質を説明できる 5）核酸塩基の構造、DNAの構造と機能、RNAの構造と機能を説明できる 6）脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる／脂肪酸の種類と役割を説明できる 7）生体膜の構造と機能を説明できる 8）グルコースの構造、性質、役割を説明できる／グルコース以外の単糖や二糖の構造、性質、役割を説明できる／代表的な多糖の構造と役割を説明できる
生物物理学 (15C4002) [生物学主] [生物学副] 最上　善広	I 後期 生物学科 2.0単位	生命現象は複雑多岐にわたる物理・化学反応から成り立っている．機能集合体としての生命（生体）を理解する上で，それらを構成する素過程を理解することが重要となっている． 　講義では，生命現象の記載に使われる物理理論を項目毎に取り上げ，それらに対応する生命現象について，研究・解析の手法を示しながら，それらの現象を物理学的側面から解説して行く．
動物系統学 (15C4003) [生物学主] [生物学副] 清本　正人	I 後期 生物学科 2.0単位	地球上に生息する動物は三百万種あるいはそれ以上といわれているが、現在この膨大な種は三十程度の門に分類されている。各々の動物門の特徴について、特に体制とそれを作り上げる発生の様式を重点に講義する。さらに進化の過程を体制の変化、すなわち発生システムの変更と捉え、これまで明かにされてきた発生システムから進化の過程をどのように考えられるか考察する。
基礎遺伝学 (15C4007) [生物学主] [生物学副] 松浦　悦子\015\012近藤　るみ	II 前期 生物学科 2.0単位	DNAやRNAの構造に基づいて，遺伝子のはたらきを理解する。さらに，遺伝情報の保存と変化についても学び，遺伝子に対する理解を深めることを目指す。また，進化を理解する基礎として，集団内における遺伝子のふるまいにもふれる。
細胞生物学 (15C4009) [ケミカルバイオロジー] [生物学主] [生物学副] [生命情報学] 宮本　泰則\015\012後藤　真里	II 前期 生物学科 2.0単位	細胞は、生物の基本単位である。細胞は、生命誕生とともに生まれ、原核細胞から真核細胞へと進化し、単細胞の真核生物から多細胞の真核生物へと進化してきた。この進化を可能にした細胞の特性を、様々な角度から細胞を構成している生体高分子のレベルで講義していく。このことを通し、生物の基本である細胞とはどのようなものであるかを理解することを目指していく。
分子遺伝学 (15C4013) [生物学主] [生物学副] [生命情報学] 松浦　悦子	II 後期 生物学科 2.0単位	遺伝情報の複製，及び転写と翻訳の基本的な理解の上にたって，遺伝子の構造や遺伝子発現の制御機構，及びそれらとゲノムとの関係について，真核生物を中心に学ぶ。さらに，関心のあるテーマについてグループ発表を行うことにより，自ら考え学ぶ方法を探る。
動物生理学 (15C4016) [生物学主] [生物学副] [生命情報学] 最上　善広	II 前期 生物学科 2.0単位	動物の活動・反応の仕組みを生理学的アプローチで探求する。 神経の興奮とその伝達，および筋収縮などの現象について，生物物理，細胞生物学，分子生物学の側面から解説し，理解を深める．
発生生物学 (15C4018) [生物学主] [生物学副] 千葉　和義	II 後期 生物学科 2.0単位	この授業では、発生生物学のおもしろさを自ら見つけだし、自信をもってそのおもしろさを主張できるようになることを目標とします。そのために単に知識を詰め込むのではなく、自ら興味を育て、主体的に学んだことを自分の中で再構成できる力をつけることを目指します。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
進化生物学 (15C4019) [生物学主] [生物学副] 服田　昌之	Ⅰ 後期 生物学科 2.0単位	すべての生き物は進化の結果として現在に生きている。いかなる生命現象も、進化の視点がなければ、その真の姿を理解することはできない。この講義では、生き物を理解するうえで基盤となる進化学の基礎を身に付けつつ、将来のいかなる業種・いかなる局面においても役に立つ、問題解決力と思考力の育成を目標とする。そのために次に示す概念獲得・能力獲得を目指す。 生き物たちの生き様と歴史 進化の概念 系統分岐の考え方による分類整理と論理構造 最節約原理とトレードオフに基づく意志決定の哲学 変遷する「種」と生き物の動的認識 人間中心的視点の相対化、既存認識の相対化
生物学実習Ⅰ (15C4020) [生物学主] 生物全教員\015\012加藤　美砂子\015\012松浦　悦子\015\012最上　善広\015\012千葉　和義\015\012小林　哲幸\015\012由良　敬\015\012服田　昌之\015\012作田　正明\015\012宮本　泰則\015\012清本　正人\015\012嶌田　智\015\012近藤　るみ	Ⅰ 後期 生物学科 2.0単位	生物学科の学生として、これから学ぶ専門科目の授業、実習に役立つ内容が組み込まれ、基礎的な技術や考え方を学ぶ科目である。
生物学実習Ⅱ (15C4021) [生物学主] 生物全教員\015\012加藤　美砂子\015\012松浦　悦子\015\012最上　善広\015\012千葉　和義\015\012小林　哲幸\015\012由良　敬\015\012服田　昌之\015\012作田　正明\015\012宮本　泰則\015\012清本　正人\015\012嶌田　智\015\012近藤　るみ	Ⅱ 前期 生物学科 2.0単位	生物学実習Ⅰの継続。
基礎遺伝学実習 (15C4023) [生物学主] 近藤　るみ	Ⅱ 3学期 生物学科 1.0単位	モデル動物としてのショウジョウバエがもつ、遺伝学研究上の様々な利点をなるべく広範囲に示し、生命科学研究に遺伝学が担う役割を具体的な実験を通して体験する。
分子遺伝学実習 (15C4024) [生物学主] 松浦　悦子\015\012近藤　るみ	Ⅲ 前集中 生物学科 1.0単位	大腸菌を用いて、遺伝子の取り扱いに必要な基礎的な実験を行う。組換えDNA分子の作出，組換えDNA分子による形質転換，プラスミドDNAの抽出と電気泳動など。
細胞生物学実習 (15C4025) [生物学主] 宮本　泰則\015\012森島　真帆	Ⅲ 後集中 生物学科 1.0単位	細胞生物学は、細胞で見られる現象を分子のレベルで理解することを目指しています。今回の実習を通して、細胞生物学研究の基本的な道具である分子（タンパク質、抗体）、動物細胞を用いた実験を通して、細胞接着および細胞骨格に関する細胞生物学研究の手法の一端を理解してもらうことを狙いとしています。また、最終日には、班ごとの結果発表会を行い、プレゼンテーションの仕方についても学ぶことを目標とする。
植物生理学実習 (15C4026) [生物学主] 作田　正明\015\012嶋田　勢津子	Ⅲ 前集中 生物学科 1.0単位	植物生理学の基礎的な考え方の習得を目的とする。モデル植物、アラビドプシスや培養細胞を実験材料として、遺伝子の発現、蛋白質の機能発現、生体成分の生成にいたるプロセスを体験を通じて学ぶ。また、遺伝子が環境要因の影響を受けることに関しても学習する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
代謝生物学実習 (15C4027) [生物学主] 加藤　美砂子	Ⅲ 後集中 生物学科 1.0単位	代謝の実験に必須の酵素活性の測定、中間産物の定量、、放射性化合物を用いたトレーサー実験などを植物材料を用いて行う。
動物生理学実習 (15C4028) [生物学主] 最上　善広\015\012和田　祐子	Ⅲ 前集中 生物学科 1.0単位	動物生理学を学ぶための基礎となる，細胞膜の興奮性，能動輸送，生体運動機構等についての理解を深めるための実験を行う． 細胞膜の興奮性を担うイオンチャンネルは，感覚受容や神経の活動を構成する主要メカニズムであるとともに，シグナル伝達などの細胞内の生理活性の連鎖的調節機構の最初の段階に位置する，重要な機能単位である．神経における活動電位の発生とその伝播を調べ，イオンチャンネルの活性化の機構と，生体膜の電気的特性を理解することを目的とする． 生体反応の形成と維持に必要なホメオスタシスの分子機構のモデルとして，生体膜での能動輸送を取り上げ，その基質選択性や，エネルギー代謝に関する実験を行う． 生物の示す，運動現象と，その調節機構を理解するために，筋肉の収縮現象を取り上げ，筋収縮の刺激応答性や，力の発生機構を理解するための実験を行う．
細胞生化学実習 (15C4029) [生物学主] 小林　哲幸	Ⅲ 後集中 生物学科 1.0単位	生体成分を材料として、生化学的な研究を行うために必要な、基礎的な実験技術や考え方を習得する。 具体的には、以下の項目を到達目標とする。 1）酵素反応の特性を理解し、代表的な酵素の活性を正確に測定できる 2）タンパク質としての酵素の性質を調べることができる 3）酵素タンパク質の分子量を測定できる 4）脂質分子の特性を理解し、生体材料から抽出して定性分析ができる 5）人工膜を調製し、生体膜の基本的な性質を調べることができる 6）何を明らかにしたいかを自ら考え、そのための実験デザインを構築できる 成績評価について：評価方法・評価割合の項で述べた割合で、平常点（出席）とレポートに基づいて総合評価する。その際、上記の到達目標への達成度を評価基準とする。
発生生物学実習 (15C4030) [生物学主] 千葉　和義	Ⅲ 前集中 生物学科 1.0単位	ヒトデ、カエル、ニワトリ、マウス等を用いて減数分裂と受精、そして発生を観察する。また、減数分裂や受精を制御している生理活性物質を単離して、その働きについて探究的な実験を行う。
動物生理学臨海実習 (15C4031) [生物学主] 最上　善広\015\012和田　祐子	Ⅲ 前集中 生物学科 1.0単位	海産無脊椎動物の示す多様な生体反応を調べ，生命現象の多様性を実感することと，併せて生理学的実験方法のイントロダクションを行う． 海産無脊椎動物は，地球上の動物を形成する主要なメンバーであり，そこには，いろいろな生命現象の発現形態を見ることができる．そのような生物が持つ，生体機能のバリエーションを調べ，生物における多様性の実体を知ることを目的とする． 生体機能のダイナミックスを研究する上で必要と思われる一般的実験機材の使用法や，画像計測技術等を習得する．
動物系統学臨海実習 (15C4032) 清本　正人	Ⅱ 前集中 生物学科 2.0単位	海岸には主要な各動物門にわたる多種の動物が生息している。フィールドでその生態を観察しながら採集し、さらに実験室で種の同定や形態の観察（スケッチ）を行い、各動物門ごとの体制上の特徴と海岸での生物種の多様性を理解する。
発生生物学臨海実習 (15C4033) [生物学強化] 清本　正人	Ⅲ 後集中 生物学科 1.0単位	棘皮動物（主に、ウニとヒトデ）の卵母細胞、卵と精子を用い、基本的な発生現象の観察と実験を通して、動物の発生を理解する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
細胞生化学 (15C4037) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] 小林　哲幸	Ⅱ ～ Ⅲ 後期 生物学科 2.0単位	科目「生化学」で学んだ基礎知識を踏まえて、生命現象を分子レベルで理解することを目標とする。細胞内で営まれている化学反応を知り、その反応の場である細胞内構造や機能との関連を理解する。具体的には、以下のように「細胞内の代謝／エネルギー変換系」、「生体膜の構造と機能」および「細胞内情報伝達」に主眼をおいて概説し、以下の項目を到達目標とする。 1）酵素反応の特性を化学反応と対比させて説明できる／代表的な酵素反応の活性調節機構を説明できる 2）解糖系、クエン酸回路、酸化的リン酸化、アルコール発酵、乳酸発酵について説明できる 3）脂肪酸のβ酸化、必須脂肪酸やコレステロールの代謝と機能を説明できる 4）核酸塩基、アミノ酸の代謝とその制御について説明できる 5）エネルギー代謝の組織化と調節について、ホルモンなどの生理活性分子との関係から説明できる 6）生体膜の構造と機能について、脂質、タンパク質、糖質の側面から説明できる
進化遺伝学 (15C4038) [生物学強化] [生命情報学] 近藤　るみ	Ⅲ 3学期 生物学科 2.0単位	30億年の歴史を持つ生命は、共通性を保ちながら、驚くほどの多様性を示す。多様なものが独自性を保ち、かつ相互に深く関係する。生物進化をDNAに刻み込まれた歴史の解明に主軸を置いて考え、実験分子進化学の新しい学問領域を講義する。
遺伝子工学 (15C4039) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] [生命情報学] 加藤　美砂子\015\012宮本　泰則	Ⅲ 前期 生物学科 2.0単位	20世紀末から現在までのあいだに生物科学は長足の進歩を遂げた．その背景にはDNAクローニングや遺伝子組換え法など遺伝子に関する技術の発展がある．本講義では遺伝子工学の主要な考え方や研究例を紹介する．本講義の履修により生物科学の新しい方向性の考察が容易になるよう講義目標を設定した．
発生遺伝学 (15C4040) [生物学強化] [生命情報学] 服田　昌之\015\012清本　正人	Ⅲ 前期 生物学科 2.0単位	主要な動物の発生過程の時空間変遷の記載に基づき、多様な動物の形がどのようにして作られていくのか、統一的な基本原理の理解を目指す。動物の発生で起こる形態的変化がどのように調節されているのかについて、細胞間相互作用と遺伝子発現による分化制御から解明されてきた機構を学ぶ。
バイオメカニクス (15C4042) [生物学強化] 最上　善広	Ⅲ 前期 生物学科 2.0単位	生き物は「動く」のである． animal という言葉に対して「動物」という訳語を与えたおかげで，動くことが，特殊な例であるかのような印象を与えてしまっている．しかし植物も緩やかな時間の流れの中で確実な運動を示している．細胞の中を見てみると，そこでは動物も植物の区別もなく，動きまわる現象がいたるところに見られる．この動きを作り出す細胞レベルの装置は何か，そのメカニズムはどんなものか，そして細胞内のミクロな運動がどのようにして統合され，より高次元の運動を生み出して行くのか．さらに，我々にもなじみの深いマクロな運動にはどのような特徴があるのか．・・・・・ これらの問題を取り扱いながら，生き物の動きについて概説する．
植物生理工学 (15C4044) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] 加藤　美砂子	Ⅲ 前期 生物学科 2.0単位	植物固有の生命現象に関与する物質に着目し、その生合成、分解、細胞内輸送という観点からその機能について解説する。特に葉緑体を中心として植物細胞の中に広がる代謝系のネットワークを理解する。さらに、植物の機能を利用したファイトレメディエーション（環境修復）や、代謝系を遺伝子工学的に改変するエンジニアリングの実情についても言及し、その問題点や今後の発展性について考える。
生物学演習Ⅰ (15C4050) [生物学主] 生物全教員\015\012加藤　美砂子\015\012松浦　悦子\015\012最上　善広\015\012千葉　和義\015\012小林　哲幸\015\012由良　敬\015\012服田　昌之\015\012作田　正明\015\012宮本　泰則\015\012清本　正人\015\012嶌田　智\015\012近藤　るみ	Ⅳ 前不定期 生物学科 2.0単位	各教員が、その専門分野の論文・総説の講読の指導を行う。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
生物学演習Ⅱ (15C4051) [生物学主] 生物全教員\015\012加藤　美砂子\015\012松浦　悦子\015\012最上　善広\015\012千葉　和義\015\012小林　哲幸\015\012由良　敬\015\012服田　昌之\015\012作田　正明\015\012宮本　泰則\015\012清本　正人\015\012嶌田　智\015\012近藤　るみ	Ⅳ 後不定期 生物学科 2.0単位	各教員が、その専門分野の論文・総説の講読の指導を行う。
植物生理学 (15C4057) [生物学主] [生物学副] 川上　直人	Ⅰ 後期 生物学科 2.0単位	植物は他の生物と同様、遺伝的なプログラムによって成長・発達する。一方、植物は厳しい環境に耐える仕組みを発達させるとともに、環境変化を「シグナル」として感知し、季節に応じた成長を可能としている。この講義では、このような巧みで柔軟な植物の成長メカニズムについて、組織・細胞・分子レベルで理解することを目的として、最新の成果を交えて解説する。また、未だに解明されていない多くの謎に思いを馳せることとしたい。
生物学外書講読 (15C4064) [生物学主] 作田　正明\015\012嶌田　智	Ⅲ 後期 生物学科 2.0単位	生物学分野の英語の文献を読解する訓練を行う演習である。受講生を２グループに分け，ゼミ形式で各自が主体的に英文読解に取り組むようにする。生物学分野の専門用語や表現に慣れ，特別研究に必要となる英文読解力をつけることを目的とする。
生物学特殊講義Ⅰ (15C4092) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] [生物学主] [生命情報学] 鵜沢　美穂子\015\012鳥谷　真佐子	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 生物学科 1.0単位	
生物学特殊講義Ⅷ (15C4099) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] [生物学主] [生命情報学] 森島　真帆	Ⅰ ～ Ⅳ ３学期 生物学科 1.0単位	神経系は、生体機能を統合的に調節する重要な働きをすると同時に、ヒトとしての高次脳機能を担っている。この講義では、神経科学の基礎として、神経系を構成する細胞の形態学的特徴と機能を理解し、系としての働きについて考える。また、主にヒトに関して、脳・神経系の構造の概要と各部位の機能的役割を学び、構造と機能の関係を理解することを目指す。その後、機能障害の例として、高次脳機能が障害されて発症する認知症疾患について学ぶ。
生物学特殊講義Ⅸ (15C4100) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] [生物学主] [生命情報学] 坂田　洋一	Ⅰ ～ Ⅳ ４学期 生物学科 1.0単位	この講義では「植物におけるホルモンシグナル伝達の分子機構」と題し、植物におけるシグナル伝達機構を解説します。動物とは異なり、移動できない植物は様々な環境に適応して成長を行い子孫を残すための独特のシステムを発展させ進化してきました。これらのうち、多くの植物において共通した成長制御制を行う化学物質を「植物ホルモン」と呼んでいます。本講義では、単純な化学物質である植物ホルモンが最終的に遺伝子発現の制御を行うための、植物が発達させた巧妙な仕組みについて、その発見に至る主要論文を併用しながら解説を行います。
生物学特殊講義ⅩⅦ (15C4108) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] [生物学主] [生命情報学] 渡邉　明彦	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 生物学科 1.0単位	
生物学特殊講義ⅩⅧ (15C4109) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] [生物学主] [生命情報学] 池上　有希子\015\012倉田　和美	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 生物学科 1.0単位	
分子構造生物学 (15C4122) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] [生命情報学] 由良　敬	Ⅲ 前期 生物学科 2.0単位	タンパク質などの生体高分子のかたちを理解し、さまざまな分子生物学的機能がどのようにしてそのかたちから実現するのかを理解する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
植物系統学 (15C4136) [生物学主] [生物学副] 嶌田　智	II 後期 生物学科 2.0単位	主題：光合成をおこないそれによって酸素を発生する生物（陸上植物と藻類）を一般には植物と呼ぶ。それらはクロロフィルaをもつという共通点を有するものの，その実体は互いに系統的にかけ離れ、形態的にも多様な生物の集合に過ぎない。植物の多様性はどのようにしてもたらされたのか？植物は生物界全体にどのように位置づけられるのか？といった疑問に対する答えを探りつつ，各植物群の形態的特徴およびそれぞれの類縁関係などについて概説する。 目標：一般に植物と呼ばれる光合成生物がいかに多様で興味深い対象であるかについて理解してもらう。また，葉緑体獲得機構としての細胞共生現象が光合成生物の多様化にどのように寄与したのかについても理解してもらう。その上で，各植物群の特徴を把握してもらいたい。
植物系統学臨海実習 (15C4138) [生物学主] 嶌田　智\015\012阪口　翔太	I 前集中 生物学科 1.0単位	自然に恵まれた湾岸生物教育研究センターを中心に行うフィールドワーク。 様々な海洋植物（海藻類、海産植物プランクトン、海産被子植物）および陸生植物（シャジク藻類、陸上植物）を採集、同定、観察し、標本作成を行う。
植物機能制御学 (15C4139) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] 作田　正明	III 後期 生物学科 2.0単位	植物は、動物、微生物にはみられない多種多様な二次代謝物質を合成・蓄積する。これらは植物において様々な機能を担っているばかりでなく、我々の生活においても有用物質として広範囲で用いられている。本講義では、植物の二次代謝産物の構造や機能、さらには生合成について概説するとともに、植物の代謝系をターゲットとした新機能植物の創出（分子育種）の現状と展望について概説する。
植物生態学 (15C4140) [生物学主] [生命情報学] [地理強化] 鞠子　茂	I ～ II 前集中 生物学科 2.0単位	この授業では、植物の生態研究に関する基礎的な理論と手法を総合的に解説した上で、主要な研究分野ごとに専門知識と最新のトピックについて各論的な講義を行う。最初のイントロダクションと最後のまとめを除く１３回の授業は、３つのステージに分けられる。第２～４回は生態学の基本概念、理論、手法などについて学ぶための「生態学基礎ステージ」である。第５～11回は、生態学における基幹学問を取り上げ、植物の話題を中心とした専門的知識を学ぶための「専門ステージ」である。第12～14回は、生態学が環境問題にコミットする学問であることを踏まえ、植物生態学と環境問題との関係について学ぶ「応用ステージ」である。 こうした授業構成にしたねらいは、生態学講座をもたない大学に所属する学生にとっては、関連知識を網羅的、体系的に学ぶよりも、関心のある研究テーマに対してコミットあるいは応用できる生態学的理論や手法を学ぶ方がより意義のあるものと考えるからである。この講義により、少しでも多くの学生が植物を中心とした生態学に興味を深め、習得した知識を卒業研究に生かしてもらうことを期待したい。
動物環境応答学 (15C4142) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] 千葉　和義\015\012服田　昌之	III 後期 生物学科 2.0単位	時々刻々と変化する環境の中で、生物は体内の恒常性を制御しつつ外部の変動に対応することで生命をつないでいる。多細胞動物においては、個体にとっての内部環境が細胞にとっての外部環境ともなる。個体は、細胞は、それぞれの外部環境からどのようなシグナルを受け取り、どのような機構で対応するのだろうか。研究の経緯やトピックスを交えながら、あるいは既存教科書にはない捉え方を提示しながら、動物の環境応答の全体像の把握を目指す。
生物統計学 (15C4143) [生物学主] [生物学副] [生命情報学] [地理強化] 由良　敬	II 前期 生物学科 2.0単位	実験で得られる数値データを、正しく解釈できるようになるために必要な生物統計の基礎を習得することを本授業の到達目標とする。そのために実際に実験で遭遇しそうなデータを用いて数値解析の理論と方法を展開する。
生物系統地理学 (15C4144) [生物学強化] [地理強化] 嶌田　智	III 後期 生物学科 2.0単位	生物系統地理学とは、遺伝子の系列、特に近縁種間や種内の系列の、地理的分布を決定する原理と過程を研究する学問である。種生物学、分子遺伝学、集団遺伝学、行動学、個体群統計学、系統学、古生物学、地質学、歴史地理学、適応進化学などの幅広い学問領域を統合することで、生物の小進化と大進化の理解を試みる。
生命情報プログラミング演習 (15C4145) [生物学強化] [生命情報学] 由良　敬	III ３学期 生物学科 1.0単位	生命情報プログラミング実習では、プログラムミング言語Pythonをもちいて、プログラミングの基礎を習得し、その上で、ＤＮＡ配列、アミノ酸配列、タンパク質立体構造データの解析方法を実習する。実験で得られる数値データの取り扱いができるようにする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
分析・光学機器実習 (15C4146) [生物学強化] 最上　善広\015\012小林　哲幸\015\012加藤　美砂子\015\012宮本　泰則\015\012嶌田　智	Ⅲ 後集中 生物学科 1.0単位	生物学は、実験科学であるため、様々な分析機器、光学機器を用いる。これらの機器の原理、解析法を習得することを目標とする。このことは、生物学を生きた知識として、活用していくときには不可欠の知識となる。本実習は、生物学科において基礎的な講義を学んだ後の、アドバンス的な実習と位置づけられている。実習を通し、生物学の研究者のみならず高度な専門職業人の育成を目指していくことを目標とする。
発生遺伝学(1) (15C4149) [生物学強化] [生命情報学] 服田　昌之	Ⅲ 1学期 生物学科 1.0単位	主要な動物の発生過程の時空間変遷の記載に基づき、多様な動物の形がどのようにして作られていくのか、統一的な基本原理の理解を目指す。
発生遺伝学(2) (15C4151) [生物学強化] [生命情報学] 清本　正人	Ⅲ 2学期 生物学科 1.0単位	主要な動物の発生過程の時空間変遷の記載に基づき、多様な動物の形がどのようにして作られていくのか、統一的な基本原理の理解をまず目指す。次に、初期発生の過程における細胞間相互作用と遺伝子ネットワークを概観し、未解決の問題点について考えていく。発生学分野は、生物学のかなり広い分野を包括しているので、関連する諸分野との接点も大切にして、発生現象の面白さを理解してもらいたい。
バイオメカニクス(1) (15C4153) [生物学強化] 最上　善広	Ⅲ 1学期 生物学科 1.0単位	animal という言葉に対して「動物」という訳語を与えたおかげで，動くことが，特殊な例であるかのような印象を与えてしまっている．しかし植物も緩やかな時間の流れの中で確実な運動を示している．細胞の中を見てみると，そこでは動物も植物の区別もなく，動きまわる現象がいたるところに見られる．この動きを作り出す細胞レベルの装置は何か，そのメカニズムはどんなものか，そして細胞内のミクロな運動がどのようにして統合され，より高次元の運動を生み出して行くのか．さらに，我々にもなじみの深いマクロな運動にはどのような特徴があるのか．これらの問題を取り扱いながら，生き物の動きについて概説する．
バイオメカニクス(2) (15C4155) [生物学強化] 最上　善広	Ⅲ 2学期 生物学科 1.0単位	生き物は「動く」のである． 　animal という言葉に対して「動物」という訳語を与えたおかげで，動くことが，特殊な例であるかのような印象を与えてしまっている．しかし植物も緩やかな時間の流れの中で確実な運動を示している．細胞の中を見てみると，そこでは動物も植物の区別もなく，動きまわる現象がいたるところに見られる．この動きを作り出す細胞レベルの装置は何か，そのメカニズムはどんなものか，そして細胞内のミクロな運動がどのようにして統合され，より高次元の運動を生み出して行くのか．さらに，我々にもなじみの深いマクロな運動にはどのような特徴があるのか．これらの問題を取り扱いながら，生き物の動きについて概説する．
植物生理工学(1) (15C4157) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] 加藤　美砂子	Ⅲ 1学期 生物学科 1.0単位	植物固有の生命現象に関与する物質に着目し、その生合成、分解、細胞内輸送という観点からその機能について解説する。特に葉緑体を中心として植物細胞の中に広がる代謝系のネットワークを理解する。さらに、植物の機能を利用したファイトレメディエーション（環境修復）や、代謝系を遺伝子工学的に改変するエンジニアリングの実情についても言及し、その問題点や今後の発展性について考える。
植物生理工学(2) (15C4159) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] 加藤　美砂子	Ⅲ 2学期 生物学科 1.0単位	植物固有の生命現象に関与する物質に着目し、その生合成、分解、細胞内輸送という観点からその機能について解説する。特に葉緑体を中心として植物細胞の中に広がる代謝系のネットワークを理解する。さらに、植物の機能を利用したファイトレメディエーション（環境修復）や、代謝系を遺伝子工学的に改変するエンジニアリングの実情についても言及し、その問題点や今後の発展性について考える。
遺伝子工学(1) (15C4161) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] [生命情報学] 加藤　美砂子\015\012宮本　泰則	Ⅲ 1学期 生物学科 1.0単位	20世紀末から現在までのあいだに生物科学は長足の進歩を遂げた．その背景にはDNAクローニングや遺伝子組換え法など遺伝子に関する技術の発展がある．本講義では遺伝子工学の主要な考え方や研究例を紹介する．特に遺伝子工学①では、基本的な手法に重点を置き講義する。本講義の履修により生物科学の遺伝子工学の基礎的な原理の理解が容易になるよう講義目標を設定した．
遺伝子工学(2) (15C4163) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] [生命情報学] 加藤　美砂子\015\012宮本　泰則	Ⅲ 2学期 生物学科 1.0単位	20世紀末から現在までのあいだに生物科学は長足の進歩を遂げた．その背景にはDNAクローニングや遺伝子組換え法など遺伝子に関する技術の発展がある．本講義では遺伝子工学①の遺伝子工学の基礎的な考え方や手法を踏まえ、動物および植物での遺伝子工学の発展的な手法や研究例を紹介する．本講義の履修により生物科学の動物、植物における発展的な手法や原理の理解が容易になるよう講義目標を設定した．

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
動物環境応答学(1) (15C4165) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] 千葉　和義	Ⅲ ３学期 生物学科 １.０単位	時々刻々と変化する環境の中で、生物は体内の恒常性を制御しつつ外部の変動に対応することで生命をつないでいる。多細胞動物においては、個体にとっての内部環境が細胞にとっての外部環境ともなる。個体は、細胞は、それぞれの外部環境からどのようなシグナルを受け取り、どのような機構で対応するのだろうか。多細胞動物が内外環境の変動に対応するための中心的な機構が内分泌系である。研究の経緯やトピックスを交えながら、あるいは既存教科書にはない捉え方を提示しながら、内分泌系の全体像の把握を目指す。動物環境応答学（２）とあわせて受講していただきたい。
動物環境応答学(2) (15C4167) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] 服田　昌之	Ⅲ ４学期 生物学科 １.０単位	時々刻々と変化する環境の中で、生物は体内の恒常性を制御しつつ外部の変動に対応することで生命をつないでいる。多細胞動物においては、個体が受容した環境シグナルを細胞内のシグナルに変換・伝達することによって、環境の変化に対応している。しかもそれは進化の過程によって精選されてきた。分子レベルから個体レベルまでの進化の背景を踏まえて、動物個体の環境応答を、時間的スケールが異なる神経・内分泌・発生の視点から俯瞰し、動物個体が生きている状態とはどういうことかの理解を目指す。
分子構造生物学(1) (15C4169) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] [生命情報学] 由良　敬	Ⅱ ～ Ⅲ １学期 生物学科 １.０単位	タンパク質などの生体高分子のかたちを理解し、さまざまな分子生物学的機能がどのようにしてそのかたちから実現するのかを理解する。
分子構造生物学(2) (15C4171) [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] [生命情報学] 由良　敬	Ⅱ ～ Ⅲ ２学期 生物学科 １.０単位	タンパク質などの生体高分子のかたちを理解し、さまざまな分子生物学的機能がどのようにしてそのかたちから実現するのかを理解する。
化学概論Ａ (15C4177) 五十嵐　正敏	Ⅰ ～ Ⅲ 後期 生物学科 ２.０単位	
代謝生物学 (15C4500) [ケミカルバイオロジー] [生物学主] [生物学副] 加藤　美砂子	Ⅱ 後期 生物学科 ２.０単位	光合成を中心とする植物の代謝を学び、植物が環境に適応するしくみについて理解することを目標とする。
植物系統学実習 (15C4501) [生物学主] 嶌田　智\015\012阪口　翔太	Ⅱ 前期 生物学科 １.０単位	構内に生育する様々な植物群を自ら採集し、各分類群を特徴づける形態形質を観察する。生物多様性研究に必要な技術・技法を実際の体験を通して習得する。
特別研究Ⅰ (15C4502) [生物学主] 生物全教員\015\012加藤　美砂子\015\012松浦　悦子\015\012最上　善広\015\012千葉　和義\015\012小林　哲幸\015\012由良　敬\015\012服田　昌之\015\012作田　正明\015\012宮本　泰則\015\012清本　正人\015\012嶌田　智\015\012近藤　るみ	Ⅳ 前不定期 生物学科 ６.０単位	各研究室に所属して、それぞれ特定の題目について学習・研究する。生物学における研究のあり方について修得することが望まれる。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
特別研究Ⅱ （15C4503） [生物学主] 生物全教員\015\012加藤　美砂子\015\012松浦　悦子\015\012最上　善広\015\012千葉　和義\015\012小林　哲幸\015\012由良　敬\015\012服田　昌之\015\012作田　正明\015\012宮本　泰則\015\012清本　正人\015\012嶌田　智\015\012近藤　るみ	Ⅳ 後不定期 生物学科 6.0単位	各研究室に所属して、それぞれ特定の題目について学習・研究する。生物学における研究のあり方について修得することが望まれる。
公開臨海実習 （15C4504） [ケミカルバイオロジー] [生物学強化] 清本　正人	Ⅰ ～ Ⅲ 通不定期 生物学科 1.0単位	海産動物の分類学研究者の指導のもと、多様な海産動物を採集し，観察や講義を通じて自然史学的研究法を学ぶ。さらに、棘皮動物を材料に、その個体発生の各過程について、実習を行う。それぞれの研究手法を身につけ、各分野の研究の最前線を理解する。
動物系統学臨海実習 （15C4505） [生物学主] 清本　正人	Ⅱ 前集中 生物学科 1.0単位	海岸には主要な各動物門にわたる多種の動物が生息している。フィールドでその生態を観察しながら採集し、さらに実験室で種の同定や形態の観察（スケッチ）を行い、各動物門ごとの体制上の特徴と海岸での生物種の多様性を理解する。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
線形代数学Ⅰ (15C5001) [情報科学主] 工藤　和恵	Ⅰ 前期 情報科学科 2.0単位	線形代数学の基礎を学び、基本的な考え方や計算方法を習得することを目標とします。初めに平面と空間の幾何について行列やベクトルとの関係を学んだあと、行列の演算、連立一次方程式の解法、行列式の理論について学びます。
線形代数学Ⅱ (15C5002) [情報科学主] 工藤　和恵	Ⅰ 後期 情報科学科 2.0単位	ベクトル空間や内積空間に関わる基本的な概念について理解し、線形写像の振る舞いを調べる方法を習得することを目標とします。ベクトル空間に関する基礎的な概念を学んだあと、線形写像、行列の固有値と固有ベクトルについて学びます。また、内積空間と直交行列および対称行列の対角化についても学びます。
微分積分学Ⅰ (15C5003) [情報科学主] 三浦　晋示	Ⅰ 前期 情報科学科 2.0単位	自然科学、情報科学を勉強する上で、基礎になる微分積分学について講義をする。高校までに学んだ微積の知識をもとに、一変数関数の微分積分について更に発展させていく。 細かい証明より直観的な説明を重視し、コンピュータによる作図なども併用する。受講生は、平行して行われる演習も受講し自分で実際に問題を解き、勉強する楽しみを味わって欲しい
微分積分学Ⅱ (15C5004) [情報科学主] 三浦　晋示	Ⅰ 後期 情報科学科 2.0単位	自然科学、情報科学を勉強する上で、基礎になる微分積分学について講義をする。微分積分学１の続きとして、二変数関数の微分積分について更に発展させていく。 細かい証明より直観的な説明を重視し、コンピュータによる作図なども併用する。受講生は、平行して行われる演習も受講し自分で実際に問題を解き、勉強する楽しみを味わって欲しい
データ構造とアルゴリズム (15C5007) [情報科学主] [生命情報学] 淺井　健一	Ⅰ 後期 情報科学科 2.0単位	本講義では、配列、リスト、木構造といった基本的なデータ構造と、それを使った各種の探索アルゴリズム、整列アルゴリズム等を学習する。また、アルゴリズムにおいて重要となる正当性、停止性、計算量について学習する。
コンピュータ基礎演習 (15C5008) [情報科学主] 小口　正人	Ⅰ 前期 情報科学科 2.0単位	UNIXおよびプログラミング言語Cの基礎を習得する。情報科学分野の学習・研究を進めるためには、コンピュータを用いて数値計算やデータ処理などを行う能力を身に付けることが重要である。本演習ではUNIXベースのコンピュータの使い方を覚え、基本的なプログラムを作成する技術を習得することが目標である。
プログラミング実習 (15C5009) [情報科学主] 齋藤　豪\015\012齋藤　豪	Ⅰ 後期 情報科学科 2.0単位	コンピュータプログラミング言語の基礎をC言語の実習を通じで習得することを目標とする。与えられた課題のプログラムを作成し、C言語の基本スキルを身につけると共に手続き型プログラミングの基本概念を習得する。
確率序論 (15C5010) [情報科学主] [情報科学副] [生命情報学] 吉田　裕亮	Ⅱ 後期 情報科学科 2.0単位	確率の基礎概念から始め，大数の法則と中心極限定理までを解説する．体系的な厳密さは他の講義に譲り，様々な分野で必要となる確率関係の基礎知識の習得に重点を置く．
離散数学 (15C5011) [情報科学主] [情報科学副] 淺本　紀子	Ⅱ 前期 情報科学科 2.0単位	離散数学という言葉は計算機科学の基礎に使われる数学の総称であり，ほぼすべての数学をカバーするが，本講義はそのうち，情報通信，暗号，誤り訂正符号等の基礎となる有限群論，整数論，一変数多項式環のイデアルの理論，体の拡大の理論の初歩などを中心に解説する．
微分積分学Ⅲ (15C5012) [情報科学主] 郡　宏	Ⅱ 前期 情報科学科 2.0単位	微分方程式とベクトル解析の基礎を学びます．微分方程式とベクトル解析は，物理学，シミュレーション科学，コンピューターグラフィックスなどの道具として大変重要です．様々な計算ができるようになることに重点を置き，定理と証明は最低限にとどめます．

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
システムプログラミング実習 (15C5013) [情報科学主] 櫻井　快勢	II 前期 情報科学科 2.0単位	C言語によるプログラムの作成方法を習得していることを前提とし，シェルプログラミングやUNIXオペレーティングシステムの提供するシステムコールを用いたプログラミングを行う.
コンピュータアーキテクチャⅠ (15C5014) [情報科学主] [情報科学副] 粕川　正充	II 前期 情報科学科 2.0単位	現在のコンピュータを把握するために、ハードウェアに近い側からアプローチする。 どのような原理でコンピュータは動作するのか、プログラムの本質とは何かの理解から、使われる文字コード、浮動小数点数の意味などのソフトウェア寄りの部分についても解説する。
コンピュータアーキテクチャⅡ (15C5015) [情報科学主] 粕川　正充	II 後期 情報科学科 2.0単位	プログラムが「動く」とはどういうことかを、ソフトウェアの面から追いかける。主題は「オペレーティングシステム」というコンピュータを動かす屋台骨の部分で、これが自分の書いたプログラムとどのように係わるかを理解することが目標となる。
コンピュータネットワークⅠ (15C5016) [情報科学主] [情報科学副] 小口　正人	II 後期 情報科学科 2.0単位	インターネットに代表されるコンピュータネットワークは、情報関係の様々な分野の基盤となる技術であり、この知識を身に付けることは実用的にも有効である。本講義ではTCP/IPを中心としたネットワークプロトコルの基礎並びに応用技術に関して理解することを目標とする。
マルチメディアプログラミング実習 (15C5018) [情報科学主] 椎尾　一郎	II 後期 情報科学科 2.0単位	いままでC言語を学んできた受講者を対象に，Java言語を用いてマルチメディアプログラミングの基礎を実習します．とくに，近年のプログラム開発環境，グラフィックユーザインターフェース，マルチメディアプログラミングに重要なオブジェクト指向の概念を理解し活用することを目的とします.
特別研究 (15C5019) [情報科学主] 情報全教員	IV 通不定期 情報科学科 6.0単位	各研究室に所属し，指導教員の助言の下に情報科学に関する特定のテーマを選び，研究計画を立て，自主的に学習・研究する態度を培い，アカデミズムに触れる．年度末には最終試験として，全教員と３年生の前で研究成果の発表を行う．成績には普段の研究態度も反映される.
線形代数学演習Ⅰ (15C5021) [情報科学主] 齊藤　直子	I 前期 情報科学科 2.0単位	本科目は「線形代数学Ⅰ」に併設された演習であり、講義の内容の計算や証明を演習形式で各自が行い、講義の実践を行うものである。 講義の内容をより深く理解するために講義と演習を併せて履修することを強く勧める。当然ながら出席が重視される。
線形代数学演習Ⅱ (15C5022) [情報科学主] 齊藤　直子	I 後期 情報科学科 2.0単位	本科目は「線形代数学Ⅱ」に併設された演習であり、講義の内容の計算や証明を演習形式で各自が行い、講義の実践を行うものである。 講義の内容をより深く理解するために講義と演習を併せて履修することを強く勧める。当然ながら出席が重視される。
微分積分学演習Ⅰ (15C5023) [情報科学主] 鈴木　桜子	I 前期 情報科学科 2.0単位	本科目は「微分積分学I」に併設された演習であり，講義の内容の計算や証明を演習形式で各自が行い,講義の実践を行うものである．講義の内容をより深く理解するために講義と演習と併せて履修することを強く勧める．当然ながら出席が重視される.
微分積分学演習Ⅱ (15C5024) [情報科学主] 小串　典子	I 後期 情報科学科 2.0単位	本科目は「微分積分学Ⅱ」に併設された演習であり，講義の内容の計算や証明を演習形式で各自が行い,講義の実践を行うものである．講義の内容をより深く理解するために講義と演習と併せて履修することを強く勧める．当然ながら出席が重視される.

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
微分積分学演習Ⅲ (15C5025) [情報科学主] 齊藤　直子	Ⅱ 前期 情報科学科 2.0単位	微分積分学Ⅲの講義内容に沿った演習問題を解いて講義の理解を深めます。
線形代数学Ⅲ (15C5026) [情報科学主] 堀江　充子	Ⅱ 前期 情報科学科 2.0単位	線形代数学Ⅰ,Ⅱ に引き続いて線形代数の基本事項について学ぶ。特に、計量空間、一般の線形空間、ジョルダン標準形等を扱う。
グラフ理論 (15C5027) [応用数理学際] [情報科学主] [情報科学副] [数学強化] [生命情報学] 萩田　真理子	Ⅱ 前期 情報科学科 2.0単位	数学アレルギーがある人でも楽しめる離散数学の科目で、グラフの定義と性質を紹介します。もちろん、数学が得意な人も歓迎します。十分に楽しめることと思います。数学では珍しく、予備知識なしにスタートして、半年で最先端の問題まで眺められる分野です。
関数型言語 (15C5028) [情報科学主] 淺井　健一	Ⅱ 前期 情報科学科 2.0単位	本講義では、関数型言語 OCaml を使って、関数型言語によるプログラミングと型の重要性について学習する。講義と演習の両方を行い、最終的には「メトロネットワーク最短路問題」を解くプログラムを作成する。
計算機代数演習 (15C5029) [情報科学主] 淺本　紀子	Ⅱ 後期 情報科学科 2.0単位	これまで数学の講義等で扱われた内容について、計算機を使用した可視化や実験を行うことでこれらの理解を深め、また計算機による数式処理の基礎を学ぶことを目的とする。情報科学科の計算機室で使用可能なソフトを用いて実習するので、受講生は情報科学科のアカウントが必要である。
位相空間論 (15C5030) [情報科学主] [情報科学副] 戸次　大介	Ⅱ 後期 情報科学科 2.0単位	「位相」は現代数学の、ほぼありとあらゆる分野を支える概念であり、その応用範囲は拡大の一途を辿っている。それゆえに、初学者にとっては「位相が一体何の役に立つのか」「何のために位相について学ぶのか」が見えにくいこともある。本講義では、微積分学の基礎が「実数の位相的性質」によって支えられていることを見ながら、位相の概念および役割について解説する。
情報理論 (15C5031) [応用数理学際] [情報科学主] [情報科学副] [生命情報学] 非常勤講師	Ⅱ 後期 情報科学科 2.0単位	情報理論の基礎を学びます。
英文講読 (15C5035) [情報科学主] 情報全教員	Ⅲ 後不定期 情報科学科 2.0単位	本演習は３年生を数グループに分け，情報科学・応用数学系の専門英語文献を読解する訓練を行うものである．テキストは７月頃から担当教員毎に提示され，９月末に受講生の希望に応じたクラス分けがなされる．英語は卒業研究に必須なので，選択科目であるが履修が強く望まれる．
情報科学集中演習 (15C5036) [情報科学強化] 戸次　大介\015\012工藤　和恵	Ⅲ 後不定期 情報科学科 2.0単位	１月初旬に１週間程度をかけて，３年生までに履修した重要科目について，情報科学科の全教員が交代で試験形式の演習をおこなう．選択であるが，大学院進学を考えている人，また学部で就職する場合も情報科学科卒業生としての自分のクオリティを保ちたい人は必ず受けるように．
数値計算 (15C5039) [情報科学強化] 工藤　和恵	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 情報科学科 2.0単位	浮動小数演算の基礎を学び、代表的な数値計算アルゴリズムを理解することを目標とします。数値微分や数値積分、関数の近似、連立１次方程式、非線形方程式、微分方程式の解法などを学びます。また、誤差と精度保証などの概略についても学びます。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
言語理論とオートマトン (15C5041) [情報科学強化] 淺井　健一	III ～ IV 前期 情報科学科 2.0単位	プログラミング言語の理論的な取り扱いにおいて重要な役割を果たす形式言語について、特に正則表現、正則言語、文脈自由文法などについて講義をする。演習有。
計算基礎論 (15C5042) [応用数理学際] [情報科学強化] [数学強化] 鹿島　亮	III ～ IV 後期 情報科学科 2.0単位	さまざまな「問題」を数学的に定式化すると，それらは計算可能なもの（すなわちコンピュータプログラムを実行することで解ける問題）と計算不可能なものに分類され，さらにそれぞれが「計算にかかる時間」や「計算不可能性の度合」などにより細かく分類される．このような分類を厳密に与えてその性質を数学的に調べる分野を計算論と呼ぶ．本講義の目標は，情報科学および数学の常識としての計算論の入門部分を身に付けることである．
情報解析学 (15C5044) [応用数理学際] [情報科学強化] [生命情報学] 戸次　大介	III ～ IV 前期 情報科学科 2.0単位	代数的立場で論理を扱う「代数的論理学」を学ぶ。束、有界束、分配束、ハイティング束、ブール束についての基本を解説し、それらを拡張して得られる剰余束によって、自然言語の文法が代数的手法で分析できることを示す。
組み合わせ論 (15C5046) [応用数理学際] [情報科学強化] [情報科学副] [数学強化] [生命情報学] 萩田　真理子	III ～ IV 後期 情報科学科 2.0単位	情報関連科目を学ぶために大切な、組み合わせ論的なものの見方・考え方ができるようになることを主な目的とします。具体的には、鳩の巣原理と数え上げ、地図の塗り分けと４色定理、ラムゼー理論、ブロックデザインと配置の問題などを扱う予定です。
フーリエ解析とラプラス変換 (15C5048) [応用数理学際] [情報科学強化] [数学強化] 郡　宏	III ～ IV 前期 情報科学科 2.0単位	フーリエ解析とラプラス変換の基礎を学びます。
情報と職業 (15C5060) [情報科学強化] [情報科学副] 椎尾　一郎	III ～ IV 前期 情報科学科 2.0単位	デジタル情報システムが我々の暮らしとビジネスにどのような変革をもたらしているのか、実例を紹介しつつ解説する。
コンパイラ構成論 (15C5062) [情報科学強化] 淺井　健一	III ～ IV 後期 情報科学科 2.0単位	本講義ではまず、字句解析、構文解析、各種最適化、コード生成といったコンパイラ構成技術について学習する。その上で、簡単な言語を設計し、そのコンパイラを作成する。さらに、いろいろな最適化技法を使って、コンパイラがよりよいコードを出力するよう工夫する。
人工知能論 (15C5065) [情報科学強化] 小林　一郎	III ～ IV 後期 情報科学科 2.0単位	コンピュータにヒトと同じような「知的な」処理を行わせる計算機科学である「人工知能」の概要について説明する．知的なコンピュータシステムを実現する様々な技術を人工知能の歴史をひもときながら，初期の技術から最近の技術動向について幅広く説明する．
自然言語論 (15C5066) [情報科学強化] 小林　一郎	III ～ IV 前期 情報科学科 2.0単位	自然言語処理の技術は、コンピュータによる日本語変換機能や検索エンジンなどの基礎となる技術を提供するだけではなく、近年はロボットとのコミュニケーションを実現するなど、さまざまなシステムに応用されている．本講義では、人の言葉をコンピュータで処理を行う枠組みである自然言語処理の基礎技術について解説する．
データベース設計論 (15C5069) [情報科学強化] [生命情報学] 渡辺　知恵美	II ～ IV 後期 情報科学科 2.0単位	データベースとは何かから始めて，現在世界でもっとも広く使われているリレーショナルデータベースとは何かを，データモデル，正規化理論，問い合わせ言語の体系を講義することで明らかにする．教科書：増永良文著「リレーショナルデータベース入門」[新訂版]（サイエンス社）

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
コンピュータグラフィックス (15C5070) [情報科学強化] 伊藤　貴之	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 情報科学科 2.0単位	本講義では、コンピュータ・グラフィックス(CG) およびコンピュータ可視化を構成する諸技術を解説します。3次元CGの標準的ライブラリであるOpenGLを利用して、 C言語またはJava言語を用いた3次元CGのプログラミングを、本講義の最大の課題とします。
コンピュータビジョン (15C5071) [情報科学強化] 伊藤　貴之	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 情報科学科 2.0単位	本講義は、視覚的情報表現の主たる媒体である画像に関する諸技術を解説します。画像の基本的な原理を学習した後に、画像を加工するための濃淡変換、変形、特徴抽出、合成などの各技術を学び、そのプログラミング方法について深く議論します。続いて画像の認識や流通に関する諸技術を学び、画像技術が実社会でどのように貢献しているかを議論します。 Java言語を用いた画像加工プログラミングを、本講義の最大の課題とします。
コンピュータネットワークⅡ (15C5074) [情報科学強化] 小口　正人	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 情報科学科 2.0単位	コンピュータネットワークは大学、企業、家庭等あらゆる場面において今や不可欠な存在となり、その知識や技術の習得を求める社会的要求も高い。本講義では、インターネットを中心としたコンピュータネットワークを実際に構築し運用するために必要な知識を総括する。
ヒューマンインターフェイス (15C5075) [情報科学強化] [情報科学副] 椎尾　一郎	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 情報科学科 2.0単位	ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI: コンピュータと人のインタラクション）に関する科学と技術について紹介します．人工物と人とのかかわりあいから，使い易い道具，使い易いコンピュータソフトウェアについて考察し，グラフィカルユーザインタフェースの考え方と作り方、HCIのための様々な入出力デバイス、HCIの手法、HCIの評価方法、新しいHCIの動向について学びます．
環境情報論 (15C5078) [情報科学強化] [情報科学副] [生命情報学] [地理強化] 郡　宏	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 情報科学科 2.0単位	環境、社会、生命現象を理解し予測するための数理的方法を広く学びます。
情報科学特別講義Ⅴ (15C5082) [情報科学強化] 戸次　大介\015\012工藤　和恵	Ⅲ ～ Ⅳ 後不定期 情報科学科 2.0単位	担当講師は毎回変わるオムニバス形式で、情報科学コースの専門科目では足りない話や、有名な研究者の話など、学科スタッフの人脈を駆使して皆さんにぜひ聴いて欲しい分野の先生方を集めました。
情報科学演習Ⅴ (15C5092) [情報科学強化] 戸次　大介	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 情報科学科 2.0単位	
マルチメディア (15C5150) [情報科学主] [情報科学副] [生命情報学] 伊藤　貴之	Ⅱ 後期 情報科学科 2.0単位	本講義では、マルチメディアを構成する多様なメディアと、 それを支える基盤技術や人的知識について解説します。 まず、マルチメディアを理解するための前提知識としての コミュニケーション技術、デザイン論、リテラシについて論じます。 続いて、そのメディアの制作や伝達を支える基盤技術 （例えばウェブ、ハードウェア、基盤ソフトウェア）を解説します。 さらに、多様なメディア（文書、音響、音楽、静止画、動画、CGなど） の各要素技術について解説し、静止画制作や音楽制作などに関して若干の実演を行います。 マルチメディアコンテンツの自由制作、およびマルチメディアに関するグループディスカッションと発表会を、本講義の最大の課題とします。
数値計算演習 (15C5151) [情報科学強化] 工藤　和恵	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 情報科学科 2.0単位	数値計算の講義を理解するため、C や C++ や FORTRAN等の言語を用いて演習を行います。代表的な数値計算アルゴリズムを実装し、数値計算方法を習得することを目標とします。
線形代数学１ (15C5152) [情報科学主] 工藤　和恵\015\012齊藤　直子	Ⅰ １学期 情報科学科 2.0単位	線形代数学の基礎を学び、基本的な考え方や計算方法を習得することを目標とします。初めに平面と空間の幾何について行列やベクトルとの関係を学んだあと、行列の演算、連立一次方程式の解法について学びます。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
線形代数学２ (15C5154) [情報科学主] 工藤　和恵\015\012齊藤　直子	Ⅰ ２学期 情報科学科 2.0単位	線形代数学の基礎を学び、基本的な考え方や計算方法を習得することを目標とします。主に行列式の理論について学びます。
線形代数学３ (15C5156) [情報科学主] 工藤　和恵\015\012齊藤　直子	Ⅰ ３学期 情報科学科 2.0単位	ベクトル空間に関わる基本的な概念について理解することを目標とします。ベクトル空間に関する基礎的な概念を学んだあと、線形写像について学びます。
線形代数学４ (15C5158) [情報科学主] 工藤　和恵\015\012齊藤　直子	Ⅰ ４学期 情報科学科 2.0単位	ベクトル空間や内積空間に関わる基本的な概念について理解し、線形写像の振る舞いを調べる方法を習得することを目標とします。線形写像、行列の固有値と固有ベクトルについて学んだあと、内積空間と直交行列および対称行列の対角化についても学びます。
線形代数学５ (15C5160) [情報科学主] 堀江　充子\015\012吉田　裕亮	Ⅱ １学期 情報科学科 2.0単位	
線形代数学６ (15C5162) [情報科学主] 堀江　充子\015\012吉田　裕亮	Ⅱ ２学期 情報科学科 2.0単位	
微分積分学１ (15C5164) [情報科学主] 三浦　晋示\015\012鈴木　桜子	Ⅰ １学期 情報科学科 2.0単位	自然科学、情報科学を勉強する上で、基礎になる微分積分学について講義をする。高校までに学んだ微積の知識をもとに、一変数関数の微分積分について更に発展させていく。 細かい証明より直観的な説明を重視し、コンピュータによる作図なども併用する。受講生は、平行して行われる演習も受講し自分で実際に問題を解き、勉強する楽しみを味わって欲しい
微分積分学２ (15C5166) [情報科学主] 三浦　晋示\015\012鈴木　桜子	Ⅰ ２学期 情報科学科 2.0単位	自然科学、情報科学を勉強する上で、基礎になる微分積分学について講義をする。高校までに学んだ微積の知識をもとに、一変数関数の微分積分について更に発展させていく。 細かい証明より直観的な説明を重視し、コンピュータによる作図なども併用する。受講生は、平行して行われる演習も受講し自分で実際に問題を解き、勉強する楽しみを味わって欲しい
微分積分学３ (15C5168) [情報科学主] 三浦　晋示\015\012小串　典子	Ⅰ ３学期 情報科学科 2.0単位	自然科学、情報科学を勉強する上で、基礎になる微分積分学について講義をする。微分積分学１の続きとして、二変数関数の微分積分について更に発展させていく。 細かい証明より直観的な説明を重視し、コンピュータによる作図なども併用する。受講生は、平行して行われる演習も受講し自分で実際に問題を解き、勉強する楽しみを味わって欲しい
微分積分学４ (15C5170) [情報科学主] 三浦　晋示\015\012小串　典子	Ⅰ ４学期 情報科学科 2.0単位	自然科学、情報科学を勉強する上で、基礎になる微分積分学について講義をする。微分積分学１の続きとして、二変数関数の微分積分について更に発展させていく。 細かい証明より直観的な説明を重視し、コンピュータによる作図なども併用する。受講生は、平行して行われる演習も受講し自分で実際に問題を解き、勉強する楽しみを味わって欲しい
微分積分学５ (15C5172) [情報科学主] 郡　宏\015\012齊藤　直子	Ⅱ １学期 情報科学科 2.0単位	微分方程式とベクトル解析の基礎を学びます．微分方程式とベクトル解析は，物理学，シミュレーション科学，コンピューターグラフィックスなどの道具として大変重要です．様々な計算ができるようになることに重点を置き，定理と証明は最低限にとどめます．

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
微分積分学６ (15C5174) [情報科学主] 郡　宏\015\012齊藤　直子	II ２学期 情報科学科 2.0単位	微分方程式とベクトル解析の基礎を学びます．微分方程式とベクトル解析は，物理学，シミュレーション科学，コンピューターグラフィックスなどの道具として大変重要です．様々な計算ができるようになることに重点を置き，定理と証明は最低限にとどめます．
シミュレーション科学 (15C5500) [情報科学強化] 河村　哲也	III ～ IV 後期 情報科学科 2.0単位	シミュレーションとはもともと模擬するということですが、一般に複雑な現象をコンピューターを用いて再現し、それにより現象を調べる方法を指します。コンピューター内で再現するため、実験では再現できないような極端な状況（ミクロの世界から宇宙でおきる現象、極端に高温や高圧、・・・）を調べることができます。原理は、現象を支配する物理法則を数式等で表現し、それをコンピューターが計算できるよう数値モデル化して、あとはコンピューターの計算能力を利用して膨大な数値計算を行うというものです。本講義は数学的には微分方程式で記述できる現象に対し、数値シミュレーションで解析する方法を理解することを目標とします。

理学部 関連科目

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
基礎化学Ａ (15C7007) [ケミカルバイオロジー] [化学主] [化学副] [生命情報学] [物理・化学学際] 山田　眞二	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 理学部 2.0単位	有機化学入門。身のまわりにある様々な物質のほとんどすべてに有機化合物が関係している。従って、物質を理解するためには有機化学は必要不可欠な学問であり、将来、化学を専攻する学生はもとより、自然科学のいかなる分野に進む者にとっても有機化学の知識は必要である。多種多様な有機化合物の構造、性質、反応を体系的に理解し、有機化学の全体像を把握できるよう基礎から講義する。
基礎化学Ｂ (15C7008) [ケミカルバイオロジー] [化学主] [化学副] [生命情報学] [物理・化学学際] 鷹野　景子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 理学部 2.0単位	化学の基礎として、原子の成り立ち、元素の周期性、化学結合、分子の形、化学反応、物質の状態などについての基本的概念の理解を目標とする。高校までの定性的理解を定量的理解に高めることが大切である。
基礎化学Ｂ(1) (15C7026) [ケミカルバイオロジー] [化学主] [化学副] [生命情報学] [物理・化学学際] 鷹野　景子	Ⅰ ～ Ⅳ １学期 理学部 1.0単位	化学の基礎として、原子の成り立ち、元素の周期性、化学結合、分子の形、化学反応、物質の状態などについての基本的概念の理解を目標とする。高校までの定性的理解を定量的理解に高めることが大切である。
基礎化学Ｂ(2) (15C7028) [ケミカルバイオロジー] [化学主] [化学副] [生命情報学] [物理・化学学際] 鷹野　景子	Ⅰ ～ Ⅳ ２学期 理学部 1.0単位	化学の基礎として、原子の成り立ち、元素の周期性、化学結合、分子の形、化学反応、物質の状態などについての基本的概念の理解を目標とする。高校までの定性的理解を定量的理解に高めることが大切である。

生　活　科　学　部

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
生活科学概論 (15D0001) [人環主] [生社主] [生文主] [発臨主] 難波　知子\015\012小谷　眞男\015\012香西　みどり\015\012須藤　紀子\015\012元岡　展久\015\012伊藤　亜矢子	Ⅰ 前期 生活科学部 2.0単位	生活科学概論には、生活科学部のもつ基本理念、即ち文系、理系にとらわれない生活者の視点を育むという目標があります。各回の講義は、毎年決められたテーマに沿って、各学科・講座の担当教員がそれぞれの専門分野に基づいて行う形式で進められます。 今回のテーマは「防災・災害」です。近年、大規模な自然災害が発生し、私たちの生命や暮らしは危機的状況に直面しました。こうした災害による危機に対して、人命を守り、生活を営んでいく上で、私たちはどのようなことを知り、どのように行動すればよいでしょうか。本年度は「防災・災害」をテーマに生活科学の各分野から話題を提供し、生活者や生活の質という視点から「防災・災害」について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。
基礎有機化学 (15D0005) 森光　康次郎	Ⅰ 前期 生活科学部 2.0単位	食物栄養・生命科学研究者に必要な有機化学分野での命名法、立体化学などの基礎について概説し、食品や生体内で起こりうる重要な反応を例示し習得する。 ◎食物栄養学科の１年生は１年前期に履修すること。
分析化学 (15D0006) 新藤　一敏	Ⅱ 後期 生活科学部 2.0単位	現代科学の発展には、高度に開発され続けている様々な分析技術が大きな役割を担っていることは広く認知されている。科学の中でもとりわけ化学分野における分析学は、学ぶべき重要な基礎学問のひとつである。分析化学として学ぶべき範疇は奥深く、さらに常に進歩を続けている。ここでは分析化学という学問領域の中で、習得すべき基礎事項に的を絞り、特に「物質の単離・分析方法（各種クロマツグラフィー等）」「機器分析のよる化学構造解析（質量分析、NMR解析等）」を中心に講義し、さらに演習問題を多用してより深い分析化学の理解を目指す。
国際栄養学 (15D0007) [消費者学学際] 須藤　紀子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 生活科学部 2.0単位	国際栄養学を理解するためには、その周辺知識も必要となるため、広く国際保健医療学について学びます。 英語の教科書を用いて、英語の専門用語についても同時に学習します。 世界地図と保健統計から、世界のことと、健康のことを学んでいきます。
食糧経済学 (15D0009) [消費者学学際] 立川　雅司	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 生活科学部 2.0単位	現代の食料（フードシステム）をめぐる経済・社会現象を理解するための基本的な概念・考え方を学ぶ。またその前提として、国内および外国の農業生産・政策をめぐる動向や流通業界、技術開発などの動向とそれらの諸研究に関しても紹介する。
社会保障論 (15D0011) [ジェンダー副] [公共政策副] [消費者学学際] [生社主] 永瀬　伸子	Ⅰ ～ Ⅳ ３学期 生活科学部 2.0単位	社会保障制度への要請は時代とともに変わり、家族や社会の変化とも深くかかわる。またケア活動をどう社会があるいは家庭が担うか、ケア活動に対して社会的市民権をどう与えるかによって福祉国家を類型化できるとする議論もある。年金、医療、介護、福祉、保育等、日本の諸制度の現状と課題とを制度別、あるいはライフステージ別に示す。正しい答えは容易にはないが学生とともに今後のあるべき姿についてともに探りたい。
ヒトと文化 (15D0012) [人環主] [人環副] 松浦　秀治	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 生活科学部 2.0単位	進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴を概観するとともに、それら身体形質の特徴が、ヒトの持つ特殊な生活様式と環境〈特に文化環境〉と強く関係していること、また、「直立姿勢と二足歩行」という特質がヒトの他の諸特徴、たとえば、大きな脳と小さな顔面、音声言語の獲得、身体の無毛性、また家族の形成などとも直接的･間接的に深く関連していることを理解する。
発達臨床心理学概論 (15D0013) 青木　紀久代	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 生活科学部 2.0単位	生涯発達心理学の基礎的な知識の習得と、臨床的問題の理解を目的とする。講義では、各発達段階における代表的な理論と臨床的問題について概説する。
人間関係学 (15D0014) [発臨主] [発臨副] 刑部　育子\015\012小玉　亮子\015\012高濱　裕子	Ⅰ 前期 生活科学部 2.0単位	子どもと子ども、子どもと大人の関係形成について、保育学、発達心理学、教育学、社会学的観点から考える。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
ジェンダー論 （15D0015） [ジェンダー副] [公共政策副] [生社主] 山本　千晶\015\012大木　直子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 生活科学部 2.0単位	「ジェンダー」は、あらゆる既存の知を女性・男性の性／生のありようから批判的に問い直す分析視角です。比較的新しい概念ですが、哲学、社会学や経済学など人文社会科学の領域で学問的ディシプリンを超えて議論されており、生命科学や建築学など自然科学の領域にも大きなインパクトをもたらしています。また今日、多くの国家や国際機関が、社会構想やアセスメントを行う上で不可欠な視角としてジェンダーを参照しています。 この講義では、友人や恋人、家族、学校、職場、コミュニティや国家と、個としての私たちの関係を「ジェンダー」という視角から読み解くための知識を身につけていきます。前半では、ジェンダーという概念を生み出し精錬させてきたフェミニズムの思想とそこでの代表的な議論や論争を検討します。後半では、私たちの性／生と関わりの深い様々な事例を取り上げ、ジェンダーがどのように作用／再生産されているかを考えます。
家族関係論 （15D0019） [ジェンダー副] [生社主] 藤崎　宏子	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 生活科学部 2.0単位	「家族」に対する人びとの関心は高く、マスメディアなどにもさまざまな論説が溢れている。しかし、それらはしばしば、単なる印象論や個人的価値観の表明であったりする。本講義では、できる限りデータに即して家族の現状を把握し、それをめぐる人びとの関心の動向を社会学の立場から考察する。具体的には、結婚と夫婦関係、子をもつことの選択と子育て期の親子関係、高齢期の夫婦関係・親子関係など、家族関係の具体的なトピックスを取り上げ、歴史変動と比較文化的な視点を交えつつ論じる。
企業経営論 （15D0020） [消費者学学際] [生社強化] 高井　透	Ⅱ 前期 生活科学部 2.0単位	なぜある企業が持続的成長を遂げる一方で，他の企業は衰退していくのか。また、同じような経営資源(人、物、金、情報)を持っている企業が、なぜ異なった戦略をとるのか。これらの企業行動の疑問について、理論と事例の両方を用いて答えていくことが、本講義の狙いである。また、本講義では出来る限りなじみのある事例を多用することで、経営学がいかに身近な学問であるかということを知ってもらうことも重要な狙いとしている。
食物学概論 （15D0021） [消費者学学際] 赤松　利恵\015\012藤原　葉子\015\012佐藤　瑶子\015\012石川　朋子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 生活科学部 2.0単位	食物学を食品、栄養、健康などの視点から概説し、食物学の基礎を学ぶ。
被服学概論 （15D0022） [消費者学学際] 難波　知子\015\012新實　五穂\015\012成田　千恵\015\012薩本　弥生\015\012木村　美智子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 生活科学部 2.0単位	中高の家庭科教育において、衣生活・被服の分野を担当するために必要な基礎的な知識を学ぶことを目的とする。学習指導要領に示される被服材料、被服の構成、被服管理に関する科学的な知識は、被服衛生学、被服構成学、被服材料学、被服整理学の各分野から学び、被服の機能、着装、人間と被服のかかわりに関する文化的な理解は、日本と西洋の服飾文化や歴史を通じて深めていく。衣服・衣生活に関する科学的知識と文化的関心を育み、教育や生活の実践に役立てることが本科目のねらいである。
住居学概論 （15D0023） [消費者学学際] [人環主] [人環副] [地理強化] 松田　雄二\015\012横山　ゆりか	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 生活科学部 2.0単位	この講義では，人間の生活とすまいのありかたとの関係について学ぶ。「普通」だと思っている身の回りのすまいの状況も，実は社会や環境との深い関わりのなかで成り立っている。すまいを巡る諸問題をとりあげ，今日の住居と生活について考える。
児童学概論 （15D0024） [消費者学学際] [生社主] [生文主] [発臨主] [発臨副] 発臨全教員\015\012刑部　育子	Ⅰ 前期 生活科学部 2.0単位	発達臨床心理学の入門を講義する。臨床・学校・保育などの現場と学問の有機的つながりを、各教員が専門の立場から具体的に述べる。
家政経済学概論 （15D0025） [公共政策副] [消費者学学際] [生社主] 斎藤　悦子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 生活科学部 2.0単位	本講義の主題は、人間活動力の再生産の営みに視点を据え、変化する経済環境によって生じる世帯・家族に関わる生活上の問題を解明することにある。個人、家族、世帯のあり方を①家計、②消費、③生活時間、④労働、⑤地域を通じて検討し、豊かな生活とは何かを考えることが本講義の目標である。さらに、豊かな生活を創造する力＝主体的生活経営能力を獲得するための方策を検討する。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
応用統計学 (15D0029) [消費者学学際] [人環主] 岩崎　学	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 生活科学部 2.0単位	Google のチーフエコノミストの Hal Varian は，2009年のインタビュー記事の中で "I keep saying the sexy job in the next ten years will be statisticians." と述べています．その背景には，ICT 技術の進歩による大量のデータの蓄積があり，それらを分析する技能を持った統計家が今後ますます必要となるという点がありました．ビッグデータ革命です．Varian は，それに続くフレーズで "The ability to take data—to be able to understand it, to process it, to extract value from it, to visualize it, to communicate it—that's going to be a hugely important skill in the next decades, not only at the professional level but even at the educational level for elementary school kids, for high school kids, for college kids." と続けています．この授業の目標は，まさにこの Varian の言葉を具現化することです．卒業研究はもとより，どの分野の研究であっても統計学の知識は必須です．さらには，将来のデータサイエンティストとしての基礎にもなります．
保育臨床学 (15D0032) [発臨強化] [発臨副] 刑部　育子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 生活科学部 2.0単位	具体的な保育臨床事例からたくさんの気づきが生まれる視点がもてるようになることを目指します。
消費者科学入門 (15D0033) [消費者学学際] 斎藤　悦子\015\012小谷　眞男\015\012松島　悦子	Ⅰ ～ Ⅲ 後期 生活科学部 2.0単位	現代社会の消費者の問題を考える。消費者の権利、消費者支援の政策、契約・取引、消費者情報、事業者との関係、消費者法、消費者行政、消費者団体、消費者運動について講義する。
民俗学 (15D0034) [生文主] [生文副] [地理強化] 宮内　貴久	Ⅰ 前期 生活科学部 2.0単位	民俗学は、人々が伝承してきた生活文化を扱う学問である。民俗学の基礎的な知識や方法論を学んでいく。また、通過儀礼と呼ばれる人生の節目に行われる産育、成人、結婚、葬送儀礼を通じて、日本人の世界観を考察していく。
学校臨床学 (15D0035) [発臨強化] [発臨副] 伊藤　亜矢子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 生活科学部 2.0単位	学校現場で臨床心理学・教育心理学・コミュニティ心理学を応用して行う児童生徒支援・学校支援・進路指導について実践的に学びます。
服飾文化概論 (15D0037) [生文主] [生文副] 新實　五穂	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 生活科学部 2.0単位	衣服を着るという行為はきわめて個人的なことであるが、同時に社会的・文化的な意味をもっている。着衣の意味について、ヨーロッパの服飾史に現れた事象や、絵画や文学作品のなかの服飾描写をとりあげて解説する。特にヨーロッパ文明の特徴と思われる事象をとりあげ、服飾文化のもつ多様性と豊かさを示す。今日われわれの着ている洋服がどのような伝統をもって成立しているのかを理解し、日本の文化とどのように相違するのかを考える手がかりとしてほしい。
服飾美学概論 (15D0038) [生文主] [生文副] 難波　知子	Ⅰ 前期 生活科学部 2.0単位	[主題]かたちや色、文様、技術、制度、歴史など様々な視点から、服飾をめぐる人々の行動や関心のあり様を探り、服飾文化の多様性・多義性について理解を深める。 [目標]①自身の衣生活について振り返り、服飾のもつ意味や役割を考察する。②時代や地域によって異なる服飾文化の多様性・多義性について理解を深める。③和服の構造を理解し、実際に浴衣の着装ができる。
生活造形論 (15D0039) [消費者学学際] [生文主] [生文副] 鈴木　禎宏	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 生活科学部 2.0単位	＜茶の湯の歴史＞ 「茶」（および一部「生け花」）という観点から日本の生活文化および生活造形の歴史について、通史的な理解を得る。扱う時代はおよそ平安時代から江戸時代末まで、扱う造形物は道具（主に陶芸）と建築とする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
生活法学総論 (15D0040) 小谷　眞男	Ⅱ ～ Ⅳ ３学期 生活科学部 2.0単位	今年度の本科目のテーマは「リスク社会と法」です。まずリスクとハザードの区別など、リスク論の基本を共有し、次に《生活者・当事者の立場》という角度から事例検討や理論の検討を積み重ねていきます。たとえば、原発リスク裁判、放射線の「限界値」をどう決めるべきか、リスク不明の遺伝子組み換え食品の規制のあり方、BSE（狂牛病）リスクにどう対処すべきか、薬害エイズ・予防接種・ワクチン・肝炎・薬の副作用などのリスク、交通機関やトンネルや工場などの事故リスクと法的責任、製品の安全性保障と製造物責任（PL）法、液状化リスクとゼネコンの損害賠償責任、化学物質の管理と法的責任、地球温暖化とリスク論、リスク社会における保険ビジネスと消費者、認知症リスクの社会的対応、情報技術の進展と社会的リスクの問題、リスク・コミュニケーションはどうあるべきかなど、さまざまなトピックスが考えられます。 理論面では、ドイツの社会学者U.ベックやN.ルーマン、イギリスの社会学者ギデンズに代表される「リスク社会論」のパースペクティブや、アメリカの経済学者F.ナイトの「リスクと不確実性」の議論や確率論についても検討できればと思っています。
生活法学 (15D0050) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] 小谷　眞男	Ⅱ ～ Ⅳ ３学期 人間生活学科 2.0単位	今年度の本科目のテーマは「リスク社会と法」です。まずリスクとハザードの区別など、リスク論の基本を共有し、次に《生活者・当事者の立場》という角度から事例検討や理論の検討を積み重ねていきます。たとえば、原発リスク裁判、放射線の「限界値」をどう決めるべきか、リスク不明の遺伝子組み換え食品の規制のあり方、BSE（狂牛病）リスクにどう対処すべきか、薬害エイズ・予防接種・ワクチン・肝炎・薬の副作用などのリスク、交通機関やトンネルや工場などの事故リスクと法的責任、製品の安全性保障と製造物責任（PL）法、液状化リスクとゼネコンの損害賠償責任、化学物質の管理と法的責任、地球温暖化とリスク論、リスク社会における保険ビジネスと消費者、認知症リスクの社会的対応、情報技術の進展と社会的リスクの問題、リスク・コミュニケーションはどうあるべきかなど、さまざまなトピックスが考えられます。 理論面では、ドイツの社会学者U.ベックやN.ルーマン、イギリスの社会学者ギデンズに代表される「リスク社会論」のパースペクティブや、アメリカの経済学者F.ナイトの「リスクと不確実性」の議論や確率論についても検討できればと思っています。
発達臨床心理学Ⅰ (15D0692) [消費者学学際] [発臨主] [発臨副] 青木　紀久代	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	生涯発達心理学の基礎的な知識の習得と、臨床的問題の理解を目的とする。講義では、各発達段階における代表的な理論と臨床的問題について概説する。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
公衆衛生学 (15D1001) 河原　和夫	Ⅲ 前期 食物栄養学科 2.0単位	我々の健康に影響を及ぼす社会、環境に関する主要な事項についてその特徴、問題点、そして採られている政策などについて述べる。　講義を通じて多様な社会・環境と人の健康に関わる問題を多面的に捉え、科学的に解明する能力の獲得を目指していく。
生化学 (15D1002) 鈴木　恵美子	Ⅰ 後期 食物栄養学科 2.0単位	生体を構成する主要な成分の糖質、タンパク質、脂質、核酸などの特性、機能について解説する。さらに、酵素の一般的性質や活性調節について解説する。
調理科学 (15D1003) 香西　みどり	Ⅰ 後期 食物栄養学科 2.0単位	調理における加熱操作、非加熱操作の原理を理解し、各操作の要点を把握する。さらに実際の調理の場で最適な調理条件の設定に必要な要点を理解する。
基礎調理学実習 (15D1004) 香西　みどり	Ⅰ 後期 食物栄養学科 1.0単位	調理における非加熱操作、加熱操作に関する基礎的事項を理解し、実習することによって基本的な調理技術を習得するともに調理に関する知識を実践を通して身につける。
生活環境学 (15D1005) 村田　容常	Ⅱ 後期 食物栄養学科 2.0単位	食環境を中心とした生活を取り巻く環境についての基礎を学ぶ。化学物質（残留農薬や食品添加物）についてのＡＤＩの求め方・考え方、遺伝子組み換え作物の創出法・安全性の考え方、食品公害から環境問題へ、食物と生態系や食物連鎖などについて学ぶ。講義の中で複数回の試験を行い、評価する。
社会福祉学 (15D1006) 藤崎　宏子	Ⅱ 後期 食物栄養学科 2.0単位	社会保障・社会福祉制度の大きな転換期にある今日、改めて「社会福祉」の果たす役割を考える。社会福祉の法制度やサービス提供のしくみ、サービス利用者の立場性、社会福祉と価値や文化との関わりなどのトピックスを通して、この課題について論じる。 なお、成績評価の方針は次の通り。学期末試験の素点に、講義時間中に記入を求めるリアクションペーパーの提出状況に応じた加点をする。
代謝栄養学 (15D1013) 藤原　葉子	Ⅱ 前期 食物栄養学科 2.0単位	栄養の基本概念を知り、食物と栄養素との関係、エネルギー代謝の基礎を把握する。そのうえに立って、熱量素エネルギーとしての糖質、脂質、蛋白質の代謝及びその相互関係、生化学的意義について理解し、ビタミンと代謝の関連を知る。 生化学で学んだ基礎編からさらに栄養に絞って詳しく解説する。
食品製造・保存学 (15D1014) 村田　容常	Ⅱ 後期 食物栄養学科 2.0単位	食品は動物、植物などの生物を原料とする。しかし、ほとんどの食品は生物そのものではなく何らかの変化、加工を受けている。ここでは、加工、加熱調理や貯蔵中に起こる化学反応（メイラード反応や脂質の酸化）、食品貯蔵加工の基本となる加熱殺菌法や保存原理、農産食品（穀類、豆類、イモ類など）の特徴やその加工法、植物性油脂の製造法や改良法、デンプンの製造法や酵素学的利用法などについて学ぶ。
食品微生物学 (15D1015) 村田　容常	Ⅱ 後期 食物栄養学科 2.0単位	ヒトと微生物の関わりを近代科学が知ったのは新しいが、その関わりは古く深い。微生物学の歴史や基礎知識（分類、構造、生理）を学ぶとともに食品と微生物の関わりを、食品の製造（醸造）と食品の保存・安全性（腐敗、殺菌、食中毒）の両面から理解する。
ライフステージ栄養学 (15D1016) 鈴木　恵美子	Ⅲ 前期 食物栄養学科 2.0単位	新生児期から高齢期の各ライフステージにおける身体、生理機能、栄養アセスメントについて理解を深める。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
臨床栄養アセスメント学 (15D1017) 川口　美喜子	II 後期 食物栄養学科 2.0単位	栄養アセスメントの指標として用いられる身体計測、生理・生化学検査、臨床診査、食事・食行動・身体活動などの各種調査法の理論および評価方法について科学的に理解する。さらに身体の部位別の疾病・症状、検査値、疾病と栄養の関係について症例を通して習得し、経静脈栄養・経腸栄養を含む栄養管理法の選択および栄養療法の進め方について学ぶ。
病態栄養学 (15D1018) 平岡　真美\015\012飯田　薫子	III 前期 食物栄養学科 2.0単位	栄養学に必要な病態医学の知識について概説する。各疾患の発症、症状、経過、治療について学び、栄養学が、それぞれの疾患と治療にどの程度関与しているかを把握することを目標とする。
栄養カウンセリング論 (15D1019) 赤松　利恵	II 後期 食物栄養学科 2.0単位	前半では、ライフステージ別の栄養教育の特徴を学ぶ。後半では、栄養カウンセリングの態度や基本的考え方を学んだ後、栄養カウンセリングの技法を演習を通して学習する。
栄養教育論 I (15D1020) 赤松　利恵	II 前期 食物栄養学科 2.0単位	栄養教育に必要な基礎的知識を学ぶ。特に以下の点を学習する。1)栄養教育の定義と歴史、2)栄養教育に用いる理論やモデル、3)栄養教育の計画、実施、評価の方法。
給食マネジメント論 (15D1021) 佐藤　瑤子	III 前期 食物栄養学科 2.0単位	給食経営管理論で学んだことをもとに、特定給食施設運営のありかたを具体的に学習し、のぞましいマネジメントの方法について学ぶ。マーケティングの原理や応用を理解し、組織管理等のマネジメントについて学び、経営の基本から評価までについて理解する。
応用調理学実習 (15D1023) 綾部　園子	II 前期 食物栄養学科 1.0単位	食品の調理性および調理の手法の要点を講義と実習を通して修得する。すなわち各々の食品のテクスチャー、味、におい、外観等の変化を最適に仕上げるために必要な調理条件について、日本料理、西洋料理、中華料理などを対象として学び、理論と手法を修得する。
分析化学実験 (15D1024) 鈴木　恵美子\015\012武藤　知衣	II 後集中 食物栄養学科 2.0単位	身近な食品などを題材とし、化学の基礎となる実験を行う。化学実験（主に分析化学）に習熟するとともに実験化学的なアプローチ法、化学理論と実験の関係を理解する。
食品機能論 (15D1025) 森光　康次郎	III 後期 食物栄養学科 2.0単位	近年、話題となっている食品成分の機能性（三次機能）に関して、法的、化学的、生化学的、分子生化学的な面で正しく理解するとともに、動物実験やヒト介入試験での実証例、社会的な問題点、今後の展望と反省点などを詳説する。また、管理栄養士養成課程としての「食物学総論」に位置付けられる内容を講義する。食品の有害成分、成分間反応から生成する有害物質なども範囲となっている。
応用栄養学 (15D1026) 藤原　葉子	II 後期 食物栄養学科 2.0単位	人は一日にどれだけの栄養素を摂取すればよいのか。日本人の食事摂取基準を理解し、その策定にかかわる科学的根拠を考える。
食品化学 (15D1027) 森光　康次郎	II 前期 食物栄養学科 2.0単位	水分、タンパク質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラルなど栄養に関与する主要成分や、食品の色、味、香りなど品質に関与する成分について、その化学構造や特性について化学的な視点から講義する。また、その化学構造と特性、調理加工による成分の化学的変化およびそのメカニズムについて体系的に学ぶ。 　管理栄養性養成課程の「食品学総論」の前半部分を網羅した内容の講義である。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
食品衛生学 （15D1028） 野村　孝一	Ⅲ 前期 食物栄養学科 2.0単位	食品衛生の概念を考えるとともに飲食物によって起こる様々な健康被害を防止し、安全な食品を確保するため、食品に由来する細菌性食中毒、寄生虫、衛生害虫、化学性食中毒、自然毒、食品添加物、残留農薬、発がん性物質、汚染物質などについて、また、食品衛生行政の概要と活動状況、最新の食品衛生分野の情報について講義する。食品衛生に関する幅広い知識と、正しい情報の探し方を身につけることを目標とする。成績は2回実施するテスト（80%）と授業への取り組み（20%）で評価する。
臨床栄養療法学 （15D1029） 市　育代	Ⅲ 前期 食物栄養学科 2.0単位	本講義では各疾病の発症メカニズムや治療法など病態に関する正確な知識を習得する。さらに臨床の現場に対応できるようになるために、疾病に応じた栄養療法の選択、栄養診断、栄養ケアの進め方などを症例検討を通して理解する。
食事療法学 （15D1030） 市　育代	Ⅲ 後期 食物栄養学科 2.0単位	各疾患の病態や治療法だけでなく、病態の原因や進展、治癒に栄養学がどのように関わっているかを学ぶ。さらに様々な疾患に適応した栄養ケア計画が立てられるようになるためにに、各種疾患に応じた食事計画や食事形態などについても講義する。
臨床栄養アセスメント学実習 （15D1031） 市　育代	Ⅲ 後期 食物栄養学科 2.0単位	ベッドサイドにおける個人の身体測定値や身体組成，血液性状，栄養素摂取状況，食習慣などの情報を基に，栄養状態を科学的に評価する方法を学習する。さらに，栄養アセスメントに基づいた栄養補給法および栄養量，食事内容の検討から患者への栄養教育にいたるまでの流れを理解し，栄養管理計画の作成，治療食の実施・評価へと展開させる。傷病者対する実践的な栄養療法の技能を修得することを目標とする。
公衆栄養学 （15D1032） 須藤　紀子	Ⅲ 前期 食物栄養学科 2.0単位	臨地実習や実習先による集中講義の内容を理解するために必要となる健康づくり施策や公衆栄養活動に関する基礎知識を習得する。栄養行政組織の仕組み、栄養関連法規、食事摂取基準の活用、国民健康・栄養調査、健康日本21（第二次）、特定健診・特定保健指導など、行政栄養士業務と関連の深いテーマを学ぶ。
栄養行政学 （15D1033） 須藤　紀子	Ⅲ 後期 食物栄養学科 2.0単位	①情報を収集・分析する能力を養う。 ②エビデンスを見分け、評価する知識を身に付ける。 ③４年次の科目である食物栄養学基礎演習、食物栄養学輪講、卒業論文で必要となる知識と技術を身に付ける。
栄養教育論Ⅱ （15D1034） 赤松　利恵	Ⅲ 前期 食物栄養学科 2.0単位	栄養教育論Ⅱではこれまで学んだことをベースに、栄養教育のスキルを身につける。特定のライフステージを対象を例に栄養教育の計画、実施、評価について演習を通しながら学ぶ。
栄養学実験 （15D1036） 藤原　葉子	Ⅲ 前集中 食物栄養学科 2.0単位	栄養素の測定法や機能を理解し、栄養学研究を進める上で基礎的な実験技術や手法を習得する。 タンパク質の取り扱いおよびその性質を理解する。 食品中のビタミンCの抽出、定性、定量を通してその化学的性質を把握する。 動物実験を通して、動物や生体試料の取り扱いを学び、飼育実験によりタンパク質栄養を理解する。
ライフスタイル栄養学 （15D1037） 鈴木　恵美子	Ⅲ 後期 食物栄養学科 2.0単位	ヒトを取り巻く環境因子や生活習慣の違いが身体に及ぼす影響を理解し、栄養状態が変化することを理解する。
応用栄養学実習 （15D1038） 鈴木　恵美子	Ⅲ 前集中 食物栄養学科 1.0単位	栄養指導を行うにはヒトの身体状態などから栄養状態を正確に評価することが必要である。身体計測、生理・生化学検査などで得られた各種パラメーターを基に総合的に栄養状態は判定される。本実習では主に、基本的な生理・生化学検査を行う。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
栄養カウンセリング論実習 （15D1039） 赤松　利恵	Ⅲ 後集中 食物栄養学科 1.0単位	これまで学んだことの総括として、集団を対象とした栄養教育の計画、実施、評価を実際に行う。ここでは臨床の場を想定して栄養教育の計画を立て教材を作成し、発表する。その他、グループワークの進め方やプレゼンテーションの方法等を学ぶ。
公衆栄養学実習 （15D1040） 須藤　紀子	Ⅲ 後集中 食物栄養学科 1.0単位	①自身が対象者と解析者の両方を経験することにより、食事記録法の長所と短所を実感する。 ②ソフトを使用した栄養計算に習熟する。 ③公衆栄養アセスメントに必要な統計学の基礎を学ぶ。 ④SPSSを使ったデータ処理ができるようになる。 ⑤災害時の食支援を切り口にして、前期科目「公衆栄養学」の応用と復習をする。 ⑥文献検索と論文精読を通じてEBNの基本を学ぶ。
食嗜好評価学 （15D1042） 香西　みどり	Ⅱ 前期 食物栄養学科 2.0単位	調理操作による食品の物性、栄養成分および機能性などの変化を知るとともに食品の嗜好性および調理特性を理解する。
食品微生物学実験 （15D1043） 非常勤講師\015\012村田　容常	Ⅱ 後集中 食物栄養学科 1.0単位	無菌操作、培地の作製、植菌、培養など微生物の取扱いの基本操作の習得を目的とする。食素材中の一般細菌及び大腸菌群の菌数測定法、単離法、培養法、顕微鏡による菌の形態観察、同定法などを学ぶ。
調理科学実験 （15D1044） 小竹　佐知子\015\012笠松　千夏	Ⅲ 後期 食物栄養学科 2.0単位	調理科学に関する基礎的な実験をした後、内容に関する発表をグループごとに行ない、それについて討論する。
食品製造・保存学実験 （15D1045） 村田　容常\015\012筒浦　さとみ	Ⅲ 前集中 食物栄養学科 2.0単位	食品の製造や保存に関わる実験を行い、製造原理や品質管理のための分析法を学ぶ。具合的には、豆腐ならびにチーズの製造 、水分活性測定 ,酵素法によるエタノール分析、ＨＰＬＣ法によるイソフラボンの分析 ,ＥＬＩＳＡ法によるタンパク質分析 ,原子吸光法による重金属分析を行う。出席、実験態度、口頭試問およびレポートにより評価する。
食品化学実験 （15D1046） 森光　康次郎	Ⅲ 前集中 食物栄養学科 2.0単位	食品中の化学成分の分離・分析法の基礎を習得する。主なテーマは、油脂の脂肪酸組成、茶香気成分の分析、ソバ粉からのルチンの単離･構造決定、香辛料からの抗酸化成分単離と機器分析同定から香辛料は何かを予想する・・・などである。食品有機化学、食品分析化学、機器分析、特にＧＣ，ＧＣ－ＭＳの原理、NMR/MS/IR解析と物質の単離と精製手法を理解、習得する。
食物栄養管理論総合演習 （15D1047） 市　育代\015\012須藤　紀子\015\012佐藤　瑶子	Ⅳ 通年 食物栄養学科 2.0単位	管理栄養士の関連科目を横断的実践的に学び、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養う。臨地実習の事前事後指導を含む。
臨床栄養臨地実習 （15D1048） 市　育代	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 2.0単位	実践的な病院業務としての基礎知識および基本技能・態度の修得を目指し、医療施設における管理栄養士の実践的な業務を体験し、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理を行う能力を養う
給食経営管理臨地実習 （15D1049） 佐藤　瑶子	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 1.0単位	これまで学習してきた管理栄養士の位置づけ、職務や役割について、給食施設現場の体験学習を通じて、理解し、実践できる能力を養う。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
公衆栄養臨地実習 (15D1050) 須藤　紀子	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 1.0単位	【主題】行政栄養士に必要な知識・技能・態度を習得し、関係機関や他職種と連携して行う疾病予防・健康増進のための公衆栄養の現場を体験する。 【目標】実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
卒業論文 (15D1051) 食物全教員	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 6.0単位	卒業論文をまとめ、発表する。
食品学 (15D1052) 戸塚　護\015\012薩　秀夫	Ⅱ 後集中 食物栄養学科 2.0単位	食品や食材について正しく理解することは、調理加工上、また栄養摂取などよりよい食生活を構築する上で非常に重要である。食品材料科学の観点から、具体的食品素材も交えて取りあげ、食品の構造、成分化学、理化学特性、機能について食品化学の基礎知識を活用し、食品素材を化学的に理解する力を修得することを目標とする。
食品評価論 (15D1054) 早川　文代	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 食物栄養学科 2.0単位	この講義では、食品評価法の中でも、特に「官能評価」に焦点を絞って解説します。官能評価とは、人間の感覚器官（目、鼻、舌など）をセンサーとして対象物の特性を分析・評価することをいい、食品企業をはじめとする食品研究の現場で頻繁に用いられる方法です。官能評価を計画し、実行し、結論を得るまでに必要なさまざまな知識や考え方を習得することがこの講義の目標です。そこで、講義では、官能評価とは何か、具体的な方法、データを取るときの注意点、データ解析の考え方について、できるだけ実例を取り上げて説明します。到達目標は、簡単な官能評価を計画し、データを取り、解析し、結論を得るところまで、自分で行えるようになることです。ですから、講義の最後には、自分で官能評価を行い、そのレポートを提出してもらいます。成績評価は、出席とレポートで行います。
食物栄養学基礎演習 (15D1055) 岸本　良美	Ⅳ 前期 食物栄養学科 2.0単位	食物栄養学に関する外国語で発表された最新の研究論文を解読し、発表、参加者全員で討論する。 研究論文の構成、内容を理解すると同時に研究の計画、方法、データの解釈などを学ぶ。
食物栄養学輪講 (15D1057) 村田　容常	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 4.0単位	食品の加工、貯蔵に関する外国論文を読み、発表、討論する。
食物栄養専門英語 (15D1059) 香西　みどり	Ⅱ 前集中 食物栄養学科 2.0単位	須藤担当分：保健分野の語彙を学ぶとともに、英文と図表の読み取りに慣れること、英語によるプレゼンと質疑応答、英作文の力を養うことを目標とする。 村田担当分：簡単な英語を楽しく聞くこと、専門分野の英文科学情報の得方、英文論文の読み方などを学ぶ。
解剖生理学Ⅰ (15D1060) 石川　朋子	Ⅰ 前期 食物栄養学科 2.0単位	人体の臓器・器官・組織の形態、構造について理解し、さまざまな疾患を理解するための基礎的知識を身につける。 （解剖生理学Iでは解剖学組織学、解剖生理学IIでは生理学を中心に講義する）
解剖生理学Ⅱ (15D1061) 飯田　薫子	Ⅰ 後期 食物栄養学科 2.0単位	人体の臓器・器官・組織の形態、構造について理解し、さまざまな疾患を理解するための基礎的知識を身につける。 （解剖生理学Iでは解剖学組織学、解剖生理学IIでは生理学を中心に講義する）
臨床医学総論 (15D1062) 飯田　薫子	Ⅱ 前期 食物栄養学科 2.0単位	疾患の成り立ちを理解するための基礎知識を学習する。 〈読替〉07以前は「病理学」で履修

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
臨床医学各論Ⅰ (15D1063) 森　聖二郎\015\012飯田　薫子	Ⅱ 前期 食物栄養学科 2.0単位	栄養学に必要な臨床医学の知識について循環器疾患、代謝疾患、胃腸疾患、肝･胆・膵疾患を中心に概説する。栄養学に必要な各疾患についての基礎知識を習得することを目標とする。 〈読替〉07以前は「臨床医学概論Ⅰ」で履修
臨床医学各論Ⅱ (15D1064) 本田　善一郎	Ⅱ 後期 食物栄養学科 2.0単位	各疾患の病態生理、疫学、診断、治療を学び、栄養学的なアプローチの基礎を形成することを目的とします。 講義内容は授業計画情報を参考として下さい。
給食経営管理実習 (15D1065) 佐藤　瑶子\015\012平田　亜古	Ⅲ 後期 食物栄養学科 2.0単位	給食経営管理論・給食マネジメント論や他の授業で学習した知識・技能を基礎として、給食を運営する管理栄養士の一連の業務を体験することで、実践力を養い、管理栄養士としての主体的な自覚を持つ。本学学生を対象とした給食サービス実習を行う。 〈読替〉07以前は「集団給食管理実習」の方を登録すること
食物栄養学輪講 (15D1066) 森光　康次郎	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 4.0単位	外国語の文献を専門的に解読する能力、重要な点をまとめプレゼンする能力を養う。
食物栄養学輪講 (15D1067) 藤原　葉子\015\012市　育代	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 4.0単位	生化学の基礎と最新の栄養化学について学ぶため、生化学の基礎に関する英語の教科書を輪読し、さらに最新の栄養化学を理解するため英文雑誌を輪読ずる。
食物栄養学輪講 (15D1068) 鈴木　恵美子	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 4.0単位	応用栄養学に関する最新論文を講読し、ゼミ形式で発表して全員で討論を行う。
食物栄養学輪講 (15D1069) 須藤　紀子	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 4.0単位	①PubMedなどのデータベースを活用した文献検索の方法を学ぶ。②論文を理解するのに必要な統計学を学ぶ。③学術論文の構成や書き方を学ぶ。④論文の内容について議論できるようになる。
食物栄養学輪講 (15D1070) 香西　みどり\015\012佐藤　瑶子	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 4.0単位	食品の調理加工に関する最新の外国語の論文および成書を講読する。
細胞生化学 (15D1071) 藤原　葉子	Ⅱ 後期 食物栄養学科 2.0単位	栄養素や食品成分の細胞内代謝や調節について、分子生物学的な視点で理解する。
食物栄養学輪講 (15D1072) 未定	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 4.0単位	外国語の文献を専門的に解読する能力を養う。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
食物栄養学輪講 (15D1080) 赤松　利恵	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 4.0単位	栄養教育や人間の食行動に関する研究論文を読み、ゼミ形式で発表、討論する。新しい知見を学ぶだけでなく、研究論文を批判的に読む力を身につける。論文は行動理論から、健康教育の介入研究、行動疫学まで幅広いものを対象とする。
食物栄養学輪講 (15D1081) 飯田　薫子	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 4.0単位	ゼミ形式により食物栄養学に関する研究発表および論文の輪読を行い、研究に対する知識と理解を深め、プレゼンテーション能力を養う事を目標とする。
給食経営管理論 (15D1082) 佐藤　瑶子	Ⅱ 後期 食物栄養学科 2.0単位	管理栄養士の立場から、給食経営管理の理論と実際の給食施設での活用展開を理解する。そのための、給食としての栄養・食事管理およびサービスを、 効率的かつ安全に運営するため、関連ビジネスの動向、マーケティング、システム構築などの手法を取り入れたマネジメントを学ぶ。管理栄養士としての社会的使命や考え方についても、事例を通じて学ぶ。
栄養臨地実習 (15D1083) 須藤　紀子\015\012市　育代\015\012佐藤　瑶子	Ⅳ 通不定期 食物栄養学科 4.0単位	臨床栄養・給食経営管理：医療施設における135時間の実習 公衆栄養：保健所における45時間の実習
解剖生理学実験 (15D1084) 飯田　薫子	Ⅱ 後集中 食物栄養学科 1.0単位	管理栄養士として臨床・研究現場で活躍する際に求められる解剖生理学的知識・理解について、医療現場で用いられる各種検査や動物解剖などを通して体験修得する。
臨床医学総論 (15D1085) 飯田　薫子	Ⅱ 前期 全学科 2.0単位	疾患の成り立ちを理解するための基礎知識を学習する。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
統計学 (15D2001) [人環主] [人環副] 土　明文	II 後期 人間・環境科学科 2.0単位	統計処理の理論的・数学的側面からの理解を深め，コンピュータを使った単なる「統計処理」という段階から一歩進んだ深い知識の獲得を目指します． コンピュータの使用が当たり前になった現在，手持ちのデータの統計処理にとりあえずの障壁はほとんどありません．しかし，コンピュータがはじき出した結果をいかに解釈し考えるのか，あるいは，画面に表示された結果が本当に求めるべき正しいものなのかどうか．こういった重要事項の理解をコンピュータが容易にしてくれるわけではありません．本講義では，実践的な統計，すなわち，統計学でコンピュータを正しく使いこなすために必要となる理論的・数学的なバックグラウンドを学習してゆきます．
人間・環境科学輪講Ⅰ (15D2011) 人間・環境全教員\015\012元岡　展久\015\012太田　裕治\015\012仲西　正\015\012松浦　秀治\015\012大瀧　雅寛\015\012松田　雄二\015\012近藤　恵	IV 前期 人間・環境科学科 2.0単位	卒業研究に必要な論文を読み、理解する能力を養うと共に、研究に必要な知識を蓄積する。
人間・環境科学輪講Ⅱ (15D2012) 人間・環境全教員\015\012元岡　展久\015\012太田　裕治\015\012仲西　正\015\012松浦　秀治\015\012大瀧　雅寛\015\012松田　雄二\015\012近藤　恵	IV 後期 人間・環境科学科 2.0単位	卒業研究に必要な論文を読み、理解する能力を養うと共に、論文をまとめる能力を育成する。
卒業論文 (15D2013) [人環主] 人間・環境全教員\015\012太田　裕治\015\012仲西　正\015\012松浦　秀治\015\012大瀧　雅寛\015\012元岡　展久\015\012松田　雄二\015\012近藤　恵	IV 通不定期 人間・環境科学科 10.0単位	人間・環境科学に関する研究を行い、卒業論文をまとめ、発表する。
統計学演習 (15D2016) [人環強化] [人環副] 山内　康司	III 後期 人間・環境科学科 2.0単位	基本的な統計理論を学んだことを前提として，実践的な課題解決を目指す． 各々の統計課題について，原理・方法を学習した後に，実際に例題を解くことにより理解を深める． 対象は検定が中心となるほか，その前提となる基本統計量などについても取り上げる． また，実験や観察を効率的に行うための手法である実験計画法についても学習する． 講義ではフリーソフト「R」を使用するが，Rの使用経験は問わない． 本講義の基本的な目標は，1)課題に応じた適切な検定手法を選択できること，2)各検定方法について， Rによる処理方法の手順の基本を理解していること，である．
人体生理学 (15D2020) 近藤　恵	II 後期 人間・環境科学科 2.0単位	ヒトが，一般的日常生活をおくる上で知っておくべき，あるいは知っていると有用な人体生理の基礎知識を正しく理解，習得することを主題とし，更により専門的な医学・生理学を学ぶための基盤構築を目標とする．
人体計測学演習 (15D2023) [人環主] 近藤　恵	II 前期 人間・環境科学科 4.0単位	人間の形態を見る目と表現する方法を修得する。具体的には、人体寸法計測ができるようになり、計測した人体寸法データの処理ができるようになることを目標とする。このために、解剖学的特徴点の同定のしかた、それを理解するために必用な基礎的な骨学の知識、マルチン式人体計測器の取り扱い方、被験者に対する配慮のしかた、計測結果の取り扱い方、計測誤差の評価のしかたについて実習する。計測者として被験者への接し方、補助者としてやるべきことを理解したかどうかも評価の対象とする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
機器分析演習 (15D2024) [人環主] 仲西　正	II 後期 人間・環境科学科 2.0単位	人間・環境科学の研究に必要な機器分析の理論と実際について，演習を通して理解する．紫外可視吸収，赤外吸収，核磁気共鳴，質量分析などについて基礎的な事項を学ぶとともに，簡単な有機化合物についてスペクトルの解析が出来るようにする．本科目の内容は，「住居の機能、設計、管理」，「製品設計」，「環境測定」，「機能材料の開発」などを行う上での基礎ともなる．
環境物理学 (15D2026) [人環強化] [人環副] 太田　裕治\015\012元岡　展久\015\012大瀧　雅寛\015\012松田　雄二	III 後期 人間・環境科学科 2.0単位	基礎的な物理の法則や考え方が、人間をとりまく環境の理解に、どのように役立つのかに重点をおき、環境物理学の基礎を学ぶ．具体的なトピックとして、地球規模の問題から、都市、室内、身体をめぐる環境問題に至るまでを扱う。
人類進化史 (15D2027) [人環強化] [人環副] 松浦　秀治	II ～ III 前集中 人間・環境科学科 2.0単位	１千万年前の地球にはヒトもチンパンジーもいなかった。ヒトはいつからチンパンジーと進化の道筋を分けたのか。最初の人類はチンパンジーに似ていたのか。授業では、約6,500万年前から始まる新生代において霊長類（サル類）が進化発展していく中で、人類と類人猿は進化史上どの様に分岐してきたのか、さらに、始原的人類を経て猿人から新人に至るヒトのおよそ600万年間の複雑な変遷史について解説する。講義は、主に化石骨を中心とした古人類学的証拠を基に進めるが、必要に応じて、特に現生種との関連については遺伝学的証拠についても言及する。
環境材料物性 (15D2031) [人環強化] [人環副] 仲西　正	III 前期 人間・環境科学科 2.0単位	環境材料の物性について基礎的事項を学ぶ．特に材料の性質と構造の関係に着目して考察する．高分子材料（高分子の構造，ガラス転移，エントロピー弾性，粘弾性），機能性材料，環境調和と材料設計などを取り扱う．．本科目の内容は，「住居の機能、設計、管理」，「製品設計」，「材料の環境調和」，「機能材料の開発」などを行う上での基礎ともなる．
人間・環境科学特別講義 (15D2035) 人間・環境全教員\015\012元岡　展久\015\012太田　裕治\015\012仲西　正\015\012松浦　秀治\015\012大瀧　雅寛\015\012松田　雄二\015\012近藤　恵	I ～ IV 通不定期 人間・環境科学科 2.0単位	
基礎生化学 I (15D2036) 仲西　正	II 前期 人間・環境科学科 2.0単位	「基礎生化学 I」では，生化学の基礎を学ぶ．
数学物理学演習III (15D2038) [人環強化] 大瀧　雅寛\015\012太田　裕治	II 前期 人間・環境科学科 2.0単位	自然科学・工学の基礎として必要な数学の基礎を修得する．おもに複素関数，フーリエ級数および偏微分方程式を学ぶ。
建築設計製図演習 I (15D2043) [人環強化] [人環副] 松田　雄二\015\012伊藤　博之	II 前期 人間・環境科学科 2.0単位	住宅や学校などの建築物を設計し、図面に表現することを学ぶ。様々な条件を検討し、建築を設計する演習に取り組む。特に「建築環境計画学」で学習した建築における機能構成の把握やプランニングの手法、空間デザインの手法を、演習を通じて身につける
建築設計製図演習 II (15D2044) [人環強化] [人環副] 元岡　展久\015\012高橋　彰子	II 後期 人間・環境科学科 2.0単位	環境について学んできた知識を統合し、具体的な空間として創造する手法を 学ぶ。特に、機能的な要求を統合するデザインに重点をおいて指導を行う。 具体的な形をデザインする過程を学習するとともに、デザインの内容を表現 する高度なプレゼンテーション技術の習得も目指す。課題の内容としては、 公共施設、ならびに地域計画を予定している

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
建築材料学II (15D2047) [人環強化] [人環副] 兼松　学	II ～ III 後期 人間・環境科学科 2.0単位	
建築意匠論 (15D2050) [人環強化] [人環副] 元岡　展久	II ～ III 後期 人間・環境科学科 2.0単位	本講義は、建築のデザインを読み、味わう技術の習得を目的とする。建築を味わうことができなければ、批評をすることも、味わい深い建築を構想することもできないからである。　講義は前半、建築を読むための基礎知識を身につけるため、主に近代以降の建築史を概観する。後半では、より普遍的に建築の経験とデザインの関係を考えるため、「空間」を中心とした基本的要素を取り上げて具体的作品の読解を行う。
建築環境計画論 (15D2057) [消費者学学際] [人環強化] [人環主] [人環副] [地理強化] 長澤　夏子	II 前期 人間・環境科学科 2.0単位	生活と空間、建築と社会との対応から進められてきた建築計画学の展開について概説する。また、実際の設計プロセスを体系的に学び、建築における諸要求の的確な把握と与条件化、適正規模の設定、機能構成とプランニング手法、空間デザイン手法を身につける。また、建築計画なかでも人間科学を中心に調査分析から企画、計画へ展開する手法を学ぶ。現代の生活の場である、住宅や各種公共施設、ならびに都市空間について、実例を交えながら解説する。
設計製図基礎 (15D2059) [人環強化] [人環主] [人環副] 元岡　展久\015\012長澤　夏子	I 後期 人間・環境科学科 2.0単位	三次元の空間や物体を二次元の平面に表現する図学の基礎を学ぶ。立体的な空間の把握力を養う。建築設計製図に必要な各種道具の使い方、表現の仕方を学ぶ。さらには、CADを用いた図面作成の手法を学ぶ。図学の基礎を学んだ上で、簡単な建築やオブジェクトの設計を行い、図面に表現する。
基礎構造力学 (15D2063) [人環主] 小山　毅	I ～ II 後期 人間・環境科学科 2.0単位	建築物の安全性を確保するためには，自重，地震，風などの大きな力に対して，建物の骨組がどのように耐えて成立しているのかを理解したうえで設計を行うことが必要である．本講義では，力の釣り合い，合成，分解を解説した後，構造解析の基本である静定構造を対象として,力の分布，部材の変形性状などを学習する．また，演習問題を解くことによって理解を深める．建築構造力学の基礎となる科目である．
基礎有機化学 (15D2072) [人環主] 打田　聖	I 前期 人間・環境科学科 2.0単位	有機化学の基礎を学ぶ。本科目は２年次の「生物化学」、「機器分析演習」などの科目の基礎をなすものである。本講義ではマクマリー「有機化学概説」の1-6章を学習する。14-17章については、２年次前期の「生物化学」で履修する。
生物化学 (15D2073) [人環主] 仲西　正	II 前期 人間・環境科学科 2.0単位	生物化学の基礎を学ぶ．特に有機化学的側面から捉える．
物理化学 (15D2074) [人環主] 仲西　正	II 後期 人間・環境科学科 2.0単位	物質の基本的性質を理解するために必要な物理化学的事項を学ぶ．熱力学，純物質の相転移，混合の熱力学，溶液，相律，ギブズエネルギーと相平衡などについて学び，これらに関して簡単な数値的問題を取り扱えるようにする．
環境生理学 (15D2077) [人環主] [人環副] 近藤　恵	II 後期 人間・環境科学科 2.0単位	ヒトが，一般的日常生活をおくる上で知っておくべき，あるいは知っていると有用な人体生理の基礎知識を正しく理解，習得することを主題とし，更により専門的な医学・生理学を学ぶための基盤構築を目標とする．
人間環境科学演習 (15D2078) [人環主] [人環副] 人間・環境全教員\015\012松田　雄二\015\012松浦　秀治\015\012仲西　正\015\012太田　裕治\015\012大瀧　雅寛\015\012近藤　恵\015\012元岡　展久	III 後期 人間・環境科学科 2.0単位	建築ならびに人類学に関連した演習を行う．講義場所に注意する事．

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
情報工学演習 (15D2079) [人環主] [人環副] 人間・環境全教員\015\012太田　裕治\015\012松浦　秀治\015\012仲西　正\015\012大瀧　雅寛\015\012元岡　展久\015\012松田　雄二\015\012近藤　恵	Ⅲ 後期 人間・環境科学科 2.0単位	コンピュータを利用し演習形式にて，数式処理・解析，統計解析，数値計算などの手法を具体的に学ぶ.
人間環境科学実験実習Ⅰ (15D2080) [人環主] [人環副] 人間・環境全教員\015\012松田　雄二\015\012元岡　展久\015\012太田　裕治\015\012仲西　正\015\012松浦　秀治\015\012大瀧　雅寛\015\012近藤　恵	Ⅲ 前期 人間・環境科学科 2.0単位	
人間環境科学実験実習Ⅱ (15D2081) [人環主] 人間・環境全教員\015\012松田　雄二\015\012元岡　展久\015\012太田　裕治\015\012仲西　正\015\012松浦　秀治\015\012大瀧　雅寛\015\012近藤　恵	Ⅲ 前期 人間・環境科学科 2.0単位	人間・環境科学に関する実験及び実習を行う．内容は人類学・物理学・化学・建築学・人間工学など多岐に渡る．実験・実習を行うための基礎的知識から，専門に近い応用的な内容まで扱う．実験実習科目なので出席点を重要視する．また各課題に対するレポート提出も必須である．テキストは配布する.
人間環境科学実験実習Ⅲ (15D2082) [人環主] 人間・環境全教員\015\012松田　雄二\015\012元岡　展久\015\012太田　裕治\015\012仲西　正\015\012松浦　秀治\015\012大瀧　雅寛\015\012近藤　恵	Ⅲ 前期 人間・環境科学科 2.0単位	人間・環境科学に関する実験及び実習を行う．内容は人類学・物理学・化学・建築学・人間工学など多岐に渡る．実験・実習を行うための基礎的知識から，専門に近い応用的な内容まで扱う．実験実習科目なので出席点を重要視する．また各課題に対するレポート提出も必須である．テキストは配布する.
人間環境科学輪講Ⅰ (15D2085) [人環主] 人間・環境全教員\015\012元岡　展久\015\012太田　裕治\015\012仲西　正\015\012松浦　秀治\015\012大瀧　雅寛\015\012松田　雄二\015\012近藤　恵	Ⅳ 前期 人間・環境科学科 2.0単位	卒業研究に必要な論文を読み、理解する能力を養うと共に、論文をまとめる能力を育成する。
人間環境科学輪講Ⅱ (15D2086) [人環主] 人間・環境全教員\015\012仲西　正	Ⅳ 後期 人間・環境科学科 2.0単位	卒業研究に必要な論文を読み、理解する能力を養うと共に、論文をまとめる能力を育成する。
人間環境科学特別講義 (15D2087) [人環強化] 人間・環境全教員\015\012元岡　展久\015\012太田　裕治\015\012仲西　正\015\012松浦　秀治\015\012大瀧　雅寛\015\012松田　雄二\015\012近藤　恵	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 人間・環境科学科 2.0単位	

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
環境科学 (15D2088) [人環主] [人環副] [地理強化] 近藤　恵	II 前期 人間・環境科学科 2.0単位	人間と環境に関わる様々な検討課題の基礎となる地球上の自然環境の変化を理解するために、気圏・地圏・水圏環境について、その組成や変化について、化学的視点に基づいて講義する。化学的視点に留まらず、自然環境そのものを理解するために、地球科学についても基礎から学習する。具体的に発生した問題についても取り上げ、その原因や対策について知識を深め、考察する力を養う。
建築設計製図演習III (15D2089) [人環強化] [人環副] 松田　雄二	III 後期 人間・環境科学科 2.0単位	
建築生産 (15D2092) [人環強化] [人環副] 河野　泰治	II ～ III 後期 人間・環境科学科 2.0単位	
建築設備学 (15D2093) [人環強化] [人環副] 三上　功生	II ～ III 後期 人間・環境科学科 2.0単位	建築は大きく「意匠、構造、設備」の3分野に分かれています。優れた建築物の条件として、意匠、構造、設備のバランスがとれいていることが挙げられます。本授業では、建築を構成する3分野の内の「建築設備」について学びます。建築設備を人間に例えると、脳、神経、内蔵、血管などの身体の機能を司る器官に相当します。臓器や神経などが正常に機能しなければ人間は生きていけないのと同じように、建築物も建築設備が機能しなければその役割を果たすことはできません。建築設備は主に空気調和設備、換気設備、給排水衛生設備、電気設備、搬送設備（エレベータなど）、防災設備の6つにより構成されています。本授業では、これらの建築設備の基礎をわかりやすく解説します。本授業を受講することにより、日常生活の中で何気なく使用しているエアコン、換気扇、水栓やトイレ、照明などの仕組みを理解できるようになります。
人体計測学演習(1) (15D2104) [人環主] 近藤　恵	II 1学期 人間・環境科学科 2.0単位	人間の形態を見る目と表現する方法を修得する。具体的には、人体寸法計測ができるようになり、計測した人体寸法データの処理ができるようになることを目標とする。このために、解剖学的特徴点の同定のしかた、それを理解するために必用な基礎的な骨学の知識、マルチン式人体計測器の取り扱い方、被験者に対する配慮のしかた、計測結果の取り扱い方、計測誤差の評価のしかたについて実習する。計測者として被験者への接し方、補助者としてやるべきことを理解したかどうかも評価の対象とする。
人体計測学演習(2) (15D2106) [人環主] 近藤　恵	II 2学期 人間・環境科学科 2.0単位	人間の形態を見る目と表現する方法を修得する。具体的には、人体寸法計測ができるようになり、計測した人体寸法データの処理ができるようになることを目標とする。このために、解剖学的特徴点の同定のしかた、それを理解するために必用な基礎的な骨学の知識、マルチン式人体計測器の取り扱い方、被験者に対する配慮のしかた、計測結果の取り扱い方、計測誤差の評価のしかたについて実習する。計測者として被験者への接し方、補助者としてやるべきことを理解したかどうかも評価の対象とする。
生物化学(1) (15D2108) [人環主] 仲西　正	II 1学期 人間・環境科学科 1.0単位	生物化学の基礎を学ぶ．特に有機化学的側面から捉える．
生物化学(2) (15D2110) [人環主] 仲西　正	II 2学期 人間・環境科学科 1.0単位	生物化学の基礎を学ぶ．特に有機化学的側面から捉える．
ヒトと文化(1) (15D2112) [人環主] [人環副] 松浦　秀治	I ～ IV 1学期 人間・環境科学科 1.0単位	ヒトと文化(1)および(2)では、全体として、進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴を概観するとともに、それら身体形質の特徴が、ヒトの持つ特殊な生活様式と環境〈特に文化環境〉と強く関係していること、また、「直立姿勢と二足歩行」という特質がヒトの他の諸特徴、たとえば、大きな脳と小さな顔面、音声言語の獲得、身体の無毛性、また家族の形成などとも直接的･間接的に深く関連していることを理解する。第1学期の(1)では、「文化と身体形質」までを講義するが、これは第2学期の(2)の内容の基礎・基盤をなす部分である。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
ヒトと文化(2) (15D2114) [人環主] [人環副] 松浦　秀治	Ⅰ ～ Ⅳ ２学期 人間・環境科学科 １.０単位	ヒトと文化(1)および(2)では、全体として、進化の結果として得た現在のヒトの身体的特徴を概観するとともに、それら身体形質の特徴が、ヒトの持つ特殊な生活様式と環境〈特に文化環境〉と強く関係していること、また、「直立姿勢と二足歩行」という特質がヒトの他の諸特徴、たとえば、大きな脳と小さな顔面、音声言語の獲得、身体の無毛性、また家族の形成などとも直接的･間接的に深く関連していることを理解する。第2学期の(2)では、「咀嚼器官(咬器)の退化」から講義するが、これは第1学期の(1)の発展的内容を主とする授業になっている。
機器分析演習(1) (15D2116) [人環主] 仲西　正	Ⅱ ３学期 人間・環境科学科 １.０単位	人間・環境科学の研究に必要な機器分析の理論と実際について，演習を通して理解する．紫外可視吸収，赤外吸収，核磁気共鳴などについて基礎的な事項を学ぶとともに，簡単な有機化合物についてスペクトルの解析が出来るようにする．本科目の内容は，「住居の機能、設計、管理」，「製品設計」，「環境測定」，「機能材料の開発」などを行う上での基礎ともなる．
機器分析演習(2) (15D2118) [人環主] 仲西　正	Ⅱ ４学期 人間・環境科学科 １.０単位	人間・環境科学の研究に必要な機器分析の理論と実際について，演習を通して理解する．核磁気共鳴，質量分析などについて基礎的な事項を学ぶとともに，簡単な有機化合物についてスペクトルの解析が出来るようにする．本科目の内容は，「住居の機能、設計、管理」，「製品設計」，「環境測定」，「機能材料の開発」などを行う上での基礎ともなる．
環境科学(1) (15D2120) [人環主] [人環副] [地理強化] 近藤　恵	Ⅱ １学期 人間・環境科学科 １.０単位	人間と環境に関わる様々な検討課題の基礎となる地球上の自然環境の変化を理解するために、気圏・地圏・水圏環境について、その組成や変化について、化学的視点に基づいて講義する。化学的視点に留まらず、自然環境そのものを理解するために、地球科学についても基礎から学習する。具体的に発生した問題についても取り上げ、その原因や対策について知識を深め、考察する力を養う。
環境科学(2) (15D2122) [人環主] [人環副] [地理強化] 近藤　恵	Ⅱ ２学期 人間・環境科学科 １.０単位	人間と環境に関わる様々な検討課題の基礎となる地球上の自然環境の変化を理解するために、気圏・地圏・水圏環境について、その組成や変化について、化学的視点に基づいて講義する。化学的視点に留まらず、自然環境そのものを理解するために、地球科学についても基礎から学習する。具体的に発生した問題についても取り上げ、その原因や対策について知識を深め、考察する力を養う。
環境材料物性(1) (15D2128) [人環強化] [人環副] 仲西　正	Ⅲ １学期 人間・環境科学科 １.０単位	環境材料の物性について基礎的事項を学ぶ．特に材料の性質と構造の関係に着目して考察する．高分子の構造と熱的性質との関係を理解する．本科目の内容は，「住居の機能、設計、管理」，「製品設計」，「材料の環境調和」，「機能材料の開発」などを行う上での基礎ともなる．
環境材料物性(2) (15D2130) [人環強化] [人環副] 仲西　正	Ⅲ ２学期 人間・環境科学科 １.０単位	環境材料の物性について基礎的事項を学ぶ．特に材料の性質と構造の関係に着目して考察する．高分子材料（高分子の構造，エントロピー弾性，粘弾性），機能性材料，環境調和と材料設計などを取り扱う．本科目の内容は，「住居の機能、設計、管理」，「製品設計」，「材料の環境調和」，「機能材料の開発」などを行う上での基礎ともなる．
物理化学(1) (15D2156) [人環主] 仲西　正	Ⅱ ３学期 人間・環境科学科 １.０単位	物質の基本的性質を理解するために必要な物理化学的事項を学ぶ．熱力学，純物質の相転移，混合の熱力学，溶液，相律，ギブズエネルギーと相平衡などについて学び，これらに関して簡単な数値的問題を取り扱えるようにする．
物理化学(2) (15D2158) [人環主] 仲西　正	Ⅱ ４学期 人間・環境科学科 １.０単位	物質の基本的性質を理解するために必要な物理化学的事項を学ぶ．熱力学，純物質の相転移，混合の熱力学，溶液，相律，ギブズエネルギーと相平衡などについて学び，これらに関して簡単な数値的問題を取り扱えるようにする．
機械と運動(1) (15D2175) [人環強化] 太田　裕治	Ⅰ ～ Ⅱ １学期 人間・環境科学科 １.０単位	

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
機械と運動(2) (15D2177) [人環強化] 太田　裕治	Ⅰ ～ Ⅱ ２学期 人間・環境科学科 １.０単位	
設計製造演習(1) (15D2183) [人環主] 太田　裕治\015\012元岡　展久	Ⅱ １学期 人間・環境科学科 １.０単位	
設計製造演習(2) (15D2185) [人環主] 太田　裕治\015\012元岡　展久	Ⅱ ２学期 人間・環境科学科 １.０単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
人間生活論(1) (15D5001) [生社主] [生文主] [発臨主] 人間生活学科全教員\015\012 宮内　貴久	I 1学期 人間生活学科 1.0単位	人間生活論（1）及び人間生活論（2）では、人間生活学科の専任教員を紹介するとともに、この学科におけるインパクトのある教員の組み合わせから、新たな人間生活学の可能性を探る。狭い学問領域を越える教員同士の出会いの現場を見ることによって、この学科で学ぶにあたって核となる創発的刺激を、受講生の皆さんに提供することを目的とする。
人間生活論(2) (15D5003) [生社主] [生文主] [発臨主] 人間生活学科全教員\015\012 宮内　貴久	I 2学期 人間生活学科 1.0単位	人間生活論（1）及び人間生活論（2）では、人間生活学科の専任教員を紹介するとともに、この学科におけるインパクトのある教員の組み合わせから、新たな人間生活学の可能性を探る。狭い学問領域を越える教員同士の出会いの現場を見ることによって、この学科で学ぶにあたって核となる創発的刺激を、受講生の皆さんに提供することを目的とする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
発達臨床基礎論Ⅰ (15D0601) [発臨主] 井原　成男	Ⅰ 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	発達臨床にかかわる基礎的理論を学ぶ。 また発表の仕方、討論の仕方についても、練習する。
発達臨床基礎論Ⅱ (15D0602) [発臨主] 浜口　順子	Ⅰ 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	子ども学、保育学への入門的授業。子どものいるフィールドに出向いて実際に関わったり、協働する活動に取り組んだりすることによって、体験的対話的に、大人と子どもの関係について考える。
発達臨床基礎演習Ⅰ (15D0603) [発臨主] 藤田　宗和	Ⅰ 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	基礎的な心理学の各領域における基礎概念，理論，研究方法等について学ぶと同時に，それらの成果が心理臨床においてどのように応用されているかを検討し，基礎的な心理学と臨床心理学の関係について理解を深める.
発達臨床基礎演習Ⅱ (15D0604) [発臨主] 柴坂　寿子	Ⅰ 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	現場で生活する子どもを、実感を持って多角的に理解するための基礎を養う。現場での子どもに触れる体験を元にしながら、現場での記録・理解・その共有のあり方、日常生活の諸側面や生活の意味を捉える多様な視点を具体的に検討する 前期「発達臨床基礎論Ⅱ」に引き続き、発達臨床心理学の基礎として、子どもを多角的に理解することを目指す。
発達臨床診断法 (15D0605) 篁　倫子	Ⅱ 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	乳幼児期の発達を概観し、心理学的アセスメント・発達評価の方法を学ぶ。代表的な発達検査、知能検査について、その内容と理論的背景を理解する。
発達臨床人格検査法 (15D0606) [発臨主] 田中　奈緒子	Ⅱ 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	心理臨床における人格理解のための色々な概念，その方法を理解する。特に主要な心理検査の実習を通して，各検査の実施法，解釈法を習得した上で，各検査の効用と限界を理解し，心理臨床に利用する際の留意点を学習する。また，結果レポートのほか，自己分析レポートを記すことを通して，自己理解を深める。
発達臨床観察法 (15D0607) [発臨主] 柴坂　寿子	Ⅱ 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	生活の場での行動観察に慣れると共に、経験に基づいて、行動観察という方法の利点と限界、実行上の留意点について考える。
卒業論文 (15D0610) [発臨主] 発臨全教員\015\012篁　倫子	Ⅳ 通不定期 発達臨床心理学講座 8.0単位	卒業論文作成の指導を行う。
障害臨床学 (15D0615) [発臨強化] [発臨副] 篁　倫子	Ⅱ 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	障害とは何かを考える。特に、知的障害、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの発達障害の概念を学び、心理・教育的支援を概観する。
保育学 (15D0617) [発臨強化] [発臨副] 浜口　順子	Ⅱ 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	子ども観、保育理論、保育方法、保育者の歴史を踏まえて、幼稚園教育要領の概要と、我が国の幼稚園カリキュラムの特徴を解説し、外国と比較して日本の特徴を考える。毎授業後に感想・質問メモを提出してもらうので、次回の授業に生かし詳細な説明や討論などを行う。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
発達社会文化論 (15D0618) [発臨強化] [発臨副] 柴坂　寿子	II ～ III 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	日常の集団生活の場である幼稚園・保育園などでの幼児の行動を、観察資料から具体的に検討することで、「行動主体としての子ども」という視点を養う
児童文化論 (15D0620) [発臨強化] [発臨副] 森下　みさ子	II ～ III 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	テーマ：近代日本における子どもの誕生と子ども像の変容 親が愛情をもって子どもを大切に育てる、それは人類の誕生以来受け継がれてきた、子育ての原則です。しかし、子どもへの接し方、遇し方、育て方をはじめとする、社会の子どもの見方、いわゆる「子ども観」は各時代（社会）によって変化します。今日私たちが常識として受け入れている「保護」「教育」の対象という子ども像を成り立たせている源を、児童文化の立場から、整理します。その上で児童保護に関連する諸事象とおして「子ども」とは何かという問題を再検討します。 到達目標：近代子ども観の理解とそれに関するさまざま事象の把握 評価：授業への参加度・講義内容の理解及びそれに基づく独創的な見解
家族療法 (15D0624) [発臨強化] [発臨副] 青木　みのり	II ～ IV 後集中 発達臨床心理学講座 2.0単位	主題 　現代の家族と家族をとりまく状況について理解し、家族に対する心理的支援について理解する 目標 　複数の個人の集合体である家族を一つのシステムとしてとらえることにより、個人療法とは異なる独自の切り口による支援が可能になる。この講義では、システム理論を学び、その視点から家族のありようと抱える問題を理解し、支援のための理論を身につけることを目標とする。
質問紙法 (15D0625) [発臨強化] [発臨副] 笠置　遊	III 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	心理学の研究を進める上では、多くの質問紙調査が行われ、調査結果に基づきさまざまな「事実」が見出されている。だが残念なことに、それらの事実全てが十分に信用に足るかといえば必ずしもそうでもない。調査結果が正しく評価されているとは限らないし、実施された調査が適切な手つづきを経ていない場合もあるからだ。 　本講義では、質問紙調査に必要な手続き、得られた結果を解釈する上で有効な統計処理を学ぶべく講義と演習を行う。
人格心理学 (15D0627) [発臨強化] [発臨副] 井原　成男	II ～ III 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	人格理論を概説し、心理臨床におけるさまざまなテストとその実際について、またその臨床的な応用について検討する。できるだけケースを使った解説を試みる。今年度は、ムンクや三島由紀夫等の病跡学、人格障害についても論じる。
産業心理臨床 (15D0628) [発臨強化] [発臨副] 渡部　卓\015\012松本　桂樹	II ～ IV 後集中 発達臨床心理学講座 2.0単位	近年、ストレスを訴える勤労者の割合は年々増加しており、企業では特にうつ病と中心としたメンタルヘルス問題への対応に追われている。本講義では職場のメンタルヘルス問題の理解と対応に関し、組織的視点および臨床的視点の２つの視点について各現場の専門家から学んでいく。 前半はメンタルヘルス対策のソリューションを企業に提供するスペシャリストの渡部卓により、企業と社会、ストレス・マネジメント、ワークライフバランス、コミュニケーションなどの多彩な見地から知見を紹介し、学生同士のグループディスカッションなども取り入れて考察を行っていく。 後半は産業臨床に専従している現場の臨床心理士である松本桂樹により、カウンセリングの技法に加えてインターベンション（受療支援）、ケース・マネジメント、人事・管理職へのコンサルテーションなど援助者として必要な基礎的ノウハウを、演習など実践的な内容にて理解を深めていく。
発達過程論 (15D0632) [発臨強化] [発臨副] 高濱　裕子	II ～ III 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	生涯発達的観点から、乳幼児や子どもと大人（親や保育者）の関係性、その互恵的な影響性などについて考察する。また、文化の中での発達にも焦点を当てる。
発達臨床特殊講義 I (15D0635) [発臨強化] [発臨副] 福元　真由美	II ～ IV 未定 発達臨床心理学講座 2.0単位	幼稚園・保育所という場所のもつ機能、及びその実践の意味について、1）乳幼児の生活と遊びの環境、2）小学校以上の教育の基盤づくり、3）子育て支援の機関の3つの観点から取り上げ、現代の幼稚園・保育所の現状と抱える課題について学習する。本授業を通じて、保育の現状と今日的な課題に関する基本的な知識を習得し、複数の視点から課題の解決に向けて思考する態度を養うことを目標とする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
心理臨床講義講読 (15D0638) [発臨強化] [発臨主] [発臨副] 井原　成男	III 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	実践的な研究の計画立案、実施、論文演習を検討する。各自の興味に合わせ、参加者で協力し合いながら研究と論文の作成を目指す。
保育臨床講義講読 (15D0639) [発臨強化] [発臨主] [発臨副] 浜口　順子	III 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	保育臨床に関わる文献講読および保育現場の事例を通して、乳幼児教育・保育の実践的研究の基礎について学びます。
人間関係講義講読 (15D0640) [発臨強化] [発臨主] [発臨副] 柴坂　寿子	III 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	現場での観察を用いた、子どもの行動研究の文献を取り上げる。文献を通じて、現場での子どもの行動観察研究の方法について、資料の収集や分析の基礎を実践的に理解することを目指す。
人格発達講義講読 (15D0641) [発臨強化] [発臨主] [発臨副] 藤田　宗和	III 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	発達臨床心理学の領域における研究論文等を，批判的に検討することで，自己の関心領域を広げるとともに，卒論の研究方法，論文の書き方を学ぶ。本年度は自己愛や投映法について取り上げる。
学校心理講義講読 (15D0642) [発臨強化] [発臨主] [発臨副] 伊藤　亜矢子	III 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	学校をフィールドとして心理学をどう応用できるか、スクールカウンセリング等に関する文献講読や卒論に向けての準備学習も含めて、受講者と考えていきたいと思います。
生涯発達研究演習 (15D0643) [発臨強化] [発臨主] [発臨副] 榊原　洋一	III 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	主に発達障害にかかわる内外の文献を読むとともに、その内容を批判的な視点で読み解く能力を養う
心理臨床研究演習 (15D0646) [発臨強化] [発臨主] [発臨副] 岩壁　茂	III 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	近年臨床心理学の分野において注目される語りという視点から心理療法の理論、実践、研究を学ぶ。それを通して卒業論文研究のための基礎力を養う。
保育臨床研究演習 (15D0647) [発臨強化] [発臨主] [発臨副] 刑部　育子	III 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	保育実践や発達心理学にかかわる文献資料を読み、討論する。
人間関係研究演習 (15D0648) [発臨強化] [発臨主] [発臨副] 小玉　亮子	III 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	グローバル化する世界のなかで、子ども世界も容赦なくその波のなかにあり、目の前にいる子どもたちの世界も地球規模の変動と無関係ではない。子どもの世界がどのように変貌しているのか、時空にとらわれることなく広い視野から考えることを試みたい。
人格発達研究演習 (15D0649) [発臨強化] [発臨主] [発臨副] 青木　紀久代	III 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	主に、文献の購読と討議を通して、発達臨床心理学的人格発達に関する基礎的な理論と研究方法の知識を習得することを目指す。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
学校心理研究演習 (15D0650) [発臨強化] [発臨主] [発臨副] 篁　倫子	Ⅲ 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	障害や病気と共に生きることを人間の発達的観点から考え、本人および家族にとって必要なトータルケアとは何かを主に教育、心理的援助、医療の側面を視点から中心としたとトータル・ケアを検討する。積極的な授業参加、研究発表が必要である。
生涯発達講義講読 (15D0651) [発臨強化] [発臨主] [発臨副] 高濱　裕子	Ⅲ 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	生涯発達心理学における研究論文や実践的志向性をもった文献を取りあげる。授業の目的は、どのような要請にもとづいた研究なのかを的確に把握すること、研究論文を批判的に検討することである。
心理臨床実習 (15D0652) [発臨強化] 青木　紀久代\015\012伊藤　亜矢子\015\012篁　倫子\015\012井原　成男	Ⅲ 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	心理臨床の基礎的な知識と技法を習得するための実習を行う。
発達臨床論文演習Ⅰ (15D0657) [発臨強化] 青木　紀久代	Ⅳ 前不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	発達臨床心理学の学術研究論文の作成指導を行う。
発達臨床論文演習Ⅰ (15D0658) [発臨強化] 伊藤　亜矢子	Ⅳ 前不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	卒論研究の指導を行います
発達臨床論文演習Ⅰ (15D0659) [発臨強化] 井原　成男	Ⅳ 前不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	実践的な研究の計画立案、実施、論文演習を検討する。各自の興味に合わせ、参加者で協力し合ながら、研究と論文の作成を目指す。
発達臨床論文演習Ⅰ (15D0660) [発臨強化] 岩壁　茂	Ⅳ 前不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	4年生を対象とした卒業論文指導
発達臨床論文演習Ⅰ (15D0661) [発臨強化] 刑部　育子	Ⅳ 前不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	実践的な研究の計画立案、実施、論文演習等を検討する。各自の興味にあわせ、参加者で協力し合いながら研究と論文の作成を目指す。
発達臨床論文演習Ⅰ (15D0662) [発臨強化] 柴坂　寿子	Ⅳ 前不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	実践的な研究の計画立案、実施、論文演習を検討する。各自の興味に合わせ、参加者で協力し合いながら研究と論文の作成を目指す。
発達臨床論文演習Ⅰ (15D0663) [発臨強化] 篁　倫子	Ⅳ 前不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	４年生を対象とした卒業論文指導

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
カウンセリング論 (15D0665) [消費者学学際] [発臨強化] [発臨副] 岩壁　茂	II 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	カウンセリング・心理療法理論の基本概念を学ぶ。精神分析学派、人間学派、認知行動学派などの代表的な理論を、それぞれの哲学的基盤、精神病理・心理障害の定義、面接過程、治療者の役割と介入法などの観点から比較・検討し、カウンセリングにおける人間理解と援助について学ぶ。
発達保健学 (15D0666) [発臨強化] [発臨副] 榊原　洋一	II ～ IV 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	子どもの発達の生理と病理について学ぶとともに、その評価、支援の方法について保健学の立場から概観する。
心理統計法（理論） (15D0668) [発臨主] 尾崎　幸謙	III 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	授業のテーマ・目標：１）心理学の研究で用いる基本的な統計手法および，その基礎となる統計量に関する知識の獲得，２）統計ソフトウェアSPSSの操作に習熟することの２つを目的とする。具体的には，平均等の代表値，分散，標準偏差，共分散，分散，検定の理論，t検定，分散分析を授業では扱い， SPSSによる出力・分析方法についても講義中に示す。授業は「よくわかる心理統計（山田剛史・村井潤一郎著）」をテキストとして使用する。 到達目標：与えられたデータと研究目的に対して適切な分析手法を選択できるようになることを目標とする。
心理統計法（実践） (15D0669) [発臨主] 尾崎　幸謙	III 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	授業のテーマ・目標：１）心理学の研究で用いる基本的な統計手法に関する知識の獲得，２）統計ソフトウェアSPSSの操作に習熟することの２つを目的とする。具体的には，カイ2乗検定，分散分析，回帰分析，因子分析を授業では扱い， SPSSによる出力・分析方法についても講義中に示す。カイ2乗検定に関しては，「よくわかる心理統計（山田剛史・村井潤一郎著）」をテキストとして使用する。 到達目標：与えられたデータと研究目的に対して適切な分析をSPSSで実行し，正しい解釈を行うことができるようになることを目標とする。 成績評価：分析レポートおよびテストにより評価を行う。
発達臨床論文演習 I (15D0670) [発臨強化] 藤田　宗和	IV 前不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	卒業論文の指導を行う
発達臨床学特別実習 I (15D0671) [発臨強化] 伊藤　亜矢子	III ～ IV 通不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	国公立小中学校で、週１回インターンシップを行います。主に特別支援に関わる実習と、養護教諭の先生についてスクールカウンセラーの仕事などを学ぶ実習があります。これまでに学んだことを現場での体験によって深めることを目標としています。
発達臨床学特別実習 II (15D0672) [発臨強化] 浜口　順子\015\012刑部　育子\015\012安治　陽子	III 通不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	文京区立幼稚園、私立特別支援学校、附属幼稚園、いずみナーサリーなどをフィールドにして、1年間、定期的に参加実習を行い、子ども理解、保育理解、教育方法などについて実践的に学ぶ貴重な機会を提供する。 4月15日（水）12：10～、オリエンテーションを行うので必ず出席すること。場所は、4月に発臨講座研の前に掲示する。どうしても出席できない場合は、連絡すること。
発達臨床心理学専門英語 (15D0673) [発臨強化] 伊藤　亜矢子	II 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	発達臨床心理学の基本的用語に慣れ、発達臨床心理学の研究実践に英語を使用できるようにする。そのことを通して、発達臨床心理学に関する知識を深める。グループごとに目標をたてて共同学習を行う。
心理臨床学 (15D0674) [発臨強化] [発臨副] 青木　紀久代	II ～ III 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	この講義では、子育て期にある家族への心理的援助の理論と実際について概説する。幼稚園・保育所を中心に、その他の子育て支援施設、児童福祉施設における相談支援の実際を学習する。
発達臨床論文演習 II (15D0675) [発臨強化] 青木　紀久代	IV 後不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	卒業論文作成のための研究指導を行う。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
発達臨床論文演習Ⅱ (15D0676) [発臨強化] 伊藤　亜矢子	Ⅳ 後不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	卒論研究の指導を行います
発達臨床論文演習Ⅱ (15D0677) [発臨強化] 井原　成男	Ⅳ 後不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	実践的な研究の計画立案、実施、論文演習を検討する。各自の興味に合わせ、参加者で協力し合ながら、研究と論文の作成を目指す。
発達臨床論文演習Ⅱ (15D0678) [発臨強化] 岩壁　茂	Ⅳ 後不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	4年生を対象とした卒業論文指導
発達臨床論文演習Ⅱ (15D0679) [発臨強化] 刑部　育子	Ⅳ 後不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	実践的な研究の計画立案、実施、論文演習等を検討する。各自の興味にあわせ、参加者で協力し合いながら研究と論文の作成を目指す。
発達臨床論文演習Ⅱ (15D0680) [発臨強化] 柴坂　寿子	Ⅳ 後不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	実践的な研究の計画立案、実施、論文演習を検討する。各自の興味に合わせ、参加者で協力し合いながら研究と論文の作成を目指す。
発達臨床論文演習Ⅱ (15D0681) [発臨強化] 篁　倫子	Ⅳ 後不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	４年生を対象とした卒業論文指導
発達臨床論文演習Ⅱ (15D0682) [発臨強化] 藤田　宗和	Ⅳ 後不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	卒業論文の指導を行う
発達臨床論文演習Ⅰ (15D0683) [発臨強化] 浜口　順子	Ⅳ 前不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	卒論作成のためのゼミ。まずは自分の問題意識を掘り起して多面的に考えてみる。適宜関連のある文献を読んで考えたり話し合ったりする。
発達臨床論文演習Ⅱ (15D0684) [発臨強化] 浜口　順子	Ⅳ 後不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	卒論研究テーマの焦点をしぼり、方法を検討し、実践・調査、考察をすすめる。
保育臨床実習 (15D0685) [発臨強化] 浜口　順子\015\012刑部　育子\015\012安治　陽子	Ⅱ 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	附属幼稚園、いずみナーサリーを中心に観察実習をおこない、保育の現場の雰囲気を知り、子どもの行動や遊び、保育者の保育行為、保育環境について、観察をとおして実感的に学ぶ。また、観察後はディスカッションや記録の記述による省察作業にすすむ。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
児童社会文化論 (15D0687) [教育強化] [発臨強化] [発臨副] 小玉　亮子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	現代において子どもと教育に関して、多くの課題があることは日々多様な局面で繰り返し語られている。こういった喫緊の問題を冷静に理解するためには、「事態を大きな文脈の中で見ることを可能にする広範な知識を常識的に流通する固定観念に縛られない自由な発想法を必要とする」（教科書より）と考えている。 100年、1000年という大きな単位と、1か月、1年といった小さな単位の時間軸をとりながら、小さな地域に焦点を当てると同時にグローバルな視野にたって、現代の子ども問題を考えていきたい。
発達臨床論文演習Ⅰ (15D0688) [発臨強化] 高濱　裕子	Ⅳ 前不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	卒業論文作成のために必要な知識や研究倫理について、文献講読を通して習熟する。また、受講生の興味や関心を研究の俎上にのせるためにどのような工夫が必要なのかを検討する。
発達臨床論文演習Ⅱ (15D0689) [発臨強化] 高濱　裕子	Ⅳ 後不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	卒業論文作成のために必要な知識や研究倫理について、文献講読を通して習熟する。また、受講生の興味や関心を研究の俎上にのせるためにどのような工夫が必要なのか検討する。
発達臨床論文演習Ⅰ (15D0690) [発臨強化] 小玉　亮子	Ⅳ 前不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	問いを見つけること、その問いについての先行研究を学ぶこと、問いの解明のための手がかりを集めること、そして、その結果明らかになったことをまとめる。そういう手順をふんで論文の執筆を行うことを目的としています。論文は対象と執筆者との、そして執筆者と読み手とのコミュニケーションメディアです。論文執筆をとおして、自分とは異なる他者とのコミュニケーションの可能性を追求したいとおもいます。
発達臨床論文演習Ⅱ (15D0691) [発臨強化] 小玉　亮子	Ⅳ 後不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	問いを見つけること、その問いについての先行研究を学ぶこと、問いの解明のための手がかりを集めること、そして、その結果明らかになったことをまとめる。そういう手順をふんで論文の執筆を行うことを目的としています。論文は対象と執筆者との、そして執筆者と読み手とのコミュニケーションメディアです。論文執筆をとおして、自分とは異なる他者とのコミュニケーションの可能性を追求したいとおもいます。
発達臨床心理学Ⅱ (15D0693) [発臨主] [発臨副] 篁　倫子	Ⅱ 後期 発達臨床心理学講座 2.0単位	乳幼児期の発達を概観し、心理学的アセスメント・発達評価の方法を学ぶ。代表的な発達検査、知能検査について、その内容と理論的な背景を理解する。
発達臨床論文演習Ⅰ (15D0694) [発臨強化] 榊原　洋一	Ⅳ 前不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	卒業論文の指導を行う。
発達臨床論文演習Ⅱ (15D0695) [発臨強化] 榊原　洋一	Ⅳ 後不定期 発達臨床心理学講座 2.0単位	卒業論文の指導を行う。
家庭看護学 (15D5053) [発臨主] 高木　悦子	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 発達臨床心理学講座 2.0単位	ライフステージを踏まえつつ、家族が抱えるであろう健康問題や、生命倫理に関わるテーマを切り口に生活の場で求められるケアやサポートのあり方、病気や緊急時の対応方法についてその理論と実際を取り上げる。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
保育実践論 (15D5055) [発臨主] 倉持　清美	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	本講座では、中学（高）校家庭科の保育教育の目標の理解と、保育学習に必要な子ども（乳幼児）の発達と生活についての基本的な知識、および保育の教材開発のための基本的スキルの獲得を求めている。そのためには、中学（高）校生の発達段階を踏まえた上での、保育教育内容の適時性を考える必要がある。さらに、中学（高）における養護性を高めるための教育の重要性や具体的な方法論を実践的に学んでいく。幼稚園や保育園での実習も含む。 授業の目標 一般目標：中学（高）校家庭科の保育教育の目標を理解した上で、子ども（乳幼児）の心身の発達のプロセスや生活に関する基礎的な知識を身につけ、家庭及び地域・社会環境の重要性を理解する。青年前期の養護性を高めるための教育について実践的に学ぶ。 到達目標： １．子ども（乳幼児）の心身の発達のプロセスを理解する（知識・理解） ２．保育学習に関わる知識・技能（技術）を学ぶための指導を考え、表現できる。（表現）３．中・高校生の発達段階を考慮した養護性を高めるための教育を工夫する（創意・工夫） 評価 成績評価の基準規定回数の出席を満たした学生を対象に最終レポートを提出してもらう。また、家庭科保育学習に必要な教材を開発する。
児童学概論 (15D5061) [消費者学学際] [生社主] [生文主] [発臨主] [発臨副] 発臨全教員\015\012刑部　育子	Ⅰ 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	発達臨床心理学の入門を講義する。臨床・学校・保育などの現場と学問の有機的つながりを、各教員が専門の立場から具体的に述べる。
人間関係学 (15D5063) [発臨主] [発臨副] 刑部　育子\015\012高濱　裕子\015\012小玉　亮子\015\012小口　恵巳子	Ⅰ 前期 発達臨床心理学講座 2.0単位	子どもと子ども、子どもと大人の関係形成について、保育学、発達心理学、教育学、社会学的観点から考える。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
生活政治学 (15D0081) [公共政策副] [生社主] 杉田　孝夫	II 前期 人間生活学科 2.0単位	まず戦後から現在までの日本政治の有り様を、そのつど規定してきた条件と枠組みに着目して概観し、そのうで官僚制、議会政治、世論と政治、選挙、地域政治、ジェンダーと日本の政治、政治と経済、グローバリゼーションと安全保障という8つの論点から、現代日本の政治の特徴と問題点を考える。
生活社会科学概論 (15D0701) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社主] [生文主] [発臨主] [発臨副] 永瀬　伸子\015\012藤崎　宏子\015\012斎藤　悦子\015\012マルセロ　デ　アウカンタラ	I 前期 生活社会科学講座 2.0単位	4年間の地図を見通しつつ、特定のテーマに関する文献資料を探す、批判的に文献を読みレポートを書く、ディベートの技法を学ぶ、統計の探し方・読み方を学ぶ、等々のトレーニングをする授業です。生活社会科学主プログラム1年生配当必修科目です。
生活社会科学演習 (15D0702) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社主] 杉田　孝夫\015\012斎藤　悦子	II 前期 生活社会科学講座 2.0単位	ゼミ形式で進める。テーマの選定と担当、毎回の進め方については、受講者と相談のうえ決める。4月11日は生活社会科学主プログラム2年生合同ガイダンスをおこなう。2つのクラスに分かれてのゼミは、実質的には、4月18日からスタートする。
社会統計学 I (15D0704) [社会強化] [社会主] [消費者学学際] [生社主] 荒木　万寿夫	II 1 学期 生活社会科学講座 2.0単位	データ分析に際して基礎となる統計学的な考え方を学ぶ．特にデータの記述的な整理に重点をおき，主にExcelを用いて，データの基本集計や適切な図表作成に必要な知識を習得する．次に確率変数の概念と代表的な確率分布を学び，様々な社会事象に関する確率モデルの意味を明らかにする．最後に，統計的推測の分野では推定と検定の考え方と基本的な問題に対する応用を紹介する．
社会統計学 II (15D0705) [消費者学学際] [生社強化] 荒木　万寿夫	II 後期 生活社会科学講座 2.0単位	前半では重回帰分析と分析結果の解釈，モデルの改善と拡張について学ぶ．手法としてはダミー変数や質的変数の回帰分析であるロジットモデルなども含めて紹介する予定である．そのために回帰分析の数理的な理解に役立つ線形代数の解説も行う．後半では基本的な多変量データの分析手法を解説し，Excelを用いた演習を併せて実施する．いずれの分析手法も，履修者がコンピュータを利用して実行した結果を解釈できるようになることを目標とする．
消費者経済学 (15D0706) [公共政策副] [消費者学学際] [生社主] 大森　正博	II 後期 生活社会科学講座 2.0単位	消費者経済学は、「消費者に関わる問題」を経済学の立場から研究する応用経済学の一分野である。本講義ではミクロ経済学の基本を学び、ミクロ経済学の考え方を用いて「消費者に関わる諸問題」を考えることができるようになることを目的とする。主として、産業組織、公共経済学等の応用経済学の分野の重要なトピックスを扱う。
社会福祉学 (15D0707) [ジェンダー副] [公共政策副] [社会強化] [社会主] [生社強化] 川上　裕子	II 後期 生活社会科学講座 2.0単位	社会保障・社会福祉制度の大きな転換期にある今日、改めて「社会福祉」の果たす役割を考える。社会福祉の法制度やサービス提供のしくみ、サービス利用者の立場性、社会福祉と価値や文化との関わりなどのトピックスを通して、この課題について論じる。
家族法 I (15D0708) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社主] マルセロ　デ　アウカンタラ	III 1 学期 生活社会科学講座 2.0単位	本講義では、家族法（主に親族法）の基本的な知識を習得することを目的とする。現代の日本社会が直面する家族法の問題をはじめ、様々な国の家族法についても具体的な事例を挙げながら幅広く分析する。講義形式で行うが、参加者との対話を取り入れる。
家族社会学総論 (15D0709) 林　葉子	III 前期 生活社会科学講座 2.0単位	社会学および家族社会学の理論と方法論を理解し家族社会学の様々なトピックについて学ぶ。主なトピックは同棲、結婚、夫婦関係、離婚、再婚と家族、セクシュアリティ、妊娠と出産、育児と子育て、父親と母親の役割、子どもの社会化、家事と育児の性別役割分担などである。さらにこれらのトピックを通して可能な限りの国際比較（特に日米比較）を行う。
生活政治学 I (15D0710) 杉田　孝夫	III ～ IV 前期 生活社会科学講座 2.0単位	まず戦後から現在までの日本政治の有り様を、そのつど規定してきた条件と枠組みに着目して概観し、そのうで官僚制、議会政治、世論と政治、選挙、地域政治、ジェンダーと日本の政治、政治と経済、グローバリゼーションと安全保障という8つの論点から、現代日本の政治の特徴と問題点を考える。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
卒業論文 (15D0711) [生社主] 生社全教員\015\012マルセロ　デ　アウカンタラ	Ⅳ 通不定期 生活社会科学講座 8.0単位	在学中の研究・学修の集大成として、卒業論文を作成する。評価については、主指導教員による評価のほか、副査による提出論文の査読結果も重視する。さらに卒業論文審査会において報告し、質疑応答・意見交換をおこなわなければならない。審査会での評点は出席教員の評価点の合計によって算出する。以上の評点を総合し、最終的には生活社会科学講座全教員の合議によって、ひとりひとりの評価を決めていく。
生活関連法 (15D0712) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社主] 小谷　眞男	Ⅱ ～ Ⅳ １学期 生活社会科学講座 2.0単位	憲法・民法・刑法の基本判例演習を通して、法解釈の基礎を学ぶ。 教科書に沿って、ゼミ形式に準じて進めるが、担当講師のレクチャーを一回おきにはさむ。 法的紛争や裁判関係の新聞記事ぐらいはだいたい読めるようになり、そして法や裁判についてもっと詳しく調べるにはどうしたらよいか、その基本的なツールを一通り使えるようになることが、この講義の基本的目標である。 原則的に2年生以上を対象とする。 教科書は、山下純司・島田聡一郎・宍戸常寿『法解釈入門』有斐閣（2013年）を用いる。
生活経済学 (15D0716) [公共政策副] [生社強化] 斎藤　悦子	Ⅱ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	本講義の主題は、私たちが生涯を通じて主体的に豊かに生きるために、経済社会と人間の労働力（人間活動力）がいかに関わるのかを解明することです。生活経済学の源である経済学、家政学（生活科学）、社会政策学の蓄積を踏まえ、家計をとりまく問題を実態生計費や理論生計費、生活時間、収入労働と無報酬労働の観点から検討します。市場経済の中で持続可能な社会や生活を創造するために何が必要かが、今、問われています。本講義では世帯や個人の状況を①働き方、②ジェンダー、③地域の視点で分析し、新たな生活様式の在り方を考えていきたいと思います。
家族法演習Ⅰ (15D0717) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] マルセロ　デ　アウカンタラ	Ⅲ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	現代の家族をめぐる問題を取り上げ、法学の観点から考察する。毎回、担当者（あるいは担当グループ）を決め、発表を行い、その発表内容について全員でディスカッションする。
家族法演習Ⅱ (15D0718) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] マルセロ　デ　アウカンタラ	Ⅲ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	現代の家族をめぐる問題を取り上げ、法学の観点から考察する。毎回、担当者（あるいは担当グループ）を決め、発表を行い、その発表内容について全員でディスカッションする。
生活法学演習Ⅰ (15D0719) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 小谷　眞男	Ⅲ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	今年度のテーマは、日本と世界の裁判事情（case-study）。 専門のゼミなので人数制限がある。
生活法学演習Ⅱ (15D0720) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 小谷　眞男	Ⅲ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	前期「演習Ⅰ」の続きをするか、何か新しいテーマにするか、具体的内容は参加者と相談のうえ決定する。
生活政治学演習Ⅰ (15D0721) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 杉田　孝夫	Ⅲ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	カント教育論を『カント全集17 論理学・教育学』（岩波書店、2001年）を用いて読む。 テキストは初回にコピーを配付する。
生活政治学演習Ⅱ (15D0722) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 杉田　孝夫	Ⅲ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	カントの『人間学』を『カント全集15 人間学』（岩波書店、2003年）で読む。
家族社会学演習Ⅱ (15D0726) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 石井クンツ　昌子	Ⅲ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	日米における家族社会学の研究を講読し現代の家族と家族関係、更に社会の中で変動する家族について学ぶ。ゼミの中で扱われるトピックは夫婦関係、親子関係、きょうだい関係、育児や家事を含む母親と父親の役割、家庭内性別役割分担、子どもの発達、親の介護などである。これらの文献研究から学んだことをもとにして参加者は自身の研究の問題設定、調査の手順計画、データの収集及び分析をしながら社会学研究を行い、ハイクオリティの卒業論文を仕上げることを最終的な目標とする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
生活福祉学演習Ⅰ (15D0727) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 藤崎　宏子	Ⅲ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	文献講読、研究発表、研究方法論の学習、ディスカッションなどと通じて、社会学的思考法を習得する。卒業論文の完成を目標にして、各自の研究テーマを決定し、文献や資料の収集、調査の企画と設計などの準備を始める。
生活福祉学演習Ⅱ (15D0728) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 藤崎　宏子	Ⅲ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	文献講読、研究発表、研究方法論の学習、ディスカッションなどと通じて、社会学的思考法を習得する。卒業論文の完成を目標にして、各自の研究テーマを決定し、文献や資料の収集、調査の企画と設計などの準備を始める。
消費者経済学演習Ⅰ (15D0729) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 大森　正博	Ⅲ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	産業組織（Industrial Organization）、公共経済学（Public Economics)の基本的なテキストブックをレポーター方式で輪読することを通じて、社会経済問題をミクロ経済学の考え方を使って分析するトレーニングを行う。参加者は研究テーマを設定し、自主研究を始める準備をすることを目標とする。
消費者経済学演習Ⅱ (15D0730) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 大森　正博	Ⅲ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	前期に引き続き、産業組織のテキストをレポーター方式で輪読する。 さらに参加者は研究テーマを設定し、卒業論文の準備を行うことを目標とする。
生活経済学演習Ⅰ (15D0731) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 斎藤　悦子	Ⅲ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	ゼミで取り上げようと考えているのは、①家計、②消費様式、③生活時間、④労働（収入労働と家事労働）の配分と企業の関係、⑤生活の協同の在り方です。 前期は、①から③を世帯別（特に女性に着目しながら）に検討し、現在の日本の世帯の全体像を把握します。そこで見いだされた課題を解明するために、「生活の質」という考え方を取り上げ、既存研究を検討していきます。
生活経済学演習Ⅱ (15D0732) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 斎藤　悦子	Ⅲ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	グローバリゼーションの中で私たちが抱えている問題は何であるか。それを解決するにはどうしたらよいか。さらにこれまでの社会の在り方を乗り越えて、新しい生活を創造するために必要なことは何かを考える。
労働経済学演習Ⅰ (15D0733) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 永瀬　伸子	Ⅲ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	働くことと家族がこのゼミのテーマです。このテーマをもとに、基本理論、文献の読み方、研究手法を学びます。またゼミ生はテーマを選択、先行研究調査、研究方法をゼミの中で検討し、卒論研究へとつなげます。
労働経済学演習Ⅱ (15D0734) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] [生社主] 永瀬　伸子	Ⅲ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	労働と家族がゼミのテーマです。また卒業論文、ゼミ論文作成の指導も重視します。 今年は主に英文の米国の女性労働に関する論文を読みつつ、女性労働について考えていくつもりです。
生活社会調査実習 (15D0742) [生社強化] 石井クンツ　昌子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	前期「生活調査法」において各自が自分の調査課題にしたがって収集した調査データにつき統計解析をおこない、最終レポートをまとめて発表する。統計モデルを分析するための統計手法として、クロス表分析、ファクター分析、単回帰分析、重回帰分析、パス回帰分析などを学び、これらを適切に用いてデータ分析をおこない、その結果について妥当な解釈ができるような能力の習得を目指す。
生活社会科学論文演習Ⅰ (15D0744) [生社強化] 生社全教員\015\012マルセロ　デ　アウカンタラ	Ⅳ 前不定期 生活社会科学講座 2.0単位	卒業論文の作成に向けて、研究テーマの定め方、資料や文献の集め方、データの整理の方法など、論文の書き方について学ぶ。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
生活社会科学論文演習Ⅱ (15D0745) [生社強化] 生社全教員\015\012マルセロ　デ　アウカンタラ	Ⅳ 後不定期 生活社会科学講座 2.0単位	各自の研究報告をふまえ、卒業論文作成の指導を行う。
応用生活統計学 (15D0746) [社会強化] [社会主] [生社主] 坂口　尚文	Ⅰ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	Excelによるデータ処理に重点をおき、演算・集計・グラフ作成の手法を身につける。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計量を用いて、官庁統計等のデータを読みこなし、それを簡単なレポートにまとめられるようになることを目指す。
生活調査法 (15D0747) [消費者学学際] [生社強化] 佐々木　卓代	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	社会科学の研究における社会調査の意義と理解を深め、その方法の基礎を学ぶことを目的とする。まず社会調査の多様な手法（質的・量的方法等）について学ぶ。その後、構造化調査票を用いた調査の設計、サンプリング、調査票の作成、調査の実施、調査票回収後のコーディングと入力作業等、一連の過程の詳細について学び技能を修得する。さらに、特定の研究テーマの範囲内で、各学生が自分の調査課題を設定し、一連の調査過程を実地で体験する。
老人福祉論 (15D0749) [ジェンダー副] [公共政策副] [社会強化] [社会主] [生社強化] 藤崎　宏子	Ⅱ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	超高齢社会といわれる日本において、「高齢者問題」といわれるものの実態はどのようであるのか。また、これに対応すべき高齢者保健福祉政策の現状はどうなっているのか。世代や性別、社会的立場の違いを越えて、高齢社会を生きるとはどのようなことなのか。多くの人が長寿をまっとうできるようになった現代日本を中心に、高齢社会の特質と対応策について考えたい。
地域社会論 (15D0750) [公共政策副] [社会強化] [社会主] [生社強化] [地理強化] 高木　恒一	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	好むと好まざるとに関わらず、私たちは地域社会の中に生きている。現代社会においては、多くの人が生きる場としての地域は都市である。では、都市という社会は、どのような特徴を持ち、いかなる変化を遂げてきたのか。 そしてどこに向かおうとしているのか。このことを捉えるための視点と方法を、都市社会学が蓄積してきた知見を中心に検討していく。 講義は指定したテキストを参照しながら進めていくが、適宜、受講生との対話を行いながら展開したい。また、受講生の関心や都市／地域社会に生起するトピックに応じて内容を変更することもある。 評価はレポートにより行う。都市／地域社会学の基礎的知識の習得したかどうかとともに、この知識を通して今、ここにある都市／地域のありようを検討する（少なくともその兆しがある）視点を獲得していることを評価ポイントとする。
生活と金融 (15D0757) [公共政策副] [消費者学学際] [生社強化] 宮内　篤	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	我々が日常生活を営むうえで「お金」は空気や水と同じくらい大切な存在です。金融論の初歩的な重要事項について深く考えながら学習し、世の中の金融の仕組みとそのダイナミズムを根本から理解することを目指します。また、現実の金融問題や金融関連の統計に基づいて、出来るだけ具体的に金融を学びます。
国際経済と生活 (15D0759) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] 千明　誠	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	本講義では、グローバルな経済現象を理解するために必要となる国際経済学(International Economics)の基本的な概念・考え方を学習し、「ヒト」・「モノ」・「カネ」を通じたグローバルな経済関係が私たちの生活にどのような影響を与えるか理解することを目標とする。具体的には、貿易や国際的な資本移動が各国経済に与える影響について考察し、現実経済の動きを理解・予測できるようになるための基礎力を身につける。
生活と行政Ⅰ (15D0761) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] 羽貝　正美	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	「現代社会における政府の基本的な仕組みと機能、その社会的意義と課題」を主題とする。 この主題を軸として、現代国家の基本的特質を理解するとともに、その中で大きな比重を占める行政活動ならびにその主体たる地方自治体に焦点を合わせ、そこに内在する諸課題を検討することとする。これを通して、生活（国民）と行政との関わりを理解するための基本的視点を獲得することを目標とする。
労働法 (15D0764) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] 中野　麻美	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	労働法は、産業社会の基盤を形成する法であり、将来如何なる立場にたとうと、身に着けていなければならない不可欠な法である。そうした労働法の基礎を、個別的労働関係法・集団的労働関係法・労働市場法の内容と課題を解説し、身近な社会問題を、最近の世界同時不況のなかで起きている労働問題にも焦点を当てながら、考える機会とする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
法女性学 (15D0767) [ジェンダー副] [生社強化] マルセロ　デ　アウカンタラ	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	本授業では、司法におけるジェンダー・バイアスの問題を主要な対象とし、ジェンダーの平等が実現した男女共同参画社会にふさわしい法や制度のあり方について考えることを目的とする。具体的な裁判例を用い、参加者によるディスカッションを中心に授業を進める。
生活社会科学特別実習 (15D0774) マルセロ　デ　アウカンタラ	Ⅱ 後集中 生活社会科学講座 2.0単位	生活社会科学講座の指定する企業、NPO、官公庁などで実務を経験することにより、学問と社会の接点について考え、各自の研究・学習を深めるとともに、進路について考える。
生活社会科学専門英語 (15D0797) [生社強化] 佐藤　仁志	Ⅱ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	[Course Description] The aim of this course is twofold. First, students are expected to build a basic core of reading skills, such as skimming, making inferences, and recognizing patterns, and to apply these skills in an extensive reading environment. In particular, students will focus on correctly understanding main ideas and logic through reading. Second, this course introduces you, in English, to basic economic concepts and the economic way of thinking. By the end of the semester, you will be expected to be able to critically read writings on economic issues from publications such as newspapers. Although the second goal seems challenging, it will provide an extremely efficient way to develop the ability to use English. Ultimately, this course will help students enhance their academic skills for studies in their third and later years. [Course Goals] On completion of this course, students should be able to - quickly get the gist of relatively large volumes of writings and summarize them, - identify paragraph structures in academic writing, - study social sciences in English. This course places a major emphasis on developing English reading skills. However, students will be regularly asked to write brief summaries of readings and report on them in class. Polishing presentation skills is another important focus of this course.
労働経済学総論 (15D0798) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] 永瀬　伸子	Ⅲ １学期 生活社会科学講座 2.0単位	「働く」ということを経済学から考え、労働経済学の基本的な枠組みと理論を学ぶ。その際に、日本での女性のキャリア形成はどうであるのか、またそれは諸外国とどのように異なるのかといった視点を入れて考え、議論できるようにする。また、現在の社会の動きに関心を持つことができるよう、近年の労働関係の法律の改正などのトピックスをより多く取り上げるので、それらを理解し、課題を見つけることができるようにする。
政治とジェンダー (15D0799) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] 杉田　孝夫	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	西洋政治思想のテクストのなかで女性がどのように論じられてきたのか、オーキンのテクスト分析を材料にして検討する。
家族社会学 (15D0880) [ジェンダー副] [社会強化] [社会主] [生社主] 林　葉子	Ⅲ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	社会学および家族社会学の理論と方法論を理解し家族社会学の様々なトピックについて学ぶ。主なトピックは同棲、結婚、夫婦関係、離婚、再婚と家族、セクシュアリティ、妊娠と出産、育児と子育て、父親と母親の役割、子どもの社会化、家事と育児の性別役割分担などである。さらにこれらのトピックを通して可能な限りの国際比較（特に日米比較）を行う。
家族法 (15D0882) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社主] マルセロ　デ　アウカンタラ	Ⅲ １学期 生活社会科学講座 2.0単位	本講義では、家族法（主に親族法）の基本的な知識を習得することを目的とする。現代の日本社会が直面する家族法の問題をはじめ、様々な国の家族法についても具体的な事例を挙げながら幅広く分析する。講義形式で行うが、参加者との対話を取り入れる。
生活社会科学実習 (15D0883) [生社強化] マルセロ　デ　アウカンタラ	Ⅱ ～ Ⅳ 後集中 生活社会科学講座 2.0単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
生活と行政 (15D0884) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社強化] 羽貝　正美	II ～ IV 前期 生活社会科学講座 2.0単位	「現代社会における政府の基本的な仕組みと機能、その社会的意義と課題」を主題とする。 　この主題を軸として、現代国家の基本的特質を理解するとともに、その中で大きな比重を占める行政活動ならびにその主体たる地方自治体に焦点を合わせ、そこに内在する諸課題を検討することとする。これを通して、生活（国民）と行政との関わりを理解するための基本的視点を獲得することを目標とする。
消費者法 (15D0885) [消費者学学際] 小谷　眞男	II ～ IV 4学期 生活社会科学講座 2.0単位	この科目では消費者法を体系的に学ぶ。 「消費者科学入門」における消費者法の入門的講義を前提として、より体系的・専門的に消費者法を扱う。 消費者と業者とのあいだでは日常的に無数の取引がおこなわれており、そこにはさまざまなトラブルや紛争が生じうる。ひとりの生活者である消費者と、企業などの業者とのあいだの関係は、交渉力や情報などの点で対等とは言えず、非対称性がある。しかし、他方でひとりの生活者は、独立した自律的な権利義務の主体という性格をも有している。そのような消費者と業者とのあいだの関係を法的に考えていくのが消費者法である。 すなわち、消費者法は、企業と企業とのあいだの諸問題を扱う純然たるビジネス・ローでもなく、また対等な個人と個人の間の関係にかかわる純然たる生活圏域の法でもない。企業サイドから見れば消費者法はビジネス法務の一環であり、経済法という位置づけになる。しかし、消費者サイドから見れば消費者法は生活法の一環であり、生活者の権利が焦点となる。つまり、消費者法は、生活世界からビジネスの世界までを含む広い見通しのもとに位置づけられる、非対称的当事者間関係の法である。現在進められている民法改正作業は、そのような見通しのもとで、消費者法を民法の枠組みのなかに正面から取り入れようとしているようにもみえる点でとくに注目に値する。 具体的な進め方としては、週のうちの１回をひとつのトピックスに関する担当講師による講義、同じ週のもう１回を同じトピックスに関する参加者による発表という形で組合せ、4学期制のメリットを活かした効果的運営をはかる。
生活社会科学概論(1) (15D5005) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社主] [生文主] [発臨主] マルセロ　デ　アウカンタラ\015\012藤崎　宏子	I 1学期 生活社会科学講座 1.0単位	4年間の地図を見通しつつ、特定のテーマに関する文献資料を探す、批判的に文献を読みレポートを書く、ディベートの技法を学ぶ、統計の探し方・読み方を学ぶ、等々のトレーニングをする授業です。生活社会科学主プログラム1年生配当必修科目。4月12日開講予定。
生活社会科学概論(2) (15D5007) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社主] [生文主] [発臨主] 斎藤　悦子\015\012永瀬　伸子	I 2学期 生活社会科学講座 1.0単位	「生活社会科学概論（1）」のシラバスを参照。
生活政治学(1) (15D5033) [公共政策副] [生社主] 杉田　孝夫	II 1学期 生活社会科学講座 1.0単位	戦後から現在までの日本政治の有り様を、そのつど規定してきた条件と枠組みに着目して概観し、そのうえで各論として官僚制、議会政治に焦点を絞って現代日本の政治の特徴と問題点を考える。
生活政治学(2) (15D5035) [公共政策副] [生社主] 杉田　孝夫	II 2学期 生活社会科学講座 1.0単位	世論と政治、選挙、地域政治、ジェンダーと日本の政治、環境と政治。政治と経済、グローバリゼーションと安全保障という７つの論点から、現代日本の政治の特徴と問題点を考える。
生活社会科学演習(1) (15D5037) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社主] 杉田　孝夫\015\012斎藤　悦子	II 1学期 生活社会科学講座 1.0単位	ゼミ形式で進める。テーマの選定と担当、毎回の進め方については、受講者と相談のうえ決める。4月11日は生活社会科学主プログラム2年生合同ガイダンスをおこなう。2つのクラスに分かれてのゼミは、実質的には、4月18日からスタートする。
生活社会科学演習(2) (15D5039) [ジェンダー副] [公共政策副] [生社主] 杉田　孝夫\015\012斎藤　悦子	II 2学期 生活社会科学講座 1.0単位	「生活社会科学演習（1）」のシラバスを参照。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
応用生活統計学(1) (15D5041) [社会強化] [社会主] [生社主] 坂口　尚文	Ⅰ ３学期 生活社会科学講座 1.0単位	Excelによるデータ処理に重点をおき、演算・集計・グラフ作成の手法を身につける。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計量を用いて、官庁統計等のデータを読みこなし、それを簡単なレポートにまとめられるようになることを目指す。
応用生活統計学(2) (15D5043) [社会強化] [社会主] [生社主] 坂口　尚文	Ⅰ ４学期 生活社会科学講座 1.0単位	Excelによるデータ処理に重点をおき、演算・集計・グラフ作成の手法を身につける。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計量を用いて、官庁統計等のデータを読みこなし、それを簡単なレポートにまとめられるようになることを目指す。
社会統計学Ⅱ(1) (15D5045) [消費者学学際] [生社強化] 荒木　万寿夫	Ⅱ ３学期 生活社会科学講座 1.0単位	この講義では，主として重回帰分析と分析結果の解釈，モデルの改善と拡張について学ぶ．手法としてはダミー変数や質的変数の回帰分析であるロジットモデルなども含めて紹介する予定である．そのために回帰分析の数理的な理解に役立つ線形代数の解説も行う．
社会統計学Ⅱ(2) (15D5047) [消費者学学際] [生社強化] 荒木　万寿夫	Ⅱ ４学期 生活社会科学講座 1.0単位	この授業では，基本的な多変量データの分析手法を解説し，Excelを用いた演習を併せて実施する．いずれの分析手法も，履修者がコンピュータを利用して実行した結果を解釈できるようになることを目標とする．
家族社会学(1) (15D5049) [ジェンダー副] [社会強化] [社会主] [生社主] 林　葉子	Ⅲ １学期 生活社会科学講座 1.0単位	社会学および家族社会学の理論と方法論を理解し家族社会学の様々なトピックについて学ぶ。主なトピックは同棲、結婚、夫婦関係、離婚、再婚と家族、セクシュアリティ、妊娠と出産、育児と子育て、父親と母親の役割、子どもの社会化、家事と育児の性別役割分担などである。さらにこれらのトピックを通して可能な限りの国際比較（特に日米比較）を行う。
家族社会学(2) (15D5051) [ジェンダー副] [社会強化] [社会主] [生社主] 林　葉子	Ⅲ ２学期 生活社会科学講座 1.0単位	社会学および家族社会学の理論と方法論を理解し家族社会学の様々なトピックについて学ぶ。主なトピックは同棲、結婚、夫婦関係、離婚、再婚と家族、セクシュアリティ、妊娠と出産、育児と子育て、父親と母親の役割、子どもの社会化、家事と育児の性別役割分担などである。さらにこれらのトピックを通して可能な限りの国際比較（特に日米比較）を行う。
家族関係論 (15D5073) [ジェンダー副] [生社主] 藤崎　宏子	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	「家族」に対する人びとの関心は高く、マスメディアなどにもさまざまな論説が溢れている。しかし、それらはしばしば、単なる印象論や個人的価値観の表明であったりする。本講義では、できる限りデータに即して家族の現状を把握し、それをめぐる人びとの関心の動向を社会学の立場から考察する。具体的には、結婚と夫婦関係、子をもつことの選択と子育て期の親子関係、高齢期の夫婦関係・親子関係など、家族関係の具体的なトピックスを取り上げ、歴史変動と比較文化的な視点を交えつつ論じる。
家政経済学概論 (15D5075) [公共政策副] [消費者学学際] [生社主] 斎藤　悦子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 生活社会科学講座 2.0単位	本講義の主題は、人間活動力の再生産の営みに視点を据え、変化する経済環境によって生じる世帯・家族に関わる生活上の問題を解明することにある。個人、家族、世帯のあり方を①家計、②消費、③生活時間、④労働、⑤地域を通じて検討し、豊かな生活とは何かを考えることが本講義の目標である。さらに、豊かな生活を創造する力＝主体的生活経営能力を獲得するための方策を検討する。
生活経営学 (15D5081) 重川　純子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 生活社会科学講座 2.0単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
比較生活文化論 (15D0805) [生文主] [生文副] 鈴木　禎宏	II 前期 生活文化学講座 2.0単位	「比較文化論」という視点を紹介し、この視点から近代の日本の文化・生活のあり方を考えます。 　具体的には、（１）19世紀後半から20世紀初頭までの期間、西ヨーロッパ（特にイギリス）とアメリカが日本をどのように認識したか、そして（２）19世紀後半から20世紀半ばまでの期間、日本が西欧とアメリカをどのように認識したかについて学びます。 　こららの授業を通し、日本の文化・生活が双方向の交流のもとでいかに生成されてきたかを知り、説明できるようになることを目的とします。
比較生活文化史Ｉ (15D0806) [生文主] [生文副] 鈴木　禎宏	II 後期 生活文化学講座 2.0単位	近代日本における「生活と芸術」のかかわりについて知識を得る。特に、1880年代から1890年代生まれの人々の活動を、広義の「和洋折衷」という観点から考え、その今日的意義について理解を得る。具体的には：武者小路実篤（「新しき村」）、柳宗悦（民藝運動）、山本鼎（農民美術）、西村伊作（文化学院）、羽仁もと子（自由学園）、宮沢賢治（羅須地人協会）などをとりあげる予定。 　小論文の書き方を身につける。
服飾美学各論 (15D0809) [生文強化] [生文副] 難波　知子	III 後期 生活文化学講座 2.0単位	明治以降の近代化の過程で形成された学校制服文化について、その歴史的展開をたどり、学校制服の存在意義や役割について考察する。
服飾文化各論 (15D0810) [生文強化] [生文副] 新實　五穂	III 前期 生活文化学講座 2.0単位	西洋近代、とりわけ19世紀フランスにおける服飾と女性性の関係について学ぶ。ロマン主義の女性作家であるジョルジュ・サンドの男装、およびフランス初期の女性運動を牽引したとされる女性サン＝シモン主義者のユニフォームなどを具体的な事例として考察し、当時のジェンダー規範や人々の生活感情を理解することを目指す。また小説や戯曲における異性装の表象をはじめ、「ズボンをめぐる争い」や「さかしまの世界」をテーマにした版画などを分析し、その社会的・文化的意味を考える。
卒業論文 (15D0811) [生文主] 生文全教員\015\012宮内　貴久	IV 通不定期 生活文化学講座 8.0単位	服飾史、民俗学、比較生活文化論など、生活文化に関わるテーマを各自が選び、各指導教員のもとで論文を作成する。具体的な指導は、各教員4年次の演習において行われる。
環境デザイン論 (15D0812) [人環強化] [人環副] [生文強化] [生文副] [地理強化] 鞍田　崇	II 後期 生活文化学講座 2.0単位	テーマは21世紀のはじめ方。「所有」から「共有」へ、「ショッピング」から「コミットメント」へ――20世紀のひずみを直視し、その問題点の克服と、新しい社会と暮らしのかたちを追究するさまざまな試みがあります。ここではそれらの試みの実例を紹介するとともに、これからの課題を考えていきます。
生活文化論 (15D0817) [生文強化] [生文副] 神野　由紀	II 前期 生活文化学講座 2.0単位	日本の近代初期、生活がどのように近代化されていったのかを学ぶことで、現代の私たちの生活様式の源流を理解する。
服飾文化論演習 (15D0821) [生文強化] 新實　五穂	III 後期 生活文化学講座 2.0単位	前期の服飾文化論基礎演習を受けて、子ども、色彩と文様、ジェンダー、異国・懐古趣味、その他の社会表象の５つのテーマについて、自ら先行研究を調査し、一次史料を検討することによって一つの服飾文化論を試みる。服飾史研究の史料収集のありかた、史料分析の方法、そしてテーマとしての展開を自らの調査によって習得する。
服飾文化論基礎演習 (15D0822) [生文主] [生文副] 新實　五穂	III 前期 生活文化学講座 2.0単位	服飾を切り口とした史的調査の方法を学び、服飾文化と社会の関係性を研究する上で基本的な研究文献や研究方法の多様性を知る。文献購読とそれについての発表が中心であるが、できるだけ、受講者がテキストの内容を自らの興味や問題意識と関連付けて、さらに発展させることができるように促したい。
西洋服飾論 (15D0824) [生文強化] [生文副]	II 未定 生活文化学講座 2.0単位	この授業のテーマは「衣とグローバリゼーションの歴史」である。たとえば綿織物という素材，あるいは既製服というタイプの衣服がいつどのようにヨーロッパの歴史に登場し，どのようにヨーロッパという枠を超える「グローバル」な存在となっていったのかを学び，衣を巡る世界のあり方と世界の中で衣が果たす役割について考える。 なお，授業計画は予定であり，受講者や進度に応じて適宜調整する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本服飾論 (15D0825) [生文強化] [生文副] 森　理恵	II ～ IV 前期 生活文化学講座 2.0単位	日本史上各時代における服飾は、当時の人びとの姿をイメージする上で象徴的な役割を担ってきました。身分制社会の時代において、服飾制度は思想・法制等の側面と相俟って、身分秩序を外見的に明示し、秩序を維持する手段として利用されて来た一方、臨時恒例の儀礼など晴れの場を美しく飾る有効な手段として各時代において意が払われてきています。　この授業では、日本の服飾を考察する題材として、日本古代に源を発し現代まで伝わる公家装束・女房装束（いわゆる衣冠・束帯、十二単など）をついてとりあげます。古代以来の歴史の流れの上で、こうした装束はそれぞれの時代における政治・社会情勢を反映し、大小様々な変化をしながら今日の形となってきました。授業では、今日に伝わる着装方法での実際の着装を経験し、その上で、歴史上の各時代において作られ、伝えられてきた装束に関係する文献資料・画像資料・装束裂や調度品などの「モノ資料」・縫製技術などを意識的に視野に入れながら、日本の服飾を切り口として、学際的な調査研究の在り方を体験し、考察していくことを目標とします。
日本服飾史演習 I (15D0826) [生文主] [生文副] 難波　知子	III 前期 生活文化学講座 2.0単位	[主題]近代日本服飾史では、1923（大正12）年の関東大震災以後、洋装化が加速したとする通説がある。都市の壊滅と復興の過程において、当時の服装や衣生活がどのように変化したのか、震災と洋装化の関連について考察を行なうために、本演習では前提となる関東大震災についての先行研究を講読する。 [目標]①テーマに沿った文献・研究資料を収集・調査できる。②文献を読み解き、まとめ、発表することができる。
日本服飾史演習 II (15D0827) [生文強化] 難波　知子	III 後期 生活文化学講座 2.0単位	[主題]近代日本服飾史では、1923（大正12）年の関東大震災以後、洋装化が加速したとする通説がある。都市の壊滅と復興の過程において、当時の服装や衣生活がどのように変化したのか、新聞雑誌記事や写真など具体的な資料に基づいて検証を行ない、震災と洋装化の関連について考察を行なう [目標]①新聞雑誌記事や写真など研究のベースとなる資料を収集・調査できる。②具体的な資料の検討を通して、先行研究や通説を批判的に検討し、考察を深めることができる。
服飾文化実習 (15D0828) [生文強化] 髙水　伸子	II ～ III 前期 生活文化学講座 1.0単位	女物ひとえ長着（ゆかた）の制作を通して、日本の服飾文化を理解する。
生活文化実習 (15D0829) 宮内　貴久	III ～ IV 前期 生活文化学講座 1.0単位	フィールドワークの基本的な知識と技術を身につける。
現代文化論 (15D0830) [消費者学学際] [生文強化] [生文副] 関沢　まゆみ	II 後期 生活文化学講座 2.0単位	昭和30年代から40年代にかけての高度経済成長期に私たちの生活は大きく変化しました。本講義では、高度経済成長以前の生活と高度経済成長以後の生活について、女性の一生という視点から民俗学的に考察し、その変化の実態を知るとともに、変化の解読の仕方への理解を深めることを目的とします。
地域文化論 (15D0832) [生文強化] [生文副] 加賀谷　真梨	II 前期 生活文化学講座 2.0単位	【副題】日本文化論 【授業の目的】 　この授業では、文化人類学の見地に基づき、日常生活に見られる定型化された行為や無意識のうちに習得された思考を「文化」として位置づけ、世界各地との比較を通じて日本に顕著に見られる文化の諸相を浮き彫りにします。具体的には、通過儀礼、信仰、交換の形式や家族・親族のかたちを世界各地のそれと比較し、人類に普遍的な要素と日本固有の特徴の双方を浮かび上がらせ、そこから「日本文化」とは何かを問うていきます。また、地域差や変化の局面にも目を馳せ、ある特定の地域の文化がどのように成り立つのかを複眼的に理解します。「比較」を通じて他の地域との相対関係の中で広く「文化」を捉える視座を確立し、日々の行為を捉え返す過程で現在の日本に住まうわたしたち自身のあり方や生き方を問い直すことを到達目標に掲げます。
工芸史 (15D0838) [生文強化] [生文副] 鵜飼　敦子	II ～ III 後期 生活文化学講座 2.0単位	19世紀末から現代までのヨーロッパを中心とした美術工芸史の動きを学び日常生活の中で使われてきた工芸の美を再認識することを目標とする。万国博覧会、ジャポニスム、アールヌーヴォーやアール・デコといったキーワードの解説を中心に、必要に応じて視聴覚教材を提示しながら講義をおこなう。出席点、授業についての感想と質問票、学期末のレポート課題により評価する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
生活文化学専門英語 (15D0848) [生文強化] 豊口　真衣子	II ～ III 後期 生活文化学講座 2.0単位	イギリス庭園史に関する基本的英語のテキストを用いて学習することで、専門に必要な英語の読解力、リスリング能力を身につけることを目標とする。
生活文化学概論 (15D0852) [生社主] [生文主] [発臨主] [発臨副] 生文全教員\015\012宮内　貴久	I 前期 生活文化学講座 2.0単位	生活文化学プログラムの内容について理解し、大学で何を学び、どのような意義があるのかを考える。特にプログラムの中心である生活造形論（比較文化論）、服飾文化史、服飾文化論、民俗学が、どのような学問なのか、学問領域の射程と方法を学ぶ。またそのための資料の検索と扱い方、レポートの書き方などの実践的な技能を養う。
比較文化論演習 (15D0853) [生文強化] 鈴木　禎宏	III 後期 生活文化学講座 2.0単位	<生活と芸術（11）> 比較文化論および生活造形論に関心を抱く学生を対象とします。 キーワードを一つ決めて、近・現代の日本の生活・文化が置かれた状況について考えます。キーワードは履修者の要望をふまえて決めます。（ちなみに、近年扱ったキーワードは：大量生産・大量消費、富士山、コンビニエンス（利便性）、「無駄」の価値、など） 履修者はこの授業を通し、何を、どのように調べ、分析し、発表するかを、自ら考えて実行します。そして調査・分析の結果を、レポートとして学期末に提出します。 発表とレポート作成を通し、卒業論文作成に必要な基礎技能の向上を目指します。
比較文化論基礎演習 (15D0854) [生文主] [生文副] 鈴木　禎宏	III 前期 生活文化学講座 2.0単位	この授業の目的は、外国人が書いた日本文化論を原文で読むという作業を通し、文章の分析能力を高めることです。発表者は担当する文章について、(1)文体を分析し、(2)文章が書かれた背景を考慮したうえで文意を読み取り、(3)それら二つの関係を分析します。 プレゼンテーション能力の向上を目指します。
歴史民俗文化論 (15D0855) [生文主] [生文副] [地理強化] 宮内　貴久	II 後期 生活文化学講座 2.0単位	人間が自らが暮らす空間をどのように認識しているか、さらに都市や村、住居をどのようにして造り上げてきたか民俗学、文化人類学の立場から考察する。特に日本における風水の受容について論じていく。また、史料批判の技術を身につける。
民俗文化史概論 (15D0856) [生文主] [生文副] 宮内　貴久	II 前期 生活文化学講座 2.0単位	これまで庶民の「生活」というものが、どのように認識されていたのか、さらに学問が「生活文化」を、どのように扱ってきたかを考察する。特に考現学、生活学を批判的に読み解いていく。さらに、生活文化の変化を高度経済成長期を中心にして論じていく。
民俗文化史基礎演習 (15D0860) [生文主] [生文副] 宮内　貴久	III 前期 生活文化学講座 2.0単位	民俗学・文化人類学研究の多様性と方法論について、文献を購読する予定である。ただし、購読文献に関しては、出席者と話し合い決める。各自の関心に基づき発表を行い、発表技術の向上を目的とする。
民俗文化史演習 (15D0861) [生文強化] 宮内　貴久	III 後期 生活文化学講座 2.0単位	民俗学・文化人類学研究の多様性と方法論について、文献を購読する予定である。ただし、購読文献に関しては、出席者と話し合い決める。各自の関心に基づき発表を行い、発表技術の向上を目的とする。一次資料の調査方法、史料批判を学び卒業論文作成の基礎的な力を身につける。
服飾史論 (15D0862) [生文主] [生文副] 新實　五穂	II 前期 生活文化学講座 2.0単位	私たちの生活に最も身近な服飾の流行という現象を通して、社会や文化を理解することを目指す。なぜ新しい流行は次々と生まれるのか、現代の服装の中に歴史上の服装がどのように息づいているのかなどを探り、服飾が持つ社会的・文化的な意味を学ぶ。この授業では、とくに古代から17世紀までの服飾事象を中心に取り上げる。
服飾史資料論 (15D0863) [生文主] [生文副] 難波　知子	II 後期 生活文化学講座 2.0単位	[主題]各時代の服飾について窺い知ることのできる各種資料について学ぶ。本講義では、日本近世から近代までの服飾事例を通して、法令・文学・小袖雛形本・新聞雑誌・証言・回想などの文字資料と、服飾遺品・浮世絵・各種絵画・写真などの図像資料について理解を深める。 [目標]①服飾史がどのような資料に基づいて構成されているか理解する。②各種資料のもつ特性や問題点について把握し、その取り扱い方を理解する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
服飾史Ⅰ (15D0864) [生文強化] [生文副] 田中　潤	Ⅱ 前期 生活文化学講座 2.0単位	日本近世から近代までの服飾の様式（かたちと名称）及びその特徴を理解する。また合わせて、各時代の服飾について窺い知ることのできる文字資料（法令や文学など）や図像資料（実物遺品や絵画、彫刻、写真など）について理解を深める。
服飾史Ⅱ (15D0865) [生文強化] [生文副] 新實　五穂	Ⅱ 後期 生活文化学講座 2.0単位	古代から現代にいたる西洋服飾の歴史を、図像史料を中心に用いて概説する。それぞれの時代における服飾の特性を理解し、西洋服飾史の基礎的な知識の習得を目指す。単に服飾の変遷をたどるだけではなく、その背景にある歴史的事象を把握し、服飾の社会的・文化的意味を考えることに重点をおく。
生活文化学論文演習Ⅰ (15D0866) [生文主] 新實　五穂	Ⅳ 前期 生活文化学講座 2.0単位	西洋の服飾文化について卒業論文を執筆する学生を対象に、指導を行う演習である。テーマ設定、資料の収集・調査・分析、論文の構成など卒業論文を書くために必要な知識と技術を養う。
生活文化学論文演習Ⅱ (15D0867) [生文主] 新實　五穂	Ⅳ 後期 生活文化学講座 2.0単位	
生活文化実習Ⅰ (15D0869) [生文強化] 宮内　貴久	Ⅱ 前期 生活文化学講座 1.0単位	フィールドワークの基本的な技法を身につける。
生活文化実習Ⅱ (15D0870) [生文強化] 宮内　貴久	Ⅲ 前期 生活文化学講座 1.0単位	フィールドワークの基本的な技法を身につける。
服飾制作実習 (15D0871) [生文強化] 髙水　伸子	Ⅱ 後期 生活文化学講座 1.0単位	西洋の歴史が育んできた服作りの基本的知識と技術を習得する。身体を立体的にとらえ、素材とデザインの調和から生まれる西洋型衣服の制作を通して、ヨーロッパの服飾文化を理解する。実際に着られる衣服を短時間で制作できるように工夫されたオリジナル教材を用い、技法を実体験した上で、創作デザインへと発展させる感性を養う。2014年度はシャツドレスをとり上げる。作品提出をもって成績評価を行うが、授業は前回の内容が終了していることを前提に先へ進むので、正しい制作方法を身につけるためにも全回出席をすることが求められる。
生活文化学論文演習Ⅰ (15D0886) [生文主] 宮内　貴久	Ⅳ 前期 生活文化学講座 2.0単位	民俗学、文化人類学領域の卒論指導。
生活文化学論文演習Ⅱ (15D0887) [生文主] 宮内　貴久	Ⅳ 後期 生活文化学講座 2.0単位	民俗学、文化人類学領域の卒業論文指導。
生活文化学論文演習Ⅰ (15D0888) [生文主] 鈴木　禎宏	Ⅳ 前期 生活文化学講座 2.0単位	卒業論文の指導を行う演習です。生活文化学主プログラム履修者のうち、比較生活文化論ないし生活造形論に関わる卒業論文を書く学生を対象とします。論文作成上の技術を再確認した上で論文をいくつか講読します。それと並行して履修者は卒業論文のテーマを決定し、資料調査を行います。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
生活文化学論文演習Ⅱ (15D0889) [生文主] 鈴木　禎宏	Ⅳ 後期 生活文化学講座 2.0単位	卒業論文の指導を行う演習です。生活文化学主プログラム履修者のうち、比較生活文化論ないし生活造形論に関わる卒業論文を書く学生を対象とします。後期は個別の面談を行い、卒業論文の完成を目指します。
生活文化学論文演習Ⅰ (15D0890) [生文主] 難波　知子	Ⅳ 前期 生活文化学講座 2.0単位	[主題]日本の服飾文化について卒業論文を執筆する学生を対象に、テーマの設定、資料の収集と分析、論文の構成など卒業論文を書くために必要な知識と技術を養う。 [目標]①論文を書くために必要な先行研究を収集し、参考文献一覧を作成する。②論文のテーマに関する先行研究を分析し、報告する。③論文の構成を考え、必要な調査を行なう。
生活文化学論文演習Ⅱ (15D0891) [生文主] 難波　知子	Ⅳ 後期 生活文化学講座 2.0単位	[主題]日本の服飾文化について卒業論文を執筆する学生を対象に、テーマの設定、資料の収集と分析、論文の構成など卒業論文を書くために必要な知識と技術を養う。 [目標]①個別指導を通して、卒業論文を完成させる（12月下旬）。②卒業論文を発表する（2月上旬）。
民俗文化史概論(1) (15D5009) [生文主] [生文副] 宮内　貴久	Ⅱ 1学期 生活文化学講座 1.0単位	これまで庶民の「生活」というものが、どのように認識されていたのか、さらに学問が「生活文化」を、どのように扱ってきたかを考察する。特に考現学、生活学を批判的に読み解いていく。さらに、生活文化の変化を高度経済成長期を中心にして論じていく。
民俗文化史概論(2) (15D5011) [生文主] [生文副] 宮内　貴久	Ⅱ 2学期 生活文化学講座 1.0単位	これまで庶民の「生活」というものが、どのように認識されていたのか、さらに学問が「生活文化」を、どのように扱ってきたかを考察する。特に考現学、生活学を批判的に読み解いていく。さらに、生活文化の変化を高度経済成長期を中心にして論じていく。
比較生活文化論(1) (15D5013) [生文主] [生文副] 鈴木　禎宏	Ⅱ 1学期 生活文化学講座 1.0単位	「比較文化論」という視点を紹介し、この視点から近代の日本の文化・生活のあり方を考えます。 具体的には、19世紀後半から20世紀初頭までの期間、西ヨーロッパ（特にイギリス）とアメリカが日本をどのように認識したかについて学びます。 授業を通し、欧米と日本の交流により、両者の文化・生活がいかなる影響を受けたのか（あるいは、受けなかったのか）を知り、説明できるようになることを目的とします。
比較生活文化論(2) (15D5015) [生文主] [生文副] 鈴木　禎宏	Ⅱ 2学期 生活文化学講座 1.0単位	「比較文化論」という視点を紹介し、この視点から近代の日本の文化・生活のあり方を考えます。 具体的には、19世紀後半から20世紀半ばまでの期間、日本が西欧とアメリカをどのように認識したかについて学びます。 授業を通し、欧米と日本の交流により、両者の文化・生活がいかなる影響を受けたのか（あるいは、受けなかったのか）を知り、説明できるようになることを目的とします。
歴史民俗文化論(1) (15D5021) [生文主] [生文副] [地理強化] 宮内　貴久	Ⅱ 3学期 生活文化学講座 1.0単位	人間が自らが暮らす空間をどのように認識しているか、さらに都市や村、住居をどのようにして造り上げてきたか民俗学、文化人類学の立場から考察する。特に日本における風水の受容について論じていく。また、史料批判の技術を身につける。
歴史民俗文化論(2) (15D5023) [生文主] [生文副] [地理強化] 宮内　貴久	Ⅱ 4学期 生活文化学講座 1.0単位	人間が自らが暮らす空間をどのように認識しているか、さらに都市や村、住居をどのようにして造り上げてきたか民俗学、文化人類学の立場から考察する。特に日本における風水の受容について論じていく。また、史料批判の技術を身につける。
比較生活文化史Ⅰ(1) (15D5025) [生文主] [生文副] 鈴木　禎宏	Ⅱ 3学期 生活文化学講座 1.0単位	近代日本における「生活と芸術」のかかわりについて論じる。特に、1880年代から1890年代生まれの人々の活動を中心に、広義の「和洋折衷」という観点から振り返りたい。具体的には：武者小路実篤（「新しき村」）、柳宗悦（民藝運動）、山本鼎（農民美術）、西村伊作（文化学院）、羽仁もと子（自由学園）、宮沢賢治（羅須地人協会）などをとりあげる予定。 小論文の書き方を身につける。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
比較生活文化史Ⅰ(2) (15D5027) [生文主] [生文副] 鈴木　禎宏	Ⅱ 4学期 生活文化学講座 1.0単位	近代日本における「生活と芸術」のかかわりについて論じる。特に、1880年代から1890年代生まれの人々の活動を中心に、広義の「和洋折衷」という観点から振り返りたい。具体的には：武者小路実篤（「新しき村」）、柳宗悦（民藝運動）、山本鼎（農民美術）、西村伊作（文化学院）、羽仁もと子（自由学園）、宮沢賢治（羅須地人協会）などをとりあげる予定。 レポートの書き方を身につける。
服飾史資料論(1) (15D5029) [生文主] [生文副] 難波　知子	Ⅱ 3学期 生活文化学講座 1.0単位	[主題]各時代の服飾について窺い知ることのできる各種資料について学ぶ。本講義では、日本近世から近代までの服飾事例を通して、法令・文学・小袖雛形本・新聞雑誌・証言・回想などの文字資料と、服飾遺品・浮世絵・各種絵画・写真などの図像資料について理解を深める。 [目標]①服飾史がどのような資料に基づいて構成されているか理解する。②各種資料のもつ特性や問題点について把握し、その取り扱い方を理解する。
服飾史資料論(2) (15D5031) [生文主] [生文副] 難波　知子	Ⅱ 4学期 生活文化学講座 1.0単位	[主題]各時代の服飾について窺い知ることのできる各種資料について学ぶ。本講義では、日本近世から近代までの服飾事例を通して、法令・文学・小袖雛形本・新聞雑誌・証言・回想などの文字資料と、服飾遺品・浮世絵・各種絵画・写真などの図像資料について理解を深める。 [目標]①服飾史がどのような資料に基づいて構成されているか理解する。②各種資料のもつ特性や問題点について把握し、その取り扱い方を理解する。
被服学概論 (15D5057) [消費者学学際] [生文主] 難波　知子\015\012新實　五穂\015\012成田　千恵\015\012薩本　弥生\015\012木村　美智子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 生活文化学講座 2.0単位	中高の家庭科教育において、衣生活・被服の分野を担当するために必要な基礎的な知識を学ぶことを目的とする。学習指導要領に示される被服材料、被服の構成、被服管理に関する科学的な知識は、被服衛生学、被服構成学、被服材料学、被服整理学の各分野から学び、被服の機能、着装、人間と被服のかかわりに関する文化的な理解は、日本と西洋の服飾文化や歴史を通じて深めていく。衣服・衣生活に関する科学的知識と文化的関心を育み、教育や生活の実践に役立てることが本科目のねらいである。
服飾文化概論 (15D5077) [生文主] [生文副]	Ⅰ ～ Ⅳ 未定 生活文化学講座 2.0単位	衣服を着るという行為はきわめて個人的なことであるが、同時に社会的・文化的な意味をもっている。着衣の意味について、ヨーロッパの服飾史に現れた事象や、絵画や文学作品のなかの服飾描写をとりあげて解説する。特にヨーロッパ文明の特徴と思われる事象をとりあげ、服飾文化のもつ多様性と豊かさを示す。今日われわれの着ている洋服がどのような伝統をもって成立しているのかを理解し、日本の文化とどのように相違するのかを考える手がかりとしてほしい。
服飾美学概論 (15D5079) [生文主] [生文副] 難波　知子	Ⅰ 前期 生活文化学講座 2.0単位	[主題]かたちや色、文様、技術、制度、歴史など様々な視点から、服飾をめぐる人々の行動や関心のあり様を探り、服飾文化の多様性・多義性について理解を深める。 [目標]①自身の衣生活について振り返り、服飾のもつ意味や役割を考察する。②時代や地域によって異なる服飾文化の多様性・多義性について理解を深める。③和服の構造を理解し、実際に浴衣の着装ができる。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
人間生活論 (15D0052) [生社主] [生文主] [発臨主] 人間生活学科全教員\015\012 宮内　貴久	I 前期 人間生活学科 2.0単位	人間生活学科の専任教員を紹介するとともに、この学科におけるインパクトのある教員の組み合わせから、新たな人間生活学の可能性を探る。狭い学問領域を越える教員同士の出会いの現場を見ることによって、この学科で学ぶにあたって核となる創発的刺激を、受講生の皆さんに提供することを目的とする。

全　学　共　通　科　目

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
女性リーダーへの道（入門編） （15N0002） 内藤　章江	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	本講座はリーダーシップ養成教育研究センターが主催するリーダーシップ養成プログラム科目であると同時にキャリアデザインプログラム講座の「コミュニケーション力を磨く」（副題）です。 具体的には、人の記憶に残る自己発信を可能にする「パーソナル・ブランディング」の手法について理論を学ぶと同時に、受講生のみなさんにも実践していただきます。
女性リーダーへの道（ロールモデル入門編） （15N0003） 宮内　篤	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	外部講師の講演が中心 経済・経営・金融・国際機関などの第一線で活躍中のトップクラスの講師を招聘し、それぞれの分野での仕事内容や社会的な役割について学ぶ。また、各講師のキャリア展開の経験について間近に聞くことで、具体的にロールモデルをイメージするきっかけをつかむ。 講演を行わない回は、オリエンテーション、講義、総括とし、講演の補足的説明や、講師の紹介を行うほか、担当教員が経済のホット・トピックスについて解説する。
女性リーダーへの道（実践入門編） （15N0004） 内藤　章江	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	本講座はキャリアデザインプログラム講座の「企業と起業」（副題）です。企業から提示された課題をグループで解決するプロジェクトに取り組み、その問題解決のプロセスを通して、企画立案力およびプレゼンテーション・スキルの向上を目指します。基本的にグループで働くので、他者との協働スキルも身に付きます。
平和と共生演習 （15N0005） 北林　春美	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	開発途上国の女性(特に妊産婦）と子どもの健康の改善、死亡の削減は国際社会が取り組むべき重要な課題の一つであり、国連総会で採択されたミレニアム宣言においても途上国と先進国が協力していくことが合意されている。しかし、目標年の2015年を目前にして今なお国際的な格差の縮小は十分でなく、貧富や居住地による健康水準の格差が拡大している国もある。 国際機関、援助国、NGOなどが途上国の政府、地方自治体、住民組織、大学などと協力して様々な保健プロジェクトを実施している。これらのプロジェクトはどのような方法で立案され、その効果はどのように測定されているのだろうか。 本コースでは、１）途上国の女性と子どもの健康と、健康に影響を及ぼす様々な政治・社会・経済的要因と健康の改善に向けた取り組みを理解すること、２）開発プロジェクトの立案・運営・評価手法であるPCM手法をケーススタディに基づく計画のシミュレーションを通じて理解することの2点を到達目標として講義、討論、実習を行う。 参加者は、少人数のグループに分かれてPCM手法を用いて事例の分析とプロジェクトの立案を行い、プロジェクト案を分担して発表する。
キャリアプランとライフプランⅠ （15N0006） 望月　由起	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	キャリアプラン（職業的な生涯計画）を、より広い女性のライフプランの中でとらえ、大学での自己の学習課題を認識し、学修計画を考える。自己のキャリアについて、過去・現在・未来を通して考える視点をもつことを主題とし、「自己の過去キャリアを省察し、未来キャリアをみつめ、現在すべきことを検討し実行する」ことを到達目標とする。
キャリアプランとライフプランⅡ （15N0007） 望月　由起	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	「キャリアプランとライフプランⅠ」または「キャリアプランニングⅠ」履修者を対象とし（今年度履修者に限らず）、そこでの学習を深めることを目標とする。
情報コミュニケーション技術と創発性 （15N0010） 石田　千晃	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	本授業の目的は、現代社会における様々な課題に対して、具体的な解決策を模索し、表現していくことにあります。そのため、メインの活動は、企画書作りになります。企画書作りの過程で、①ICTを利用した情報収集と共有の方法、②ディスカッションによる動的な情報の生成について学んでいきます。 授業は、グループワークを中心に、情報収集、ブレーンストーミング等の活動を行います。これらの活動を通じてオフラインとオンラインの知の活動が有機的に繋がるような技法を体得してもらいます。
情報コミュニケーション技術と創発性 （15N0011） 石田　千晃	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	本授業の目的は、現代社会における様々な課題に対して、具体的な解決策を模索し、表現していくことにあります。そのため、メインの活動は、企画書作りになります。企画書作りの過程で、①ICTを利用した情報収集と共有の方法、②ディスカッションによる動的な情報の生成について学んでいきます。 授業は、グループワークを中心に、情報収集、ブレーンストーミング等の活動を行います。これらの活動を通じてオフラインとオンラインの知の活動が有機的に繋がるような技法を体得してもらいます。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
働く女性の権利と地位 (15N0012) 大木　直子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	この講義では、「世界を変えた10 人の女性」と題し、さまざまな分野で活躍した女性たちに焦点を当てます。イギリス史上初の女性首相のマーガレット・サッチャー氏や、アフリカ人女性初のノーベル平和賞受賞の環境保護活動家ワンガリ・マータイ氏など、彼女たちの生きざまを通して、どのような思想や活動で功績を成したのか、またその背景にある政治・社会・経済・環境について学ぶことで、よりよい社会を作ることへの意識を高く持つことが目的です。 　世界を変えた女性リーダーたちが持つパワーを学ぶことで、現代社会を変えてゆく重 要なヒントを見出すことに繋がることと考えます。ぜひ、ご参加ください。
キャリアプランニング実習 (15N0015) 望月　由起	Ⅰ ～ Ⅳ 未定 全学科 1.0単位	講義「キャリアプランニングⅠ/キャリアプランとライフプランⅠ/」および「キャリアプランニングⅡ/キャリアプランとライフプランⅡ」の実習編として開講されます（昨年度までの両科目履修者も受講可能です）。 今年度は「高校および大学におけるキャリア教育支援」をテーマに、企業の方と一緒に課題解決型の実習を行い、身につけた知識やスキルを適切に用いることができるようになることを目指します。
インターンシップ (15N0016) 望月　由起	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 全学科 1.0単位	企業・官公庁などでのインターンシップ（体験終了）により、社会に出て働くことの意味を考える。 ※本科目内でインターンシップ先を紹介することはありません。 ※希望する実習先が大学の単位科目であることを条件にしている場合は、必ず受講してください。 ※それ以外の学生でもマナー公衆、他の学生との情報交流等を希望する方は積極的に受講してください。 主な内容：(1)30時間以上のインターンシップ　(2)事前指導（マナー講習など）　(3)報告会
博物館実習 (15N0024) 土谷　真紀	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 全学科 3.0単位	
初等解析学Ⅰ (15N0026) [物理学主] 戸田　正人	Ⅰ 後期 全学科 2.0単位	科目番号13C2065を参照のこと
初等解析学Ⅱ (15N0027) [物理学主] 橋本　義武	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 全学科 2.0単位	初等解析学Iに引き続き，多変数関数の微積分，特に多変数関数の(重)積分を扱う．.
初等線形代数学 (15N0028) [物理学主] 重田　佳奈	Ⅰ 後期 全学科 2.0単位	線形代数学の基本的事項である、線形空間、部分空間、線形独立、線形従属、次元、線形写像、内積、固有値と固有ベクトル、行列の対角化等についての理解を目指す。
初等代数学 (15N0029) 堀江　充子	Ⅰ 前期 全学科 2.0単位	整数や多項式を題材にして、代数学の初等的な概念について具体的に学ぶ。
物理学概論Ａ (15N0031) [物理・化学学際] [物理学副] 曺　基哲	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	古典力学の数学的枠組みを学ぶことにより、自然現象を数理的に処理する技能を習得するとともに、それらを合理的に理解する力をつける。また、広く物理現象に親しむことで、それらを直感的に捉えることができるようにする。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
物理学概論Ｂ （15N0032） [物理・化学学際] [物理学副] 森川　雅博	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	この講義では、電磁気学を通じて物理学の基本となる考え方を学習します。 自然科学は、実験や自然観察と数学を用いた論理展開の双方に基づいてこの世の仕組みを明らかにしようという学問ですが、目で光が見えたり、電流や静電気で感電したりする以外にはなかなか実感し難い電気・磁気の研究では特に、数学の力もフル活用して進んで来ました。この授業の主題の一つ目は、電磁気学の全体像を通じて、その様な物理学の論理展開の仕組みを学んでもらいます。つまり、学問の成果としての公式を覚えるのではなく、どうしてそういう成果が得られたと言えるのかという、論証の過程を理解する事こそが科学であるという事を体感してもらいます。 主題の二つ目は、幾つかの実例に対して具体的に計算を実行できる様になってもらいます。定性的な議論だけではなく定量的な議論がきちんと行える様になるのも、正しい判断を下す上で重要な事です。そしてこの世の中が、その様な計算が行える対象である事を実感してもらいます。その為の演習問題も用意します。 授業の目標は、電磁気現象に対して、定量的な計算に基づいて議論を展開し、結論を導き出せる様になってもらう事にあります。
基礎化学Ａ （15N0033） 山田　眞二	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	有機化学入門。身のまわりにある様々な物質のほとんどすべてに有機化合物が関係している。従って、物質を理解するためには有機化学は必要不可欠な学問であり、将来、化学を専攻する学生はもとより、自然科学のいかなる分野に進む者にとっても有機化学の知識は必要である。多種多様な有機化合物の構造、性質、反応を体系的に理解し、有機化学の全体像を把握できるよう基礎から講義する。
基礎化学Ｂ （15N0034） 鷹野　景子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	化学の基礎として、原子の成り立ち、元素の周期性、化学結合、分子の形、化学反応、物質の状態などについての基本的概念の理解を目標とする。高校までの定性的理解を定量的理解に高めることが大切である。
基礎生物学Ａ （15N0035） 加藤　美砂子\015\012宮本　泰則	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	前半の講義では、動物の組織、細胞増殖、生殖、発生などについて解説する。特に動物のからだを構成している細胞がこれらの減少にどのように関与しているかの基本的なしくみについて学ぶ。 後半の講義では、植物の細胞、形態と分類、光合成、生殖、植物ホルモンについて解説する。植物が生きていくために必要な基本的なメカニズムについて学ぶ。
基礎生物学Ｂ （15N0036） 松浦　悦子\015\012小林　哲幸	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	遺伝と進化のしくみについて，DNAの構造や性質に基づいて，遺伝の基本原理から理解していく。また、生命の活動単位である細胞の成り立ちを分子レベルで理解するために、その構成分子の構造、性状、機能に関する基礎的知識を修得する。
物理学基礎実験 （15N0041） [化学主] [物理・化学学際] [物理学副] 古川　はづき\015\012小野　督幸	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	物理的実験手法・解析手法の習得を主眼とするが、物理的概念や物理法則についても理解を深める。始めに各実験テーマの共通の基盤となる測定値の取り扱いや最小二乗法、グラフの活用法を副尺・テスター・オシロスコープの使用法と合わせて学習し、次に力学、電磁気学、光学、諸物性の各分野における典型的な現象を実験テーマに概念を理解しながら実験技術の習熟を図る。
化学基礎実験 （15N0042） [ケミカルバイオロジー] [化学副] [物理・化学学際] [物理学主] 非常勤講師	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 全学科 2.0単位	化学を専攻としない自然科学を学ぶ学生のための化学実験の基礎的科目である。化学実験技術の修得のみならず，実験をとおして，化学の諸概念を体験的につかんでほしい。教職科目（理科）
生物学基礎実験 （15N0043） [ケミカルバイオロジー] [化学主] [生物学副] [物理学主] 薗部　幸枝	Ⅰ ～ Ⅲ 前集中 全学科 2.0単位	中学校及び高等学校の生物の観察・実験を授業者の視点を持って体験し、準備を含めて留意することや技術などを学び取る。
数理基礎論 （15N0045） [生命情報学] 戸次　大介	Ⅰ ～ Ⅱ 前期 全学科 2.0単位	数学基礎論（記号論理学）は、数学・自然科学・情報科学等、様々な学問分野の基礎を支えている学問である。本講義では、初歩の段階から命題論理・述語論理について学習し、論理言語の構成や意味論的・公理論的推論の基本を理解することを目指す。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
確率序論 (15N0046) 吉田　裕亮	II 後期 全学科 2.0単位	確率の基礎概念から始め，大数の法則と中心極限定理までを解説する．体系的な厳密さは他の講義に譲り，様々な分野で必要となる確率関係の基礎知識の習得に重点を置く．
コンピュータシステム序論 (15N0047) [生命情報学] 小林　一郎	I ～ II 後期 全学科 2.0単位	本講義では、コンピュータシステムの基礎知識と、その実社会での役割について論じます。まずコンピュータの原理、仕組みについて、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなどの多角的な観点から論じます。続いてコンピュータシステムの歴史を振り返り、情報科学の中核となる諸技術を紹介します。最後に、情報系企業の職種についても論じます。
生命情報学概論 (15N0048) [生命情報学] 由良　敬	I ～ IV 前期 全学科 2.0単位	過去１０年間に、ヒトをはじめ様々な生物のゲノムすべてを読み取ることができるようになりました。これらの分子生物データを解析解釈することで、生命現象の理解が大きく進歩します。生命情報学はこれら大量データを解析するために、物理学、化学や情報科学を生命科学に導入して生まれてきた学問です。この科目では、（１）生命情報学の歴史、（２）生命情報学が扱うデータの概要、および（３）生命を情報からとらえたときにどのようなことがわかるのか概観します。特にタンパク質の構造と機能に関することを重点的に扱います。この科目の履修にあたって予備知識は必要としません。必要な物理学、化学、情報科学は、授業内でできるだけ説明するようにします。そのため授業時間内に受講生諸君に対して頻繁に質問をします。受講生諸君からの質問はいつでも受けます。簡単な計算問題を行う時もありますので、四則演算ができる計算機は毎回持参してください。生命情報学に必要な計算手法の詳細は、別科目（計算生物学）で取り扱います。
計算生物学 (15N0049) [生命情報学] 由良　敬	I ～ IV 後期 全学科 2.0単位	計算生物学では、ゲノム塩基配列データやタンパク質構造データ、遺伝子発現データをどのように扱うことで、新しい発見ができるかを講義します。毎回の授業のはじめに解くべき問題を提示し、その解き方を解説し、解いた結果得られる生命科学の知見を解説します。取り扱う問題は以下の通りです。ゲノム塩基配列からの遺伝子発見、アミノ酸配列の類似性検索、アラインメント、系統樹作成、タンパク質構造の記述と比較、タンパク質の構造変化など。物理化学や空間幾何学、統計検定、検索技術の基礎があれば授業の理解が容易になりますが、できるだけ授業時間内に基礎から説明するようにします。受講生諸君の理解を確かめるために、授業時間内に頻繁に質問をします。受講生諸君からの質問はいつでも受けます。
科学英語Ｉ (15N0050) 能登　香	I ～ IV 前期 全学科 2.0単位	将来英文の専門書や論文を読んだり、科学的な内容の講演や学会発表を聴講できるための下地を作ることを目標に、科学英語特有の文法、専門用語、基本例文の勉強を通じて科学英語に対する総合的な理解力を強化します。具体的には、速読と精読を組み合わせたリーディング、最新の科学的なトピックを扱ったリスニング、音読の練習（正しい発音を身につけることがリスニング力の向上につながる）などを行います。
科学英語II (15N0051) 能登　香	I ～ IV 後期 全学科 2.0単位	科学の世界では，情報の収集や発信のため，英語の文章を読解し，作成する能力に加え，英語でのプレゼンテーションの能力が必要です．この授業では，将来的に英文の専門書や論文を読む，科学的な内容の講演や学会発表を聴く，実際に発表するための下地を作ることを目標にします．具体的には，実用的な科学に関する文章や英語論文の読み取り力，国際学会での発表・ディスカッション力等の英語力の基礎を身につけます． 　このような「科学英語力」は，すぐに身につくものではありません．実用的な科学に関する文章（実験手順や製品の取扱説明書）を読む，英語でのEメールを読んで，書くところから始めましょう。科学英語を「読む」・「書く」知識とその能力を少しずつ積み上げた後，英語の学術論文を読んでいきます。 また，最新の科学的なトピックを扱った講演の映像を視聴し，英語のプレゼンテーションを「聴く」スキルを身に付けると同時に，身近な題材を使ってプレゼンテーションを行います。
生物学サプリメント (15N0053) 非常勤講師	I 前期 全学科 2.0単位	高等学校の理科で、生物分野を学習しなかった学生を対象として、高校程度の知識の習得と内容の理解を目標とする。ただし、高校の「生物Ⅰ・Ⅱ」全内容を網羅しようとすると、少ない時間では知識の羅列になってしまうので、興味をもってもらえる程度の内容の深さをもたせるため、主に生体内の化学反応を中心に扱う予定。細胞、酵素、呼吸、光合成などを中心にして授業を行い、発生、遺伝、神経、分類などは簡単に触れる程度になる。
英語基礎強化ゼミ (15N0054) 専任教員（未定）	I ～ IV 前期 全学科 2.0単位	基本的な英文法を確実に身につけることを目指す。辞書さえあれば，どのような英文も読むことができる基礎読解力を習得する．

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
TOEFL対策ゼミR/L (15N0055) ALLEN David	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 a 2.0単位	In this class students will study the format and content of the TOEFL iBT test, and learn strategies for taking this test. The current TOEFL iBT is divided into four parts based on language skills, and reflecting this division, this course is divided into two sections: Speaking and Writing, and Reading and Listening.This section of the class concentrates on Reading and Listening. Students are encouraged to take both the Speaking/Writing section and Reading/Listening section of the course.
TOEFL対策ゼミS/W (15N0057) ALLEN David	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 a 2.0単位	
Advanced Communication TrainingⅠ (15N0068) トゥンチャイ　ステファニィ	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 a 2.0単位	The goal of this course is to help students become better at making presentations. The course is for students who plan on studying abroad, or who have studied abroad.
Advanced Communication TrainingⅠ (15N0069) トゥンチャイ　ステファニィ	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 b 2.0単位	The goal of this course is to help students become better at making presentations. The course is for students who plan on studying abroad, or who have studied abroad.
Advanced Communication TrainingⅡ (15N0070) トゥンチャイ　ステファニィ	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 a 2.0単位	The goal of this course is to help students become better at making presentations. The course is for students who plan on studying abroad, or who have studied abroad.
Advanced Communication TrainingⅡ (15N0071) トゥンチャイ　ステファニィ	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 b 2.0単位	The goal of this course is to help students become better at making presentations. The course is for students who plan on studying abroad, or who have studied abroad.
Advanced Communication TrainingⅢ (15N0072) BAUMAN JOHN LEE	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 a 2.0単位	
Advanced Communication TrainingⅣ (15N0073) BAUMAN JOHN LEE	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 a 2.0単位	This course is intended to improve students' ability to talk about the world around us and to participate in international activities in a competent, professional way.The contents will include educational, volunteer and business activities and situations. Students will be evaluated by attendance, class participation, and quizzes.
Advanced Communication TrainingⅢ (15N0076) HEIN PATRICK	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 b 2.0単位	By the end of the course, students should be able to… Speak effectively in front of others. Students will learn to gain the respect and trust of the audience; to capture and hold the audience's attention through the use of gestures and visual aids; to organize their speech for maximum clarity and organization; to provide supporting arguments and details to make their arguments more convincing; to listen actively and become aware of emotional and nonverbal cues and to express themselves with precision and speak impromptu with greater confidence and fluency.

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
Advanced Communication TrainingIV (15N0077) HEIN PATRICK	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 b 2.0単位	By the end of the course, students should be able to… Speak effectively in front of others. Students will learn to gain the respect and trust of the audience; to capture and hold the audience's attention through the use of gestures and visual aids; to organize their speech for maximum clarity and organization; to provide supporting arguments and details to make their arguments more convincing; to listen actively and become aware of emotional and nonverbal cues and to express themselves with precision and speak impromptu with greater confidence and fluency.
Academic Writing (15N0080) KIERNAN PATRICK JAMES	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 A（文系） 2.0単位	The aim of this course is for students to learn to write an academic paper in English. This will include an introduction to issues of style in academic writing as well as practical guidance on effective writing. At the end of the course, students will submit a complete academic paper. （英語アカデミック・ライティング A（文系）B（理系）は、同一科目のため、A か B のいずれかのクラスを受講すること。両方受講しても２単位しか取得できません）
Academic Writing (15N0081) HORN ERNST	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 B（理系） 2.0単位	英語で論文を書き、学会発表するのに必要な知識とスキルを身につけることを目標とする。授業を通じ各学生は自らの研究を専門誌に投稿するための英語論文にまとめる。
Academic Presentation (15N0082) KIERNAN PATRICK JAMES	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 A（文系） 2.0単位	The aim of this course is to introduce students to how to make a clear and effective academic presentation in English and provide sufficient practice to make participants into confident presenters. （英語アカデミック・プレゼンテーション A（文系）B（理系）は、同一科目のため、A か B のいずれかのクラスを受講すること。両方受講しても２単位しか取得できません）
Academic Presentation (15N0083) 松本　佳穂子\015\012由良　敬	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 B（理系） 2.0単位	国際学会において英語で発表ができるようなレベルを目指して、英語プレゼンテーションの技術を実践的に学ぶ。プレゼンテーションの様々な要素（構成、言語表現、スライドやハンドアウトの作成法、話し方、非言語的な表現、質疑応答など）について学びながら、練習を重ねる。相互評価をすることによって互いに学び合い、同時に客観的な自己評価ができるようにする。
国際共生社会論実習 (15N0084) 北林　春美\015\012榊原　洋一	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 全学科 2.0単位	この実習科目は、専攻・学年を問わず開発途上国の社会・経済・政治にかかわる問題や国際協力に関心を有する学生（学部・大学院博士前期課程）が、途上国における研究・実践の実績を有する教員の指導の下で事前学習と現地調査（約1週間）を実施し、都市と農村の貧困、ジェンダー、教育、健康等に関する主題について講義・文献だけでは得ることのできない知識や経験を得ることを目的として実施する。 具体的には、本実習への参加を通じて、 １）訪問国の一般的な政治・社会・経済の現状を理解する。 ２）各人が選択した特定の課題（教育、保健、ジェンダー、生計向上など）について、観察と文献調査によって得られた情報を批判的に分析し、報告書としてまとめる。 ３）現地調査の結果・考察をグループで簡潔にまとめて発表する。 現地調査は、現地の大学、国連機関、政府援助機関やNGOの他、保健施設、学校、住民組織等への訪問、見学、講義と聞き取り調査や住民や若者との意見交換等からなる。また、調査計画・報告のとりまとめにおいては、参加学生が協力して調査計画や結果プレゼンテーションを取りまとめ、学部・学年横断的に共同作業を行う。 現地調査での体験や学びは、各自の関心に応じたさらなる学習・研究や国際協力の実践活動（インターンシップ、ボランティア）、さらには国際協力に関わるキャリア形成のきっかけとなることが期待される。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
Advanced Communication TrainingⅢ (15N0088) NOBUOKA MARY DES ROSIERS	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 c 2.0単位	
Advanced Communication TrainingⅣ (15N0089) NOBUOKA MARY DES ROSIERS	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 c 2.0単位	
キャリアプランニング実習 (15N0215) マルセロ　デ　アウカンタラ \015\012井上　奈美子	Ⅰ ～ Ⅳ 未定 全学科 1.0単位	この実習は、本学と内閣府等との男女共同参画事業への参加を通して、女性が経済分野で活躍することの意義や問題、男女共同参画社会の創造について学びます。具体的には女性起業家のもとでのインターンシップを行い、そこで得た起業家の事業内容や仕事への態度をイベントで一般企業に向けてプレゼンテーションし、女性起業家のビジネスチャンスを拡大するサポートを行います。 　目標は以下の4点です。 1. 国連関連機関（UN　Women)が2010 年に策定した企業行動枠組み「女性のエンパワーメント原則（WEPs）」を理解する。 2. 女性起業家のもとでのインターンシップによって、自らのキャリア選択の幅を拡げ、リーダーシップの獲得とそのあり方を考える。 3. イベントでのプレゼンテーションを創造することによって、魅力的なプレゼンテーションの技法を学ぶ。 4. 将来の日本社会を担う女子学生が「自らの能力が生かされ、努力が正当に評価される場で活躍できる企業組織と社会のあり方」を理解し、男女共同参画社会の一翼を担う人材となる。
博物館資料保存論 (15N1512) 内川　隆志	Ⅱ ～ Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え，資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて，資料の保存に関する基礎的能力を養う。
博物館展示論 (15N1513) 内川　隆志	Ⅱ ～ Ⅲ 後期 全学科 2.0単位	展示の歴史，展示メディア，展示による教育活動，展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し，博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。 博物館の展示の意義、博物館展示の実際、展示の解説活動についての講義を通じて博物館の展示についての理解を図る。
博物館教育論 (15N1514) 並木　美砂子	Ⅰ ～ Ⅱ 後期 全学科 2.0単位	【主題】 博物館での教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的な理解を深める。 【目標】 ①博物館を中心とした場で起きる現象（博物館での教育的活動を通じた出来事）、②現象が自己／他者に与える意味について主体的に解釈し、理解する行為を自分のものにすること。
初等解析学Ⅱ(1) (15N2038) [物理学主] 橋本　義武	Ⅱ ～ Ⅳ １学期 全学科 1.0単位	初等解析学Iに引き続き，多変数関数の微積分，特に多変数関数の(重)積分を扱う.
初等解析学Ⅱ(2) (15N2040) [物理学主] 橋本　義武	Ⅰ ～ Ⅳ ２学期 全学科 1.0単位	初等解析学Iに引き続き，多変数関数の微積分，特に多変数関数の(重)積分を扱う.
基礎化学Ｂ(1) (15N2042) 鷹野　景子	Ⅰ ～ Ⅳ １学期 全学科 1.0単位	化学の基礎として、原子の成り立ち、元素の周期性、化学結合、分子の形、化学反応、物質の状態などについての基本的概念の理解を目標とする。高校までの定性的理解を定量的理解に高めることが大切である。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
基礎化学Ｂ(2) (15N2044) 鷹野　景子	Ⅰ ～ Ⅳ ２学期 全学科 1.0単位	化学の基礎として、原子の成り立ち、元素の周期性、化学結合、分子の形、化学反応、物質の状態などについての基本的概念の理解を目標とする。高校までの定性的理解を定量的理解に高めることが大切である。
中国語力強化ゼミⅠ (15N3010) 馮　日珍	Ⅰ ～ Ⅳ 後集中 全学科 2.0単位	中国語の検定試験HSK合格を目指す
中国語力強化ゼミⅡ (15N3011) 曹　泰和	Ⅰ ～ Ⅳ 後集中 全学科 2.0単位	HSK対策ゼミです。
IELTS対策ゼミR/L (15N3012) ALLEN David	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	In this class students will study the format and content of the IELTS test, and learn strategies for taking this test. The current IELTS is divided into four parts based on language skills, and reflecting this division, this course is divided into two sections : Speaking and Writing, and Reading and Listening.This section of the class concentrates on Reading and Listening. Students are encouraged to take both the Speaking/Writing section and Reading/Listening section of the course.
IELTS対策ゼミS/W (15N3013) ALLEN David	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	This class is designed for students who are thinking of studying abroad and need to take the IELTS for admission to an English-medium university. The purpose of the class is to familiarize students with the content and format of the IELTS test. This section of the class concentrates on Speaking and Writing.
舞台芸術実践概論Ⅰ (15N3023) 小坂　圭太	Ⅰ ～ Ⅳ 未定 全学科 2.0単位	平成25年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」に音楽表現コース（註：大学院は音楽表現学コース）が中心となって応募、採択された「ナレッジマネジメント力を核とするアートマネジメント　スタッフの育成」プログラムの内、いわゆる座学研修部分をカリキュラム化したものです。又、外部の、既に文化施設で働く人たちの再研修を受け入れるプログラムとなっています。 この講座ではアートマネジメントに関するノウハウのみならずそうした事業を展開する上で必要な　ものの考え方を身につける事を目的としています。そして芸術分野に限定されず、あらゆる知的所産のマネージ能力への応用も視野に入れています。
文化芸術制作演習Ⅰ (15N3024) 小坂　圭太	Ⅰ ～ Ⅳ 未定 全学科 2.0単位	平成25年度文化庁「大学を活用した文化芸術推進事業」に音楽表現コース（註：大学院は音楽表現学　コース）が中心となって応募、採択された「ナレッジマネジメント力を核とするアートマネジメント　スタッフの育成」プログラムの内、いわゆる座学研修部分をカリキュラム化したものです。又、外部の、既に文化施設で働く人たちの再研修を受け入れるプログラムとなっています。 この講座ではアートマネジメントに関するノウハウのみならずそうした事業を展開する上で必要な　ものの考え方を身につける事を目的としています。そして芸術分野に限定されず、あらゆる知的所産のマネージ能力への応用も視野に入れています。
生命情報学概論(1) (15N3025) [生命情報学] 由良　敬	Ⅰ ～ Ⅳ １学期 全学科 1.0単位	過去１０年間に、ヒトをはじめ様々な生物のゲノムすべてを読み取ることができるようになりました。これらの分子生物データを解析解釈することで、生命現象の理解が大きく進歩します。生命情報学はこれら大量データを解析するために、物理学、化学や情報科学を生命科学に導入して生まれてきた学問です。この科目では、（１）生命情報学の歴史、（２）生命情報学が扱うデータの概要、および（３）生命を情報からとらえたときにどのようなことがわかるのか概観します。特にタンパク質の構造と機能に関することを重点的に扱います。この科目の履修にあたって予備知識は必要としません。必要な物理学、化学、情報科学は、授業内でできるだけ説明するようにします。そのため授業時間内に受講生諸君に対して頻繁に質問をします。受講生諸君からの質問はいつでも受けます。簡単な計算問題を行う時もありますので、四則演算ができる計算機は毎回持参してください。生命情報学に必要な計算手法の詳細は、別科目（計算生物学）で取り扱います。

科目名 (授業コード) [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
生命情報学概論(2) (15N3027) [生命情報学] 由良　敬	Ⅰ ～ Ⅳ ２学期 全学科 1.0単位	過去１０年間に、ヒトをはじめ様々な生物のゲノムすべてを読み取ることができるようになりました。これらの分子生物データを解析解釈することで、生命現象の理解が大きく進歩します。生命情報学はこれら大量データを解析するために、物理学、化学や情報科学を生命科学に導入して生まれてきた学問です。この科目では、（１）生命情報学の歴史、（２）生命情報学が扱うデータの概要、および（３）生命を情報からとらえたときにどのようなことがわかるのか概観します。特にタンパク質の構造と機能に関することを重点的に扱います。この科目の履修にあたって予備知識は必要としません。必要な物理学、化学、情報科学は、授業内でできるだけ説明するようにします。そのため授業時間内に受講生諸君に対して頻繁に質問をします。受講生諸君からの質問はいつでも受けます。簡単な計算問題を行う時もありますので、四則演算ができる計算機は毎回持参してください。生命情報学に必要な計算手法の詳細は、別科目（計算生物学）で取り扱います。
計算生物学(1) (15N3029) [生命情報学] 由良　敬	Ⅰ ～ Ⅳ ３学期 全学科 1.0単位	計算生物学では、ゲノム塩基配列データやタンパク質構造データ、遺伝子発現データをどのように扱うことで、新しい発見ができるかを講義します。毎回の授業のはじめに解くべき問題を提示し、その解き方を解説し、解いた結果得られる生命科学の知見を解説します。取り扱う問題は以下の通りです。ゲノム塩基配列からの遺伝子発見、アミノ酸配列の類似性検索、アラインメント、系統樹作成、タンパク質構造の記述と比較、タンパク質の構造変化など。物理化学や空間幾何学、統計検定、検索技術の基礎があれば授業の理解が容易になりますが、できるだけ授業時間内に基礎から説明するようにします。受講生諸君の理解を確かめるために、授業時間内に頻繁に質問をします。受講生諸君からの質問はいつでも受けます。
計算生物学(2) (15N3031) [生命情報学] 由良　敬	Ⅰ ～ Ⅳ ４学期 全学科 1.0単位	計算生物学では、ゲノム塩基配列データやタンパク質構造データ、遺伝子発現データをどのように扱うことで、新しい発見ができるかを講義します。毎回の授業のはじめに解くべき問題を提示し、その解き方を解説し、解いた結果得られる生命科学の知見を解説します。取り扱う問題は以下の通りです。ゲノム塩基配列からの遺伝子発見、アミノ酸配列の類似性検索、アラインメント、系統樹作成、タンパク質構造の記述と比較、タンパク質の構造変化など。物理化学や空間幾何学、統計検定、検索技術の基礎があれば授業の理解が容易になりますが、できるだけ授業時間内に基礎から説明するようにします。受講生諸君の理解を確かめるために、授業時間内に頻繁に質問をします。受講生諸君からの質問はいつでも受けます。
Interdisciplinary Lectures in English Ⅰ (15N3033) 石田　安実	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	Students will study leading-edge scientific topics through English video clips, podcast, and news articles available on the internet on every Thursday. On the following Monday each student will choose a topic of her interest, and make a presentation to the class. Then, all students will discuss the topic introduced through the presentation.
Interdisciplinary Lectures in English Ⅱ (15N3035) 細谷　葵	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	This course provides a broad introduction to philosophical ways of thinking. The course is open to students from any disciplines, who hope to: (1) 遊襷W'7F 襖 6 R F ヨ B gV襷 ヨV蹤 ッ ニ 6 ッ 7VW2 (which include freedom, language, truth, and ethical rightness /wrongness) (2) R &ニR F W ニ 問 F & R 7VW2 問 fW' 6儲 ニR FW&ラ3ー (3) ヌ ニ 6 ッ &V 6 匁r 問 WfW'椿F 7VW3イ 襦 (4) R 7&友 ッ F 豸W'2 襖 VffV7F庸R 6 ラV譁6 F 2ヅ 'WB ヌ6 listeners respectful of others' opinions.
Interdisciplinary Lectures in English Ⅲ (15N3037) 原　由紀恵	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	Linguistics is a scientific study of language, i.e., our daily tool. How language works? Are there shared systems across human languages? Does language influence us and our thoughts? ... Don't you want to know more about language, which makes us uniquely human ? In this course we follow two major goals: 'Get into linguistics' and 'Use (and Improve !) English in various forms.' Namely, students will read book chapters from the textbook published in U. S. and supplement materials to participate in activities and discussions using English. Students who have taken this class should be able to : 1.彪襷W'7F 襖 & 6 2 vV觚& ッ ニ匁wV F 2ヅ R誠篦 芳V蹤鉾 patterns for components of language, and cultivate their thoughts on language. 2.認W67& R F V襷W'7F 襷匁r ニ 誣V vR 襖 W 誚R F

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
Interdisciplinary Lectures in English Ⅳ (15N3039) HEIN PATRICK	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	Gender relations across the globe. Objective: In this class we look at the lives of famous couples. Students will do research on one couple and present their results in English.
国際交流実習 (15N3045) 酒井　彩	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 全学科 2.0単位	海外協定校で日本語を学ぶ学生、および本学学部生を対象とした3週間のプログラムです。グループで一つのテーマを決めて、フィールドワーク、レポート作成、プレゼンテーションを行います。 海外からの参加学生と共に数日間にわたるプロジェクトワークを行うことで「やさしい日本語」を使った異文化接触を深く体験すると同時に、母語・母文化の再発見を目指します。 ＊グループは海外からの参加学生との混成グループとなります。
Summer Program in EnglishⅠ (15N3047) 榊原　洋一\015\012垂見　裕子	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 現代日本の社会政策～ 2.0単位	http://www.ocha.ac.jp/intl/ocgl/others/summerprograms_eng.html#ENG_SP_14
Summer Program in EnglishⅡ (15N3049) 小林　哲幸	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 全学科 2.0単位	テーマ２　「科学の中の時間と形」　”Time and Forms in Nature” 自然界には多様な形をした物質や生物が存在し、時間とともに変化します。その形（構造、集合体）の実体とその変化が何を意味するかについて、数学・物理学・化学・生物学・情報学などの理学的な学問が解き明かしてくれます。本講義では、時間と形に関わるサイエンスを中心に、理学部の教員がオムニバス形式でそれぞれの研究分野の視点から英語で解説します。さらに、各専門分野での最新トピックスについても、わかりやすく紹介します。 Nature is filled with structurally diverse substances and living creatures, which are altered in a time-dependent manner. The physical nature of form (structure or assembly) and its change are figured out by the sciences, especially mathematics, physics, chemistry, biology and information science. The lectures examine and explain the science on time and forms, and are given in English by teaching staff in the Faculty of Science. Each lecturer will present, in simple terms, the latest areas of interest in their own field of expertise. This will ensure an overall
舞台芸術実践概論Ⅱ (15N3059) 小坂　圭太	Ⅰ ～ Ⅳ 未定 全学科 2.0単位	
文化芸術制作演習Ⅱ (15N3061) 小坂　圭太	Ⅰ ～ Ⅳ 未定 全学科 2.0単位	

教　職　に　関　す　る　科　目

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
栄養教育実習 （15E0029） 香西　みどり\015\012赤松　利恵	Ⅳ 通不定期 全学科 2.0単位	給食施設を有する小学校において給食および食に関する指導について学び、栄養教諭のための実習を行う。
教職概論 （15E0101） 米田　俊彦\015\012池田　全之\015\012浜野　隆\015\012冨士原　紀絵	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	この科目は、教職の意義及び教員の役割について講義し、教職に関する理解と関心をもてるようにすると共に、教職の進路選択に資する機会の提供等を行うことを目的とする。４名の教員によるオムニバス形式の連続講義である。教職課程カリキュラム全体の入門科目に相当するので、本科目を履修しながら、教職についての自分の考え方や進路選択の方向性を定め、教職課程を履修するかどうかを判断してほしい。 ※米田担当の授業（最初の４回）では教師教育テキスト・シリーズ第３巻『教育史』（学文社）を教科書として使用する。
教育原論（思想・歴史） （15E0103） 池田　全之\015\012米田　俊彦	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	前半では、教育の理念並びに教育に関する思想に関して、講義を行い、現代の学校教育が直面する問題の思想史的背景について解明を行う。後半では、主として日本の教育の歴史に関する基本的な事項を概説し、歴史の理解を通じて現代の教育をめぐる諸問題、諸状況を把握する方法や力量を身につける。 ※米田担当の授業（後半８回）では教師教育テキスト・シリーズ第３巻『教育史』（学文社）を教科書として使用する。
教育原論（社会・制度） （15E0104） 浜野　隆\015\012耳塚　寛明	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	前半では、今日の学校教育が直面する諸問題について社会学的に考察し、後半では、教育行政・制度、教育法規について、最近の動向もふまえ基礎的な事項を概説する。前半は中島、後半は浜野が担当する。
教育心理 （15E0105） 内藤　俊史\015\012櫃淵　めぐみ	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	子どもの発達に応じて効果的な教育を行うために、発達そして学習のメカニズム等について学ぶことを目的とします。学業不振、不適応、個人差への対応などについても取り上げます。また、教育に関わる心理学的研究を学ぶことを通じ、教育を科学的・実証的にとらえる能力や態度を身につけることを目標とします。
教育課程論 （15E0109） 木村　範子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	授業のテーマ 教育課程・教育実践を総合的に検討する。 授業の基本的な目標 教育課程の理論と現行の教育課程について理解し，教育課程開発ができる知識，能力，技能を修得する。 到達目標 教育課程，学習指導要領，教材等の関連について説明でき，授業の成果を通してさらなる探究的な学習に取り組むことができる。
社会科教育法Ⅰ（地理歴史） （15E0111） 木村　真冬	Ⅱ 後期 全学科 2.0単位	教育実習に真摯に臨む意志と態度を培うとともに，以下に重点を置いて，社会科教育の意義を多面的・多角的に考察する。①中学校社会科教育の現状と課題を理解する。②グローバル社会における,社会を形成する市民と教育の問題を考え，これからの社会科教育に求められることは何かを考察する。③中学校での授業参観や学習指導案作成等を通して，授業づくりや学習指導の実際のようすを把握する。④実践的な課題演習を通して積極的に討論・発表に参加し，視野を拡げ互いに高め合う。
社会科教育法Ⅱ（公民） （15E0112） 寺本　誠	Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	・中学校社会科教育の現状と課題を理解する。 ・国際社会に生きる人々と教育の課題を理解し、社会科教育が担うべき役割とは何かを考察する。 ・中学校の授業見学や指導案の作成等を通して、学習指導の実際の様子を把握する。
地理歴史科教育法 （15E0113） 石出　みどり\015\012田代　博	Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	授業例や教材を通して、地理歴史科教育の目標・内容・方法に関する知識、現状を知り、生徒が主体的に取り組める授業づくりへの意欲と姿勢を身につける。模擬授業や発表を通して、地理歴史科教育に必要な実践的な力を身につける。
公民科教育法 （15E0114） 太田　正行	Ⅲ 後期 全学科 2.0単位	この講義の目的は、教育実習に際して、しっかりとした公民の授業ができるようになるための基本的な授業能力を身につけることにあります。そのためには、内容と方法、すなわち専門的な力とそれを授業の形態に落とし込む力が必要です。その力を講義と体験で身につけることがねらいです。講義内容は担当者がこれまで高等学校の現場での授業実践で積み重ねてきたものをベースとしています。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
国語科教育法Ⅰ (15E0115) 宗我部　義則	Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	中学校国語科教育の目標・内容・方法等について、講義やミニ演習を通して学ぶとともに、グループで教材研究・指導案の作成・模擬授業（ミニティーチング）演習等を行い、その振り返りを通して「授業作りの方法」や「授業の改善」について実践的に探究する。
国語科教育法Ⅱ (15E0116) 荻原　万紀子	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	この講義では、以下の２点を中心に、実践的な高校授業研究を行います。 （１）高等学校における国語科教育の目標・内容・方法について （２）国語科教育の理論と実践に関する認識
中国語科教育法Ⅰ (15E0117) 伊藤　さとみ	Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	初級段階の学習者にとって必要な文法事項や学習内容、そしてその方法はどのようなものであるべきかを考え、それを踏まえて自分たちなりの新しい初級教科書を編纂することをこの授業の主題・目標とする。
中国語科教育法Ⅱ (15E0118) 伊藤　さとみ	Ⅲ 後期 全学科 2.0単位	初級段階の学習者にとって必要な文法事項や学習内容、そしてその方法はどのようなものであるべきかを考え、それを踏まえて自分たちなりの新しい初級教科書を編纂することをこの授業の主題・目標とする。後期は前期でまとめた教科書の構成案に基づき、紙の教科書に作り上げる。またそれに基づいて初級学習者を対象として実際の授業を行い、課題をフィードバックして教科書を改良する。
英語科教育法Ⅰ (15E0119) ALLEN David	Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	In this class we will study the principles and practices of English teaching methodology. Students study such issues as classroom management, syllabus design, and language teaching pedagogy. We will learn about various aspects of teaching through the readings, followed by tasks, problems, or exercises designed to reinforce the learning points. For example, we will learn about teaching the four language skills (speaking, listening, reading, and writing), vocabulary and grammar teaching, course design, etc. After learning or reading about the topic under consideration, students will be asked to form groups and discuss the issues and answer questions. We will then go over these activities as a class
英語科教育法Ⅱ (15E0120) 中西　公子\015\012木村　政子\015\012西平　美保	Ⅲ 後期 全学科 2.0単位	中等教育における英語教育の目標・内容・方法についての知識を得るとともに、教案作成や模擬授業などを通して、実践的な力を身につける。さらに、教えるのに必要な英語の基礎知識を確実につける。
保健体育科教育法Ⅰ (15E0123) 新名　謙二	Ⅲ 後期 全学科 2.0単位	将来保健体育科教員になることを前提に、教育職への自覚を深め、保健体育の役割、問題点や課題についての知識を深め、授業設計を始めとする授業実践力を養うことが目的である。そのためには、教科書による知識だけでなく、直接授業を参観しながら、授業観察眼を養うと共に、実際に授業を行うことによって更に必要な知識や実践力を高めることが必要になってくる。この授業では、授業実践に向けた応用力を養うために附属中高を含めた教育現場での授業参観と受講者による授業実践を体験する。
保健体育科教育法Ⅱ (15E0124) 宮本　乙女	Ⅲ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	本講義は保健体育科教育法Ⅱとなっており、Ⅰの体育編に引き続いて実施される保健編の教育法である。保健体育教員は、学校現場でよく「体育の先生」とは言われるものの「保健の先生」と言われる事はほとんどない。実際には「保健体育の先生」であるという自覚を本講義を通じて学生に養ってもらいたいと願っている。 新学習指導要領上の基本事項として、中学校学習指導要領では、保健体育は３１５時間の実施が明言され、その中の４８時間は保健として取り扱う事が行うことが謳われている。ただ単に数字こなすのではなく、保健と体育がバラバラに存在せず有機的なつながりを持ち、且つ、生徒にとって学びがいのある保健体育とは何かを考えるための講義である。 教育に携わる資格を持つためには、教育実習を始め、多くの単位を取得しなければならないが、最終的に自分が教壇に立ち、生徒の前で「先生」と呼ばれる準備をするために本授業では、内容のみならず、資質や素養についても考え、自身の教員としての適正を考える時間をとることも目標としている。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
音楽科教育法Ⅰ （15E0125） 岡部　芳広	Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	・音楽科教育の基礎的理論の理解 実践的な内容の検討に入る前に、教育課程に位置づけられた音楽科/芸術科音楽という教科/科目の枠組みを理解することをねらいとする。
音楽科教育法Ⅱ （15E0126） 岡部　芳広	Ⅲ 後期 全学科 2.0単位	・音楽科教育の実践的内容の検討 前期の学習内容を踏まえ、現行の中学校・高等学校の音楽科教科書を参考にしつつ、具体的な指導内容を検討する。また、立案した学習指導計画にもとづいて模擬授業をおこなう。
数学科教育法Ⅰ （15E0127） 加々美　勝久	Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	中等教育における数学教育の目標･内容･方法についての知識を得るとともに、指導案の作成･模擬授業の試行などを通して実践的な力を身につける。
数学科教育法Ⅱ （15E0128） 阿部　真由美\015\012十九浦　美里\015\012三橋　一行	Ⅲ 後期 全学科 2.0単位	数学教育（主に高校数学を扱う）の変遷をふまえ数学教育の目的・内容・方法について考える。また、指導案の作成や模擬授業を行い、実践的な力を養うことを目標とする。
理科教育法Ⅰ （15E0129） 前川　哲也\015\012薗部　幸枝	Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	主として中学校の理科教育にまつわる理論や教科経営はもちろん、授業を行うにあたって事前の指導計画・教材研究から、さまざまな学習指導形態や授業にあたって注意すべきこと、事後の評価まで、現在の生徒の実態をふまえながら学んでいく。それにより、来年度に教育実習を行え、将来的には理科の教師として活躍できる基礎的な知識とスキルを身につけることを目標とする。
理科教育法Ⅱ （15E0130） 溝口　恵	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	高等学校における理科教育の目標、学習内容、授業計画・評価方法、実験・実習・観察の位置づけ、指導方法等に関する講義を行い、理科教育についての知識を深め、問題意識を高める。また、生徒の実態を踏まえ、実験、実習、模擬授業を行い、教育実習に向けて実践力を身につける。
情報科教育法Ⅰ （15E0131） 笹倉　理子	Ⅱ ～ Ⅲ 後期 全学科 2.0単位	高等学校の教科「情報」について、その目標や内容について理解することや指導案作成や模擬授業などをを通して授業の方法について考察することから、実践に役立つ力を身につけることを目標とする。
家庭科教育法Ⅰ （15E0133） 葭内　ありさ	Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	家庭科教育の変遷をふまえて、今日の学校教育における家庭科の意義と現状を理解する。学習指導要領及び同解説書,教科書及び実際の授業例をもとに、中学校・高等学校における家庭科の目標と内容を理解し、指導に必要な知識と技術について認識する。指導計画と学習指導案を作成して模擬授業を行い、授業実践力をつける。
家庭科教育法Ⅱ （15E0134） 栗原　恵美子	Ⅲ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	テーマ：「教育実習を意識し、より実践的な力を付ける。」概要：講義と実験実習と模擬授業を通して体験的に、家庭科教育法を学んでいきます。“教育実習を終えた先輩からのお話し”からも学びます。目標：一斉講義では積極的に発言し、受け身にならないようにし、発言力や情報収集力をつけます。模擬授業ではグループワークを意識し、共に授業を作り、互いに学ぶ姿勢を身につけ、協働して創造する力を伸ばしましょう。実験実習では生徒の身になって学んだり、教師としての創意工夫点を学んだりし、見通す力や段取り力、生活全般のスキルを磨きましょう。全体の講義や家庭実践を通して、更に家庭科力や生活力をつけましょう。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
道徳教育の研究 (15E0135) 内藤　俊史\015\012中野　裕考\015\012池田　全之\015\012永田　繁雄\015\012押谷　由夫\015\012宗我部　義則\015\012宮下　聡子\015\012藤澤　文	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	道徳教育は、道徳の時間を含む学校教育全体のなかで行われる。道徳教育の理論的な基礎について、哲学、倫理学、教育方法学、心理学の観点からの問題と課題を理解し、さらに学校において道徳教育を実施する際の具体的な技法について理解する。
特別活動の研究 (15E0137) 根津　朋実	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	授業のテーマ 特別活動の理論と実践を総合的に検討する。 授業の基本的な目標 特別活動の理論と現行の特別活動について理解し，特別活動の授業開発ができる知識，能力，技能を修得する。 到達目標 学級活動，ホームルーム活動，児童会活動，生徒会活動，クラブ活動，学校行事等の目標や内容について説明でき，授業の成果を通してさらなる探究的な学習に取り組むことができる。
教育方法論 (15E0138) 杉原　真晃	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	本講義では、教師の教育実践の遂行を支える知、とりわけ行き詰まりを見せる画一的な伝達型一斉授業を改革していこうとする変革的な教育実践の知について、概論的な講義を行う。 過去～現在の、内外を問わないさまざまなアイデアやコンセプトを扱うが、受講者は、それらにふれていくなかで、未来の教育実践や学校の改革の展望をデザインできるようになってほしいと思う。
生徒指導の研究 (15E0142) 福山　文子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	生徒指導の理念と歴史的展開をふまえ、現在の学校教育において期待される生徒指導の在り方について考えることをめざす。 教職に就いた後、あるいは教育実習において活かすことができるよう、教育現場で問題となっているテーマを中心に授業を構成したい。
学校カウンセリング (15E0144) 下山　晃司	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	本講義（実習も含む）では学校心理学における「3段階の援助サービス」モデルに基づき、心理教育的な援助（進路指導を含む）を必要とする児童生徒に対する有効な支援について、体系的に説明します。基本的に学校現場を想定して講義を行いますが、家庭や職場等、どのような対人援助場面においても役立つ内容が含まれます。 背景の全く異なる一人一人の問題に対して援助を提供する場合に、「何をすべきか分からないまま時間だけが過ぎる」ことを避け、シンプルかつスピーディに援助プラン（何をすべきで、そのうち何が自分にできるか）を立てられるようになることを目標とします。 6・3・3と「教育を受けてきた側」としての知識・経験を授業内容と結びつけ、教職に就く／就かないに関わらず今後の対人援助に活用できるようになることも目標とします。
家庭科教育法Ⅲ (15E0147) 松田　典子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	
小学校教材研究（国語） (15E0161) 冨士原　紀絵	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	小学校国語教科書の代表的な教材やそれを扱った実践記録を複数取り上げ、教科書教材研究・指導方法について学ぶ。授業内容に関する作文を毎回提出し、作文指導の方法を体験的に学ぶ。
小学校教材研究（社会） (15E0162) 岡田　泰孝	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	小学校社会科指導の目標と内容の基礎について理解し、社会科の実際指導の基本について学ぶ。その中で、単元構成のあり方や、教材にするための素材の求め方について理解する。さらに、学習内容を構造化して目当てを明確にする一方、児童が具体的な追究活動ができるよう、学習過程の構成の仕方を学び、実際的な指導案が作成できるようにする。
小学校教材研究（算数） (15E0163) 冨田　京子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	算数の授業を行うための理論と技術を知る

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
小学校教材研究（理科） (15E0164) 増田　伸江	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	・小学校の理科指導に必要な基本的な力量と、心構えを学びます。 ・学生さんにもできるだけ多く実験・観察に取り組んでもらい、まずは自身が「事実から学ぶ」ことを体験してもらいます。 ・理科授業で最も大切な「安全指導」について、過去に起きた事故をケーススタディーします。 ・Ａ・Ｂ・Ｃ各領域の指導の実際を、児童の活動の様子から学びます、単元によっては学生さんにも実験・観察に取り組んでもらいます。
小学校教材研究（生活） (15E0165) 佐藤　孔美	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 全学科 2.0単位	「生活科の授業作り」 　　－主体的創造的に生きる子どもを育てる- 講義内容： 　　①実際に生活科を体験する。 　　②生活科を知る。（学習指導要領、教科書調べ） 　　③附属小学校での学習を体験する。 　　④教師の仕事の教材研究や学習指導のあり方を体験的に探求し、子どもたちとの接し方を学ぶ。 　　⑤生活科の内容を考え、模擬授業と振り返りを行う。　など
保育内容の研究Ⅰ（言葉） (15E0171) 内藤　知美	Ⅰ ～ Ⅲ 後期 全学科 2.0単位	子どもの総合的発達における言葉の獲得に関する領域について、0歳から就学前までの時期の子どもの言葉の発達過程と言葉の発達の意味を検討する。園生活における子どもの言葉に関わるさまざまな事例を用い、子どもの生活や遊び、子ども同士の関わりが言葉の発達にどのように影響するのかについての理解を深める。また幼稚園教育要領の領域「言葉」の「ねらい」に示された子どもの言葉を育てるために、言葉での関わりの持ちにくい子どもの問題を含めて、言葉が育つ環境と要因、保育者の言葉かけや援助のあり方、絵本・紙芝居などの児童文化財の活用方法など、具体的にどのような環境を構成することが有効かを考える。 子どもの言葉の発達過程を理解し、その意味を踏まえた上で、将来の保育者として、言葉を育てるための環境の構成、具体的な言葉かけ、援助を行うことができるようになることが到達目標である。また子どもの言葉の発達は、乳幼児期の生活と深く関連している。子どもをめぐる社会環境が急激に変化することが子どもの言葉の発達にどのような影響を与えているのか、子どもの言葉に関わる今日的な課題を捉える視点をもつことが目標である。 子どもの言葉の発達に関わる今日的な課題を捉えつつ、子どもの言葉の発達過程を理解していること、また発達過程の理解のみに終始するのではなく、児童文化財を含めた「モノ」等を有効に活用し、実際に保育の現場で、子どもの言葉を育てる保育者としての実践力が養われているか否かを、評価の基準とする。
保育内容の研究Ⅱ（人間関係） (15E0172) 向山　陽子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	テーマ：群れて育ちあう幼児たち 目標　： ・３・４・５・６歳児の人との関わりの特徴をを理解する。 ・３・４・５・６歳児が，子ども集団のなかで社会的に成長していく姿を理解する。 ・保育者の役割を考え，理解する。 到達目標：子ども集団の中での個々の発達と集団の発達と保育者の役割を捉える力を培う。 評価について：予習、子どもを取り巻く状況への興味関心・探究心、レポート
保育内容の研究Ⅲ（環境） (15E0173) 岸井　慶子	Ⅰ ～ Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	テーマ：「身近な環境にかかわり、学ぶ子どもたち」目標：①幼児が身近な環境に好奇心をもってかかわり、活動を生み出し、その中で発達に必要な体験を得て成長していく姿を知る、②そのような姿をもとに、教師の援助や環境の構成などについて理解を深める。具体的には、①幼稚園における身近な動植物についての知識を得る、②幼児が日常的に使用する素材、道具に関する知識を得る、③生活の中の自然体験、数量体験、文字や物の性質に出合う体験、などの姿を知る。
保育表現Ⅰ（指導法） (15E0174) 辰巳　豊	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	幼児の表現を大人の文化枠でみてはいけない。このことは誰しもが認める自明なことでしょう。しかしながら保育の現場ではいくらかの誤解や混乱があるように思います。表現する力とは、命を授かった誰しもが持ち備える天賦で固有の素晴らしい能力です。幼児は日常の生活の中で、様々な出会いをし、その出会った環境の中で成長していきます。同じ体験をしても、何に興味を持ち何を感じているのか、何を表現しようとしているのかは決して画一的なものではない筈です。一人ひとりの潜在的な可能性を引き出す表現という行為の本質について体験的に学びながら皆さんと共に考えたいと思います。また一方で、保育の現場で必要なスキルも身につけてもらいたいと思います。
保育表現Ⅱ（指導法） (15E0175) 伊吹山　眞帆子	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 全学科 2.0単位	授業のテーマは、自分の音楽性に気づき、それを洗練させ、表現できるようになることである。最終的には、グループで音楽的なパフォーマンスを創作する。適切な音楽表現、リーダーシップ、全体を客観視する姿勢を期待する。自分たちの納得の行く作品を作ることが到達目標である。演習５０％、討論への参加態度３０％、小論文２０％、を評価の基準に置く。グループ活動の際は、必ず全員出席することが受講の条件である。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
保育指導法Ⅰ (15E0177) 髙橋　陽子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	主題：幼児を理解し、子どもに寄り添う保育のあり方について考える。 目標：実践事例と保育参観を手がかりに幼児理解を深め、教師の指導のあり方を考える。幼児が体験している遊びと、環境構成や保育教材について、体験を交えながら学ぶ。
幼児理解と教育相談 (15E0179) 新開　よしみ\015\012柳瀬洋美	Ⅰ ～ Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	目の前の幼児のありのままの姿から幼児の内的世界を理解し、その育ちの芽を見出すことは、保育の出発点であり、保育者の専門性の中核である。この授業の前半では、幼児理解の基本をそれに基づく援助の可能性・工夫についてさまざまな視点から学び、考えていく。授業の後半では、現代の子育て事情を踏まえながら、子どもと家庭に関する諸問題について考える。また、保育・幼児教育の現場で行われる教育相談について、「親子に寄り添う」「問題解決を通して親子を育てる」支援を行うために必要なカウンセリングの理論と技法の基本について学び、さまざまな事例の検討やロールプレイ体験を通して、実践的な力の習得を目指す。 成績評価は、最後に提出してもらうレポートによって評価する。その他、授業で行われる演習への取り組みも加味する。
教育実習（高等学校） (15E0228) 米田　俊彦	Ⅳ 通不定期 全学科 4.0単位	
教育実習（中学校） (15E0229) 米田　俊彦	Ⅳ 通不定期 全学科 4.0単位	
教育実習（小学校） (15E0252) 米田　俊彦	Ⅳ 通不定期 全学科 4.0単位	
教育実習（幼稚園） (15E0253) 米田　俊彦	Ⅳ 通不定期 全学科 4.0単位	
事前・事後指導（高等学校） (15E0254) 米田　俊彦	Ⅳ 通不定期 全学科 1.0単位	
事前・事後指導（中学校） (15E0255) 米田　俊彦	Ⅳ 通不定期 全学科 1.0単位	
事前・事後指導（小学校） (15E0256) 米田　俊彦	Ⅳ 通不定期 全学科 1.0単位	
事前・事後指導（幼稚園） (15E0257) 米田　俊彦	Ⅳ 通不定期 全学科 1.0単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
教育実習（高等学校（２単位）） (15E0259) 米田　俊彦	Ⅳ 通不定期 全学科 2.0単位	
教職実践演習（教諭） (15E0262) 冨士原　紀絵	Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	在学中の教職課程の履修状況を踏まえ自身の教員としての資質を確認し、自らが教壇に立つ上で不足している知識や技能を補うことにより、教員としての質の確保を図る。
教職実践演習（栄養教諭） (15E0263) 赤松　利恵\015\012池田　全之	Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	教育実習の振り返りを中心に、教員として必要な資質能力の最終的な形成と確認を行うことを目的としている。この科目は特に栄養教諭を目指している学生を対象としている。
教職概論(1) (15E0264) 米田　俊彦\015\012池田　全之	Ⅰ １学期 全学科 1.0単位	この科目は、教職の意義及び教員の役割について講義し、教職に関する理解と関心をもてるようにすると共に、教職の進路選択に資する機会の提供等を行うことを目的とする。４名の教員によるオムニバス形式の連続講義である。教職課程カリキュラム全体の入門科目に相当するので、本科目を履修しながら、教職についての自分の考え方や進路選択の方向性を定め、教職課程を履修するかどうかを判断してほしい。 ※米田担当の授業（最初の４回）では教師教育テキスト・シリーズ第３巻『教育史』（学文社）を教科書として使用する。
教職概論(2) (15E0266) 米田　俊彦\015\012池田　全之\015\012浜野　隆\015\012冨士原　紀絵	Ⅰ ２学期 全学科 1.0単位	この科目は、教職の意義及び教員の役割について講義し、教職に関する理解と関心をもてるようにすると共に、教職の進路選択に資する機会の提供等を行うことを目的とする。４名の教員によるオムニバス形式の連続講義である。教職課程カリキュラム全体の入門科目に相当するので、本科目を履修しながら、教職についての自分の考え方や進路選択の方向性を定め、教職課程を履修するかどうかを判断してほしい。 ※米田担当の授業（最初の４回）では教師教育テキスト・シリーズ第３巻『教育史』（学文社）を教科書として使用する。
教育原論(思想･歴史)（1） (15E0268) 池田　全之	Ⅰ ３学期 全学科 1.0単位	教育の理念並びに教育に関する思想に関して、講義を行い、現代の学校教育が直面する問題の思想史的背景について解明を行う。この講義を聴講することによって、学生に身につけてもらいたい力は以下の三つである。１）これまで提唱されてきた代表的な教育思想のあらましを説明できる。２）「よい教育は何を目ざすのか」について自分なりに考えを発表できる。３）教育について自分の見解を論理的に説明することができる。
教育原論(思想･歴史)（2） (15E0270) 米田　俊彦	Ⅰ ４学期 全学科 1.0単位	主として日本の教育の歴史に関する基本的な事項を概説し、歴史の理解を通じて現代の教育をめぐる諸問題、諸状況を把握する方法や力量を身につける。 ※教師教育テキスト・シリーズ第３巻『教育史』（学文社）を教科書として使用する。
生徒指導の研究（1） (15E0272) 福山　文子	Ⅰ １学期 全学科 1.0単位	生徒指導の理念と歴史的展開をふまえ、現在の学校教育において期待される生徒指導の在り方について考えることをめざす。 教職に就いた後、あるいは教育実習において活かすことができるよう、教育現場で問題となっているテーマを中心に授業を構成したい。
生徒指導の研究（2） (15E0274) 福山　文子	Ⅰ ２学期 全学科 1.0単位	生徒指導の理念と歴史的展開をふまえ、現在の学校教育において期待される生徒指導の在り方について考えることをめざす。 教職に就いた後、あるいは教育実習において活かすことができるよう、教育現場で問題となっているテーマを中心に授業を構成したい。
中国語科教育法Ⅲ (15E0305) 伊藤　さとみ	Ⅱ ～ Ⅳ 未定 全学科 2.0単位	

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
中国語科教育法Ⅳ (15E0306) 伊藤　さとみ	Ⅱ ～ Ⅳ 未定 全学科 2.0単位	
道徳教育の研究（中等） (15E0318) 内藤　俊史\015\012中野　裕考\015\012押谷　由夫\015\012永田　繁雄\015\012藤澤　文\015\012宗我部　義則\015\012宮下　聡子\015\012池田　全之	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	道徳教育は、道徳の時間を含む学校教育全体のなかで行われる。道徳教育の理論的な基礎について、哲学、倫理学、教育方法学、心理学の観点からの問題と課題を理解し、さらに学校において道徳教育を実施する際の具体的な技法について理解する。
生徒指導の研究（初等）(1) (15E0321) 榎本　明彦	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 1.0単位	
生徒指導の研究（初等）(2) (15E0322) 榎本　明彦	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 1.0単位	
学校カウンセリング（中等） (15E0326) 下山　晃司	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	

教　職　共　通　科　目

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
社会科教育論 (15E0002) 浜野　隆\015\012池田　全之\015\012米田　俊彦	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	社会科教育の理念・歴史などについて総論的に学んだ後、領域や内容ごとに学習をすすめ、社会科教育に関する理解を深める。この科目は４名の教員によるオムニバス形式の連続講義である。
理科教育論 (15E0004) 垣内　康孝	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 全学科 2.0単位	理科において観察・実験は非常に重要である。しかし多くの現職小学校教員にとって、観察・実験は必ずしも得意分野ではない。この原因として、実験が一種の「実技」であるにもかかわらず、十分な実習体験がないことが上げられよう。また、たとえ訓練して実験操作ができるようになっても、科学の理解に重要な「作業仮説の形成」や「対照実験」、観察・実験結果からどのような「結論」を導き「議論」するのかについて理解が浅い場合、児童を指導するには不十分であるし、発展的な授業を構築することは困難になる。本授業では、観察・実験におけるこれらの「技」に熟達するための演習と実習を中心に行う。
生活科教育論 (15E0005) 堀田　のぞみ	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	授業の到達目標及びテーマ 生活科の指導に必要な基礎的・基本的な教育論として、生活科の本質、指導内容、指導方法、評価等に関する知識・技能等の総合的な習得をはかる。
家庭科教育論 (15E0006) 露久保　美夏	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	小学校家庭科が目指す教科目標を理解し，小学校家庭科の授業を運営するために必要な授業構成力および教材開発力を修得する。
教職ピアノ (15E0007) 小坂　圭太\015\012井上　登喜子	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 全学科 1.0単位	快い響きの探求と自己完成の表現 （初心者はバイエル終了程度の以上のピアノ技法の習得を最低目標とする。）
教職声楽 (15E0008) 永原　恵三\015\012井上　登喜子	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 全学科 1.0単位	発声法の探求と歌唱表現。弾き歌いの実力を取得。
教職合唱 (15E0009) 橋本　佳代子	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 全学科 1.0単位	合唱曲の理解と合唱の楽しみを作り出す。
教職指揮法 (15E0010) 橋本　佳代子	Ⅰ ～ Ⅳ 通不定期 全学科 1.0単位	楽典や伴奏法等、総合的な音楽の知識を取得する。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
保育実践論 (15E0014) 倉持　清美	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	本講座では、中学（高）校家庭科の保育教育の目標の理解と、保育学習に必要な子ども（乳幼児）の発達と生活についての基本的な知識、および保育の教材開発のための基本的スキルの獲得を求めている。そのためには、中学（高）校生の発達段階を踏まえた上での、保育教育内容の適時性を考える必要がある。さらに、中学（高）における養護性を高めるための教育の重要性や具体的な方法論を実践的に学んでいく。幼稚園や保育園での実習も含む。 授業の目標 一般目標：中学（高）校家庭科の保育教育の目標を理解した上で、子ども（乳幼児）の心身の発達のプロセスや生活に関する基礎的な知識を身につけ、家庭及び地域・社会環境の重要性を理解する。青年前期の養護性を高めるための教育について実践的に学ぶ。 到達目標： １．子ども（乳幼児）の心身の発達のプロセスを理解する（知識・理解） ２．保育学習に関わる知識・技能（技術）を学ぶための指導を考え、表現できる。（表現）３．中・高校生の発達段階を考慮した養護性を高めるための教育を工夫する（創意・工夫） 評価 成績評価の基準規定回数の出席を満たした学生を対象に最終レポートを提出してもらう。また、家庭科保育学習に必要な教材を開発する。
家庭看護学 (15E0017) 高木　悦子	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 全学科 2.0単位	ライフステージを踏まえつつ、家族が抱えるであろう健康問題や、生命倫理に関わるテーマを切り口に生活の場で求められるケアやサポートのあり方、病気や緊急時の対応方法についてその理論と実際を取り上げる。
家庭機械及び家庭電気 (15E0018) 平地　義武	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 全学科 2.0単位	発電、送電、家庭での電気配線に関する基礎的な知識を学び、一般の家電製品及び家庭で用いられる機械の仕組みを知り、その上手な活用方法、省エネルギー対策、さらには製品選びを検討する。 発電、冷却機器の動作、加熱、照明などの原理について知識を深める。
調理実習 (15E0019) 大田原　美保	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 1.0単位	調理の基礎的技術の習得とともに食品の調理科学的変化の考察、食品の正しい取り扱い方及び調理器具の操作法、盛り付け、食卓作法を実習を通して学習する。
被服製作実習 (15E0022) 扇澤　美千子	Ⅱ ～ Ⅳ 前期 全学科 1.0単位	この授業では、衣生活を取りまく現状についての理解を深めながら、被服と人間との関わりをより深くより科学的に知ることで、豊かで快適な被服環境とは何かを考えます。さらに、構成学の分野で扱う基礎的な知識と被服製作の基本的な技術の習得を通じ、ものづくりの楽しさを体験していきます。教材としても活用できる製作に取り組むことで教育現場における指導力を養成します。
被服製作実習 (15E0024) 扇澤　美千子	Ⅱ ～ Ⅳ 後期 全学科 1.0単位	この授業では、衣生活を取りまく現状についての理解を深めながら、被服と人間との関わりをより深くより科学的に知ることで、豊かで快適な被服環境とは何かを考えます。さらに、構成学の分野で扱う基礎的な知識と被服製作の基本的な技術の習得を通じ、ものづくりの楽しさを体験していきます。教材としても活用できる製作に取り組むことで教育現場における指導力を養成します。
家庭機械及び家庭電気 (15E1018) 平地　義武	Ⅰ ～ Ⅳ 後集中 全学科 2.0単位	発電、送電、家庭での電気配線に関する基礎的な知識を学び、一般の家電製品及び家庭で用いられる機械の仕組みを知り、その上手な活用方法、省エネルギー対策、さらには製品選びを検討する。 発電、冷却機器の動作、加熱、照明などの原理について知識を深める。

日本語教育基礎コース科目

日本語教育基礎コース科目 日本語教育基礎コース

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本語学概論Ⅰ (15F0101) [日語副] 森山　新\015\012森山　新	Ⅰ ～ Ⅳ ４学期 文教育学部 2.0単位	グローバル化の中、我々の周囲には日本語教育を必要とする外国人が増加しているが、日本語を話せることと教えられることとは同義ではない。本講義では文法に関する質問について、留学生とともに考えながら、どのように説明・指導したらよいかを実践的に学びながら、日本語を教えるとはどのようなことかを学ぶ。
第二言語教授法演習Ⅰ (15F0135) [日語副] 西川　朋美	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 文教育学部 2.0単位	「日本語教育」という分野を初めて学ぶ人のためのクラスです。 日本語教師に必要な知識を整理しながら、コミュニケーション能力を伸ばす言語教育とは何かを考えていきます。
第二言語教授法演習Ⅱ (15F0136) [日語副] 専任教員（未定）	Ⅰ ～ Ⅲ 後期 文教育学部 2.0単位	大学の授業において、アカデミックライティングのスキルは非常に重要である。この授業では、ライティング教授法の変遷を概観しながら、効果的なライティング指導法とはどのようなものかを検討する。それぞれの教授法の理論的根拠を知り、どのように実践に生かされているかを理解する。母語話者、非母語話者を対象とした教材を取り上げ、分析する。また、履修生による模擬授業を通じ、理論と実践を結びつけることを目指す。さらに、書く力を他の言語スキルと結びつけて伸ばすためにはどのような授業が効果的かについても検討する。「日本語表現法概論」（前期開講科目）を履修していることが望ましい。
日本語教育学研究法実習 (15F0155) [日語副] 西川　朋美	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 文教育学部 2.0単位	第二言語習得（SLA）研究とはどのような研究分野なのかを、経験的に学びます。本授業では、概説書で紹介されているようなSLA関連分野の「疑問」を科学的に解明するためには、どういう調査をすれば良いのかを考えます。調査対象言語は、日本語とします。
多文化間人間関係論演習 (15F0160) [日語副] 加賀美　常美代	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 文教育学部 2.0単位	本講義では、日本及び海外での文化接触における異文化接触や対人交流に関して、起こりうる事象や問題点を異文化間コミュニケーション論や心理学の諸理論をもとに検討する。多文化社会における人間行動と価値観、人間関係のあり方をマイノリティの視点から探る。(文化と人間関係Ⅰと同一内容)
異文化間教育学演習 (15F0161) [日語副] 小松　翠	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 文教育学部 2.0単位	本演習では、異文化間コンフリクトと関連したトピックを取り上げ、異文化接触によって人間行動や人間関係がどのように影響されるか多角的に考える。異文化間教育・異文化間心理学に関する論文や研究著書を購読しながら、解決のための方略や実践活動のあり方など意見交換をしながら考える。
日本語教育学特殊講義 (15F0163) [日語副] 西川　朋美	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 文教育学部 2.0単位	第二言語習得（SLA）研究について，基本的知識を学びます。本授業では，用語や概念をただ理解（暗記)するのではなく，「なぜ，そのような理論が生まれたのか」「なぜ，そのような主張がなされているのか」を考え，理解することに重点を置きます。
日本語教育学概論Ⅰ (15F0164) [日語副] 専任教員（未定）	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 文教育学部 2.0単位	・日本語教師に必要とされる日本語教育、および第二言語習得論の基礎知識を学ぶ。 ・教室環境における第二言語習得研究の知見をどのように日本語教育に応用するかを考える。 ・ニーズ分析・コースデザイン・シラバス・カリキュラムといった基本事項を学ぶ。 ・初級レベルの教科書の分析し、初級で学習する項目を確認する。
日本語教育学概論Ⅱ (15F0165) [日語副] 専任教員（未定）	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 文教育学部 2.0単位	・日本語教師に必要とされる日本語教育、および第二言語習得論の基礎を学ぶ。 ・教室環境における第二言語習得研究の知見をどのように日本語教育に応用するかを、学習者の個人差、文法説明やフィードバックの明示性といった問題と共に考える。 ・課題遂行能力という観点から学習者のコミュニケーション能力の向上に繋がる教室活動について考える。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本語表現法概論 (15F0166) [日語副] 加納　なおみ	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 文教育学部 2.0単位	この授業は、学術的な文章を書く上で重要な技能を身につけることを目的とする。自分が書いた文章にフィードバックを受け、書き直すプロセスを通じて、論理的で明快な学術的文章を書くための技能を学んでいく。具体的には、週ごとに一つの技能または一つのライティング・プロセスを扱う。授業では、その技能に関する説明や練習を行い、授業後にその週に学んだ技能を使って短い文章を書く課題が出される。レポートのドラフト完成時には、口頭発表を行い、言語技能の統合を図る。大学の授業に不可欠かつ、多方面に応用可能なアカデミックスキルズの基本を学ぶ。
日本語教育法演習 (15F0167) [日語副] 佐々木　泰子	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 文教育学部 2.0単位	多言語・多文化社会で求められる日本語および日本語教育について、日本人学生と留学生が実践を通して共に考えます。異文化間の対話と交流の場を自ら創造できるような日本語教師の養成を目指します。
日本語非母語話者年少者教育学概論 (15F0168) [日語副] 西川　朋美	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 文教育学部 2.0単位	近年，日本の公立学校に通う日本語を母語としない子どもは，無視できない存在になりつつあります。 ・どのような背景を持った子どもたちなのでしょうか。 ・子どもたちのどのような力を伸ばしていく必要があるのでしょうか。 ・国・地方自治体・地域・学校では，どのような取り組みを行っているのでしょうか。 ・どのような教材があるのでしょうか。 ・バイリンガル教育に関して，どのような理論があるのでしょうか。 本授業では，上記のようなトピックを取り上げ，子どもたちの置かれた現状を理解し，学校教員・日本語教師・個人として何ができるのかを考えます。

外国人留学生特別科目

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本語演習ＩＡ (15G0101) 専任教員（未定）	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	初～中級レベルの文法を確実に使えるようになることを目標とします。「読む・聞く・書く・話す」の全ての練習を取り入れますが、特に「話す」力を伸ばすのが目標です。
日本語演習ＩＢ (15G0102) 専任教員（未定）	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	初～中級レベルの文法を確実に使えるようになることを目標とします。「読む・聞く・書く・話す」の全ての練習を取り入れますが、特に「話す」力を伸ばすのが目標です。
日本語演習ⅡＡ (15G0103) 酒井　彩	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	日本語を勉強していてもなかなか友だちの日本語が理解できないことはありませんか？とっさのとき、丁寧（ていねい）な日本語が出てこなくて困ったことはありませんか？ 本授業ではN3レベルの学生を対象（たいしょう）に大学を中心に日常生活などいろいろなシーンで必要とされるカジュアルからフォーマルな会話までを学びます。初級を卒業して場面に応（おう）じた日本語が使えるようになりましょう。
日本語演習ⅡＢ (15G0104) 酒井　彩	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	日本語を勉強していてもなかなか友だちの日本語が理解できないことはありませんか？とっさのとき、丁寧（ていねい）な日本語が出てこなくて困ったことはありませんか？ 本授業ではN3レベルの学生を対象（たいしょう）に大学を中心に日常生活などいろいろなシーンで必要とされるカジュアルからフォーマルな会話までを学びます。初級を卒業して場面に応（おう）じた日本語が使えるようになりましょう。
日本語演習ⅢＡ (15G0105) 加納　なおみ	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	書く活動を中心に、読む、書く、話す、聞くスキルの総合的な向上を目指す。特に、話しことば／書きことば、待遇表現などについての理解を深め、電子メールを中心に、短い文章を適切に書けるようにする。また、授業で学んだ内容を生かし、日本人学生にインタビューを行うプロジェクトを行う。
日本語演習ⅢＢ (15G0106) 加納　なおみ	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	本コースは、上級レベルに移行できるよう、書く活動を中心に構成されています。話し言葉／書き言葉の違いについて理解を深め、日常会話レベルから、アカデミックな場面に使える言い回しへと、語彙・表現の幅を広げていきます。また、効果的な文章構成を身につけ、自分の意見を適切に文章化できる力を養います。
日本語演習ⅣＡ (15G0107) 専任教員（未定）	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	大学の授業で必要とされるアカデミック日本語を身につけるために、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などの活動をし、日本語能力の向上を目指します。
日本語演習ⅣＢ (15G0108) 森山　新\015\012森山　新	Ⅰ ～ Ⅳ ４学期 全学科 2.0単位	本講義では日本語を一通り学び終えた留学生（N1、N2）を対象に、日本語の文法に関して日本人学生と討論しながら学び整理します。
日本語演習ⅤＡ (15G0109) 船戸　はるな	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	大学の授業で必要とされるアカデミックな日本語を身に付けることを目標とする。読解教材を中心に、読む、書く、話す、聞くスキルの総合的な向上を目指す。

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本語演習ＶＢ (15G0110) 佐々木　泰子	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	本講義では日本語を一通り学び終えた留学生（N1、N2）を対象に、日本語の文法に関して日本人学生と討論しながら学び整理します。 扱う主なテーマ： ・主語と主題（ハとガの違い） ・テンス（非過去のル、過去のタ） ・アスペクト（テイル、タの多義性） ・ムード（推量のデショウ、ヨウダ、ラシイ、ソウダなどの使い分け） ・ト・バ・タラ・ナラの使い分け ・動詞の多義 ・スル動詞 ・指示詞（コソア）
日本事情演習ＩＡ (15G0201) 専任教員（未定）	Ⅰ ～ Ⅲ 前期 全学科 2.0単位	いくつかのテーマを取り上げ、日本の社会・文化について理解することを目標とします。また、クラスでのディスカッションを通じて、多元的なものの見方ができるようになることを目指します。それぞれのテーマにつき、授業前半は文章を読んで、日本社会・文化の基本的知識を学びます。授業後半は関連する問題について調査し、発表します。
日本事情演習ＩＢ (15G0202) 専任教員（未定）	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	・いくつかのテーマを取り上げ、日本の社会・文化について学習します。 ・自分の国の社会・文化について紹介します。日本だけでなく、いろいろな国の文化を知ることを通して視野を広げます。 ・クラスでのディスカッションを通して、いろいろなものの見方ができるようになることを目指します。 ・学期前半は読み物を読んで日本文化の基本的知識を学びます。 ・学期後半は小グループで関連する問題について調査し、発表します。
日本事情演習ＩＩＡ (15G0203) 小松　翠	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	１年程度の短期間の留学生が、日本留学中に経験する日本の社会・文化について、帰国後に報告できるような内容を扱います。 本授業では、日本人にとっては「当たり前」の知識だと思われていて、日本人学生対象の大学の授業では学べないような「日本の社会・文化」について、扱う予定です。（ですので、日本の社会や文化について、より専門的に学びたい人は、日本人学生向きの授業を取ることをお勧めします。）
日本事情演習ＩＩＢ (15G0204) 西川　朋美	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	１年程度の短期間の留学生が、日本留学中に経験する日本の社会・文化について、帰国後に報告できるような内容を扱います。 本授業では、日本人にとっては「当たり前」の知識だと思われていて、日本人学生対象の大学の授業では学べないような「日本の社会・文化」について、扱う予定です。（ですので、日本の社会や文化について、より専門的に学びたい人は、日本人学生向きの授業を取ることをお勧めします。）
日本事情演習ⅢＡ (15G0205) 専任教員（未定）	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	・日本の企業や海外の日系企業に就職を希望する学生に求められるコミュニケーション能力を養成することを目標とする。 ・ビジネス場面で使用される表現を学んだり、日本の企業文化について考えたりする。 ・就職活動に必要なエントリーシート（自己分析も含む）・履歴書を作成する練習する。
日本事情演習ⅢＢ (15G0206) 専任教員（未定）	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	・日本の企業や海外の日系企業に就職を希望する学生に求められるコミュニケーション能力を養成することを目標とする。 ・ビジネス場面で使用される表現を学んだり、日本の企業文化について考えたりする。 ・自己分析を通し、面接場面で自己アピールができるよう練習する。
日本事情演習ⅣＡ (15G0207) 加賀美　常美代	Ⅰ ～ Ⅳ 前期 全学科 2.0単位	異文化間コミュニケーション理論と関連する話題を取り上げ、日本人学生と留学生が同じクラスでグローバル社会における多様な問題について討論を行う参加型授業である。①相手を知る、②相手とかかわる、③共に行動する 、上記の3つを実践しながら、お互いのコミュニケーション形式や多様な価値観を理解すると共に、相互理解を深めることを目標とする。(多文化間交流論と同一内容)
日本事情演習ⅣＢ (15G0208) 加賀美　常美代	Ⅰ ～ Ⅳ 後期 全学科 2.0単位	多文化社会の中で異文化間交流で生じる障壁を分析し、マイノリティの人々、文化背景の異なる人々が相互理解し共に生きていくために、どうしたらよいか考える。地域社会、教育実践現場、医療、法曹関係、国際交流団体などで活動する人々をゲストスピーカーとして招聘し、「誰一人切り捨てられない社会」、多様性を尊重していくことは何か、その現状と課題について討議しながら考えていく。(多文化共生論と同一内容)

科目名 （授業コード） [プログラム] 教員	履修年次 学期 クラス 単位数	講義内容
日本事情演習ＶＡ (15G0209) 森山　新\015\012森山　新	Ⅰ ～ Ⅳ １学期 全学科 2.0単位	「言語／非言語行動」をテーマに、TV会議システムを用いて海外の教室とつなぎ、討論することを通して、日本人の言語行動の特徴についてグローバルな視点から考察するとともに、日本語のアカデミックな言語スキル（コミュニケーション、ディスカッション、プレゼンテーション）を身につける。
日本事情演習ＶＢ (15G0210) 森山　新\015\012森山　新	Ⅰ ～ Ⅳ ３学期 全学科 2.0単位	TV会議システムを用いて海外の日本語教室とつなぎ、日本語で討論・発表することを通して、アカデミックな日本語のスキル向上をめざす。また、日本人学生との協働により、グローバル時代に求められる社会性を身につける。
総合日本語サマープログラムⅠ (15G0212) 酒井　彩	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 全学科 2.0単位	海外協定校等で日本語を学ぶ学生のための3週間の日本語サマープログラムです。 この科目では、フィールドワーク、レポート作成、プレゼンテーションができるようになるための日本語（読む・書く・話す・聞く・やりとり）を勉強します。
総合日本語サマープログラムⅡ (15G0214) 酒井　彩	Ⅰ ～ Ⅳ 前集中 全学科 2.0単位	海外協定校等で日本語を学ぶ学生のための3週間の日本語サマープログラムです。 この科目では、グループで一つのテーマを決めて、フィールドワーク、レポート作成、プレゼンテーションを行います。 ＊グループには日本人の学生が入ることもあります。